

担い手育成基盤整備事業(芹ヶ沢地区)
国道299号線バイパス建設事業
埋蔵文化財発掘調査報告書

ひじり いし 遺 跡
聖 石
なが みね 遺 跡
長 峯
(べつ た ざわ 遺 跡)
別 田 沢

—第1分冊—

本文編

2005. 1

長野県諏訪地方事務所
長野県諏訪建設事務所
長野県茅野市
長野県埋蔵文化財センター

担い手育成基盤整備事業(芹ヶ沢地区)
国道299号線バイパス建設事業
埋蔵文化財発掘調査報告書

ひじり いし 遺 跡
なが みね 遺 跡
(別 た ざわ 遺 跡)

—第1分冊—

本文編

2005. 1

長野県諏訪地方事務所
長野県諏訪建設事務所
長野県茅野市
長野県埋蔵文化財センター



長峯遺跡

別田沢遺跡

聖石遺跡



序

聖石・長峯遺跡一帯で圃場整備事業が実施されることになり、遺跡が破壊されてしまうことになりました。聖石・長峯遺跡は同一台地上に、隣り合っております。両遺跡は昭和30年代の開田工事によって、遺跡はすでに失われているのではと思われていました。当初、茅野市教育委員会が発掘調査を始めましたところ、予想を大きく上回る多数の遺構、遺物が発見され、遺存状態も良いことが判明してきました。工事が急がれる中、市教育委員会は調査を工事工程のなかで完了させることは不可能ということになり、長野県埋蔵文化財センターが調査を受託することになりました。

調査の結果、両遺跡から発見された住居跡は300軒余、土坑5000基余などです。住居跡は円形に並び、その内側には、掘立柱建物跡、翡翠の玉を伴う土坑、遺構のない広場が発見され、典型的な縄文時代中期集落が台地上にふたつ現れました。整理の中で両遺跡から出土した磨製石斧が接合する事実などが判明し、両集落は何らかのかかわりのあることが証明されました。また、長峯遺跡では、過去の発掘調査の痕跡、復元されて各種冊子に掲載されている著名な有孔銅付土器の復元部分の土器片を発見するという事もありました。

膨大な遺構数、遺物量のため調査・整理期間は長くなってしまいました。まだ、両遺跡の本質に迫る追究はできていませんが、本報告では発掘調査で得た情報をできる限り多く提示しようとの基本姿勢を大切にしてきました。不足の部分は多々あるかと思いますが、八ヶ岳山麓の縄文文化解明に役立てていただければうれしい限りです。

最後になりましたが、発掘作業から整理作業及び報告書刊行に至るまで深いご理解とご協力をいただいた長野県諏訪地方事務所・同諏訪建設事務所、茅野市・同教育委員会など関係機関、直接ご指導・ご助言いただいた長野県教育委員会文化財・生涯学習課、発掘作業・整理作業に携わっていただいた多くの方々に感謝申し上げます。

平成17年1月31日

(財)長野県文化振興事業団

長野県埋蔵文化財センター 所長 小沢 将夫

例 言

- 1 本書は担い手育成基盤整備事業（芹ヶ沢地区）・国道299号線バイパス建設事業にかかわる長野県茅野市所在の聖石遺跡、長峯遺跡、別田沢遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は県諏訪地方事務所、県諏訪建設事務所、茅野市の委託を受けた財団法人長野県埋蔵文化財センター（当時、現在財団法人長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター、以下県埋蔵文化財センター）が実施したものである。
- 3 遺跡の概要は県埋蔵文化財センター発行の「長野県埋蔵文化財センター年報」15～18で紹介しているが、内容において本書と相違がある場合は本報告をもって訂正する。
- 4 整理作業は、県埋蔵文化財センターで実施した。
- 5 本書で使用した地図は、茅野市役所作成の茅野市計画基本図（1：2,500）、茅野市全図（1：25,000）、茅野市教育委員会作成の茅野市遺跡分布図（1：25,000）、国土交通省国土地理院発行の地形図「諏訪」「蓼科山」「高遠」「八ヶ岳」（1：50,000）などをもとに作成した。
- 6 本調査における委託業務は業者に委託した。
現地測量一式 聖石遺跡（平成10年度） 株式会社写真測図研究所
長峯遺跡（平成11・12年度） 株式会社こうそく
別田沢遺跡（平成11年度） 株式会社こうそく
石器実測（一部） 株式会社シン技術コンサル
遺物写真撮影 株式会社長野フジカラー 土器展開撮影 小川忠博氏
遺構図・地形図デジタルトレス 株式会社こうそく、株式会社シン技術コンサル
- 7 理化学的分析は以下の諸氏、諸機関に依頼、また業者委託し、報告を受けている。
黒曜石の産地同定 国立沼津高等工業専門学校 望月明彦教授
石材の分析鑑定 糸魚川市立フォッサマグナミュージアム 宮島宏館長補佐
動物骨の鑑定 京都大学霊長類研究所 茂原信生所長
土器の胎土分析 東京藝術大学 建石徹助手
土器付着物などの年代測定 国立歴史民俗博物館 小林謙一氏 今村峯雄氏 坂本稔氏 永島正春氏
炭化物の鑑定・年代測定 株式会社古環境研究所
- 8 発掘調査及び整理作業の体制は本書第1章に記載してある。
- 9 土器復元は徳永哲秀が担当した。
- 10 本書の執筆は以下の通りである。
市澤英利 第1章第1節、第5章第1節、第7章
柳澤 亮 第1章第2節1、第2章、第3章第1・2・4節、第4章第1・2・4節、第6章第1節、附章第1・2節
寺内隆夫 第1章第2節2、第3章第3・5節、第4章第3節、第6章2・3節、附章第3節
- 11 本書の編集・校正は柳澤亮、寺内隆夫が行い、市澤英利がこれを校閲した。
- 12 本書で報告した記録および資料一式は、平成16年度まで県埋蔵文化財センターが保管している。なお平成17年度に茅野市教育委員会へ移管される予定である。

目 次

巻頭図版	
序	i
例言	ii
目次	iii
挿図目次	iv
挿表目次	v
第1章 序説	1
第1節 調査の経過	1
1 発掘調査に至る経過	1
2 発掘調査・整理作業体制および実施内容	1
3 指導者・協力者	3
4 発掘調査参加者および整理作業調査参加者	3
第2節 調査の方法	4
1 発掘調査の方針と手順	4
2 整理の方法	9
第2章 環境	15
第1節 地形と地質的環境	15
1 遺跡の位置	15
2 地形	15
第2節 歴史的環境	17
第3章 聖石遺跡	21
第1節 遺跡と調査の概観	21
第2節 縄文時代の遺構	22
1 概要	22
2 縄文時代中期の住居跡	24
3 縄文時代後期の住居跡	36
4 掘立柱建物跡	40
5 屋外掘設土器	42
6 遺物集中	42
7 炉跡・焼土跡	43
8 土坑	43
第3節 縄文時代の遺物	47
1 概要	47
2 土器	48
3 土製品	71
4 石器	71
5 その他の遺物	78
第4節 縄文時代以後の遺構	78
第5節 縄文時代以後の遺物	78
第4章 長峯遺跡	79
第1節 遺跡と調査の概観	79
第2節 縄文時代の遺構	81
1 概要	81
2 縄文時代中期の住居跡	82
3 縄文時代後期の住居跡	114
4 掘立柱建物跡	116
5 屋外掘設土器	117
6 遺物集中	118
7 炉跡・焼土跡	118
8 土坑	119
9 礫・石器集中	124
10 その他	124
第3節 縄文時代の遺物	125
1 概要	125
2 土器	126
3 土製品	152
4 石器	154
5 その他の遺物	160
第4節 縄文時代以後の遺構	160
第5節 縄文時代以外の遺物	160
第5章 分析と鑑定	161
第1節 分析および鑑定のねらい	161
第2節 出土炭化材の樹種同定・年代測定、 および出土炭化物の種実同定	162
第3節 長峯遺跡出土縄文土器の胎土分析	169
第4節 長野県茅野市聖石遺跡・ 長峯遺跡出土黒曜石産地推定結果	173
第5節 装身具、磨製石斧の石材分析	179
第6節 長野県茅野市長峯・ 聖石遺跡のAMS ¹⁴ C年代測定	181
第6章 まとめ	191
第1節 遺構から	191
第2節 遺物から	195
第3節 縄文時代における聖石・長峯・ 別田沢遺跡の土地利用変遷	215
第7章 今後の研究及び活用	227
附章 別田沢遺跡	228
第1節 遺跡と調査の概観	228
第2節 縄文時代の遺構	229
1 住居跡	229
2 土坑	229
第3節 縄文時代の遺物	229

挿図目次

図1 試掘トレンチ設定図	5	図28 「三本指」装飾部分の削取りと破断面のつぶれ状況	196
図2 調査範囲と調査区の設定	7	図29 代表的な土器接合関係	198
図3 茅野市の地形区分図	16	図30 長峯遺跡出土縄文中期中葉土器の系統別分類	200
図4 壺石・長峯遺跡の位置と周辺遺跡	18	図31 長峯遺跡・縄文中期中葉の主要壺穴住居跡出土土器の系統別組成比率	201
図5 土器観察表分類基準と記号(1)	53	図32 長野・山梨県出土の阿玉台式土器とその変容形土器	203
図6 土器観察表分類基準と記号(2)	66	図33 長野県内の阿玉台式土器および参考資料出土遺跡の位置	204
図7 宮坂英之氏緊急調査時の痕跡と同一個体土器	81	図34 隣接都県出土の大波状・扇状把手付き阿玉台式土器(I b・II)	205
図8 壺石遺跡出土の炭化材	CD所収	図35 「R」字、反転「R」字、逆位「L」字状垂下文の類例	206
図9 長峯遺跡出土の炭化材(1)	CD所収	図36 SB214出土土偶(土偶装飾付土器)と類例	209
図10 長峯遺跡出土の炭化材(2)	CD所収	図37 壺石遺跡主要壺穴住居跡出土土器器種別組成比率(100点以上出土した例)	211
図11 長峯遺跡出土の種実	CD所収	図38 長峯遺跡主要壺穴住居跡出土土器器種別組成比率(120点以上出土した例)	211
図12 粘土分析を実施した土器	170	図39 磨製石斧接合関係図	213
図13 長峯遺跡出土縄文土器の粘土分析結果(Si-Fe相関)	171	図40 壺石・長峯・別田沢遺跡遺構変遷図(1)	219
図14 巻峠以東の主な黒曜石産地分布図	175	図41 壺石・長峯・別田沢遺跡遺構変遷図(2)	220
図15 壺石遺跡出土の黒曜石の産地判別図(1)	CD所収	図42 壺石・長峯・別田沢遺跡遺構変遷図(3)	221
図16 壺石遺跡出土の黒曜石の産地判別図(2)	CD所収	図43 壺石・長峯・別田沢遺跡遺構変遷図(4)	222
図17 長峯遺跡出土の黒曜石の産地判別図(1)	CD所収	図44 壺石・長峯・別田沢遺跡遺構変遷図(5)	223
図18 長峯遺跡出土の黒曜石の産地判別図(2)	CD所収	図45 壺石・長峯・別田沢遺跡遺構変遷図(6)	224
図19 ¹⁴ C年代測定を実施した土器	181	図46 壺石・長峯・別田沢遺跡遺構変遷図(7)	225
図20 長峯遺跡 ¹⁴ C分析試料拡大写真(1)	186	図47 壺石・長峯・別田沢遺跡遺構変遷図(8)	226
図21 長峯遺跡 ¹⁴ C分析試料拡大写真(2)、および炭化物付着状況写真(1)	187	付図1 壺石遺跡・長峯遺跡・別田沢遺跡全体図	
図22 長峯遺跡 ¹⁴ C分析試料炭化物付着状況(2)、漆付着状況写真(1)	188	付図2 壺石遺跡全体図	
図23 暦年較正確率分布(1)	188	付図3 長峯遺跡全体図	
図24 暦年較正確率分布(2)	189		
図25 暦年較正確率分布(3)	190		
図26 長峯遺跡壺穴住居の形態変遷(1)	193		
図27 長峯遺跡壺穴住居の形態変遷(2)	194		

挿表目次

表1 聚石・長峯・別田沢遺跡注記番号一覧	12	表29 長峯遺跡掲載土器・土製品一覧	CD所収
表2 周辺遺跡	19	表30 長峯遺跡全出土土器一覧	CD所収
表3 聖石遺跡縄文時代中期住居跡	24	表31 長峯遺跡遺構時期と出土遺物量	127
表4 聖石遺跡縄文時代後期住居跡	36	表32 長峯遺跡出土主要土器属性表	132
表5 聚石遺跡掘立柱建物跡	40	表33 長峯遺跡出土赤彩・漆関係資料一覧	146
表6 聖石遺跡屋外埋設土器	42	表34 長峯遺跡出土土製品一覧	152
表7 聖石遺跡遺物集中	42	表35 長峯遺跡出土土器片製円板一覧	153
表8 聖石遺跡伊跡・焼土跡	43	表36 長峯遺跡出土石器器種別一覧	CD所収
表9 聖石遺跡土坑	45	表37 長峯遺跡出土石器の組成	156
表10 聖石遺跡出土遺物の概要	47	表38 聖石遺跡における樹種同定結果	162
表11 聖石遺跡図原掲載土器・土製品一覧	CD所収	表39 長峯遺跡における樹種同定結果(1)	164
表12 聚石・長峯・別田沢遺跡時期区分対照表	48	表40 長峯遺跡における樹種同定結果(2)	164
表13 聖石遺跡遺構時期と出土遺物量	49	表41 長峯遺跡出土縄文土器の胎土分析結果	171
表14 聖石遺跡出土主要土器の属性	56	表42 産地原石判別群	174
表15 聖石遺跡出土赤彩・漆関係資料一覧	69	表43 器種別分析試料(聖石遺跡)	175
表16 聖石遺跡出土土製品一覧	71	表44 器種別分析試料(長峯遺跡)	175
表17 聖石遺跡出土土器片製円板一覧	72	表45 聖石遺跡・長峯遺跡出土黒曜石産地組成	177
表18 聖石遺跡出土石器の組成	73	表46 聖石遺跡出土黒曜石器種別産地組成	178
表19 聖石遺跡出土石器器種別一覧	CD所収	表47 長峯遺跡出土黒曜石器種別産地組成	178
表20 長峯遺跡縄文時代中期住居跡	82	表48 聖石遺跡黒曜石産地推定結果	CD所収
表21 長峯遺跡縄文時代後期住居跡	114	表49 長峯遺跡黒曜石産地推定結果	CD所収
表22 長峯遺跡掘立柱建物跡	116	表50 聖石遺跡出土鍬身具・磨製石斧の石材分析結果	179
表23 長峯遺跡屋外埋設土器	117	表51 長峯遺跡出土鍬身具・磨製石斧の石材分析結果	179
表24 長峯遺跡遺物集中	118	表52 処理試料一覧	182
表25 長峯遺跡伊跡・焼土跡	118	表53 試料の重量・炭素量	183
表26 長峯遺跡土坑	119	表54 測定結果と暦年較正年代	184
表27 長峯遺跡環・石器集中	124	表55 別田沢遺跡遺構時期と遺物量	229
表28 長峯遺跡出土遺物の概要	125		

第1章 序 説

第1節 調査の経過

1 発掘調査に至る経過

尖石遺跡、阿久遺跡、井戸尻遺跡といった史跡を筆頭に多数の縄文時代の遺跡が密集する八ヶ岳山麓で、圃場整備事業が大々的に計画された。茅野市では市街地や山林を除く一帯ほとんど、とっていいくらいに事業が計画された。事業実施計画地内には多数の遺跡が存在しており、事業着手に当たってその保護措置を事業主体者である諏訪地方事務所、茅野市教育委員会、長野県教育委員会と協議した。基本的には、遺跡部分を事業対象地から除く、やもうえない場合は発掘調査による記録保存、記録保存によって重大な発見があった場合は設計を変更など、遺跡の現状保存を第1義に協議は進められた。

しかし、遺跡の立地環境と事業実施計画とが整合し、遺跡が現状保存されるようになることは困難を極めた。そのため、事業実施に伴って記録保存せざるを得ない遺跡が続出した。茅野市教育委員会では、調査体制を充実させながら毎年継続して調査を実施してきたが、常に調査量は過飽和の状況にあった。

平成9年茅野市教育委員会が聖石遺跡の調査を行ったところ、過去の開田工事で遺跡は失われているという予想に反し、大形敷石住居跡をはじめとして多量の遺構・遺物が発見された。予定していた年度内の調査終了ができず、次年度調査を継続することになった。しかし、次年度はすでに他遺跡の調査が計画されており、市教育委員会の体制では聖石遺跡の調査実施は不可能の状況に陥った。そこで、県教育委員会の働きかけがあって、長野県埋蔵文化財センターで調査が実施できないか協議された。その結果、平成10年度の聖石遺跡の発掘調査は、長野県埋蔵文化財センターが諏訪地方事務所・茅野市と委託契約を結んで実施することとなった。平成10年度は4月に調査を開始し11年1月で聖石遺跡の調査は終了した。

そうした中で、平成11年度隣接する長峯遺跡の調査が予定されていて、茅野市教育委員会が試掘調査を行った結果、調査面積は当初計画より大幅に増加し、遺構も多数存在することが判明した。そこで、諏訪地方事務所・茅野市教育委員会・長野県教育委員会・埋蔵文化財センターで協議し、聖石遺跡との関連も考えられることから埋蔵文化財センターで発掘調査することとなった。

平成11年度は4月に調査を開始し12月までで計画予定地の調査を終了し、12年度は遺構の密度が高いことが見込まれたため、12年3月から調査を開始し13年1月までかかって長峯遺跡の調査が完了した。

聖石・長峯遺跡から発見された遺構遺物は膨大な量であり、その整理には長時間必要とされた。そこで、関係機関で協議し、平成13・14年度の2年間を使って埋蔵文化財センターで整理作業を実施し、平成15年度報告書刊行という日程が生まれ、それに沿って作業を進めた。ただし、平成15年度報告書刊行は連絡調整不足があって、次年度へ延期され、平成16年度報告書刊行となった。

2 発掘調査・整理作業体制及び実施内容

平成10年度	所長	佐久間鉄四郎
	副所長兼管理部長	山崎悦雄
	調査部長	小林秀夫
	調査課長	百瀬長秀
	調査研究員	柳澤 亮・白居直之・白田広之

聖石遺跡15,600㎡を4月13日から11年1月14日まで発掘調査実施。縄文時代中期・後期の遺構多数発見。以後3月末日まで基礎整理実施。

平成11年度	所長	佐久間鉄四郎
	副所長兼管理部長	山崎悦雄
	調査部長	小林秀夫
	調査課長	百瀬長秀
	調査研究員	柳澤 亮・臼居直之・西 香子

長峯遺跡20,650㎡を4月1日から12月28日まで発掘調査を実施。縄文時代中期・後期の遺構多数発見。聖石遺跡との関係の究明が必要との認識をもつ。以後2月末まで基礎整理作業実施。

平成12年度	所長	佐久間鉄四郎
	副所長兼管理部長	春日光雄
	調査部長	小林秀夫
	調査課長	百瀬長秀
	調査研究員	柳澤 亮・寺内隆夫・西 香子

長峯遺跡15,150㎡を3月10日から13年1月12日まで発掘調査を実施。縄文時代中期・後期の遺構を昨年度以上の数発見し、長峯遺跡の発掘調査を終える。以後3月末まで基礎整理作業実施。

平成13年度	所長	佐久間鉄四郎、7月1日より深瀬弘夫
	副所長兼管理部長	春日光雄
	調査部長	小林秀夫
	調査課長	百瀬長秀
	調査研究員	柳澤 亮・寺内隆夫

遺構図の個別チェックと全体図作成、土器の接合・復元、石器の分類・計測などの整理作業を実施。黒曜石の原石・石核・剥片などが多量にあり、原産地近郊の遺跡の性格が浮かび上がる。

平成14年度	所長	深瀬弘夫
	副所長兼管理部長	原 聖
	調査部長	小林秀夫
	調査課長	廣瀬昭弘
	調査研究員	柳澤 亮・寺内隆夫

遺構図の版下及び遺物の実測から版下作成など、報告書作成作業を実施。聖石・長峯遺跡で出土した磨製石斧が接合することが判明し、両遺跡間の関係を考える資料が得られた。

平成15年度

報告書刊行予定であったが、諏訪地方事務所と埋蔵文化財センターとの連絡調整不足があり、次年度刊行とする。

平成16年度	所長	小沢将夫
	副所長兼管理部長	藤岡俊文
	調査部長	市澤英利
	調査課長	平林 彰
	調査研究員	柳澤 亮・寺内隆夫

原稿の一部見直し、ページ数の削減を行って原稿を整え、報告書を印刷刊行し、関係機関へ配布する。また、発掘調査・整理作業で作成した記録類、復元や整理した遺物類の移管事務を茅野市教育委員会と協

議し、17年度移管することとした。

3 指導者・協力者

発掘調査と整理作業にあたり、下記の方々や機関にご指導・ご協力をいただいた。お名前を記して感謝申し上げます。(敬称略・五十音順)

今村峯雄・小川忠博・河内晋平・榊原功一・小林謙一・坂本 稔・県営は場整備事業芹ヶ沢地区・同地権者各位・建石 徹・尖石縄文考古館・永嶋正春・長野県教育委員会・宮島 宏・望月明彦・山田昌久
※ このほか見学会や資料閲覧時に際し、地元研究者をはじめとする多くの方々からご指導・ご教示をいただいた。

4 発掘調査参加者および整理作業参加者

(1) 発掘作業参加者

青木 巖・赤堀彰子・秋月静子・朝倉智秋・朝倉ともえ・伊藤古典・伊藤たけ子・伊藤益郎・稲垣桂子・稲垣幸子・岩波ナミエ・岩波ナミエ・牛山康代・牛山セキ・牛山つね子・大久保栄一・岡田幸子・荻原一二・小沢富夫・小野 敦・柿沢タケミ・柿沢昌子・柿沢美恵子・金子正美・北沢一江・北沢久美子・北澤定夫・北澤みつ江・北原常彦・窪田喜美子・窪田金司・小池美秋・国府田理恵・小刀 文・小平 育・小平和子・小平志づか・小林智子・小松純子・小松とよみ・小松勇志・五味計佐雄・今野沙貴子・佐藤 隆・塩田真弓・篠原治郎・篠原定二・清水太助・清水正進・新村 力・鈴木圭子・鈴木志づ代・鷹野原長智・高橋儀男・田中 進・田中初一・寺島皓二・東城久美子・中村美佳・名取一也・林 賢・原 徳治・原敏江・日達美和・平出雄一・平島伴右衛門・平島正夫・福田幸宗・藤森三千恵・藤原正春・松島恒弘・三石千波・三井ひとみ・宮坂今朝寿・宮坂茂子・宮下加代子・宮下容子・室岡正男・百瀬衛登・森元元治郎・森谷文雄・両角つる美・両角益夫・両角良子・両角良子・矢崎つな子・矢崎みよ子・柳澤喜久雄・柳沢好文・山崎けさみ・山崎裕子・山本吉一・湯田坂あさお・吉川春男

(2) 整理作業参加者

浅井とし子・安東武子・飯島公子・飯塚妙子・石田多美子・稲玉美紀・宇賀村節子・丑山和江・内山美砂・大口直明・大林久美子・風間夏枝・加藤周子・倉沢より子・黒岩美枝・近藤朋子・齊藤いづみ・島田恵子・滝沢みゆき・中川麻由美・西沢米子・半田純子・日向富美子・柳沢るり子・柳原智子・柳原澄子・山崎明子・山下千幸



発掘作業参加者（長峯遺跡）



整理作業参加者

第2節 調査の方法

1 発掘調査の方針と手順

調査にあたっては、県埋蔵文化財センター作成の「遺跡調査の方針と手順」(以下「方針と手順」)を準拠して、遺跡調査計画を作成し、発掘調査を行った。

(1) 事前調査と調査範囲の確定(図1・付図1)

聖石遺跡と長峯遺跡の事前調査(試掘トレンチ調査)は茅野市教育委員会が実施した。平成8・9年度に聖石遺跡、平成10年度に長峯遺跡の試掘調査が行われている。試掘調査はバックホウによるトレンチ掘削、人力による精査、記録の手順で進められている。試掘調査によって、台地全体に遺構が分布し、さらには台地傾斜面、低位面にまで集落が展開することが明らかになった。明瞭ではなかった聖石遺跡と長峯遺跡の範囲については、表層の遺物分布で予想された範囲を大きく超え、隣接するが接していなかった両遺跡を結ぶ台地の狭まる部分にまで遺構が発見され、遺構の分布としてはほぼ接合する遺跡であることも明らかになった。

聖石遺跡と長峯遺跡の調査範囲は先行して調査を実施している茅野市教育委員会と県埋蔵文化財センターで協議のもと、いくつかの範囲に分割し、その調査を2者で分担して実施した(茅野市2004)。

また別田沢遺跡は、平成11年度、工事による盛土が3m以上に及ぶ可能性がある低位面について遺跡確認のために試掘調査を実施した。調査は茅野市教育委員会主導のもと、隣接する長峯遺跡を調査していた県埋蔵文化財センターによって行われた。その結果、これまで遺跡範囲ではなかった部分から、遺物や遺構が検出され、新発見遺跡として「別田沢遺跡」が登録される。圃場整備事業では盛土保存されるため、調査と記録はトレンチ範囲内におさめている。

(2) 遺跡の名称と遺跡記号

遺跡名は長野県教育委員会作成の遺跡台帳に記載されている名称とした。また発掘調査および整理作業の便宜上、センター特有のアルファベット大文字3字で遺跡名を表記する遺跡記号を用いている。頭文字は長野県内を九つに分割した地区を示している。2番目・3番目には遺跡名を省略したものを付している。

なお、遺物の注記には、上記センター遺跡記号の冠に、茅野市教育委員会の遺跡地図に記されている2桁の遺跡番号を付した。また別田沢遺跡は茅野市教育委員会主導の調査であるため、茅野市の遺跡番号のみ用い、センターの遺跡記号は付していない。記号は以下の通りである。

遺跡名	読み方	遺跡記号
聖石遺跡	ひじりいしいせき	51 GHJ
長峯遺跡	ながみねいせき	50 GNG
別田沢遺跡	べったざわいせき	ベッタ(略称)

(3) 調査区(グリッド)の設定(図2)

「方針と手順」に従い、国家座標を基準とした調査区(グリッド)を下記の通り設定した。なお、調査当時は国土交通省国土地理院の旧測量法による日本測地系を基本として基点測量を行っている。本書刊行までに新測量法が施行され、現在は世界測地系を基本とされているが、本書ではすべて旧日本測地系を用いている。世界測地系との照合は、巻末の抄録の緯度・経度の項目において実施している。

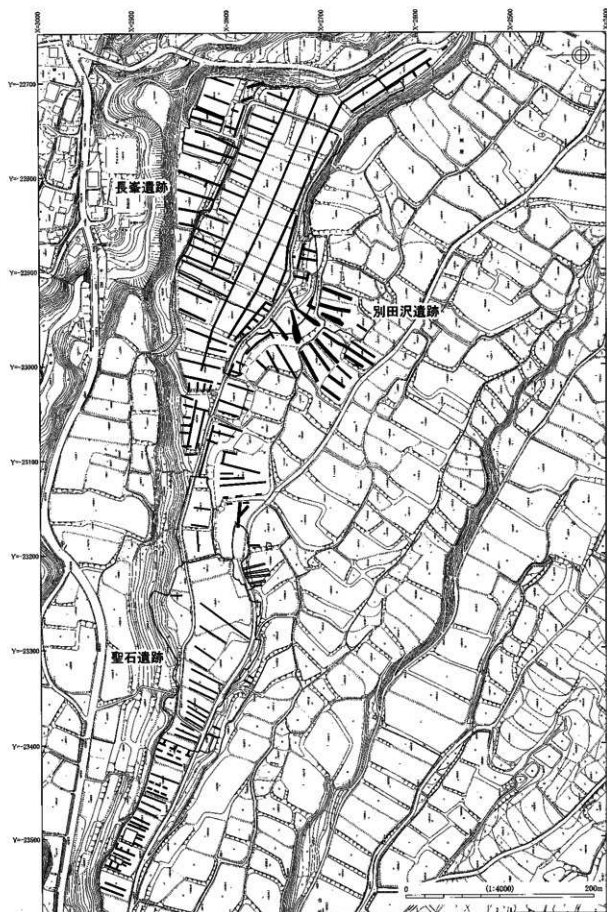


図1 試掘トレンチ設定図

調査区の設定手順は以下の通りである。

ア 大々地区 (200×200m四方) の設定

調査区は、国土地理院の日本測地系である平面直角座標系の原点、第Ⅷ系 $X=0.000$ 、 $Y=0.000$ を基点に200の倍数値を選択して、調査区内の X 軸・ Y 軸を測量基準線とした。大々地区は調査範囲を覆う最小限度にとどめ、原則として北東から南西にⅠ・Ⅱ・Ⅲ・・・のローマ数字を用いる。

聖石遺跡はⅠ・Ⅱ区(基点 $X=3000$ 、 $Y=-23400$)、長峯遺跡はⅠ～Ⅳ区(基点 $X=3000$ 、 $Y=-23000$)を設定した。なお別田沢遺跡は長峯遺跡のグリッド内に包括されるが、単独標高点測量(以下、単点測量)による測量成果を用いたため、グリッド調査法を採用していない。

イ 大地区 (40×40m四方) の設定

大々地区を 40×40 mの25区画に分割し、大地区と呼ぶ。大地区は北西から南東へA～Yの順に大文字アルファベットを用いる。

ウ 中地区 (8×8m四方) の設定

大地区をさらに 8×8 mの25区画に分割し、中地区と呼ぶ。中地区も北西から南東へ1～25のアラビア数字を付け、主に遺構測量、遺物取り上げの基準線とする。

実際の呼称例は図2に記した。

(4) 測 量

ア 基準点と地形測量

聖石遺跡 先行して調査を実施していた茅野市教育委員会の基準杭の成果を用いて、調査区内に基準点を設置し、測量を行っている。

地形測量は調査区中央部では空中測量を実施し、外周は単点測量を用い調査年度内に合成、編集した。

長峯遺跡 初年度に三角点から点を移動して、調査区内に基準杭を設定した。次年度は初年度の成果を用いた。

地形測量はすべて単点測量にて作成し、平成12年度にデジタル編集した。

イ 遺構測量

聖石遺跡 基本的に上記(3)の調査区(グリッド)を用いた簡易遺り方測量によって遺構の測量を実施した。また時間短縮のため、一部に単点測量、空中測量を併用し、年度内に合成、編集した。

長峯遺跡 聖石遺跡同様に、簡易遺り方測量による測量を基本としたが、遺構密度の希薄な地区、傾斜の著しい地区では、基準杭の設定を最小限にして、単点測量による測量を実施した。



調査風景 (秋の八ヶ岳を望む)



列石の検出作業

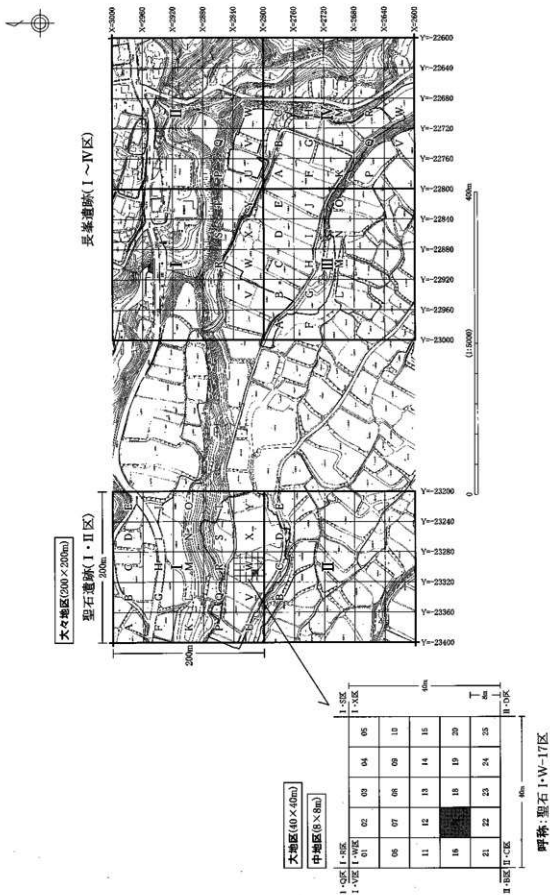


図2 調査範囲と調査区(グリッド)の設定

また遺構密度が濃密な地区では、空中撮影写真をデジタル処理し、オルソ画像（正射投影画像）化したのち、縮尺1：20に出力した画像を用いて、手書き図化作業を実施した。これにより時間短縮かつ詳細な遺構観察を併用することが実現した。

(5) 写 真

遺跡の景観や遺構などの撮影には、PENTAX67（6×7）とニコンFM2（35mm）を併用し、ともにモノクロネガフィルム（ネオパン）、カラーリバーサルフィルム（富士クローム）で撮影した。遺物出土状況や遺構の完掘などは基本的に35mmフィルムで記録し、6×7フィルムは遺跡全体撮影、また報告書掲載が予想される場面に用いた。撮影はすべて調査研究員が行い、現像と焼付けは業者委託とした。

航空写真は聖石遺跡で4回、長峯遺跡で10回撮影した。

(6) 主な遺構の調査方法

ア 遺構の名称と遺構記号、遺構番号

遺跡記号と同様に調査段階より各種台帳や遺物の注記は便宜的に遺構記号を用いている。また遺構番号は遺跡単位に種類ごと、検出順に付けた。整理段階でそれらを精査し、遺構名を変更したもの、新規に付けたものがある。その結果、元記号、元番号には欠番が生じている。

なお本書でもこれらの記号、番号を用いている。

記号	種類・性格	記号	種類・性格
SB	竪穴住居跡、敷石住居跡	ST	掘立柱建物跡
SK	土坑	SH	集石
SD	溝、水路	SF	炉跡、焼土集中
SQ	遺物集中	SX	屋外埋設土器、不明遺構
UM	屋外埋設土器（H11年長峯遺跡）	LM	ロームマウンド（風倒木痕）

イ 竪穴住居跡

検出段階で遺構形状が明確な場合、遺構中央で十字に交わるトレンチを設定して床面、壁面の状況、遺物の分布状況を確認し、トレンチ横を十字に土層ベルトを残して覆土全体を掘り下げる。主だった遺物を残しながら掘削を進め、土層観察、記録を実施した後、ベルトを除去し、必要に応じて遺物の記録写真撮影、図化、取り上げを実施する。次に床面、壁面を精査して炉やピット、埋窠といった内部施設を検出し、



遺構の実測作業



現地説明会

調査する。最終的な平面測量、写真撮影を実施、所見を記録する。

ウ 掘立柱建物跡

調査段階で、明確に柱穴が矩形に組める例は少ない。特に土坑の密集する地区での遺構単位の抽出は困難であった。このため、まず各柱穴（ピット）にSK番号（土坑番号）を付し、個別の調査と記録作業を実施した。整理段階では、全体図作成と同時に遺構の抽出を行い、遺構記号、番号を変更し、新規に登録した。

エ 屋外埋設土器

遺構検出で露出する土器のうち、土器口縁部が水平に検出されるなど、明らかに埋設された状況を示す個体について屋外埋設土器と認定し、詳細な記録作業を実施した。なお一部に調査が進行した段階、整理段階にて竪穴住居跡や敷石住居跡の炉体土器と判断され、遺構記号などを変更した例がある。

オ 土坑

竪穴住居跡より平面形が小さい掘り込みをすべて土坑（SK）とした。大半を半載し、土層観察の後完掘した。その多くについて断面図を作成したが、本書では紙面の都合から抜粋して掲載している。

カ 配石および礫群

敷石住居跡や集石といった、小規模な単位にまとめることが難しい礫の分布について、配石および礫群という大きな範囲でとらえ、記録を取った。整理段階で敷石住居跡の敷石部と判断できる場合もあった。

キ その他

LM（ロームマウンド）は、通常竪穴住居跡と同程度の大きさで検出される。しかしながら平面形状が不整形である点、底面形状が不規則である点、土層観察から覆土中央にロームブロックが主体的に堆積する部分がある点を勘案して、風倒木痕と判断した。自然現象を要因とする落ち込みと判断したが、遺構と重複する例も多く、基本的には完掘し遺物を採集した。

2 整理の方法

(1) 調査の記録類の整理

図面類は記載事項の点検を行い、各種図面を相互に照合、修正または補筆した。また調査担当者が調査経過、遺構の構造所見などを「遺構所見カード」に記載した。写真の整理は、ネガフィルム、6×7リバーサルフィルムについては撮影順にアルバムに貼付し、撮影事項を記載した。35mmカラーリバーサルフィルムは撮影事項をマウントに記載した後、遺構順、撮影種類順に並び替えて、アルバムに収納した。

また各種台帳は記録類と照合し、修正をした。

(2) 測量図のデジタル化

3遺跡で5万㎡を超える調査範囲である点、遺構の密度が濃厚である点を勘案して、整理段階にて調査範囲全体の地形図と遺構分布図についてデジタル化を実施した。調査段階の図化測量が多様多様であったため、その合成作業は困難を極めたが、完成したデジタルデータは縮尺に規制されず、表現の自由度が高いため、報告書への掲載時には効率的に働いた。

(3) 調査および遺構の掲載方法

縄文時代の中期から後期という、同時期の3遺跡を一つの報告書へまとめる点から、全体を見渡せること、相互に比較ができることを主眼とした掲載方法とした。

遺構の所見は、紙面の都合から、各遺構単位に表立てで掲載した。詳細は3・4章を参照のこと。

図版は、地形と3遺跡の立地状況を示す全体図(付図1)、聖石遺跡の全体図(付図2)、長峯遺跡、別田沢遺跡の全体図(付図3)といったA2版の折図により遺跡全体の状況を示した。また1:120縮尺の割付平面図では、各遺跡を小区画に分割して図化し、より近接した遺構の立地状況を示し、また個別図には掲載できない遺構の報告に当てた。堅穴住居跡をはじめとする、個々のもつ情報度の高い遺構を厳選して個別図(縮尺1:60、1:30)を作成し、平面図・断面図や微細図を掲載した。また長峯遺跡の図版の一部には写真を掲載し、詳細図の代用としている。

写真図版は、図面図版と連携させながら、図面では表現できない部分を補描する目的も加味した。特に遺物の出土状況は、図面では掲載できない部分が多いため、写真図版にて掲載している。

また巻頭図版2では、長峯遺跡の複数回の空中撮影写真と茅野市撮影の空中撮影写真を合成し、遺跡全体が見渡せる写真図版としている。

(3) 遺物整理作業の経過と報告書への掲載方法

ア 遺物整理および報告書掲載資料の作成にあたって

昭和30年代のほ場整備事業によってかなりの範囲が削平されていたとはいえ、縄文時代中期の集落2ヶ所をほぼ全掘し、後期集落の一部におよんだ調査から得られた遺物量は膨大であった。

整理作業の開始当初より、この膨大な遺物を分析するための時間と人員は見込めなかった。そこで、中途半端な考察のために時間を割くのではなく、より多くのデータを取って公表することを優先することとした。図や写真の数を増やすこと、全体量の中で掲載遺物がどの程度であるのかを明示すること、個々の遺物の計測値や特徴を数値などで提示することを主眼にしたのである。

その理由は、縄文の本場と言われている地域にあって、すでに膨大な数の資料が蓄積されているにもかかわらず、図や写真として第三者が分析できる資料の比率が少ない点に気がかかっていたためである。公表資料が限られているため、全体量の提示がなされ、その中で何%の資料を図化したかがおおむね把握できる他県の資料との比較がしづらかったのである。他地域で「特徴的・・・」されている資料が、本当に八ヶ岳西麓には無いのか、あるいは単に資料化から漏れていただけなのか、第三者には推測すらできない状況を変えたい、というのが本書の遺物報告のねらいの一つであった。

また、現実問題として、調査研究員が当該遺跡の整理に常駐できない状況が考えられたこともあり、機械的な作業に重点を置いたことも理由の一つである。

土器資料に関しては、ある程度目的を達することができたが、調査研究員が専従できなかった期間の影響でデータに一貫性を保てなかった部分が生じている。例えば、先行して整理が進んでいた聖石遺跡と長峯遺跡間で整合性を持たせる時間がなかった点。あるいは、縄文中期前葉・中葉で設定した土器仮分類基準が、その後整理を開始した中期後葉の土器資料を活かすために修正が必要となり、統一的な分類基準となっていない点。作業開始に先立って設定した土器分類基準についても、観察を重ねてゆく中で弱点が浮かび上がったが、全資料を見直す機会を作れなかった点。さらには、長峯遺跡の土器データが重量の計測のみにせざるを得なかった点。表には接合関係の詳細な記載をしたにも関わらず、遺物分布図を提示できなかった点。など反省すべき点が多い。最終的には、再考、吟味、精査、校正の行われていない生データの提示に終わってしまった観が強い。今後、機会があれば遺物分布図などのデータの追加、あるいは提示したデータを基に再考をしたいと考えている。

以下、整理作業の進め方、報告書への掲載方法を参考として、提示したデータのレベルを推測し、問題点を指摘していただきたい。

イ 土器・土製品

①水洗・注記・資料選別・復元作業 水洗は、主に発掘調査時に仮設プレハブで行い、一部を残して平成12年度までに終了させた。その後の作業は、整理作業棟において平成13年度から実施した。注記は全てインクジェット方式の機械を使用した。一部平成12年度より、発掘調査と平行して行い、平均2名の補助員で、約12ヶ月を要した。出土位置などには、略号(煙突→ウメ、ロームマウンド→LMなど)を使用した。遺物本体や報告書・CD所収の表に記載された「注記用略記号」については、表1を参考にいただきたい。

②仮分類と選別および接合 聖石遺跡の場合、資料の選別・接合・復元個体や実測個体の抽出を、長峯遺跡の発掘調査と並行して行った。聖石・長峯遺跡の本格的な整理作業が開始された時点では上記の作業が終了しており、その後、担当者が交代したため、長峯遺跡との間で選択基準や統計資料に若干の違いがある。例えば、聖石遺跡の土器総数に関する計測は、遺構内出土資料の重量を計測したのみである。

一方、平成13年度より遺物整理作業を開始した長峯遺跡では、屑片に至るまで、全出土資料に対して調査研究員が目を通して仮分類し、出土地点(層位)別に点数と重量の計測を行った(CD表30)。点数は完存品から3cm以上の破片を一律1点とカウントし、3cm以下を屑片として一括した。10万点余の仮分類を、石器分類や他の作業と平行して、一名の調査研究員が約1年間で行った。そのため、再確認・再検討はしていない。正確を期するには再チェックが必要であるが、接合を円滑に進めるための参考、あるいは遺跡の大ざっぱな土器様相をとらえる目的を達することはできた。

長峯遺跡については、仮分類作業の終了した遺構毎に接合作業を行った。補助員2～3名が1年7ヶ月間をかけた。遺構間接合に関しては、先行して復元できた個体に対してと、同時に接合スペースを確保できた隣接住居間のみで試みた。そのため、接合事例が多いとされる20～30m離れた遺構間の作業、あるいはそれ以上離れた遺構間では、一部で試みただけに終わっている。

調査時にすでに土器と分離して保管されていた土偶などの土製品に加え、仮分類作業および接合作業段階において、最終的な土製品や土器片製円板、赤彩・漆塗布・付着土器の抜き出しを行った。これらについては全点、計測・分類を行い、別台帳を作成した(表15・16・17, 33・34・35)。

③復元作業 復元個体の選別は、実測のための補強を前提とし、自立する個体、自立しないが1/3周程度は接合する個体。それ以下であるが重要と判断した異系統土器を対象とした。そのため、少数の破片から全体像を復元するような方法は取っていない。聖石遺跡474例、長峯遺跡781例、別田沢遺跡3例が復元対象となった。ただし、上記の条件を満たしていても脆弱な資料、あるいは資料数の多い類型については割愛せざるを得なかった。復元作業には5名の補助員があたり、他の複数遺跡と平行してではあるが約3年を要した。復元作業を行った個体については、作業にあたって詳細なデータを作成した(CD所収基本台帳)。



土器復元作業



土器実測作業

表1 聖石・長峯・別田沢遺跡 注記記号一覧

区 分	注記記号	取り上げ時の注記ほか	内 容	
			内	容
遺跡を表す記号	51GHJ	聖石遺跡	頭の数値は茅野市教育委員会の遺跡記号。51が聖石、50が長峯、●が別田沢。	
	50GGG	長峯遺跡	ローマ字は茅野市遺跡文化財センターの遺跡記号。長野県内を北から地区割りし、諏訪地域がGとなる。HはHURUBSI(聖石)、MGは(長峯)、別田沢は新発見のため、注記時点で略号が決まっていらず、カタカナで表記した。	
層位を表す記号	ベッタ	基本土層の上層	基本土層はローマ数字で表記。遺構内層位は算用数字。	
	7F	高橋台土層	基本土層を基準として注記した。高橋台土層は基本土層を基準として注記した例、遺構内層位。	
地区を表す記号	IV-G-16	IVG16	最初のローマ数字IVは、200m四方の大きな地区名。2番目のローマ字Gが40m四方の大地区、最後の算用数字16が8m四方の中地区を表す。	
	G-12-10	G12-10	8mグリッドまたは1mと2mグリッドに分割した場合は、8mグリッドの横に「10」との数値が地区は調査の報告書に付した地区名、別田沢や遺跡の区画にあわせたもの。地区名は調査報告書に付した地区名、別田沢や遺跡の区画にあわせたもの。	
例1	IV-K4~5	①地区内IVK4~K5の区画	地区名①地区内の、IVK4からK5グリッドの北側ライン(東西方向)に設定した土層観察用ベルトのIV-1層から出土した遺物、グリッド名があるため地区名は省略してあり。	
	IV-K4~5	②地区内IVK-25(SB140?)	地区名省略。IVK25グリッドにあった現・農道(ミナ)下から出土した遺物。その後、下層でSB140の輪郭が検出され、SB140覆土に属する可能性があるためSB140?を付した。	
例2	SB140?	③地区 表土と黒褐色土	仮地区名③地区にあって現・農道下の表土から黒褐色土にかけて掘削中に出土した遺物。	
例3	12区5号	④地区 表土と黒褐色土	仮地区名④地区南側にあって現・水田のうちの東側の水田に設定した2番目の遺跡範囲確認トレンチから出土した遺物。	
遺構内で使用した記号	LM	ローママウンド	黒銅不属	
	SB	竪穴住居跡	竪穴住居跡	
	SD	溝	溝、溝跡	
	SF	礎石・火床跡	層外で検出された礎跡ほか	
	SH	黒石・配石跡	層外で検出された黒石、配石、石製製作跡と見られる石器・石材・灰片の集中箇所?	
	SK	土坑	竪穴、貯蔵穴をはじめ単独で検出された柱穴と見られる穴についてもSKとした。	
	SQ	遺構集中	掘り込みや陥穽が不明だが、遺物が集中的に出土した地点	
	ST	竪立柱建物跡	竪立柱建物跡	
	SX	性格不明の遺構	性格不明の遺構	
	UM	層外・単地埋室	層外で発見された埋蔵土器	
	ケ	遺構検出箇	当該遺構を平面検出中に出土した遺物	
	I層	I層	覆土第1層から出土した遺物	
	シヨ	焼土進入層	層位番号確定前に、現地で付けた略号。また、シヨは焼土層	
	フ	覆土	覆土より出土し、絶対層位名を確定しなかったもの	
ユ	床土上層	覆土のうち、やや上層部分から出土したもの		
ニ	床面・床面直上	床面および直上から出土した遺物		
ピット10	床下	床面を削いだ地点で出土した遺物		
ピット10	ピット10	柱穴など		
サ	岩質土内出土	岩質土中から出土した遺物。貯蔵庫として設置された遺物は貯蔵、貯蔵など表記		
ウマガ	層内埋室	埋室に使用された土器		
南溝	南溝	南側に沿った溝から出土した遺物		
先行トレンチ	先行トレンチ	遺構の境界状況や重複関係を明確するために設定した先行トレンチから出土		
サブトレンチ	サブトレンチ	重複関係の確認などのために、便宜的に設定したトレンチから出土		
土層観察用ベルト	土層観察用ベルト	土層観察用ベルト状に掘った土層から出土した遺物		
3区	3区	遺構内をベルトを基準に4分割した場合、北東から便宜的に付けた地区名(1~4)		
2NO2	覆土②	覆土を1mないしは2mグリッドに分割した場合の2番目の区画		
P1	p1	土器取り上げ番号には区画「e」がつく		
s1	s1	土器取り上げ番号には区画「s」がつく		
OB1	OB1	多量に出土した黒曜石に関しては頭にOBをつけた		
例1	SB01フク土②	SB01 フク土②	竪穴住居跡SB01の覆土を4分割した2区、4分割した地区の略号には、フ南東あるいは北南東区と方位で示した例もある。	
例2	SB04LMフキン	SB04ローママウンド付近	SB04覆土中ではあるが、重複したLM(ローママウンド)の近くから出土した例	
例3	SB04 C-20フグ	SB04 III C-20?	SB04覆土中、8mグリッドをさらに分割した7つめの区画	
例4	SB51 南ベッコウガ	SB51 南ベルト黒カツ	SB51覆土中、南側に設定した土層観察用ベルトの黒褐色土層中から出土した例	
例5	4T SB-A炉	シク 4T SBA炉	別田沢遺跡は試掘トレンチのみ、4トレンチで見つかった竪穴住居跡Aの炉内出土遺物	
その他	エ	不明	出土地点、層位、遺構などの所属がわからない例。表掘、掘土中から採取した遺物	

このデータを報告書掲載土器選択の基本資料とした。

④**報告書掲載土器の選択** 復元個体と仮分類を終えた破片資料から、報告書掲載用の外形実測用個体と拓影図用破片を選択した。実測図掲載遺物の選定は、遺構内出土例を中心に、執筆担当者が紙数との関係からさらに厳選した。埋蔵、炉体、床面上の伏蔵に関しては脆弱資料を除きほぼ全て実測図を掲載した。拓影図は、上記の資料や覆土中に復元個体がなかった遺構を中心とした。また、長峯遺跡に関しては、紙数の許す限り、区分された各層位から選出した。系統毎の掲載比率はおおむね出土比率を参考としたが、在地以外の異系統土器は、ごく微量であっても極力掲載した。小破片の拓影図に東海系土器などが比較的多いのはそのためである。遺跡間の比重の置き方では、中期後葉が充実している聖石遺跡では中期後葉の掲載数を多めにした。これに対し長峯遺跡では、中期後葉土器の選び出しを聖石遺跡の基準より厳しくして量を減らし、その分前葉～中葉土器を多めに掲載した。長峯遺跡の掲載土器は、重量比で全出土資料の34%に達した(表29)。遺構内で掲載率が高いのは、復元個体をより多く載せたためである。特に多数の土器を掲載した住居は、覆土中に多量の土器が廃棄されていた例である。

⑤**実測・拓本・トレース・写真** 実測は、当初すべての作業を手描きで進めていたが、時間短縮のため本格整理後は写真実測へ移行した。写真実測の方法は、スケールとともに設置した土器を、6～8m離れた地点から200ミリ望遠レンズをつけたデジタルカメラで撮影。データをパソコン上で補正し、実寸大か1/2でプリントアウトし、鉛筆トレースした。導入前の実験的な図作成において、手で計測した場合との誤差は1/4掲載図ではほとんどないことがわかっている。また、大型の把手などカメラの焦点に対して周辺部でゆがみが生じる場合は、パソコン上で補正のほか、手実測によって補った。

掲載図では、手実測の場合、原則的に土器正面図の中に断面図を描き込んである。写真実測の場合は、断面図が正面図とは別図になっているので、参考にしていただきたい。ただし後者では、報告書への掲載数を増やすため、トレース時に断面図を土器正面図中に嵌め込んだ例が若干ある。土器実測は5～6名の補助員があたり、他遺跡と平行してであるが3年を要した。拓影図については、3名で8ヶ月を費やした。

トレースは、指線の統一を図るため調査研究員1名・補助員1名の計2名で、2年弱をかけて全個体のトレースを行った。

写真は、すべての復元個体と一部の破片資料を撮影した。(株)長野フジカラーへ委託し、当センター内の写場と機材を活用して行った。展開写真に関しては小川忠博氏に委託した。

⑥**掲載方法** 土器の掲載は、印刷による実測・拓影図と一部の写真。それに、CDに掲載した写真資料である。掲載順は、遺構図掲載順(SB→ST→SK・・・)に準じた。よって、堅穴住居跡出土資料については中期と後期を分離した。一方、土坑などに関しては、伴出遺物と混入遺物の違いが不明瞭な場合が認められるため、時期区分せずに遺構番号順に掲載した。

実測図掲載土器については、表11・29に出土層位、位置、取り上げ番号、接合関係、赤彩の有無などを明記した。また、復元個体のうち、器形の大半が残存し装飾の構図を知ることのできる資料について、属性表を作成した(表14・32)。属性表の観察基準は3章3節に示した。出土状況に関するデータは、聖石遺跡の主な事例に限り遺構個別図で示した。報告書に掲載できなかった出土位置の高さの情報や、長峯遺跡のデータについては、何らかの機会に公にしてゆきたいと考えている。

⑦**収納方法** 土器の収納は、報告書掲載遺物と未掲載遺物に分離し、さらに遺構・出土地区別に分類して収納した。赤彩・漆付着土器は、掲載資料については掲載順を重視して収納し、未掲載資料については一括して別収納した。また、土製品や土器片製円板については、土器とは分離して収納した。

C 石器・石製品ほか

①洗淨・注記 洗淨作業は、一部を除き平成12年度までに行い。主に発掘現場において水洗ブラシを使用した。微細な使用痕観察などのために超音波洗淨機など特別な方法を取った例は、一部の石製品や磨製石斧に限られる。聖石遺跡出土石器への注記は手書きと機械を併用し、大形剥片石器と礫石器を対象に行った。小形剥片石器や石核・剥片・砕片については、膨大な数量にのぼったため、石器本体への注記を断念し、収納袋にのみ記載した。さらに、長峯遺跡に関しては、整理期間との関係で、石器本体への注記は一切行っていない。収納袋への記載のみであるため、今後、資料の実見に際しては注意が必要である。

②分類・観察・計測 次に、遺構別・出土地点・層位別に納めた石器全点に対して、器種分類と法量（長さ・幅・厚さ・重さ）の計測を行った（表19・36）。さらに、聖石遺跡に関しては、器種毎の形態分類、欠損部位や使用痕などの属性観察を行った。計測・観察は聖石遺跡では3名の補助員が1年間専属であり、調査研究員がチェックを行った。長峯遺跡では、整理期間との関係上、分類と重量計測のみを実施し、補助員2名で約1年を要した。

当初、聖石遺跡の堅穴住居跡出土石器については、石核や剥片類が多く出土したため接合を行ったが、膨大な時間が必要となるため割愛せざるをえなかった。また、石材については、全ての器種について鑑定を行うことができなかった。ヒスイなどの垂飾類、あるいは磨製石斧に限定して委託した。また、黒曜石については遺構出土資料ほぼ全点の産地同定を委託した。

③報告書掲載石器の選択 装飾が時期や地域を推定する手がかりとなる土器と異なり、機能によってある程度形態が限定されるため、極力掲載数を減らす方向で選択した。遺構毎に選び出すのではなく、各器種毎に特徴的な形態を任意に抽出した。あるいは法量の違いによって選択した。長峯遺跡については重量の計測しかできなかったため、時期毎の傾向を知るデータは組成のみになってしまった。

④実測・トレース・写真 実測は一部を除いて㈱シン技術コンサルへ委託とした。素因段階で校正をおこない、聖石遺跡については、補助員2名が3ヶ月ほどでトレースを行った。また、長峯遺跡はトレースまで同社へ委託した。写真は、報告書掲載石器を対象として㈱長野フジカラーへ委託し、整理棟内の写場と機材を活用して撮影した。

⑤報告書への掲載 報文は紙数の関係上、器種分類の基準と概要に止め、表は堅穴住居跡の組成表のみを掲載した（表18・37）。個別石器の出土位置、法量、石材（一部のみ）についてはCD表19・36に収録してある。ただし、計測・属性観察の結果については、作業の行えなかった長峯遺跡との統一を図るため、未掲載とし収納保管した。図は、各器種毎に、遺構順に掲載した。掲載比率は各器種によって異なっている。定型石器のうち小形刃器は、形態にバラエティがあるため多めに掲載した。一方、くさび形石器や二次加工のある剥片、微細な剥離のある剥片などは代表的な数点を掲載したのみである。また、石材鑑定を委託した磨製石斧は多めにし、装身具類は全点掲載した。写真は、装身具類などのみを掲載し、CDに収録した写真も厳選した。



土器実測用トレース作業



透明小学校職場見学会

第2章 環 境

第1節 地形と地質的環境

1 遺跡の位置

聖石遺跡と長峯遺跡は、茅野市北山芹ヶ沢に所在し、八ヶ岳から流れ下る渋川とその支流、角名川左岸の東西にのびる段丘上に立地する。この周辺は八ヶ岳から放射状に伸びる平坦度の高い侵食段丘が連続し、2遺跡の立地する段丘もその一つといえる(図3)。

2 地 形

この一帯の地形および地質研究の第一人者である、河内晋平氏らの研究によると、この北山地域の地形面は、高い方から広見面(図中4a・4b)、南大塩面(3)、上川面(1b)に4分される(河内・北沢・小林1967)(図3)。以下にその概要を記す。

広見面(図中4a・4b)1:地域の東部、広見付近を中心に発達する広い、扇状地性の地形面。一般に平坦度はかなり高い。ただ須栗平、笹原方面では、模式地の広見面に相当する東西性の狭長な面(高位面、図4a)と、これより5~8m低い面(低位面、4b)からなる。広見面は地域の中央、南大塩付近で、より新しい南大塩面と斜交して下位にもぐり、その境界部は不明。

南大塩面(3):南大塩付近で広見面を覆い、その西側に広く発達する。上川および柳川の支流によって、東西性の細長い谷が刻まれている。沖積面(1a)との標高は最北端の上川沿いでもっとも高く60mに近い。芹ヶ沢面(2):この面は上川・柳川やその支流によって刻まれた東西性の細長い谷の中に形成されたもので、沖積面との比高が10m前後の侵食段丘である。この面上には曇さ0.5~1.5m程度のローム層が堆積している。

上川面(1b):上川・柳川沿いに発達する地形面で、河床からの比高は数m前後で厚さ2m前後の礫層をのせている侵食段丘である。この面上にはローム層をのせていない。

上記の地形区分上では、聖石遺跡・長峯遺跡は角名川と渋川によって刻まれた狭長な面、広見高位面(4a)上に立地することがわかる。また2遺跡の南に位置する北山葛蒲沢遺跡A・B、また尖石遺跡も同じく広見高位面(4a)に立地しているが、この辺りでは扇状地性の地形の特徴が強く、比較的広大で平坦度が高い台地を形成している。

しかしながら別田沢遺跡は、上記のような縄文時代中期の集落遺跡の典型例ともいえる立地環境に対し、広見低位面(4b)にあたり、聖石遺跡や長峯遺跡の狭小な段丘や南対岸の北山葛蒲沢遺跡の立地する段丘を侵食した、なだらかな谷地形の一部に立地する。調査時にもこの一帯は湧水点や湿地が豊富で、あたかも縄文時代の「水場」を想起させるに十分な場所である。ただ今回の確認調査ではその谷地形のなかにも段丘に平行する微高地が数条あることが判明している。これらの地形は上流から供給された土石流の堆積による地形と考えられ、今回新発見され、住居跡などが見つかった別田沢遺跡もその微高地上に立地している。

八ヶ岳山麓ではこれまでの調査から、大地形区分による侵食段丘上に縄文時代の集落遺跡は立地するという所見が定説化している感が強い。もちろん遺跡の大半は台地上に展開していることは間違いないが、

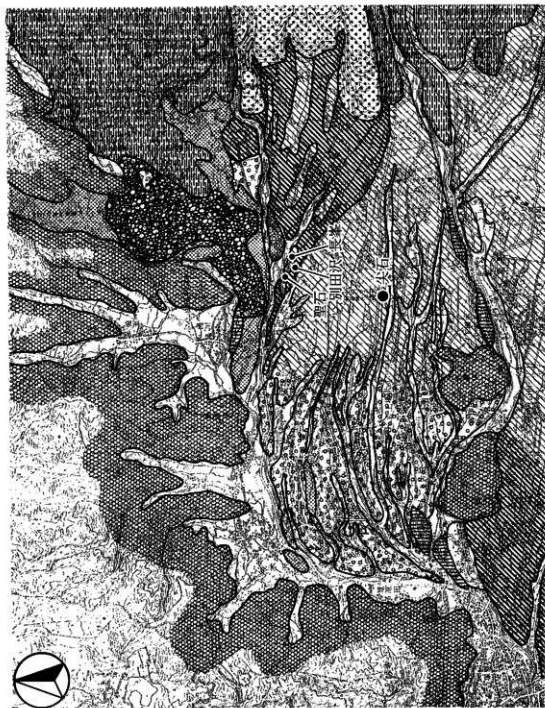


図3 茅野市の地形区分図 (1/7000)

- 1a: 沖積低位面
- 1b: 沖積高位面 (上川面)
- 2: 芹ヶ沢面
- 3: 南大塩面
- 4a: 広見低位面
- 4b: 広見高位面
- 5: 糸置溶岩
- 6: 立科高原溶岩
- 7: 一の坂溶岩
- 8: 基盤岩山地

この図は「河内1967第2図」をトレース、一部加筆したものである。

その下位面の谷地形であっても、縄文時代以前に離水している微高地は、当時の人々にとって水場に近い最適な住環境を与える地形であった可能性を示しているかもしれない。

引用文献

河内晋平・北沢和男・小林武彦1967「八ヶ岳北西山麓の火砕流堆積物—八ヶ岳火山列 円頂丘形成期の火山活動（I）—」
『地質学雑誌』73,3,p139-150

諏訪教育会諏訪の自然誌地質編編集委員会1975『諏訪の自然誌 地質編』諏訪教育会p631

第2節 歴史的環境（図4、表2）

ここでは、茅野市内でも八ヶ岳山麓の台地、霧ヶ峰山麓の扇状地および上川の氾濫原、また上川沖積地・永明寺山麓という3つの地域における遺跡の立地を概観する。図3では聖石(51)、長峯(50)、別田沢(327)遺跡が営まれた縄文時代中期、後期、そしてその前段階の前期に該当する遺跡の分布を示した。

これによると前期のみ確認される遺跡はそれぞれが小規模で点在していることがわかる。また標高の低い上川沖積地一帯（現在の茅野市街地）には分布を見ない。次に前期から中期にわたる遺跡は、数は少ないもののそれぞれ面積が大きく、大規模な集落遺跡といわれる範疇に含まれるものが多い。分布域は前期のみの遺跡とは同じである。

中期のみの遺跡では国特別史跡の尖石遺跡（87）といった大規模で密度の濃い遺跡もあるが、多くは小規模な遺跡と認識されているものが多い。ただ分布範囲は八ヶ岳山麓の標高1,100mを超える地域から上川沖積地まで拡大している。

聖石、長峯、別田沢遺跡も含まれる中期から後期の遺跡、また国史跡である駒形遺跡（34）、上之段遺跡（17）、仮面土偶で有名な中つ原遺跡（60）、国宝土偶が出土した棚畑遺跡（44）のように前期から後期までの時間幅を持つ遺跡は非常に大規模な集落遺跡であり、その数は少なく分布域は広範囲である。

また後期のみ確認されている遺跡は極めて稀であり、中期遺跡から継続する状況が一般的であろう。



故河内晋平先生と地質・石材調査
（霧降の滝対岸の露頭にて）

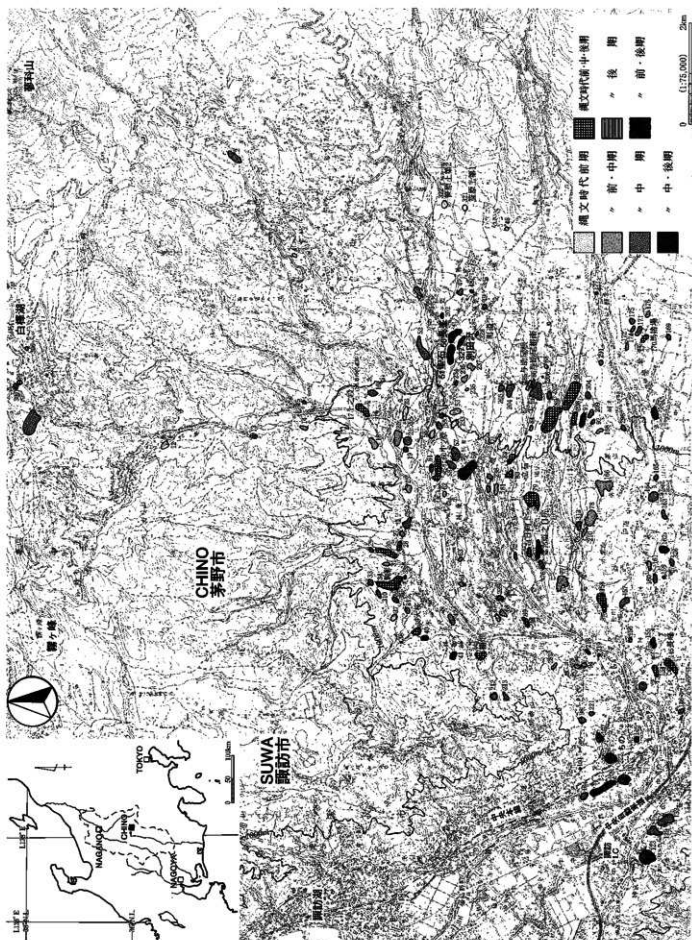


図4 聖石・長峰遺跡の位置と周辺遺跡

第2章 環 境

番号	遺跡名	所在地	石石器	縄文	縄文						弥生	弥生			古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
					前期	早期	前期	中期	後期	晩期		不明	前期	後期						
154	下ノ原	多野市玉川原		●			●	●	●											
155	中野前	多野市玉川原		●			●	●	●											
156	上ノ原	多野市玉川原		●			●	●	●											
157	白田白田	多野市玉川原		●			●	●	●											
158	芝野柳田	多野市玉川原		●			●	●	●											
159	久津川	多野市玉川原		●			●	●	●											
160	小家原	多野市玉川原		●			●	●	●											
161	上野前	多野市玉川原	●	●			●	●	●											
162	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
163	一本木	多野市玉川原		●			●	●	●											
164	尾崎田	多野市玉川原		●			●	●	●											
165	中京	多野市玉川原		●			●	●	●											
166	上ノ原	多野市玉川原		●			●	●	●											
167	白旗津	多野市玉川原		●			●	●	●											
168	上ノ原	多野市玉川原	●	●			●	●	●											
169	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
170	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
171	山ノ神	多野市玉川原		●			●	●	●											
172	丸ノ戸	多野市玉川原		●			●	●	●											
174	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
175	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
178	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
177	夕立	多野市玉川原	●	●			●	●	●											
202	志賀	多野市玉川原		●			●	●	●											
204	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
205	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
206	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
207	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
208	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
209	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
210	高瀬	多野市玉川原	●	●			●	●	●											
212	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
213	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
218	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
219	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
221	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
222	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
223	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
234	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
235	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
236	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
237	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
238	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
239	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
287	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
291	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
298	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
304	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
308	高瀬	多野市玉川原	●	●			●	●	●											
307	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
310	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
312	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
313	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
321	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
322	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
328	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
327	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											
329	高瀬	多野市玉川原		●			●	●	●											

(遺跡番号は多野市の登録番号による。)

第3章 聖石遺跡

第1節 遺跡と調査の概観

遺跡の標高は1040m前後であり、尖石遺跡と同じく、縄文時代の大規模な集落遺跡では比較的高位な位置にある。台地の最大幅は80m、遺構の確認される範囲の長さは550mと長大である。

聖石遺跡という名は、古くから畑の中にあつた安山岩の巨礫「ヒジリ石」に由来する。当地は以前から土器や石器が拾えることで有名であった。高燥な台地上であるため、桑畑などに利用されていたが昭和34年に大規模な開田工事が実施したところ、多くの遺物が出土したという。またその際に縄文時代の遺構の大半が破壊されたことから、長峯遺跡とともに縄文時代中期の大規模な集落遺跡でありながら、「失われた遺跡」と認識されていた。

今回のほ場整備事業は、聖石遺跡の立地する台地を削り、その土で谷を埋めて施工するという大規模な工事である。県・市教育委員会と関係部局は複数年度にわたる保護協議で、台地を残す施工を検討したが、周囲のは場が完成しつつある中で、台地を残す工事は工法的に困難であり、記録保存を前提とする発掘調査を実施することが決定した。

平成8年度に茅野市教育委員会が実施した確認調査では、開田工事による遺跡破壊部分は僅かであること、調査必要面積15,000㎡（試掘では予想遺跡面積12,000㎡以上であるが、試掘範囲外への遺構の広がりを想定）、遺跡内の土層堆積状況は良好で、縄文時代の文化層である黒褐色土層中に礫や焼土跡が存在し、部分的に2面調査が必要である、といった結果が報告される。昭和34年の開田工事では、傾斜する台地に水平な田面を作る際、田面毎に山側を削って谷側に盛り付けるという工法を採用しているため、基盤層まで削平される部分と、逆に盛り土によって良好な状態で保護された部分とが相互に分布していて、結果的に調査範囲は台地全体、つまり遺跡全体に及ぶこととなる。この状況は長峯遺跡でも同様である。

平成9年度の市教育委員会の調査は、調査範囲確定を目的とした試掘調査と市教委1～3区の本格調査である。試掘調査では、台地平坦面最大幅部の南斜面（市教委3区）における縄文時代後期の敷石住居跡および配石群、斜面低位における土坑、焼土跡の発見があり、発掘調査面積（トレンチ調査のみも含む）は20,000㎡を超えることとなる。市教委1区は県埋蔵文化財センター調査区に接する南斜面と、西へ100m離れた台地平坦面にあたり、トレンチ調査と拡張範囲の合計440㎡から7基の土坑が検出されている。そのうち4基は貯蔵穴と考えられている。詳細な時期は不明であるが、東に近接する県埋蔵文化財センターI・P、Q区の遺構群に含まれると示唆されている。

市教委2区（2,800㎡）は県埋蔵文化財センター調査区東に隣接する台地上にあたる。竪穴住居跡（縄文時代中期後葉4、後期前半1、不明1）、方形柱穴列2基（縄文時代）、土坑107基（縄文時代）、焼土跡1基（縄文時代）である。

市教委3区の台地南斜面部では礫群の諸記録、敷石住居跡や配石・列石の検出を実施し、平成10年度に継続調査することとなる。

平成10年度は市教育委員会と県埋蔵文化財センターが地区を分けて調査を担当した。市教委は3区（1,360㎡）において、縄文時代の住居跡19軒、方形柱穴列2基、土坑219基、配石6基、列石8基、埋設土器1基、焼土跡7基、土器集中2箇所、黒曜石集積1箇所、流路跡1条と縄文時代の遺物包含層が検出されている。平安時代の住居跡1軒も見つかっている。

この調査は斜面部を造成して作り出したテラス部に縄文時代後期前半の9mを超えるような大形の敷石

住居跡や配石、列石などが濃密に重複していること、台地下位つまり谷地形の上部に当該期の土坑や方形柱穴列が発見されることなど、台地平坦面における縄文時代中期後葉の大規模な環状集落の形成以後の、新たな集落形成の様相を提示する稀有な例となった。

県埋蔵文化財センターが担当した調査区は、遺跡の主体部である台地平坦面の最大幅部にあたり、調査面積は15,600㎡である。そのうち西側1,000㎡分は国道299号線の付け替え関連事業に係る範囲である。

調査区は市教育委員会が実施したトレンチ溝、表土除去範囲がそのままの状態ですべてにより保護されている状況であった。それら先行調査部分の調査状況の把握と基本土層の確認によって、2面調査が必要な部分が、最大幅部の西半分にわたり、そこでは縄文時代後期面（Ⅲ層遺物包含層中に存在）と縄文時代中期面（Ⅳ層上面、中期遺構を確実に検出できる面）が存在することを再認識した。またそれ以外の地区ではⅢ層がほとんど存在しないため、現旧耕作土を除去したのち、Ⅳ層上面での面的調査を実施する必要性を確認した。

調査は平成10年4月13日に開始。本体工事の工程により、西側の台地の狭まる部分から着手した。国道299号線付け替え工事を先行して実施し、西側地区を都合2回明け渡しつつ、調査期間の大半を最大幅部の完全発掘に要した。規模の大きさ、2面調査、遺構の密度の濃さに苦慮しつつ、ようやく平成11年1月14日に調査を終了した。

旧石器時代（約12,000年以上前）平成9年度の市文化財課の調査では、旧石器時代に属する石器が出土しているが、県埋蔵センターの調査では見つかっていない。地区の一部では縄文時代中期の遺構検出面にあたるⅣ層上面下位の基盤層についてトレンチ調査を実施したが、成果は上がっていない。また非常に密度濃く分布する縄文時代の遺構を調査しても、旧石器時代に該当する遺物の痕跡が見当たらない点を勘案しても、当該期の文化層の存在は非常に希薄であると考えてよいかもしれない。

第2節 縄文時代の遺構

1 概要

今回見つかった遺構の大半は縄文時代中期から後期に該当する。遺構としては堅穴住居跡116軒（縄文時代中期91軒、後期25軒）、掘立柱建物跡17棟、屋外埋設土器15基、遺物集中14箇所、炉跡・焼土跡30箇所、土坑1,618基である。

堅穴住居跡の個別の記載は、原則的に次の順序である。遺構番号、掲載図版番号（割付図版・個別図版・PL）位置（地区・グリッド）、所属時期、検出面、形態・規模（主軸長、副軸長、床面積、壁高）、床面、ビット（数、主柱穴、所見）、炉（位置、形態、所見）、埋甕（有無・数、埋設位、所見）、付属施設、遺物の出土状況、埋没過程、重複関係、備考。主な計測基準、記述基準は以下のとおり。

位置 遺跡単位で設定したグリッド名を記入している。

所属時期 区分基準：土器の時期設定による。（第3章、第3節参照）

認定資料：当該住居の時期を決定した根拠を示す。（例）埋甕の時期、床面の遺物など

検出面 当該住居を確認した調査面を示す。

形態・規模 平面形：調査図化した状況から、円形、方形、五角形、長楕円形、後期住居跡には柄鏡形をあてはめている。即断できない形状の場合、略円形などと表現している。

主軸方向：平面形、炉・埋甕の位置から主軸線を推定した。敷石住居跡の場合張り出し部の中心線およびビットの中心線を延長させて設定している。その表記は座標

北から東西方法への傾斜角を示している。(例) N12° W

また、主軸線が推定できない場合があり、その場合には平面形の長軸方向を計測した。

主軸長：主軸線上の壁間の長さを平面図より計測している。壁の残っていない住居については周溝などから推定計測した。長軸長を計測してある場合もある。

副軸長：主軸に直交する軸上の壁間の最大長を平面図より計測している。長軸に直交する短軸を計測しある場合もある。

壁 高：基本的に平面図及び断面図からわかる、最も深い位置で計測している。

床面 貼り床や硬さなどの調査所見。

ピット 数：当該住居跡に伴うと考えられるピットの数。重複の著しい調査区では、遺構単位での分類ができていないため、調査時のままの数である。

主柱穴：位置と大きさから主たる柱穴と推定したピットを記載している。

炉 位置：住居全体からの位置

形態：石囲炉（掘り方が浅く、主に垂円礫を並び囲んだ炉）、石組炉（掘り方が深く、扁平で大形な礫を立てて組んでいる炉）、埋壺炉、石囲埋壺炉、地床炉（浅く掘りくぼめた穴をそのまま炉に用いている例）

埋壺 位置：住居全体からの位置

数：当該住居に伴う埋壺の数。

埋設位：正位、逆位を基本とし、傾斜して埋設されているものは正斜位、逆斜位と記した。

遺物の出土状況 特徴的な遺物と、その出土状況を記した。

埋没過程 土層観察で得られる住居の埋没過程を記した。

掘立柱建物跡の個別記載は以下の通りである。

遺構番号、掲載図版番号（割付図版・個別図版・PL）、位置（地区・グリッド）、旧遺構名、所属時期・認定資料、検出面、形態・規模（柱配置、主軸方向、主軸長、副軸長）、ピット個別所見（平面形、断面形、平面規模、深さ、柱痕）、重複関係、備考。

主な計測基準、記述基準は以下のとおり。

所属 時期：概して出土遺物が少ないため住居跡のような詳細な時期区分は捉えられないが、重複関係などを考慮し、極力所属時期を決定した。

構造・規模：柱配置 柱間を短軸・長軸の順に数える。(例) 1間×2間

主軸 方向：長軸方向で推定・計測した。

ピット個別所見：ピットそれぞれの属性を記載した。

重複 関係：平面・断面、また調査所見から重複関係を求めた。

なお調査段階で建物跡と認定した遺構はST01のみである。他は濃密な遺構重複から、明確に認定できなかった。そのため個別土坑として登録・記録し、配置から建物跡の可能性のある土坑はその所見を捉えた。整理業務では縮小した全体図と断面図から建物跡を組んでいく作業を重ねた。その結果、17棟の建物跡を確認した。なお出来る限り明瞭な矩形を呈する配置にのみ限定して選択している。

2 縄文時代中期の住居跡 (表3)

表3 聖石遺跡縄文中期住居跡 (1)

遺跡 番号	利用時期 年	埋没時期 年	P.N.	出土	使用時期				構造	形状・規模					扉扉	心口	
					遺構の 長さ	大径部 の長さ	中径部 の長さ	小径部 の長さ		遺構の中心 の位置 (東経度 入角)	平面形	主軸の 方位	主軸長 (m)	副軸長 (m)		壁高 (m)	敷 数
100	26,37	30		1-6-24-15	埋没	中期	破壊	2	中径部2-1	円形	160° E	5.20	5.10	0.10	8	PI.3,4,5	主軸が北東、 副軸が北西に 平行である。
101	26,37,34	30		1-6-25-25	埋没	中期	破壊	4,3	中径部2-1	円形	161° E	4.90	5.34	0.21	10	PI.1,2,4,7 新-PI.5,15	壁面が、東壁 に傾き、北壁 が傾斜している。 扉扉がある のは北壁の方 だ。
104	26,37	32		1-6-19-24	破壊?	中期	破壊	4		円形	161° E	4.80	4.80	0.37	8	PI.10,7	円形に近似的な 平面の心口 である。扉扉 は北壁の方 だ。
107	26,26,36,3	33		1-6-18-19- 23-26	埋没	中期	破壊	2	中径部2-1	円形	161° E	4.30	4.62	0.14	6	PI.2,3,4,15	北壁が傾斜し、 土柱穴は北壁 に近似的に 並んで並べら れている。
108	26,28	34		1-6-11-18-23	埋没	中期	破壊	1	中径部2-1	楕円形	165° E	5.24	5.10	0.39	7	PI.2,3,4,16	傾斜した心口 である。
109	14,26,28	36		1-6-14-17	埋没	中期	破壊	1	中径部2	円形	164° E	5.54	6.20	0.26	10	PI.2,3,6,8,9	北壁が傾斜し、 土柱穴は北壁 に近似的に 並んで並べら れている。PIは 北壁の心口 である。
1010	26	35		1-6-4-6-9-10 12-16	埋没	中期	破壊	5,1	中径部2-楕円 部	円形	162° E	11.20	13.80	3.20	7	不詳	楕円形に近似的 な心口である。 壁高不詳。
1011	26,37	35,37		1-6-4	埋没	中期	破壊	5	中径部2-5	円形	156° E	15.40	14.50	3.20	13	不詳	心口はほぼ正方形 である。心口 の中心が、遺 構の中心から 多少ずれている。
1012	26,37	35,37		1-6-24-4	埋没	中期	破壊	3	中径部2-1	楕円形	161° E	14.20	4.36	1.06	11	PI.2,3,9	主軸が北西に 傾き、傾斜した 心口である。 土柱穴は北壁 に近似的に 並んで並べら れている。
1013	26,26,36,3	36		1-6-23,3-3	PI.9,12	中期	破壊	3	中径部2-3	円形	162° E	5.10	5.40	0.40	8	PI.12,13,21	北壁が傾斜し、 PIは北壁の方 に近似的である。
1014	3	39		1-6-20-2, 3-6-2-4	埋没	中期	破壊	4	中径部2-5	楕円形	161° W	5.20	5.34	0.36	13	PI.4,11	北壁が傾斜し、 土柱穴は北壁 に近似的である。
1015	3			1-6-4	埋没	中期	破壊	7	円形	162° E	14.80	14.20	3.40	7	8	PI.10	心口は正方形 である。
1016	3,3			1-6-10-14- 16	埋没	中期	破壊	7	円形	162° E	15.40	15.40	3.40	10	5	10	壁高は、土柱穴 の位置から推 定されている。 土柱穴は北壁 に近似的である。
1017	44	36,30		1-6-21-22	埋没	中期	破壊	27	中径部2-5	不詳	-	-	-	14	7	10	心口は正方形 である。PIは 北壁の方 に近似的である。
1018	26,37,34	36,30		1-6-15-1-1	埋没	中期	破壊	4,3	中径部2-5	半楕円形	161° W	5.80	6.10	0.20	10	PI.1,5,19 新-PI.1,12,20	東壁が傾斜し、 PIは北壁の方 に近似的である。
1019	26,26	34		1-6-22,2-2	埋没	中期	破壊	4	中径部2-4	円形	161° W	5.22	4.98	0.40	8	PI.2,1,3	北壁が傾斜し、 PIは北壁の方 に近似的である。

表3-2

遺構番号	方位(距離)	規模(面積)	凡例	位置	建築時期				出土品	形状・構造					断面	ピット				
					建築材料	大規模部分	中規模部分	小規模部分		遺土(土質・土層の相違) (築造層・入層数)	平面形	基礎形状	主要方向	主要長さ		基礎幅	壁高	数	注記1	注記2
0005	13	62		1-10-10	雑草	中略	雑草	3	中規模部①-3	平屋上層	平壁/内影	140° E	4.35	4.30	0.10	0.10	0.10	不明	不明	不明
0007	16, 17, 14	30, 30		1-10-10-10	雑草	中略	雑草	3	中規模部①-3	平屋上層	内影	120° E	4.14	4.30	0.40	0.40	0.40	不明	不明	不明
0009	17	62		1-10-11	雑草	中略	雑草	27	中規模部①-6	平屋上層	内影中	110° E	5.00	5.00	0.30	0.30	0.30	不明	不明	不明
0009	18, 20	64		1-10-11-10-10	雑草	中略	雑草	4	中規模部①-4	平屋上層	内影中	140° E	4.60	4.40	0.30	0.30	0.30	不明	不明	不明
0004	18, 20	60		1-10-12-10-10-10	雑草	中略	雑草	2	中規模部②	平屋上層	内影	100° E	4.14	4.30	0.40	0.40	0.40	不明	不明	不明
0008	15, 13, 12, 6, 27, 28	63		1-10-10	雑草	中略	雑草	4	中規模部①-4	平屋上層	雑草の侵入 六角形	140° E	4.44	4.44	0.40	0.40	0.40	不明	不明	不明
0005	11, 10, 10	64		1-10-10-10	雑草	中略	雑草	2	中規模部①-2	平屋上層	内影	100° E	5.20	5.00	0.40	0.40	0.40	不明	不明	不明
0007	18, 30	64		1-10-11	雑草	中略	雑草	5	中規模部①-6	平屋上層	雑草の侵入 石位置部	140° E	5.20	5.10	0.10	0.10	0.10	不明	不明	不明
0009	13, 11, 11	66		1-10-13-10	雑草	中略	雑草	2	中規模部①-4	平屋上層	内影	140° E	5.00	5.10	0.10	0.10	0.10	不明	不明	不明
0009	13, 11, 10	66		1-10-11-10	雑草	中略	雑草	5	中規模部②	平屋上層	平壁/内影	100° E	4.30	4.20	0.10	0.10	0.10	不明	不明	不明
0005	25, 24, 23, 22	68		1-10-7	雑草	中略	雑草	3-4	中規模部①-6	平屋上層	雑草の中 平壁/内影	100° E	5.00	5.10	0.30	0.30	0.30	不明	不明	不明
0009	44	10, 30		1-10-1	砂	中略	雑草	5	中規模部①-6	平屋上層	不明	-	-	-	-	-	不明	不明	不明	
0002	21, 22, 23, 24, 25, 26	67		1-10-1	雑草	中略	雑草	2	中規模部①-3	平屋上層	雑草の侵入 雑草/内影	140° E	4.60	4.60	0.40	0.40	0.40	不明	不明	不明
0009	19	67		1-10-11-10	雑草	中略	雑草	5	中規模部②	平屋上層	内影	100° E	4.30	5.00	0.10	0.10	0.10	不明	不明	不明
0004	41	38		1-10-11-10	雑草	中略	雑草	1	中規模部②	平屋上層	内影中	140° E	5.10	5.10	0.60	0.60	0.60	不明	不明	不明
0009	21, 22, 23, 24	68		1-10-11, 10-10, 10-10-10	雑草	中略	雑草	2	中規模部①-2	平屋上層	雑草の侵入 雑草/内影	100° E	5.10	5.20	0.20	0.20	0.20	不明	不明	不明

第3章 聖石遺跡

表3-3

遺跡番号	跡形面積 %	埋没状態 %	P/a	位置	形跡時期				構造	形状・規模					ピット			
					縄文前期	縄文中期	縄文後期	弥生前期		平面形	主軸方向	長軸長 m	短軸長 m	埋没	深さ	数	注記	
																	縄文前期	縄文中期
0008	23.23 23.26	98	E-C-1-2	埋没	中期	後葉	3	中輪遺跡①-4	伊藤上層	人口部中 段中葉の 瓦葺物	160° W	6.80	6.40	0.30	埋没	27	埋没遺跡 P1.2.3.2.4 遺跡①P1.6.1.2.4	埋没遺跡、埋没 状態の瓦葺物遺 跡ニ付、穴あり、但 し遺跡の中心 P1.2.3.2.4は埋没 されていない。
0009	21.0	10	E-C-10(15) P-11	埋没	中期	後葉	4	中輪遺跡①-5	伊藤上層	人口部中 段中葉の 瓦葺物	N41° E	6.70	6.60	0.60	埋没	10	P1.2.3.4	中輪遺跡付、 埋没、P1.2.3.4は埋没 状態の瓦葺物遺 跡ニ付、穴あり、埋没 状態の中心 P1.1.2.3.4は人口 部中葉を示す。
0010	18.14	98	F-B-15-20	埋土	中期	後葉	4	中輪遺跡①-5	伊藤上層	瓦葺物	102° W	4.80	4.80	0.30	埋没	9	P1.6.8.9	埋没に覆覆する 所、埋没状態の 穴付穴を抽出し た。
0018	13.33	11	E-B-16-21	埋没	中期	後葉	4	中輪遺跡①-4	伊藤上層	人口部中 段中葉の 瓦葺物	N47° W	6.64	6.64	0.30	埋没	3	P1.3.4	中輪遺跡付、 穴あり。
0040	11.62 23.23 29.26	79	E-C-6-10	伊藤埋没	中期	後葉	4	中輪遺跡①-4	伊藤上層	人口部中 段中葉の 瓦葺物	N47° E	4.50	4.60	0.30	埋没	11	埋没遺跡 P1.5.5.7.埋没 遺跡①P1.5.8.10	伊藤埋没状態 あり。
0041	8.12	72	E-C-24(1) F-46-49	伊藤埋没	中期	後葉	3-4	中輪遺跡①-4	伊藤上層	円形	160° E	6.30	6.30	0.10	埋没	9	P1.2.3.4.5.6	6.6m位の円形。
0043	12.75	73	E-C-25(1) E-46-50-1	埋土	中期	後葉	4	中輪遺跡①-6	伊藤上層	楕圓形の 溝	162° E	4.70	6.57	0.40	埋没	4	4.6m	埋没に覆覆する 所、埋没状態の 穴付穴を抽出し た。
0044	13.11 8.82	14	E-C-2-3-7-12	埋没	中期	後葉	4	中輪遺跡①-6	伊藤上層	円形	167° W	6.70	6.60	0.30	埋没	10	P1.2.3.4.10 埋没 状態のP1.4.10	埋没に覆覆する 状態の、埋没の溝 跡ニ付、穴あり。
0046	11.62 8.22	78	E-C-7-12-13	埋土	中期	後葉	7	中輪遺跡	伊藤上層	瓦葺物	167° W	14.00	6.70	0.50	埋没	(1.6)	P1.7.7.7.8	埋没に覆覆する 状態の、穴あり、溝 あり。
0048	12.13	79	F-B-21	埋土	中期	後葉	3	中輪遺跡②-3	伊藤上層	円形(2) 瓦葺物	167° W	14.50	4.20	0.40	埋没	8	4.6m	埋没に覆覆する。
0049	13.17 8.20	78	E-C-6-11-14	埋没	中期	後葉	3	中輪遺跡③	伊藤上層	瓦葺物	164° E	6.70	6.70	0.20	埋没	(1.8)	P1.3.7.8	伊藤埋没状態 あり、穴あり、埋 没状態の溝 あり、平堀。
0049	11.18	71.76	E-C-5-4-6	埋没	中期	後葉	1	中輪遺跡①-2	伊藤上層	円形	162° W	6.50	6.50	0.30	埋没	(1.1)	P1.2.7.埋没中 輪遺跡①P1.2.7.8.9.10	平堀、埋没に覆覆 する状態の、埋没 状態の。
0049	13.17 8.20	71.76	E-C-1-3-4-4-9	埋没	中期	後葉	4	中輪遺跡④	伊藤上層	円形	162° E	16.00	14.50	0.70	埋没	10.9	平堀	埋没に覆覆する 状態の、埋没に覆覆 する。
0050	12.13 8.22	78	F-B-21-22, E-C-1-6	埋土	中期	後葉	3	中輪遺跡②-3	伊藤上層	円形	162° E	6.30	6.40	0.40	埋没	(1.0)	P1.2.3.4.10	埋没に覆覆する 状態の。
0051	12	78	E-B-6	埋土	中期	後葉	12	中輪遺跡⑤	伊藤上層	円形	167° E	13.70	14.60	0.70	埋没	4	P1.2.3.4	4.6m。
0060	13.17 8.20	78	E-C-2-7-12	伊藤	中期	後葉	4	中輪遺跡④	伊藤上層	円形	167° E	16.50	15.10	0.70	埋没	10.9	P1.2.3.4.10 P1.7.7.7.8.9.10	埋没に覆覆する 状態の。

表3-4

遺跡番号	方位(経緯)	面積(㎡)	形状	位置	開掘時期				出土品	形跡・特徴					築造	石			
					遺構	大規模(分)	中規模(分)	小規模(分)		平面形	注記(方)	注記(円)	注記(長)	注記(幅)		注記(厚)	数	主柱穴	残片
0080	12	75		E-4-6-10	7.5×7.5	900	遺構	3	中規模	伊藤上層	縄文土器	縄文土器	100°E	14.20	0.40	0.30	1	円柱穴	土器片、縄文土器の破片は残存不明。
0084	12.1.13.2	80		E-4-1-2-8	7.5×7.5	900	遺構	4	中規模	伊藤上層	縄文土器	縄文土器	100°E	4.30	4.00	0.30	6	円柱穴	遺跡・土柱穴。
0085	13.4.6.2	91		E-3-8-1-4	7.5×7.5	900	遺構	47	中規模	伊藤上層	縄文土器	縄文土器	100°E	15.00	15.00	-	不明	不明	遺跡の遺構は、埋没状態で残存している。
0089	13.4.6.2	91		E-3-8	7.5×7.5	900	遺構	37	中規模	伊藤上層	縄文土器	縄文土器	100°E	10.40	10.40	-	不明	不明	伊藤上層で遺構は残存不明。
0090	13.5.23.2	85		E-4-14	7.5×7.5	900	遺構	47	中規模	伊藤上層	縄文土器	縄文土器	100°E	15.00	14.80	0.30	12	円柱穴	縄文土器の破片は、遺跡は不明。
0091	17.1.13.2	82	0.2524	E-4-10-14-15	7.5×7.5	900	遺構	3	中規模	伊藤上層	縄文土器	縄文土器	100°E	10.10	10.10	0.30	10	円柱穴	遺跡の遺構は、埋没状態で残存している。
0092	13.4.13.2	85		E-4-15	7.5×7.5	900	遺構	3	中規模	伊藤上層	縄文土器	縄文土器	100°E	14.50	15.00	0.20	6	円柱穴	遺跡の遺構は、埋没状態で残存している。
0093	17.1.13.2	84	1.2524, 0.1	E-4-10-15	7.5×7.5	900	遺構	4	中規模	伊藤上層	縄文土器	縄文土器	100°E	0.30	4.10	0.20	11	不明	遺跡の遺構は、埋没状態で残存している。
0094	17.1.13.2	85		E-4-10-15-16	7.5×7.5	900	遺構	4	中規模	伊藤上層	縄文土器	縄文土器	100°E	4.30	4.30	0.10	6	円柱穴	遺跡の遺構は、埋没状態で残存している。
0095	17.1.13.2	85		E-4-10-15-16	7.5×7.5	900	遺構	5	中規模	伊藤上層	縄文土器	縄文土器	100°E	14.40	14.30	0.30	6	不明	遺跡の遺構は、埋没状態で残存している。
0096	17.1.13.2	86		E-4-10-15-11	7.5×7.5	900	遺構	3	中規模	伊藤上層	縄文土器	縄文土器	100°E	14.50	13.60	0.10	11	円柱穴	伊藤上層で遺構は残存不明。
0097	13.4.13.2	87		E-4-10-14-15	7.5×7.5	900	遺構	4	中規模	伊藤上層	縄文土器	縄文土器	100°E	4.30	14.50	-	16	円柱穴	遺跡の遺構は、埋没状態で残存不明。
0099	13.4.13.2	86		E-4-10-16	7.5×7.5	900	遺構	13	中規模	伊藤上層	縄文土器	縄文土器	100°E	4.30	14.50	0.30	10	円柱穴	遺跡の遺構は、埋没状態で残存不明。
0099	13.4.13.2	86		E-4-10-16-16-1	7.5×7.5	900	遺構	4	中規模	伊藤上層	縄文土器	縄文土器	100°E	14.30	14.30	0.10	10	円柱穴	遺跡の遺構は、埋没状態で残存不明。
0097	13.4.13.2	86		E-4-17	7.5×7.5	900	遺構	4	中規模	伊藤上層	縄文土器	縄文土器	100°E	10.10	5.50	0.30	4	不明	遺跡の遺構は、埋没状態で残存不明。
0099	17.1.13.2	86		E-4-17	7.5×7.5	900	遺構	47	中規模	伊藤上層	縄文土器	縄文土器	100°E	15.00	15.20	0.30	10	円柱穴	遺跡の遺構は、埋没状態で残存不明。

遺構番号	伊			尾張			行楽施設	遺物の出土状況	埋没経緯	遺構時期	備考
	位置	形態	所見	有期・無期	埋没位	所見					
1000	中央部南寄り	平埴	四方のみ、中央に浅く掘りこめられた溝あり。	-	-	-	浅浮する土層中に埋没	この付近に浅浮する土層あり。	平埴	1000、新石器時代	
1001	中央部南寄り	方形石室跡	東部端の石室跡(竪穴式)あり。掘り方眼が、中央に浅く。	-	-	-	遺跡(西、北、東)埋没	少	水平埋没(自然埋没か?)	-	北部に深層下位層の埋没あり。
1002	東部端の南寄り	方形石室跡	東部の石室跡(竪穴式)あり。掘り方眼が、中央に浅く。	-	-	-	遺跡(西、北、東)埋没	少	水平埋没(自然埋没か?)	-	北部に深層下位層の埋没あり。
1003	平埴	掘り方眼	掘り方眼が、中央に浅く掘りこめられた溝あり。	-	-	-	-	-	-	1000年代	
1004	中央部南寄り	方形石室跡	掘り方眼、伊勢川に浅く掘りこめられた溝あり。	人口	正位	掘り方眼より浅く掘りこめられた溝あり。	遺跡(東部)	この付近に浅浮する土層あり。	水平埋没(自然埋没か?)	1000年代	浅層下位層
1005	中央部中央寄り	掘り方眼	掘り方眼が、中央に浅く掘りこめられた溝あり。	掘り方眼	正位	掘り方眼より浅く掘りこめられた溝あり。	遺跡(東部)	この付近に浅浮する土層あり。	水平埋没(自然埋没か?)	1000年代	浅層下位層
1006	中央部南寄り	石室跡	掘り方眼が、伊勢川に浅く掘りこめられた溝あり。	-	-	-	遺跡	少	水平埋没(自然埋没か?)	1000年代	浅層下位層
1007	中央部南寄り	石室跡	掘り方眼が、伊勢川に浅く掘りこめられた溝あり。	-	-	-	遺跡	伊勢川に浅く掘りこめられた溝あり。	平埴	1000年代	浅層下位層
1008	中央部南寄り	方形石室跡	掘り方眼が、伊勢川に浅く掘りこめられた溝あり。	人口	正位	掘り方眼より浅く掘りこめられた溝あり。	遺跡(東部)	この付近に浅浮する土層あり。	水平埋没(自然埋没か?)	1000年代	浅層下位層
1009	東部端南寄り	石室跡	掘り方眼が、伊勢川に浅く掘りこめられた溝あり。	-	-	-	遺跡	少	水平埋没(自然埋没か?)	1000年代	浅層下位層
1010	中央部南寄り	石室跡	掘り方眼が、伊勢川に浅く掘りこめられた溝あり。	-	-	-	遺跡	伊勢川に浅く掘りこめられた溝あり。	平埴	1000年代	浅層下位層
1011	中央部南寄り	方形石室跡	掘り方眼が、伊勢川に浅く掘りこめられた溝あり。	人口	正位	掘り方眼より浅く掘りこめられた溝あり。	遺跡(東部)	この付近に浅浮する土層あり。	水平埋没(自然埋没か?)	1000年代	浅層下位層
1012	東部端南寄り	石室跡	掘り方眼が、伊勢川に浅く掘りこめられた溝あり。	-	-	-	遺跡	少	水平埋没(自然埋没か?)	1000年代	浅層下位層
1013	中央部中央寄り	方形石室跡	掘り方眼が、伊勢川に浅く掘りこめられた溝あり。	-	-	-	遺跡(東部)	伊勢川に浅く掘りこめられた溝あり。	水平埋没(自然埋没か?)	1000年代	浅層下位層
1014	中央部南寄り	方形石室跡	掘り方眼が、伊勢川に浅く掘りこめられた溝あり。	人口	正位	掘り方眼より浅く掘りこめられた溝あり。	遺跡(東部)	この付近に浅浮する土層あり。	水平埋没(自然埋没か?)	1000年代	浅層下位層
1015	中央部中央寄り	方形石室跡	掘り方眼が、伊勢川に浅く掘りこめられた溝あり。	-	-	-	遺跡(東部)	伊勢川に浅く掘りこめられた溝あり。	水平埋没(自然埋没か?)	1000年代	浅層下位層
1016	中央部南寄り	方形石室跡	掘り方眼が、伊勢川に浅く掘りこめられた溝あり。	人口	正位	掘り方眼より浅く掘りこめられた溝あり。	遺跡(東部)	この付近に浅浮する土層あり。	水平埋没(自然埋没か?)	1000年代	浅層下位層
1017	中央部中央寄り	方形石室跡	掘り方眼が、伊勢川に浅く掘りこめられた溝あり。	-	-	-	遺跡(東部)	伊勢川に浅く掘りこめられた溝あり。	水平埋没(自然埋没か?)	1000年代	浅層下位層
1018	中央部南寄り	方形石室跡	掘り方眼が、伊勢川に浅く掘りこめられた溝あり。	人口	正位	掘り方眼より浅く掘りこめられた溝あり。	遺跡(東部)	この付近に浅浮する土層あり。	水平埋没(自然埋没か?)	1000年代	浅層下位層
1019	中央部南寄り	方形石室跡	掘り方眼が、伊勢川に浅く掘りこめられた溝あり。	-	-	-	遺跡(東部)	伊勢川に浅く掘りこめられた溝あり。	水平埋没(自然埋没か?)	1000年代	浅層下位層
1020	中央部南寄り	方形石室跡	掘り方眼が、伊勢川に浅く掘りこめられた溝あり。	人口	正位	掘り方眼より浅く掘りこめられた溝あり。	遺跡(東部)	この付近に浅浮する土層あり。	水平埋没(自然埋没か?)	1000年代	浅層下位層

表3-5

遺跡番号	経緯度 緯度	経緯度 経度	P.A.	位置	築造時期				築造層	形制・規模				築造	ピット				
					遺跡形状	大規模区 画	中規模区 画	小規模区 画		出土品・土器の 種類 (調査 土器数)	平面形	法線の 角	主軸長 (m)		副軸長 (m)	壁高 (m)	数	主軸穴	跡見
0560	17°13'32" N252°4	71°35	E-C-0-4	遺跡	中規	遺跡	37	中規模築1-5	伊藤土層	円形?	N6° E	14.30	14.30	0.30	遺跡の中心部で、一部破損。	111	円形	遺跡の中心部で、一部破損の不確か。	
0570	17°13'32" N252°4	71°35	E-C-0-4-4	遺跡	中規	遺跡	2	中規模築2	伊藤土層	円形	N4° E	14.50	14.50	0.25	遺跡の中心部で、一部破損。	110	円形	遺跡の中心部で、一部破損の不確か。	
0571	22°43'3" E	83	E-C-152-11	遺跡	中規	遺跡	4	中規模築1-4	伊藤土層	楕円方形	S4° W	15.00	15.00	0.50	遺跡。	12	円形	遺跡の中心部で、一部破損の不確か。	
0572	22°43'30"	83	E-C-152-4	遺跡	中規	遺跡	3	中規模築	伊藤土層	円形	N1° E	14.20	13.80	0.30	遺跡。	7	円形	遺跡の中心部で、一部破損の不確か。	
0573	21°32'3" N253°4	90	E-C-12-0-7	遺跡	中規	遺跡	2	中規模築1-2	伊藤土層	不規則形	N6° W	4.90	5.00	0.30	遺跡。	18	円形	遺跡の中心部で、一部破損の不確か。	
0574	21°22'33" N253°4	91	E-C-7-12	伊藤土層	中規	遺跡	3-4	中規模築1-4	伊藤土層	楕円長方形	N1° W	5.10	15.30	0.25	遺跡。	18	円形	遺跡の中心部で、一部破損の不確か。	
0575	21°22'23" N253°4	90	E-C-12-4	伊藤土層	中規	遺跡	3	中規模築3	伊藤土層	方形?	N2° W	13.50	13.60	0.15	遺跡。	7	円形	遺跡の中心部で、一部破損の不確か。	
0577	12	79	E-C-4-0	伊藤土層	中規	遺跡	4	中規模築1	伊藤土層	円形?	N2° E	13.50	13.60	0.25	遺跡。	4	円形	遺跡の中心部で、一部破損の不確か。	
0579	19°30	75	E-C-12-13	遺跡	中規	遺跡	37	中規模築	伊藤土層	楕円長方形	N1° W	14.00	14.30	0.30	遺跡の中心部で、一部破損の不確か。	15	円形	遺跡の中心部で、一部破損の不確か。	
0579	14°46'48"	91	1-1-2-7	遺跡	中規	遺跡	5	中規模築5	伊藤土層	楕円方形?	N1° E	15.00	15.00	0.30	遺跡の中心部で、一部破損の不確か。	18	円形	遺跡の中心部で、一部破損の不確か。	
0580	22°34'40" N243°3	82	E-C-0-0	遺跡	中規	遺跡	5	中規模築1-5	伊藤土層	楕円方形	N1° W	4.20	4.30	0.15	遺跡。	18	円形	遺跡の中心部で、一部破損の不確か。	
0581	16°46'47" N243°3	82	1-1-0-3	伊藤土層	中規	遺跡	3-4	中規模築1-5	伊藤土層	方形?	N1° E	14.00	14.00	0.25	遺跡。	19	円形	遺跡の中心部で、一部破損の不確か。	
0582	14°46'48"	91	1-1-2-7-4	遺跡	中規	遺跡	3A	中規模築1-4	伊藤土層	円形	N1° W	5.00	15.00	0.30	遺跡。	18	円形	遺跡の中心部で、一部破損の不確か。	
0583	16°47'42" N243°3	87	E-C-0-1-5	伊藤土層	中規	遺跡	7	中規模築	伊藤土層	不規則	N4° W	14.20	14.20	0.40	遺跡。	4	円形	遺跡の中心部で、一部破損の不確か。	
0585	17°48	94	E-C-1-2	中規	遺跡	41	中規模築1-5	伊藤土層	楕円形	N4° E	15.00	15.00	0.40	遺跡。	4	円形	遺跡の中心部で、一部破損の不確か。		
0586	大妻	-	-	-	-	-	-	-	伊藤土層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
0587	16°48	94	1-1-4-3	遺跡	中規	遺跡	7	中規模築1	伊藤土層	正六角形?	N2° E	14.50	14.50	0.40	遺跡の中心部で、一部破損の不確か。	4	円形	遺跡の中心部で、一部破損の不確か。	
0588	14°46'48"	94	1-1-2-7-2	遺跡	中規	遺跡	4	中規模築1	伊藤土層	方形?	N4° E	15.00	14.80	0.40	遺跡の中心部で、一部破損の不確か。	10	円形	遺跡の中心部で、一部破損の不確か。	

表3-6

遺跡番号	方位(経緯) No.	面積(㎡) No.	P/A	位置	調査時期				検出品	部位・構成				扉扉	ピット				
					調査時期	大時(時間) 分	中時(時間) 分	小時(時間) 分		出土品(土器類) の数量(土器類 入数)	中層形	主軸方向	主軸長 m		副軸長 m	壁高 m	数	主軸穴	残存
5550	825	76		1-C-12	調査時期	不明	不明	不明	不明	耳環土器	楕円形(長)	45° E	13.00	13.20	0.10	不明	-	-	-
5600	424,423 3	144.07		1-C-9(1)14- 15	不明	-	-	-	-	耳環土器	不明	-	0.50	12.10	不明	不明	不明	不明	不明
5590	171&272 3,33,34	34			調査時期	不明	不明	不明	不明	耳環土器	楕円形	44° E	0.50	14.10	不明	不明	不明	不明	不明
5560	35	34		1-C-24,1-1	調査時期	不明	不明	不明	不明	耳環土器	楕円形(長 50°)	103° E	14.30	14.4	-	不明	不明	不明	不明

下部は土器で
ピットが検出され
たため、調査に
際してピットを掘削
して確認した。

3 縄文時代後期の住居跡 個別の事実記載は縄文時代中期の住居跡と同一である。

表4 聖石遺跡縄文後期住居跡(1)

遺構番号	割付図係数	掘削面積%	位置	所属時期				出土出土土器の種類等 (代表品を主とし)	地層	構造・規模				
				探査資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分			平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m
SB1	28	95	1-5-22, X-7	埴土	後期	前期		中期後葉4~後期前期	IV層上層	跡石住居跡、隅積切土構造。(後述の遺構で、右側壁と階段の存在。扉一箇で構成された壁と土間に構築した。)	N28° E	(8.48)	(5.18)	0
SB3	25.27	96	1-X-4	埴土	後期	前期		後期前期	IV層上層	隅積切か。(構造)	N27° E	(7.56)	(5.90)	不明
SB42	13.17.18	97	1-W-22, 25, X-O-3	埴土	後期	前期	1	中期後葉~後期前期	IV層上層	隅積切か。(構造)	N27° E	(8.30)	(6.10)	不明
SB75	34.39, 47.48	98, 99, 100, 101	II-E-1, 2, Y-21-22	埴土	後期	前期	1	中期後葉~後期前期	IV層上層	隅積切。入口部斜壁で閉ず。	N25° W	(8.50)	9.20	不明
SB83	42.43	97	II-O-24	埴土	後期	前期?		後期	IV層上層	内?	-	(3.30)	4.30	0.1
SB88		102	1-Y-11-18	埴土	後期	前期	?	中期後葉~後期前期	IV層中	不明	-	(5.70)	(3.28)	不明
SB81	17, 19, 21, 22	102	II-O-10, 14-15	埴土	後期	前期	?	中期後葉~後期前期	IV層上層	隅積切か。	N40° E	(9.40)	(5.40)	不明
SB92	21, 21, 22, 23	103	II-O-7A, 12, 13	埴土	後期	?	?	中期後葉~?	IV層中	隅積切か。	N25° W	(7.50)	(7.00)	不明
SB94	34.39, 47.48	98, 99, 100, 101	1-Y-22, II-E-01-02	埴土	後期	?	?	中期後葉~後期前期	IV層上層 (507500下から確認。)	隅積切か。	N11° W	(7.20)	(6.80)	
SB96	17, 19, 23	104	II-O-9-9	埴土	後期	前期		中期後葉~後期前期	IV層上層	隅積切。入口部斜壁で閉ず。	N44° E	(5.00)	(4.10)	不明
SB97	15, 25, 27	104	1-X-6	埴土(田S10)	後期	前期		無し。	IV層上層	隅積切か。	N17° E	(6.80)	(5.80)	不明
SB98	25.28	105	1-S-22, 23, X-23	埴土	後期	前期?		後期	IV層中	内形? 隅積切か?	N47° E	(4.10)	(4.10)	不明
SB100	25, 27, 29	106, 107	1-X-7, 13	埴土	後期	前期?		後期	IV層中	隅積切か。	N53° W	(3.00)	(5.40)	不明

第3章 聖石遺跡

表4-2

遺跡番号	出土図説巻	埋没面積㎡	位置	瓦葺時期					出土土器の時期 (弥生・古墳)	出土瓦	構造・規模			
				築造資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分	1			2	3	4	5
SB101	28,27,28,26	106,107	I-X-8,12	礎土	後期	前期	1	後期	瓦葺上面	瓦葺跡か。	N01° W	(5.75)	(6.00)	不明
SB102	27,29	106,108	I-X-7A,12,13	礎土跡	後期	前期	2	後期	瓦葺中に埋分り。瓦葺上面でピット埋まり。	瓦葺跡か。	N09° W	(6.85)	(7.50)	不明
SB103	27,29	106,109	I-X-12,13	礎土	後期	前期?	1?	中期後葉～後期	瓦葺中。	瓦葺跡か。	N07° W	(4.50)	(5.20)	不明
SB104	15,27	106,109	I-X-11,12,17	礎土	後期	前期	2?	中期後葉～後期	瓦葺中。	瓦葺?	N07° W	(6.30)	(6.20)	不明
SB105	27	105,106	I-X-12,17	礎土	中期	後期	5	中期後葉～後期	瓦葺中。	瓦葺跡か。	N10° E	(5.40)	(5.20)	不明
SB106	15,27	110	I-X-11,14	礎土跡	後期?	?	?	?	瓦葺中。	瓦葺跡か。	N02° W	(5.30)	(6.00)	不明
SB107	17,19,23	110	II-Q-4B	礎土跡	後期	前期	2?	中期後葉～後期	瓦葺上面	瓦葺跡か。	N37° E	(5.80)	(6.80)	不明
SB108	31,32	111	II-Q-2,3	礎土跡	後期	前期	1	中期後葉～後期	瓦葺中。	瓦葺跡か。	N05° W	(6.80)	(7.10)	不明
SB109	38,39,40,47	112	I-X-20, I-Y-18	礎土跡	後期	前期	1	中期後葉～後期	瓦葺上面	瓦葺跡か。	N07° W	(7.00)	(7.20)	不明
SB110	45,47	113	I-Y-17,18	礎土	後期	前期		中期後葉～後期	瓦葺上面	瓦葺跡か。	N15° W	(6.40)	(7.30)	不明
SB111	38,44,45,44	114	I-Y-12	礎土	後期	前期	2	中期後葉～後期	瓦葺上面	瓦葺跡か。	N17° W	(7.00)	(7.40)	不明
SB112	27,28,29,30	115	I-X-17,18,22,23	礎土跡	後期	前期	2	中期後葉～後期	瓦葺中。	瓦葺跡か。	N09° W	(6.40)	(7.40)	不明

所在地	ビット			貯			埋蔵			付属施設	遺物の出土状況	出土状況	調査機関	備考
	層	発掘年度	位置	材質	形状	断面	形状・位置	埋蔵状況	断面					
新石の遺構が伊中地区上層に分布。	9	P2.3.4.5A.7	入口P1.9	土器群中央。	方形の石製伊。	円錐形。内側に溝が入る。穴開き。	なし。	埋蔵	なし。	なし。	なし。	不明。	58192.100と整理。また下位に中層の遺構がある。	581444号伊として、南東方向に入口部をもつ散石柱遺構と判別した。
新石の遺構なのか。不明。	9	P2.3.4.5A.7.8	入口P1.9	土器群中央。	埋蔵伊	やや深い楕円形に縁の厚縁を付けた状態でいる。	なし。	なし。	なし。	伊体土層など。	不明。	58190.101と整理。また下位に中層の遺構がある。	581445号伊として、南東方向に入口部をもつ散石柱遺構と判別した。	
不明。	埋蔵不明。			土器群中央。	土器群伊	土器片を数枚並べている。中層もあり。	5819が位置では食うが、埋蔵層と考える。	なし。	なし。	少。伊のみ。	不明。	58192.104と整理。中層の土器群の上層。		
土層に平石などが分布。	埋蔵不明。			中央。	埋蔵伊	土器の断面を繋ぐ。下位に穴あり。	なし。	なし。	なし。	伊内のみ。	不明。	58193.100と整理。中層の土器群の上層。		
一部に層が分布。散石の遺構。	埋蔵不明。			土器群中央。	穴のみ。		入口部中央	正位	遺構の残存。埋蔵。土層穴。	なし。	埋蔵とその内層から土層の穴。	不明。	58194.2と整理。中層の土器群の上層。	
不明。	11			内層にビットがある。	土器群中央。やや入口寄り。	穴のみ。	入口部1	正位。	縁石土層の口縁部のみ。	なし。	なし。	不明。	中層の土器群の上位。	
層が分布する。散石の遺構。	3			埋蔵で少ない。	土器群中央。やや入口寄り。	穴のみ。	なし。	なし。	なし。	伊内のみ。	不明。	5869.70を併。		
不明。	7	P2-4	入口P17	土器群中央。	埋蔵伊	縁部を伊体に使用。	なし。	なし。	なし。	なし。	不明。	中層の土器群の上位。		
不明。	7			埋蔵で少ない。	土器群中央。	穴のみ。	土器群の入口寄り。	正位。	縁部を孔した伊体。上部穴。	なし。	なし。	不明。	中層の土器群の上位。	
一部に層が分布。散石の遺構。散石遺構の残存。	18	P2.3.4.6.11.13.17	大層のビット	不明。	不明。		なし。	不明。	不明。	なし。	不明。	下位に中層の土層あり。	伊などは判別できていない。	
一部に層が分布。散石遺構の残存。	28	P6.7.10.14.1.21.26.28	大層のビット	不明。	不明。		不明。	不明。	不明。	不明。	不明。	不明。	不明。	伊などは判別できていないと考えられる。
不明が分布。散石の遺構が。	8	P9.4.10.8	入口P18	不明。			入口1	正位	底の穴と遺構。上部穴。	不明。	埋蔵のみ。	不明。	中層の土器群の上位。	

4 掘立柱建物跡 掘立柱建物跡の記載事項は「1 概要」に記した通りである。

表5 聖石遺跡掘立柱建物跡(1)

遺構番号	別付図面No.	掘立柱間隔	P.N.	位置	遺構名称	所属時期	主要資料	検出層	構造・規模				備考欄
									柱位置	柱軸方向	柱軸長(m)	副軸長(m)	
ST01	4.5	116	18-5	I・U-05.10.V-01.06		中期?		IV層上面	1間×2間	N27° E	5.45	2.6	
P1					SK10			西	方脚	0.6×0.6	0.35	0.4	
P2					SK11			西	方脚	0.47×0.49	0.2	0.2	
P3					SK12			西	方脚	0.55×0.6	0.27	0.2	
P4					SK13			西	方脚	0.8×0.65	0.47	0.2	
P5					SK14			西	半円脚	0.45×0.45	0.25	0.2	
P6					SK18			南	方脚	0.65×0.65	0.35	0.2	
ST02	18.22	117		I・W-14.15.19		中期?		IV層上面	1間×2間	N8° E	5.5	3.5	
P1					SK122			西	方脚	0.8×0.68	0.37	0.3	
P2					SK123			西	方脚	0.58×0.5	0.28	0.3	
P3					SK143			不詳	方脚	0.62×0.6	0.33	0.2	
P4					SK69			西	方脚	0.7×0.68	0.35	0.2	9段礎石遺存。
P5					SK128			西	方脚	0.78×0.72	0.43	0.2	
P6					SK148			西	方脚	0.7×0.66	0.39	0.3	
P7					SB28_P2			西	長方脚	0.35×0.35	0.35	0.2	
P8								西	方脚	0.47×0.32	0.15	0.2	
ST03	12	116		U・V-05.10		中期?		IV層上面	1間×2間	N40° W	4.18	2.93	
P1								西	方脚	0.6×0.62	0.35	0.2	
P2					SB31_P7			南	方脚	0.6×0.42	0.4	0.2	
P3					SB31_P1			西	長方脚	0.6×0.3	0.47	0.2	
P4					SB33_P3			西	方脚	0.6×0.47	0.47	0.2	
P5								西	方脚	0.5×0.45	0.45	0.2	
ST04	22.32.34	118		U・V-12.6.7		中期?		IV層上面	1間×2間	N11° W	5.88	3.75	
P1					SB78_P1			南	方脚	0.68×0.78	0.57	0.2	SB78P7と重複
P2					SB78_P7			西	半円脚	0.74×0.72	0.66	0.2	SB78P5と重複
P3					SK1524			南	方脚	0.7×0.66	0.48	0.2	
P4					SK1525			長方脚	0.88×0.66	0.47	0.2	SB73と重複	
P5					SK1526			南	方脚	0.84×0.74	0.68	0.2	SB73と重複
P6					SK711			南	方脚	1.1×0.84	0.54	0.2	SB72P15と重複
ST05	47.48	118		II・E-1.2		中期?		IV層上面	1間×1間	N67° E	6.13	5.8	
P1					SK1530			南	方脚	1.8×1.24	1.22	0.2	LM(SK1530)と重複。
P2								不詳	2段	1.42×1.18	0.81	0.3	SB84P7, SB84P9と重複
P3					SK1814			南	方脚	0.88×0.62	0.64	0.2	
P4					SK1818			不詳	方脚	0.78×0.7	0.68	0.3	
P5								西	長方脚	0.88×0.66	0.66	0.2	
P6								南	方脚	1.18×1.15	0.87	0.2	
ST06	39.47.48	118		I・Y-22, II・E-1.2		中期?		IV層上面	1間×2間	N82° W	8.4	4.75	
P1					SK1928			西	方脚	1.38×1.2	0.85	0.2	SB75に似ている。
P2					SK1931			西	方脚	1.48×1.28	0.82	0.2	
P3					SK1816			西	方脚	0.88×0.64	0.51	0.2	
P4					SK1932			不詳	2段	1.34×1.14	0.78	0.2	0段礎石に似ている。
P5								不詳	長方脚	0.82×0.68	0.64	0.2	SB78P11に似ている。
P6								南	半円脚	1.44×1.08	0.58	0.2	SB78P11に似ている。
ST07	39.47.48	120		I・Y-22		中期?		IV層上面	1間×2間	N14° E	5.53	3.67	
P1					SK385			西	方脚	0.82×0.8	0.64	0.3	
P2					SK387			南	長方脚	0.74×0.7	0.63	0.3	
P3					SK388			西	方脚	0.72×0.7	0.6	0.2	
P4					SK1907			南	方脚	1.18×0.7	0.7	0.2	
P5					SK944			西	方脚	0.7×0.65	0.65	0.3	不明
P6					SK941			南	方脚	0.68×0.7	0.68	0.3	STOP24に似ている。
ST08	39.45.46.47	121		I・Y-11.16.17.21.22		中期?		IV層上面	1間×2間	N8° E	10	4.7	
P1					SK367			南	方脚	1.22×1.18	0.68	0.2	SK388と重複
P2					SK368			南	2段	1.22×1	0.47	0.2	SK1838と重複。
P3					SK369			西	方脚	1.08×1.08	0.68	0.2	
P4					SK640			西	方脚	1.08×0.9	0.65	0.2	SK628に似ている。STOP26と重複。
P5					SK682			不詳	方脚	1.12×1.1	0.68	0.2	SK650, SK651に似ている。SK69と重複
P6					SK678			南	2段	1.38×1.22	0.51	0.2	
ST09	36.37.44	120		I・X・S・Y-1		中期?		IV層上面	1間×2間	N70° W	5.12	2.92	
P1					SK698			西	半円脚	0.8×0.58	0.51	0.2	
P2					SK904			南	半円脚	0.62×0.68	0.25	0.2	
P3					SK798			南	半円脚	0.72×0.68	0.34	0.2	
P4					SK794			南	方脚	0.88×0.78	0.62	0.2	
P5					SK791			南	半円脚	0.78×0.68	0.3	0.2	
P6					SK792			南	半円脚	0.72×0.58	0.37	0.2	
ST10	26.28	122		I・X-3.7		中期?		IV層上面	1間×2間	N13° E	5.28	2.12	
P1								西	方脚	0.2×0.2	0.24	0.2	
P2								南	方脚	0.98×0.64	0.44	0.2	
P3					SB30_P2			南	長方脚	0.78×0.68	0.53	0.2	SB30と重複
P4					SB30_P11			西	方脚	0.35×0.38	0.32	0.2	
P5					SK1438			西	長方脚	0.68×0.68	0.68	0.3	
P6								西	方脚	0.68×0.64	0.41	0.2	
ST11	18.26.28	123		I・X-6,7.11		中期?		IV層上面	1間×2間	N49° W	8.84	3.72	
P1					SK187			不詳	方脚	0.62×0.76	0.78	0.2	SB28と重複
P2					SK144			西	長方脚	0.78×0.68	0.62	0.2	SK93と重複
P3								南	方脚	0.68×0.58	0.51	0.2	SK1714と重複
P4					SK21			西	長方脚	0.8×0.7	1.08	0.2	
P5								南	方脚	0.8×0.8	0.25	0.2	
P6								南	2段	0.7×0.62	0.64	0.2	SK1718と重複

表5-2

遺構番号	測計図面No.	測計図面No.	P.N.	位置	遺構名	所収時期	認定資料	検出面	構造・規模				遺構箇所
									柱位置	主軸方向	主軸長(m)	副軸長(m)	
									ピット掘削箇所				
	平面前	裏面前	平面後部	高さ	位置								
ST12	18.20	124		I・X-5.11		中期?		IV層上面	1層×2層	N13° E	7.21	2.53	
P1					SK147				溝口	溝形	0.78×0.54	0.39	G/L
P2					SK151				溝口	溝形	0.72×0.45	0.37	G/L
P3					SK154				溝口	溝形	0.88×0.55	0.31	G/L
P4					SK201				溝口	溝形	0.54×0.54	0.53	G/L
P5					SK158				溝口	溝形	0.58×0.51	0.51	G/L
P6					SK178				溝口	溝形	0.48×0.45	0.51	G/L
ST13	18.28	122		I・X-6		中期?		IV層上面	1層×1層	N13° E	3.84	2.74	
P1					SK146				溝口	溝形	0.78×0.64	0.63	G/L
P2									溝口	溝形	0.54×0.44	0.45	G/L
P3					SK152				溝口	溝形	0.58×0.53	0.53	G/L
P4					SK149				溝口	溝形	0.62×0.58	0.53	G/L
ST14	16.22.28	125		I・X-11.16.21		中期?		IV層上面	1層×2層	N11° E	10.58	3.88	
P1					SK1303				溝口	溝形	0.82×0.82	0.84	G/L
P2					SK282				溝口	溝形	0.78×0.74	1.13	あり
P3					SK101 P4→ST14P2				溝口	溝形	0.82×0.68	1.01	あり
P4					SK101 P1→ST14P3				溝口	溝形	0.84×0.81	1.06	あり
P5					SK1280→ST14P4				溝口	溝形	1.08×0.83	0.83	G/L
P6					SK1270→ST14P5				溝口	溝形	0.72×0.7	0.84	G/L
P7					SK101 P2→ST14P6				溝口	溝形	0.78×0.68	0.82	G/L
P8					SK101 P3→ST14P7				溝口	溝形	0.72×0.68	0.81	あり
ST15	18.22.28	126		I・X-16.21		中期?		IV層上面	1層×1層	N11° E	4.92	2.82	
P1					SK1207				溝口	溝形	1.2×0.88	0.84	G/L
P2					SK1386				溝口	溝形	0.71×0.68	0.61	G/L
P3					SK1273				溝口	溝形	0.81×0.64	0.58	G/L
P4					SK1485				溝口	溝形	0.84×0.74	0.73	あり
ST16	18.28	128		I・X-7		中期?		IV層上面	1層×2層	N50° E	3.85	3.28	
P1									溝口	溝形	0.58×0.3	0.38	
P2									溝口	溝形	0.51×0.3	0.28	
P3					SK601				溝口	溝形	0.42×0.45	0.38	G/L
P4					SK230 P19				溝口	溝形	0.41×0.4	0.32	
P5					SK248 P2				溝口	溝形	0.47×0.45	0.31	
P6									溝口	溝形	0.48×0.4	0.31	
ST17	20	127		I・X-17.18		中期?		IV層上面	1層×2層	N1° W	5.84	4.75	
P1					SK1434				溝口	溝形	0.82×0.88	0.81	あり
P2					SK1456				溝口	溝形	0.82×0.8	0.81	あり
P3					SK1487				溝口	溝形	0.74×0.7	0.84	あり
P4					SK1458				溝口	溝形	0.71×0.67	0.72	あり
P5					SK1478				溝口	溝形	0.88×0.88	0.81	G/L
P6					SK1488				溝口	溝形	0.82×0.78	0.71	あり

5 屋外埋設土器

表6 聖石遺跡屋外埋設土器

遺構番号	製付図版No.	検出図版No.	PLNo.	位置	遺構名	出土内容	検出面	所見		平面図(第1層面)	数量	備考	番号
								遺物の種類	内容				
S01	25	126-22	1-X-11	中期後葉土器	Ⅲ層上部	褐色埋設土器		大形平縁の埋設土器。底辺で傾斜、縁部は直線的で平縁。土器片2	0.92×0.54	なし	なし		
S04	27	126-24	1-X-11	中期後葉土器	Ⅲ層上部	褐色埋設土器		縁部の埋設土器。底辺でやや傾斜、縁部は直線的。	2.02×0.92	なし	なし		
S08	27	126-28	1-X-11	中期後葉土器	Ⅲ層上部	褐色埋設土器		縁部の埋設土器。底辺でやや傾斜、縁部は直線的。	2.02×0.92	なし	なし		
S07	27	126-29	1-X-12-13	前期土器	Ⅲ層上部	赤褐色埋設土器		土器片が小断片に割れ出し、縁部も片断のみ。底縁部の形状不明。	0.72×0.39	なし	なし		土器片は127番遺構と共通
S011	27-28	126-30	1-X-22	3200年代末葉	Ⅲ層上部	褐色埋設土器		縁部の埋設土器。底辺でやや傾斜、縁部は直線的。	1.80×0.92	なし	なし		土器片は127番遺構と共通
S033	27	126-32	1-X-22	中期後葉土器	Ⅲ層上部	褐色埋設土器		厚縁の埋設土器。底辺、外縁の縁部は直線的に平縁。内縁は直線的。底縁部は直線的に平縁。土器片は小断片に割れ出し、縁部も片断のみ。底縁部の形状不明。	0.84×0.61	なし	なし		27番埋設土器の片断と一致
S018	27	126-37	1-X-7	5000年代末葉	Ⅲ層上部	赤褐色埋設土器		厚縁の埋設土器。底辺、外縁の縁部は直線的に平縁。内縁は直線的。底縁部は直線的に平縁。土器片は小断片に割れ出し、縁部も片断のみ。底縁部の形状不明。	0.4×0.4	なし	なし		
S017	27	126-38	1-X-23	中期後葉土器	Ⅲ層上部	褐色埋設土器		厚縁の埋設土器。底辺、外縁の縁部は直線的に平縁。内縁は直線的。底縁部は直線的に平縁。土器片は小断片に割れ出し、縁部も片断のみ。底縁部の形状不明。	0.84×0.61	なし	なし		
S008		1-X-25		中期後葉土器	Ⅲ層上部	赤褐色埋設土器		厚縁の埋設土器。底辺、外縁の縁部は直線的に平縁。内縁は直線的。底縁部は直線的に平縁。土器片は小断片に割れ出し、縁部も片断のみ。底縁部の形状不明。	0.84×0.61	なし	なし		27番埋設土器の片断と一致
S019	27	126-39-4	1-X-12	中期後葉土器	Ⅲ層上部	褐色埋設土器		厚縁の埋設土器。底辺、外縁の縁部は直線的に平縁。内縁は直線的。底縁部は直線的に平縁。土器片は小断片に割れ出し、縁部も片断のみ。底縁部の形状不明。	0.84×0.61	なし	なし		27番埋設土器の片断と一致
S020	27	127	1-X-17	中期後葉土器	Ⅲ層上部	褐色埋設土器		厚縁の埋設土器。底辺、外縁の縁部は直線的に平縁。内縁は直線的。底縁部は直線的に平縁。土器片は小断片に割れ出し、縁部も片断のみ。底縁部の形状不明。	0.84×0.61	なし	なし		
S027	28		1-X-5		Ⅲ層上部			小断片の形状のため、1点で取り上げられ、詳細不明。					
S028	28	126-38	1-X-1	中期後葉土器	Ⅲ層中	褐色埋設土器		厚縁の埋設土器。底辺、外縁の縁部は直線的に平縁。内縁は直線的。底縁部は直線的に平縁。土器片は小断片に割れ出し、縁部も片断のみ。底縁部の形状不明。	1.20×1.20	なし	なし		27番埋設土器の片断と一致
S029	28		E-C-4	5000年代末葉	Ⅲ層埋設土器	褐色埋設土器		厚縁の埋設土器。底辺、外縁の縁部は直線的に平縁。内縁は直線的。底縁部は直線的に平縁。土器片は小断片に割れ出し、縁部も片断のみ。底縁部の形状不明。					調査で127番埋設土器の片断と一致。27番埋設土器の縁部と一致。底縁部は直線的に平縁。内縁は直線的。底縁部は直線的に平縁。土器片は小断片に割れ出し、縁部も片断のみ。底縁部の形状不明。
S038	28	126-37	1-X-3-4	5000年代末葉	Ⅲ層中	褐色埋設土器		厚縁の埋設土器。底辺、外縁の縁部は直線的に平縁。内縁は直線的。底縁部は直線的に平縁。土器片は小断片に割れ出し、縁部も片断のみ。底縁部の形状不明。					調査で127番埋設土器の片断と一致。27番埋設土器の縁部と一致。底縁部は直線的に平縁。内縁は直線的。底縁部は直線的に平縁。土器片は小断片に割れ出し、縁部も片断のみ。底縁部の形状不明。
S031	28	126-38	1-X-9-8	5000年代末葉	Ⅲ層埋設土器	褐色埋設土器		厚縁の埋設土器。底辺、外縁の縁部は直線的に平縁。内縁は直線的。底縁部は直線的に平縁。土器片は小断片に割れ出し、縁部も片断のみ。底縁部の形状不明。					調査で127番埋設土器の片断と一致。27番埋設土器の縁部と一致。底縁部は直線的に平縁。内縁は直線的。底縁部は直線的に平縁。土器片は小断片に割れ出し、縁部も片断のみ。底縁部の形状不明。
S032	28		1-X-12-13	5000年代末葉	Ⅲ層埋設土器	褐色埋設土器		厚縁の埋設土器。底辺、外縁の縁部は直線的に平縁。内縁は直線的。底縁部は直線的に平縁。土器片は小断片に割れ出し、縁部も片断のみ。底縁部の形状不明。					調査で127番埋設土器の片断と一致。27番埋設土器の縁部と一致。底縁部は直線的に平縁。内縁は直線的。底縁部は直線的に平縁。土器片は小断片に割れ出し、縁部も片断のみ。底縁部の形状不明。

6 遺物集中

表7 聖石遺跡遺物集中

遺構番号	製付図版No.	検出図版No.	PLNo.	位置	所属時期	検出面	規模			
							所見	平面規格	張り方	重複関係
SQ1	4	130		I・P-25	中期後葉	Ⅲ層中	一括性はあるが、完形にはならない土器の出土状況	0.2×0.12	なし	なし
SQ2	4	130		I・P-25	中期後葉	Ⅲ層中	一括性の強い土器片の出土状況	0.2×0.15	なし	なし
SQ3	4	130		I・U-4	中期後葉	Ⅲ層中	一括性のある土器片の出土状況	0.5×0.3	なし	なし
SQ4	16	130		I・W-10	中期後葉	Ⅲ層中	一括性のある土器片の出土状況	0.4×0.3	なし	なし
SQ5					中期後葉	Ⅲ層中	一括性のある埋設土器			
SQ6		130-20-1		I・S-25	中期後葉	Ⅲ層中	水半分分布域が約5mにおよび、遺物分布範囲は狭い。一括性の非常に高い。土器群、粘土もみられ、住居的な埋物も示す。5層位以上の土器あり。	0.8×3.4	なし	SK121～126の上層
SQ9										
SQ10										
SQ13	29	130		I・X-13			土			
SQ14										
SQ15	44			I・T-21,22		Ⅲ層中	張り込みはなく、平面的に多量の土器が集中出土。			
SQ16	44			I・T-21,22		Ⅳ層上面	張り込みはなく、平面的に多量の土器が集中出土。			
SQ17	14			I・R-10,15		Ⅲ層中	張り込みはなく、平面的に多量の土器が集中出土。			
SQ18	14			I・R-9,10		Ⅲ層中	張り込みはなく、平面的に多量の土器が集中出土。			

7 炉跡、焼土跡

表8 聖石遺跡炉跡・焼土跡

遺構番号	所在図版No.	掘削図版No.	PLNo.	遺構	位置関係	所属時期	検出時期	用途	面積		備考
									平面	断面	
1	25	131	J-X-2	遺構	掘削中	縄文		0.54×0.37	0.04		
2	25	131	20-2	J-X-3	掘削中	縄文		0.44×0.42	0.04		
3	25	131	J-X-6	掘削中	縄土分層			0.32×0.26	0.04		
4	25	131	J-X-3	掘削中	縄文			0.32×0.48	0.05		
5	27	131	J-X-12	後期?	掘削中	縄文					
6	27	131	J-X-8	後期?	掘削中	縄文		0.46×0.24	0.02		S05,S06,009範囲内だが詳細調査は不明である。
7	27	131	J-X-8	後期?	掘削中	縄文		0.24×0.84	0.04		S0438,1-S0100,109範囲内だが詳細調査は不明である。
8	31	131	H-X-2	後期?	掘削中	焼土		0.32×0.29	0.04		
9	27	131	J-X-17	後期	掘削中	焼土		0.38×0.38	0.04		SK1454上
10	29	131	J-X-18	掘削中	掘削中	焼土		0.64×0.54	0.04		SK1471,1
11	27	131	J-X-11	掘削中	掘削中	焼土		0.32×0.18	0.03		463上
12	26		J-X-2	掘削中	掘削中						
13	27		J-X-6	掘削中	掘削中						
14	26		J-X-2	掘削中	掘削中						
15	18	131	I-W-10	掘削中	掘削中	焼土					
16				掘削中	掘削中						
17	27	131	J-X-13	後期?	掘削中	焼土		0.38×0.30	0.06		SK1727上
18	27	131	J-X-12	後期?	掘削中	焼土		1.18×0.44	0.06		SK1730上
19	26		I-S-24,25	後期?	掘削中						
20	14	131	I-W-20		掘削中	焼土		1.03×0.3	0.08		
21	9	131	J-X-13	掘削中	掘削中	焼土		0.12×0.06	0.04		
22			J-X-2	掘削中	掘削中	焼土					
23	26		S055南へ	掘削中	掘削中						SK25を併
24	42	131	H-D-9	後期	掘削中	焼土		0.42×0.44	0.12		5。
25	31	131	H-D-14	掘削中	掘削中	焼土					
26				掘削中	掘削中						
27	49	131	J-Y-23	掘削中	掘削中	木炭		0.34×0.33	0.04		
28	27	131	J-X-17,18	後期	掘削中	住居跡の跡か					土層外上層に一部埋まり、層上1部、住居跡の跡かのみ、住居跡の跡かのみ、土層外上層に一部埋まっている様子、調査
29	27		J-X-17,18	中層後部	掘削中						
I-W11 P1	13		I-W-21	掘削中	掘削中						
I-X11 SP1	27	131	J-X-11	掘削中	掘削中			0.28×0.14	0.03		SK1280,1
I-X16 SP1	27		J-X-16	掘削中	掘削中						202上

8 土坑

聖石遺跡でも最も多い遺構が土坑であり、その数は1,618基を数えた。その分布は台地の幅が最も広がり住居跡や建物跡が集中する範囲の内側で濃密であり、重複も著しい。この土坑の分布状況が「環状集落」と呼ぶに最も相応しい形状を見せている。この範囲外の分布は非常に散漫であり、特に台地北側では時期不明の落とし穴が分布する程度である。

土坑の調査は、検出状況で土坑と認定した時点で、連番の遺構記号・番号を登録し、図面・写真・遺物の取り上げといった、あらゆる記録類について、この登録番号を付した。整理業務では、その基本台帳を作成すると同時に、調査所見を点検した。その結果、住居跡や掘立柱建物跡のビット、柱穴に再認定された例も少なくない。その場合、変更後の遺構記号や番号を付して、土坑登録から記録を抹消している。このため土坑番号に欠番が生じている。膨大な数量であることから、混乱を避けるため番号を連番に揃えるような再整理作業は実施していない。

土坑の個別観察と記載事項は、次の順序である。遺構番号、掲載図版番号（割付図版・個別図版・PL）位置（地区・グリッド）、所属時期、形態・規模（平面形・断面形・底面形状・主軸方向・縦軸長・横軸長・深さ）、重複関係、土層堆積、遺物出土状況、備考。主な記述基準、計測基準は以下のとおり。

位置 遺構単位で設定したグリッド名を記入している。

所属時期 区分基準：土器の時期設定による。

認定資料：当該土坑の時期を決定した根拠を示す。（例）出土土器など

形態・規模 平面形：平面図から、円形、楕円形、長楕円形、方形、長方形、隅丸方形、不整形をあてはめている。即断できない形状の場合、略円形などと表現している。

断面形：長軸線上の断面形で判断した。大形土坑の場合、短軸線もみる場合がある。記述した記号の意味は次のとおり。

(全体形)

- A 平面の径長と深さがおおむね1：1のタイプ。
- B 平面の径長が深さより長いタイプ。
- C 平面の径長が深さより短いタイプ。
- D 平面の径長より、底面の径長が長いタイプ。
- E 土坑の壁面が2段になるタイプ。
- F 底面に小ピットを伴うタイプ。

(底面形)

- | | | | | | |
|---|----|---|----|---|-----|
| 1 | 丸底 | 2 | 平底 | 3 | 不整形 |
|---|----|---|----|---|-----|

(記述の方法)

全体形の次に底面形を合わせて記述する。

記述例…A1（平面の径長と深さがおおむね1：1で、丸底のタイプ）

E2（土坑の壁面が2段になり、平底のタイプ）

(記述と土坑の性格)

記述される断面形と、予想される土坑の性格は次の通りである。

- | | | | |
|------|-------------|--------|-------|
| A1 | 小ピット、柱穴など | A2 | 貯蔵穴など |
| B1・2 | 墓壇など | C1・2 | 柱穴 |
| D1・2 | 貯蔵穴（フラスコ土坑） | F1・2・3 | 落とし穴 |

主軸方向：長方形や楕円形の土坑のみ記録した。平面図上で長軸線を描き、その線の座標北から東西方法への傾斜角を示している。(例) N12° W
落とし穴や墓壇といった、軸方向に規則性や何らかの意味がある土坑について基礎資料となる。

縦軸長・横軸長：平面図上で計測した。横軸は縦軸に直交する。

深さ：最深部と調査面との差。cm以下は四捨五入した。

重複関係：「本跡より新」「本跡より旧」「新旧不明」の欄に該当する重複遺構名を記載。「根拠」欄には調査記録、土層断面、検出などの判断根拠を記載した。

土層堆積：断面図の有無、土層の分層数。堆積状況には柱痕の存在、礫・土器の出土を記載した。

遺物出土状況：ナンバーを付けた遺物などを記載した。

備考：調査所見と土坑の性格が考えられる場合などに記載した。

なお、紙幅の都合により、本書には特筆される土坑のみ選択して掲載した。遺構図版や写真図版も同じである。それ以外の土坑の記述はDISC(表9)へ記録し、土坑の位置は遺構割付図(1:120)に図化した。また写真は空中写真などの全景写真を掲載した。

表9 聖土遺跡土坑(1)

遺構番号	発見時期	凡地	名称	高麗時期		形状・位置				遺構詳細				土坑特徴		遺物出土状況	備考	
				時期	形状	平面形状	断面形状	主軸方向	長さ	幅	深さ	土層より深	土層より浅	平面形状	断面形状			土層
SK1	132	1-9-18		円	SK1	平底	円錐	北	90	82	29				SK1	SK1	SK1	土坑の中心部
SK24	132	1-9-20		楕円	SK24	平底	円錐	北	70	58	26				SK24	SK24	SK24	土坑の中心部
SK36	132	1-9-9	中層後葉	楕円土坑	SK36	平底	円錐	北	174	149	64				SK36	SK36	SK36	土坑の中心部
SK41	132	1-9-13		楕円	SK41	平底	円錐	北	139	98	32				SK41	SK41	SK41	土坑の中心部
SK47	132	29-3	中層前葉	楕円土坑	SK47	平底	円錐	北	64	58	6				SK47	SK47	SK47	土坑の中心部
SK58	132	1-9-24	中層後葉	楕円土坑	SK58	平底	円錐	北	132	132	47				SK58	SK58	SK58	土坑の中心部
SK49	132	1-9-24	中層後葉	楕円土坑	SK49	平底	円錐	北	134	132	94			SK49	SK49	SK49	土坑の中心部	
SK50	132	29-4	中層後葉	楕円土坑	SK50	平底	円錐	北	142	132	107			SK50	SK50	SK50	土坑の中心部	
SK52	132	1-9-19	中層後葉	楕円土坑	SK52	平底	円錐	北	130	122	96				SK52	SK52	SK52	土坑の中心部
SK53	132	1-9-20	中層後葉	楕円土坑	SK53	平底	円錐	北	100	94	83				SK53	SK53	SK53	土坑の中心部
SK50	132	29-5	1-9-16	楕円	SK50	平底	円錐	N27° W	60	50	14				SK50	SK50	SK50	土坑の中心部
SK69	132	1-9-18		長楕円	SK69	平底	円錐	N38° E	228	122	19				SK69	SK69	SK69	土坑の中心部
SK73	133	29-6	1-9-20	長楕円	SK73	平底	円錐	N78° E	228	120	24				SK73	SK73	SK73	土坑の中心部
SK74	133	29-7	1-9-18	中層後葉	楕円土坑	SK74	平底	円錐	N42° E	142	144	37			SK74	SK74	SK74	土坑の中心部
SK77	133	29-8	1-9-18	中層後葉	楕円土坑	SK77	平底	円錐	N78° E	194	134	36	SK77	SK77	SK77	土坑の中心部		
SK78	133	29-1	1-9-18	中層後葉	楕円土坑	SK78	平底	円錐	N78° E	192	144	105	SK78	SK78	SK78	土坑の中心部		
SK81	133	1-9-18	中層後葉	楕円土坑	SK81	平底	円錐	北	90	82	42			SK81	SK81	SK81	土坑の中心部	
SK88	132	1-9-13	中層後葉	楕円土坑	SK88	平底	円錐	北	90	82	28			SK88	SK88	SK88	土坑の中心部	
SK89	132	1-9-19		楕円	SK89	平底	円錐	N39° W	228	158	29	SK89	SK89	SK89	土坑の中心部			
SK98	133	1-9-20		楕円	SK98	平底	円錐	N67° E	178	192	28			SK98	SK98	SK98	土坑の中心部	
SK94	133	1-9-18	中層後葉	楕円土坑	SK94	平底	円錐	N47° E	124	106	62				SK94	SK94	SK94	土坑の中心部
SK97	133	1-9-16		楕円	SK97	平底	円錐	N77° W	128	108	62			SK97	SK97	SK97	土坑の中心部	
SK99	133	22-2	1-9-16	中層後葉	楕円土坑	SK99	平底	円錐	北	200	200	112			SK99	SK99	SK99	土坑の中心部
SK100	132	1-9-18	中層後葉	楕円土坑	SK100	平底	円錐	北	74	102	88	SK100	SK100	SK100	土坑の中心部			
SK101	132	1-9-11		円	SK101	平底	円錐	北	100	84	28			SK101	SK101	SK101	土坑の中心部	
SK104	132	1-9-11		円	SK104	平底	円錐	北	98	107	28			SK104	SK104	SK104	土坑の中心部	
SK106	134	29-9	中層後葉	楕円土坑	SK106	平底	円錐	N39° W	148	118	27			SK106	SK106	SK106	土坑の中心部	
SK108	134	29-9		楕円	SK108	平底	円錐	N57° W	120	100	24			SK108	SK108	SK108	土坑の中心部	
SK107	134	1-9-11		楕円	SK107	平底	円錐	N47° E	132	118	26			SK107	SK107	SK107	土坑の中心部	
SK109	132	1-9-8		円	SK109	平底	円錐	北	108	104	2				SK109	SK109	SK109	土坑の中心部
SK110	134	22-3	1-9-20	楕円土坑	SK110	平底	円錐	N47° W	164	120	82				SK110	SK110	SK110	土坑の中心部
SK111	134	22-4	1-9-20	中層後葉	楕円土坑	SK111	平底	円錐	N7° E	140	152	70			SK111	SK111	SK111	土坑の中心部
SK112	134	22-5	1-9-18	遺跡近傍	SK112	平底	円錐	北	278	278	30				SK112	SK112	SK112	土坑の中心部
SK114	134	1-9-21		楕円	SK114	平底	円錐	N47° W	104	94	43			SK114	SK114	SK114	土坑の中心部	
SK134	134	1-9-20		楕円	SK134	平底	円錐	北	96	92	49				SK134	SK134	SK134	土坑の中心部
SK145	134	1-9-24		楕円	SK145	平底	円錐	N12° E	68	54	20				SK145	SK145	SK145	土坑の中心部
SK149	134	22-6	1-9-20	中層後葉	楕円土坑	SK149	平底	円錐	N47° E	178	112	29			SK149	SK149	SK149	土坑の中心部
SK160	134	1-9-21	中層後葉	楕円土坑	SK160	平底	円錐	N27° E	128	82	14	SK160	SK160	SK160	土坑の中心部			
SK161	134	1-9-21	中層後葉	楕円土坑	SK161	平底	円錐	N47° E	242	140	25	SK161	SK161	SK161	土坑の中心部			
SK165	135	1-9-18	中層後葉	楕円土坑	SK165	平底	円錐	北	94	88	130			SK165	SK165	SK165	土坑の中心部	
SK168	135	1-9-19	遺跡近傍	楕円土坑	SK168	平底	円錐	北	132	128	26				SK168	SK168	SK168	土坑の中心部
SK169	135	1-9-23		楕円	SK169	平底	円錐	N12° E	104	84	82			SK169	SK169	SK169	土坑の中心部	
SK170	135	1-9-23		楕円	SK170	平底	円錐	北	68	58	28			SK170	SK170	SK170	土坑の中心部	
SK207	136	1-9-11		長楕円	SK207	平底	円錐	N78° E	180	92	28	SK207	SK207	SK207	土坑の中心部			
SK208	135	1-9-11	遺跡近傍	楕円土坑	SK208	平底	円錐	N27° E	132	82	-				SK208	SK208	SK208	土坑の中心部
SK232	136	1-9-11		円	SK232	平底	円錐	北	72	62	83				SK232	SK232	SK232	土坑の中心部
SK259	136	1-9-11		長楕円	SK259	平底	円錐	N27° W	102	102	33			SK259	SK259	SK259	土坑の中心部	
SK267	135	22-1	1-9-18	楕円	SK267	平底	円錐	北	68	68	5			SK267	SK267	SK267	土坑の中心部	
SK402	135	22-2	1-9-18	中層後葉	楕円土坑	SK402	平底	円錐	N38° E	134	74	29	SK402	SK402	SK402	土坑の中心部		
SK404	136	22-4	1-9-18	楕円	SK404	平底	円錐	N38° E	248	108	25				SK404	SK404	SK404	土坑の中心部
SK430	135	1-9-23		円	SK430	平底	円錐	北	96	98	25				SK430	SK430	SK430	土坑の中心部
SK433	135	1-9-24		円	SK433	平底	円錐	北	108	100	77			SK433	SK433	SK433	土坑の中心部	
SK446	135	22-5	1-9-18	中層後葉	楕円土坑	SK446	平底	円錐	N7° W	134	114	56	SK446	SK446	SK446	土坑の中心部		
SK462	135	1-9-11		楕円	SK462	平底	円錐	N27° W	64	56	22				SK462	SK462	SK462	土坑の中心部
SK503	135	1-9-11		楕円	SK503	平底	円錐	N12° E	88	78	23			SK503	SK503	SK503	土坑の中心部	
SK504	135	22-4	1-9-18	中層後葉	楕円土坑	SK504	平底	円錐	N27° W	88	80	21			SK504	SK504	SK504	土坑の中心部
SK509	136	1-9-24		楕円	SK509	平底	円錐	N19° W	96	114	34			SK509	SK509	SK509	土坑の中心部	

第3節 縄文時代の遺物

1 概要

縄文時代に比定される全遺物量は膨大な量にはなる。その内訳は、遺構内出土土器が約1,223kg（遺構外と先行して復元した個体は未計測）、遺構外を含めた土製品の数量は36点（1,183g）である。また、石を素材とした遺物（遺構外含む）は、搬入礫・敷石を除いた石器・石器素材・屑の総数が13,231点（約980kg）に達した（表10）。

各遺物の時期は、縄文時代中期前葉（初頭）から後期前半にわたる。そのうち、集落が台地上に展開する中期後葉の遺物が圧倒的に多くなっている。ただし、隣接する長峯遺跡で集落が形成され、発展してゆく中期前葉4期～中葉4期（細別時期は第3節2参照）の遺物は皆無である。

中期の土器は堅穴住居跡からの出土が中心で、斜面地でのいわゆる土器捨て場の形成は確認できていない。これは、後世、台地縁辺部が自然の営力によって削割されたためで、元来の有無は不明である。また、後期の土器については包含層からの出土が主体である。当センターが調査した台地上の地点では、掘り込みの確認できなかった遺構（掘立柱建物・敷石住居跡）が中心であった。そのため、遺物の多くは包含層取り上げになっている。本来はいずれかの遺構に伴う場合もあろう。ちなみに、後期集落の堀込みを有する遺構の密集地は隣接斜面部である（茅野市教育委員会2004）。

土製品のうち土偶は、大規模な集落としてはごく少量（4点）にとどまった。その他、中期後葉の耳飾、土器片製円板などが出土している。また、骨製品が1点出土した。

石器に関しては、黒曜石原産地群から至近距離にあるため、小形石器の99%が黒曜石という特徴を持つ。また、SB46やSK387に見られるように、原石・石核をストック、埋納した状況が認められる。

調査地点が、高燥な台地上でしかも火山性土壌であったため、動植物遺体はわずかであった。炭化物そのものが極端に少なく、炭化材（同定されたものはクリ）が少量？認められたにとどまる。

表10 聖石遺跡出土遺物の概要

	時代	種別	点数	重さ(g)	備考
土器	縄文時代	深鉢、浅鉢、有孔 鐔付、釣手ほか	—	—	遺構出土土器で 1,223,457g以上 (ごく一部計測落ち)
土製品		土偶ほか	6	667	土偶4、耳飾2
		土器片製円板	30	516	
石器		石鏃、打斧、磨斧、 磨石ほか	13,231	980,296	石柱・丸石・礫計測せず
骨製品		骨製品	1	1.31	
植物遺体		クリ炭化材ほか	39	3,116	
その他		赤色顔料	3	81	土付着状態
金属製品	近世以降	寛永通宝、鉄滓ほ か	3	21	
動物遺体	近世以降	ウマの歯	1	259	
合計	—	—	13,314	984,957	

2 土器

(1) 概要

聖石遺跡から出土した土器は、計測を行った遺構に限ってみても約1,223kgを越えている(表13)。これらの整理方法・本書への掲載方法については、第1章第2節(2)を参照していただきたい。聖石遺跡出土土器のデータは、表11掲載土器の一覧表、表14主要土器属性表であり、前者はCD所収である。併せて参照していただきたい。

表11 聖石遺跡図版掲載土器・土製品一覧 (SB冒頭部分)

図版番号	PL 番号	CD掲載 写真番号	14C 測定 年代	発 見 層	遺 構 名	出土 位置	出土 高さ	出土 状況	出土 数量	出土 状態	出土 場所	出土 時期	計測結果の(一) 重量は全通群ありの重量				
													重量 (g)	口径 (cm)	高さ (cm)	備 考	
130	1	SB0002_001	132				137	20	1		勝坂Ⅰ	前期	土器	3400	24	14.5	
130	2	SB0002_002					171	20	1		勝坂Ⅰ	前期	土器	1900	18.5	12.5	
130	3	SB0002_003					140	20	1		勝坂Ⅰ	前期	土器	1900	18.5	12.5	
130	4	SB0002_004					173	20	1		勝坂Ⅰ	前期	土器	1700	14.5	8.5	8.5

(2) 時期区分

聖石・長峯・別田沢遺跡共通の時期区分を行い、特に出土量の多かった中期に関しては細別を行った。時期区分は、当遺跡の分析が進まなかったため、既存の研究を参考として行った(表12)。

表12 聖石・長峯・別田沢遺跡時期区分対照表

本報告		八ヶ岳西南麓		南関東	
中期	前葉	I	龍畑Ⅱ	五領ヶ台Ⅰ	
		II	九兵衛尾根Ⅰ	五領ヶ台Ⅱa	
	III		五領ヶ台Ⅱb		
	IV	九兵衛尾根Ⅱ	五領ヶ台Ⅱc		
	V		五領ヶ台直後		
中葉	I	猪沢	勝坂Ⅰ		
	II	新道	勝坂Ⅱ		
	III	藤内	勝坂Ⅲ		
	IV	井戸尻Ⅰ	勝坂Ⅳ		
	V	井戸尻Ⅲ	勝坂Ⅴ		
後葉	I	曾利Ⅰ	加曾利Ⅰ		
	II	曾利Ⅱ	加曾利Ⅱ		
	III	曾利Ⅲ	加曾利Ⅲ		
	IV	曾利Ⅳ	加曾利Ⅳ		
	V	曾利Ⅴ	加曾利Ⅴ		
後期	初頭		称名寺		
	前葉	I	堀之内Ⅰ		
		II	堀之内Ⅱ		

※八ヶ岳西南麓の時期区分については、藤森・武藤ほかの研究史をまとめた長崎1997・1998を主に参照し、南関東については今村1985、下総考古学研究会1985・2000ほかを参照した。

※型式間の平行関係については研究者ごとに差異があるため区分線をあえて入れなかった。

表13 聖石遺跡 出土遺物一覧(1)

※土器総量は復元個体に未計測があったため掲載しない

※石器総量には、石柱・丸石・敷石・礫は含んでいない。遺構外の土器は計測していない

記号	番号	遺物名	遺構所属時期			覆土出土土器の時間 幅(復元推入を除く)	埋藏土器 量さ(g)	点数	石器・石器系材総量 量さ	備考
			大時期 区分	中時期 区分	小時期 区分					
SB	1	覆土出土土器	後期	前期	1?	中期後葉4~後期初期	407	29	453.74	混入多い
SB	2	埋藏	中期	後葉	2	中期後葉2~3	7,406	304	20,065.14	
SB	2.12	覆土出土土器	中期	後葉		中期後葉	0	9	113.06	遺構別分層不可
SB	3	埋藏	中期	後葉	3	中期後葉1~4	16,200	61	16,469.25	4期の埋藏2個体、1期転用埋藏土器有り
SB	4	伏魔?	中期	後葉	4	中期後葉	4,781	378	16,920.87	
SB	5	埋藏	後期	初期		後期初期	3,599	36	48.10	縄織土器包舎層取り上げより抽出
SB	6	---	---	---	---	---	0	0	0.00	
SB	7	覆土出土土器	中期	後葉	2	中期後葉1~2	47,199	215	6,911.72	
SB	8	覆土出土土器	中期	後葉	1	中期後葉1~(2)	25,125	103	2,786.11	
SB	9	覆土出土土器	中期	後葉	1	中期後葉1	31,471	104	11,558.33	
SB	10	ピット内	中期	後葉	5?	中期後葉~後期前期	715	9	3,513.68	小片混在
SB	11	覆土出土土器	中期	後葉	5	中期後葉4~5	1,370	187	4,067.77	
SB	12	覆土出土土器	中期	後葉	3	中期後葉3~	5,393	299	3,515.62	
SB	12.27	覆土出土土器	中期	後葉		中期後葉	3,917	9	165.95	遺構別分層不可。縄織土器は各住居へ振り分け
SB	13	炉内ほか	中期	後葉	3	中期後葉2~3	4,277	136	4,475.39	
SB	14	埋藏	中期	後葉	4	中期後葉3~5	2,136	43	1,482.68	
SB	15	覆土出土土器	中期	後葉	?	中期後葉	0	0	0.00	小片のみ
SB	16	覆土出土土器	中期	後葉	?	中期後葉	22	2	100.24	小片のみ
SB	17	覆土出土土器	中期	後葉	2?	中期後葉2~5	3,536	70	5,624.87	
SB	17.18	覆土出土土器	中期	後葉		中期後葉	0	1	22.19	遺構別分層不可
SB	18	埋藏	中期	後葉	3	中期後葉1~5	8,724	95	5,614.81	1期転用埋藏土器有り
SB	18.21	覆土出土土器	中期	後葉		中期後葉?	0	2	23.78	遺構別分層不可
SB	19	埋藏	中期	後葉	4	中期後葉3~4	24,372	229	12,158.66	
SB	20	埋藏	中期	後葉	4	中期後葉4	2,114	17	128.90	
SB	21	覆土出土土器	中期	後葉	3?	中期後葉2~3	1,090	62	711.46	
SB	22	覆土出土土器	中期	後葉	2?	中期後葉2~5	1,287	9	50.71	
SB	23	覆土出土土器	中期	後葉	4	中期後葉3~4	1,600	128	14,538.20	
SB	24	覆土出土土器	中期	後葉	2	中期後葉2	10,386	99	4,827.86	
SB	25	覆土出土土器	中期	後葉	4	中期後葉3~4	2,204	96	13,190.96	
SB	26	覆土出土土器	中期	後葉	2	中期後葉1~2	11,202	50	63,861.38	
SB	27	覆土出土土器	中期	後葉	5	中期後葉4~5	3,612	39	11,339.26	SB12と分層不可遺物あり
SB	28	覆土出土土器	中期	後葉	2	中期後葉2~4	2,940	30	3,636.57	
SB	29	覆土出土土器	中期	後葉	5	中期後葉5	575	75	3,353.52	
SB	30	覆土出土土器	中期	後葉	3~4?	中期後葉3~5	1,348	35	2,154.96	
SB	31	伊	中期	後葉	2	中期後葉2~5	232	8	1,687.35	
SB	32	埋藏	中期	後葉	2	中期後葉2~3	12,328	294	8,031.79	
SB	33	覆土出土土器	中期	後葉	5	中期後葉5	1,500	8	1,780.13	
SB	34	ピット内	中期	後葉	?	中期後葉	1,500	8	2,566.16	
SB	35	覆土出土土器	中期	後葉	2	中期後葉1~2	5,173	8	755.73	
SB	36	埋藏	中期	後葉	1	中期後葉2~4	31,035	200	5,294.02	
SB	37	埋藏	中期	後葉	4	中期後葉4~5	10,490	79	47,875.78	
SB	38	覆土出土土器	中期	後葉	4	中期後葉4~5	2,575	4	1,615.00	
SB	39	埋藏	中期	後葉	4	中期後葉3~4	25,884	224	12,889.16	
SB	40	埋藏	中期	後葉	7	中期後葉2~7	11,688	156	8,150.73	
SB	41	炉内ほか	中期	後葉	3~4?	中期後葉3~4	973	14	16,017.39	
SB	42	埋藏	後期	前期	1	中期後葉~後期前期	1,200	1	4.26	縄織土器包舎層取り上げより抽出
SB	43	覆土出土土器	中期	後葉	4	中期後葉4~5	16,874	156	14,438.56	
SB	44	埋藏	中期	後葉	4	中期後葉4~5	6,385	83	35,418.97	
SB	45	覆土出土土器	中期	後葉	?	中期後葉	0	10	1,022.69	大半の土器SB90へ上層に混入の土器
SB	46	覆土出土土器	中期	後葉	3	中期後葉2~3	531	34	852.50	
SB	47	埋藏	中期	後葉	3	中期後葉3	8,325	49	5,118.47	
SB	48	埋藏	中期	後葉	1	中期後葉1~2	6,690	23	1,095.33	
SB	48.49	覆土出土土器	中期	後葉		中期後葉	0	2	20.30	遺構別分層不可
SB	49	埋藏	中期	後葉	4	中期後葉4	3,110	14	802.52	SB48・49取り上げから抽出
SB	50	覆土出土土器	中期	後葉	3	中期後葉2~3	5,562	50	5,261.31	
SB	51	覆土出土土器	中期	後葉	2?	中期後葉	143	2	14.49	小片のみ
SB	52	炉内	中期	後葉	4	中期後葉4	2,134	22	1,789.58	
SB	53	ピット内	中期	後葉	3	中期後葉	2,490	5	237.12	小片のみ
SB	54	覆土出土土器	中期	後葉	4	中期後葉3~4	1,480	32	618.56	
SB	55	炉内	中期	後葉	4?	中期後葉3~5?	343	13	4,736.13	
SB	56	炉内	中期	後葉	3?	中期後葉	217	5	3,371.84	小片のみ
SB	57	埋藏	中期	後葉	4?	中期後葉4~5	4,170	5	16.73	
SB	58	埋藏	中期	後葉	3	中期後葉3~4	14,020	90	6,782.70	

表13 聖石遺跡 出土遺物一覧(2)

※土器総量は還元係体に未計測があったため掲載しない

※石器総量には、石柱・丸石、敷石・礎は含まれていない。遺構外の土器は計測していない

遺構名	遺構所属時期				出土土器の時間				備考	
	記号	番号	認定資料	大時期 区分	中時期 区分	小時期 区分	種 幅(輪量出入を除く)	置き点 数		置き 量
SB	59	炉内	ほか	中期	後葉	3	中期後葉	1,077	9	146.08
SB	60	炉内	ほか	中期	後葉	4	中期後葉1~4	1,344	58	2,224.89
SB	61	埋壕	埋壕	中期	後葉	4	中期後葉3~5	5,268	24	195.80
SB	62	覆土出土土器	埋壕	中期	後葉	5	中期後葉5	2,668	41	3,676.26
SB	63	覆土出土土器	埋壕	中期	後葉	3	中期後葉3~4	9,713	16	1,673.13
SB	64	埋壕	埋壕	中期	後葉	4	中期後葉1~4	4,033	24	574.33
SB	65	覆土出土土器	埋壕	中期	後葉	1?	中期後葉1~	207	18	572.24
SB	66	埋壕	埋壕	中期	後葉	4	中期後葉3~4	8,780	40	840.71
SB	67	埋壕	埋壕	中期	後葉	4	中期後葉4~5	9,028	104	3,483.31
SB	67.68	覆土出土土器	埋壕	中期	後葉	1	中期後葉	0	7	22.95
SB	68	覆土出土土器	埋壕	中期	後葉	4?	中期後葉4(副葉)	784	22	84.51
SB	69	ピット	埋壕	中期	後葉	2?	中期後葉2~5	654	17	10,924.63
SB	70	覆土出土土器	埋壕	中期	後葉	2	中期後葉2	540	17	1,170.54
SB	71	覆土出土土器	埋壕	中期	後葉	4	中期後葉2~4	6,326	15	1,638.21
SB	72	覆土出土土器	埋壕	中期	後葉	2	中期後葉	0	2	34.88
SB	73	覆土出土土器	埋壕	中期	後葉	2	中期後葉2~	8,162	24	1,434.69
SB	74	炉内ほか	埋壕	中期	後葉	3	中期後葉3~4	1,171	34	2,409.58
SB	75	炉、ピット内	埋壕	後期	前葉	1	中期後葉~後期前葉	4,936	44	10,638.34
SB	75.85	覆土出土土器	埋壕	---	---	---	中期後葉	0	4	4.84
SB	75.86	覆土出土土器	埋壕	---	---	---	中期後葉	0	0	0.00
SF	76	炉内	埋壕	中期	後葉	3	中期後葉3	720	0	0.00
SB	77	炉内	埋壕	中期	後葉	4	中期後葉4	1,140	0	0.00
SB	78	覆土出土土器	埋壕	中期	後葉	3?	中期後葉	77	2	35.77
SB	79	埋壕	埋壕	中期	後葉	5	中期後葉5	1,548	2	9.25
SB	80	覆土出土土器	埋壕	中期	後葉	5	中期後葉4~5	1,793	50	5,953.48
SB	81	炉内	埋壕	中期	後葉	3~4?	中期後葉3?~5	277	3	15.43
SB	82	埋壕	埋壕	中期	後葉	3.4	中期後葉3~4	12,237	123	14,800.75
SB	83	覆土出土土器	埋壕	後期	初葉?	1	後期	127	2	5.12
SB	84	炉内	埋壕	中期	後葉	2	中期後葉	227	2	1.00
SB	85	埋壕	埋壕	中期	後葉	4?	中期後葉4~5	2,587	7	475.04
SB	86	ピット内	埋壕	後期	前葉	2	後期前葉	532	2	380.00
SB	87	埋壕	埋壕	中期	後葉	2	中期後葉5?	563	3	7,028.20
SB	88	埋壕	埋壕	中期	後葉	4	中期後葉4	1,370	3	20.08
SB	89	覆土出土土器	埋壕	後期	前葉	1?	中期後葉~後期前葉	177	4	1,550.00
SB	90	埋壕	埋壕	中期	後葉	3	中期後葉3~	1,826	0	0.00
SB	91	埋設土器	埋壕	後期	前葉	?	中期後葉~後期前葉	983	0	0.00
SB	92	覆土出土土器	埋壕	後期	?	?	中期後葉~?	671	20	931.15
SB	93	---	---	---	---	---	---	0	0	0.00
SB	94	覆土出土土器	埋壕	後期	初葉?	?	中期後葉~後期前葉	191	10	112.74
SB	95	ピット内	埋壕	後期	後葉	1	---	729	1	420.00
SB	96	埋壕	埋壕	後期	初葉	---	中期後葉~後期初葉	849	0	0.00
SB	97	---	---	---	---	---	---	1,587	0	0.00
SB	98	覆土出土土器	埋壕	後期	初葉?	---	後期	108	1	4.15
SB	99	埋壕	埋壕	中期	後葉	4	中期後葉4	1,590	0	0.00
SB	100	埋設土器	埋壕	後期	前葉?	2?	後期	1,254	0	0.00
SB	101	覆土出土土器	埋壕	後期	前葉	1	後期	43	4	4,046.68
SB	102	埋設土器	埋壕	後期	前葉	1	後期	1,186	3	10.76
SB	103	覆土出土土器	埋壕	後期	前葉?	1?	中期後葉~後期	173	3	3.79
SB	104	覆土出土土器	埋壕	後期	初葉	---	中期後葉~後期	795	1	1.11
SB	105	埋壕	埋壕	中期	後葉	5	中期後葉4~5	2,879	7	59.43
SB	106	埋設土器	埋壕	後期	初葉?	?	---	580	0	0.00
SB	107	埋設土器	埋壕	後期	前葉	1	中期後葉~後期	277	0	0.00
SB	108	埋設土器	埋壕	後期	前葉	1	中期後葉~後期	1,285	0	0.00
SB	109	埋設土器	埋壕	後期	前葉	1	中期後葉~後期	3,699	6	338.76
SB	110	覆土出土土器	埋壕	後期	初葉	---	中期後葉~後期	242	8	5.76
SB	111	覆土出土土器	埋壕	後期	前葉	1	中期後葉~後期	476	57	6,589.74
SB	112	埋設土器	埋壕	後期	前葉	1	中期後葉~後期	4,236	0	0.00
SB	合計	---	---	---	---	---	---	527,109	5403	523,330.50
ST	合計	ピット	---	中期~後期	---	---	---	1,611	42	611.53
SK	合計	覆土出土土器	---	中期~後期	---	---	---	48,783	458	163,323.39
SX	合計	木柱	---	中期~後期	---	---	---	64,013	44	1,701.33
SF	合計	覆土出土土器	---	中期~後期	---	---	---	3,130	20	132.22
SD	合計	散布	---	中期	---	---	---	8,501	12	129.22
SQ	合計	覆土出土土器	---	中期	---	---	---	0	38	78.00
LM	合計	---	---	---	---	---	---	0	11	1,398.37
遺構外	合計	---	---	---	---	---	---	14,145	2371	351,390.19
総	合計	---	---	---	---	---	---	667,292	8399	1,042,094.75

聖石遺跡から出土した土器は、縄文時代中期後葉を中心に、後期初頭～前葉の土器がそれに次ぐ。さらに、中期前葉、中期中葉の土器が若干認められた。

中期前葉 土坑および包含層から、前葉3期の沈線文系土器が少量出土している。縄文系土器は極微量である。また、前後の段階の土器は認められず、調査地区内での継続性はない。

中期中葉 集落の成立期は後葉1期である。ただし、後葉1期の竪穴住居内から中葉に遡りうる土器が数点認められる。SB07（図版144-28）香炉形土器、SB09（図版149-16）把手を図示した。特殊器形で組成中に占める割合も少なく、加飾性の高いトロフィー型深鉢の把手部であり、伝世された可能性もある。

中期後葉 集落が成立する後葉1期から5期までの全時期を通して、竪穴住居跡の埋土を中心に出土している。

後期 中期との断絶はなく、後期初頭から前葉にかけての土器が住居跡や包含層から出土している。

(3) 個別土器の属性 (図5・6)

図上復元可能な土器の内、主要なものに関してはその属性を観察表(表14)を作成した。ここに示した属性を見ることによって、時期毎の特徴や変遷過程がある程度把握できるものと考えた。属性表に記載した観点は以下の通りである。

A 出土位置および出土状況 掲載土器一覧表(CD表11)に出土位置を記載した。遺物分布図とともに参照願いたい。

イ 器種・器形 主として用途に関連する属性である器種、器形については以下の区分を行った。法量の記載は掲載土器一覧表(CD表11)に記した。

a. 器種 深鉢形、壺形、鉢形、浅鉢形、釣手土器、有孔銅付土器などがある。深鉢には堯形、樽形、壺形、筒形などに区分すべき形態の土器も見られるが、その境界は漸移的である。そのため、ここでは一括して深鉢形とした。

b. 深鉢形の器形 深鉢形には、多様な形態変化が認められる。ここでは、実用的な機能部分を重視するため、器内面の形状によって分類した。そのため、把手や過剰な隆線系装飾によって変形を被る器外面の形状については「④装飾」の項で触れる。よって、装飾による区分である「口頸部文様帯」とここで言う「口頸部(器上半部)」は異なる範囲を指す場合がある(図5)。

分類基準は、口頸部と体部境の器形変換部(くびれ部)で上・下に2分し、上半部をI～IV、下半部をA～Dに大分類した。また、器形変換部を持たない例をV類とした。さらに、各々算用数字によって細分した。表14への記載は、上下の分類記号の組合せによって示した(例えばI2C3)。

<口頸部> (上半部)

I…口縁部が内湾する例

- 1 上下幅狭で、湾曲度少ない口縁部を有するもの
- 2 1より幅広であるが、湾曲度が小さく、最大径が上部に偏るもの
- 3 1より幅広で、最大径が口縁部中位にあり、湾曲が明瞭なもの
- 4 1～3より幅広になり、口縁部から頸部へ緩やかに推移し、最大径が口縁部上方に偏るもの
- 5 器形変換部から大きく外反した後、口縁部で大きく内湾するもの
- 6 器形変換部から大きく外反した後、口縁部上端付近で急激に内湾するもの
- 7 6に類似するが、口縁部上端付近で鋭角に屈曲するもの

II…口縁部と頸部境が屈曲する例

- 1 頸部が外反し、口縁部で直に立ち上がるもの

- 2 頸部が大きく外反し、口縁部が直に立ちあがるもの
- 3 口頸部が袋状に湾曲し、口縁部上端付近が垂直か外側へ屈曲するもの

Ⅲ…垂直および外反する例

- 1 頸部からは垂直に立ち上がるもの、口縁部との境が不明瞭な例
- 2 頸部から口唇部まで外反するもの、口縁部との境が不明瞭な例

Ⅳ…口頸部が未発達な例。壘形、樽形土器のように、頸部に相当する無文帯が体部上にわずかにつく例をⅢ類から分離した。

- 1 幅狭の頸部が内傾するもの
- 2 幅狭の頸部がほぼ垂直に立ち上がるもの
- 3 幅狭の頸部が外反するもの

V…口頸部がないもの。厳密には、体部分類のみで足りるが、一応体部上半部が直になる(1)、と外反する(2)に分けた。

<体部>

A…最大径が体部下半部にある例

- 1 口縁部よりも最大径が大きく張り出すもの
- 2 口縁部径とほぼ同程度か、やや小さい程度に膨らむもの
- 3 膨らむものの、径が口縁部径より小さいもの
- 4 体部上半・中位に比べほんのわずかに膨らむもの

B…最大径が体部中位にある例

- 1 口縁部よりも最大径が大きく張り出すもの
- 2 口縁部径とほぼ同程度か、やや小さい程度に膨らむもの
- 3 膨らむものの、径が口縁部径より小さいもの
- 4 体部上半や下半部に比べほんのわずかに膨らむもの

C…最大径が体部上半部にある例

- 1 底径との差が大きく、口縁部よりも最大径が張り出すもの
- 2 口縁部とほぼ同程度か、やや小さい程度膨らむもの
- 3 膨らむものの、径が口縁部径より小さいもの
- 4 ほぼ直線的に頸部へ向かって開くもの

<口縁部>

Y…山形口縁

- 1 山形の先端部が鋭角になるもの
- 2 山形の先端部が平ら、あるいは扇状把手になるもの
- 3 1と2の中間形態か、複雑な形状を示すもの

H…平縁

- 1 口唇部上端が平らなもの
- 2 口唇部上に口縁部文様帯の突起などがわずかに飛び出すもの
- 3 平らな口唇部に、大形把手や突起が付けられたもの

<口唇部>

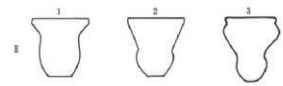
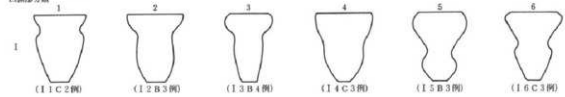
- A 口唇端部に膨らみや屈曲を持たないもの
- B 口唇端部にわずかな膨らみを持たせたもの

器形分類の呼称法と装飾分類の区分

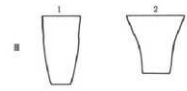


器形分類 (全体 側面形)

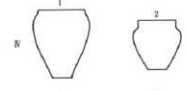
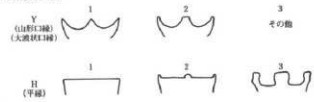
口頸部分類



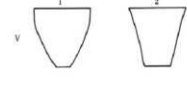
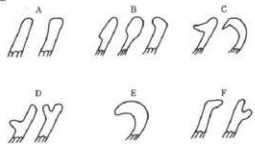
体部分類 A - 最大径が体部上半 1 口縁部径<体部径
B - " 体部中位 2 口縁部径=体部径
C - " 体部下半 3 口縁部径>体部径
4 3のうち、体部のふくらみがわずか



口縁部形部分類



口唇部形部分類



底部分類



図5 土器観察表 分類規準と記号 (1)

隆線系装飾の分類

断面形態



沈線系装飾の分類

施工具



沈線の形状



※属性表中 半截管状工具ハワを利用 (C) して、半隆陥線 (3) を単線に陥文 (a) した場合は 3a と表示

図6 土器観察表 分類規準と記号 (2)

- C 口唇端部で、内側へ大きな張り出しを持つもの
- D 口唇端部やや下方で、内側へ張り出し部を有するもの
- E 口唇部を内側へ大きく折り曲げたもの
- F 口唇端部の外側に張り出し部を有するもの (装飾として隆線を貼り付ける例は除外する)

<底部>

- a 外側に張り出すもの
- b 底部の端部に大きな変形・加工が加えられないもの
- c 底端部が面取りされ、内側に屈曲するもの
- d 体部下方で大きく屈曲するもの (屈折底)
- e 底部が極端に狭まるもの
- f 台が付くもの

ウ 基本的な造形 装飾に関わる側面を除外し、容器そのものの製作に関連する属性として、以下の項目の記載を行った。胎土 (粘土の選択・混和材などの調整に関わる点)、底部圧痕 (製作台への設置方法などに関わる点)、色調 (焼成方法に関わる点) の3項目である。胎土・色調は系統や製作された地域の差がある場合があり、底部圧痕では時期差や地域差が現れる。

a. 胎土 肉眼観察時の個人差が出にくい程度にとどめた。主な混和材の有無によって大雑把な傾向をとらえることにした。一つは雲母・石英の有無。もう一つは、白色粒子とした岩片中で、火砕流堆積物や軽石起源と想定されるつやのない岩片 (白1) と、深成岩や川砂起源と想定されるつやのある岩片 (白2) を目安にした。さらに川砂起源と想定される明瞭な円礫、あるいは赤色粒が認められた場合は、その旨を記載した。

b. 底部圧痕など 土器成形時の特徴を網羅的に観察することができなかったため、底部の処理だけを

取り上げた。土器製作時（回転させるか否か）における台との接点をどうするか、あるいは、作業後底部に付いた製作痕跡を処理するのか、など製作の流儀を知るための項目として、網代痕・木葉痕、回転による擦痕の有無、などを観察した。上記の痕跡が認められない（消された）例については、「磨」と記した。焼成前に網代痕などを消すために磨く例、単に底部成形時の磨きが残存した例などさまざまであるが、今回は細別する時間がなかった。また、網代痕が部分的に残存する例については、底部と体部下半部との接合方法、あるいは、底部から敷物を取り除いた後の処置の仕方に関わってくると思われるが、今回は観察・分析を行えなかった。

c. 色調 胎土に含有される鉱物の差が現れるほか、土器製作上の重要な要素である焼成方法の違いによって差が生じると考えられる。「標準土色帳」を目安とした。明らかな黒斑による黒色や二次焼成による赤色の記述は除外した。

オ 装飾 容器としての実用的な機能以外で、縄文土器の重要な属性が装飾である。ここでは、地文(充填文)、装飾の割付方法、隆線系装飾、沈線系装飾の項目を設定し、各々の特徴を観察した。さらに、施工順序についても記した。時期差・地域差などが明瞭に表れる部分である。

a. 地文および充填文ほか 一般的に地文と呼ばれている縄文や条線文などについて記述する。しかし、そのほとんどは主要装飾施工後、空白部を埋めるために施されていたため、充填文と同じ項目とした。

使用した工具の差として、半截竹管のセを利用した単沈線、ハラを利用した半隆起線（平行沈線）、鋸歯状工具・篩状工具などによる条線、それに縄文の別を記した。条線は工具の幅、縄文は撚りの特徴、沈線は列点か「ハ」字状かなどを記した。また、区画文などが全面に施され、その内部を充填している例はこの項目から除外し、沈線系装飾の項目に記した。

b. 装飾の割付 縦方向の器面分割と、横方向での器面分割の方法について観察を行った。縦方向の分割では、残存率で全周する例に限られるため、大雑把な把握に止めた。

縦位分割 口縁部の把手・突起、体部の主要な単位装飾（懸垂文など）の数によって、器面が何分割されているかを見る。Ⅰ帯（器面上部）とⅡ帯（器面下部）で分割数に違いが認められる場合があるので、Ⅰ5Ⅱ4と2段の数値で表示した。

横位分割 口縁部から底部までを何分割して、各々に装飾を配しているかを見る。上部をⅠ、下部をⅡとし、さらに各々を算用数字で細別した。器形変換点である口頸部・体部の区分とは必ずしも一致しない。また、頸部などに見られる無文帯もⅠとしてカウントしてあるため、「紋様帯」とは異なる。文様の有無にかかわらずあくまで分割方法を観察した。一方、底部付近の無文部は意図的な無文帯でない例があるためカウントしていない。

c. 把手・突起類 有無とその特徴のみを簡単に記した。

d. 隆線系装飾 粘土紐や粘土塊を整形し貼付して描出した装飾を隆線系装飾とした。

隆線の類別 隆線は断面の形状によって、A～Ⅰに分類した（図6参照）。時期や地域による製作者集団のクセなどがあらわれやすい部分である。

幅と高さ 隆線には、多種多様な幅と高さを持った例が存在し、時期差や系統差を示す可能性がある。幅については計測が比較的簡易にできるため、粘土紐の末端や湾曲部分避けて計測した。高さについては、計測値を示した。しかし、一個体の土器において一定の高さに保たれた例が少ないこと、大形土器と小形土器で同じ高さであっても隆線の性質が違っている場合があることなどから、参考程度に見てほしい。

組（本）数 特定の系統によっては、複数の隆線を平行させて使用する例や、一本の隆線を二分している例などが認められるため、この観察項目を設定した。二分している例は1本とし、隆線上装飾の項目で二分と記した。二本並列させて貼付し、その中間部分を工具で割り直している例は、2本とした。

表14 聖土遺跡出土主要土器の属性(1)

白1は不明つやなしの白色磁子(火山岩 軽石等)か、白はつや有り(の白色磁子(灰産者?) 石・石英、雲母)

図録番号	発見層(遺跡)	住居番号	出土地層	出土位置	器種	器名	器形	基本属性				属性別			
								口部	底	胎土	産地(産地不明)	色調	属性分類	属性別	分析方法
138 1	132	SB	2	1	埴輪	埴輪 I 202	H2 D	-	白1多、雲母産	-	厚底文様	にぶい黄緑	14E4	12E1	
138 1	132	SB	2	1	埴輪	埴輪 I 407	H1 B	-	白1	-	条線状半施線	黒焼	14E4	11E17	
138 2	132	SB	2	2	埴輪	埴輪 I 407	H2 B	-	白1、黒雲母	-	厚底文様	赤焼	15D4	12E17	
138 2	132	SB	2	2	埴輪	埴輪 I 203	H2 B	-	白1、黒雲母	-	厚底文様	にぶい	15E4	12E1	
138 4	174	SB	2	3	埴輪	埴輪 I 203	H1 A	-	白1、白2、黒雲母	-	半施線	赤焼	10E4	11E17	
138 4	174	SB	2	3	埴輪	埴輪 I 203	H2 B	-	白1、黒雲母	-	厚底文様	にぶい	15E4	12E1	
138 4	174	SB	2	3	埴輪	埴輪 V C3	H2 A	-	白2、雲母	-	条線状半施線	黒焼	18E4	11E1	
138 4	174	SB	2	3	埴輪	埴輪 I 203	H1 C	-	白1、黒雲母	-	条線状半施線	赤焼	17E4	12E1	
138 4	174	SB	2	3	埴輪	埴輪 I 402	H1 C	-	白1、黒雲母	-	厚底状列点	明赤焼	10E4	11E2	
139 3	181	SB	4	6	P20	埴輪 I 203	Y1 A	b	白1、白2、雲母	現代	輪1施線	焼灰	13E4	10E1	
139 4	136	SB	3	4	P16	埴輪 I 203	H1 A	-	白1、黒雲母	-	厚底文様	黒焼	10E4	10E1	
139 4	136	SB	3	4	P17	埴輪 I 203	H1 C	-	白1、黒雲母	-	厚底文様	赤焼	10E4	11E1	
140 1	146	SB	7	24	P20	埴輪 I 203	H1 A	-	白1、黒雲母	-	厚底状半施線	焼灰	15E4	12E1	
140 2	146	SB	7	8	P68	埴輪 I 482	H1 E	-	白1多	-	厚底文様	にぶい黄緑	10E4	11E2	
140 3	155	SB	7	17	P62	埴輪 I 203	H1 C	-	白1多、石	-	条線状半施線	にぶい黄緑	10E4	12E2	
140 4	155	SB	7	15	P62	埴輪 I 482	H1 C	-	白1	-	厚底文様	焼灰	10E4	11E1	
140 7	180	SB	4	5	P67	埴輪 I 482	H2 B	b	白1	唐	厚底	焼灰	17E4	11E1	
141 5	140	SB	7	2	P66	埴輪 I 482	H3? G	-	白1-2	-	列点	明赤焼	14E4	11E1	
141 6	181	SB	7	23	P65	埴輪 I 692?	H1 E	-	白1	-	条線状半施線	にぶい赤焼	?	11E2	
141 7	142	SB	7	4	P61	埴輪 I 692?	H1 G	-	白1	-	厚底文様	黒焼	10E4	11E1	
141 8	283	SB	7	31	P65	埴輪 I 682	H2 G	-	石、白1少	-	半施線	にぶい赤焼	14E4	11E1	
141 10	171	SB	7	26	P62	埴輪 I 792	H1 G	-	白1、黒雲母	-	厚底	焼灰	14E4	11E1	
141 11	147	SB	7	8	P67	埴輪 I 402	H1 O	b	白2、雲母	本業	条線状半施線	焼灰	14E4	11E1	
142 12	157	SB	7	16	P60	埴輪 I 603	H1 E	b	白1	瓦化	丸縄文	にぶい赤焼	10E4	11E1	
142 15	160	SB	7	22	P62	埴輪 I 482	H1 G	-	白1	-	丸縄文	にぶい赤焼	10E4	11E1	
142 16	161	SB	7	25	P63	埴輪 I 442	H1 G	-	白1	文字	丸縄文	にぶい赤焼	10E4	11E1	
142 18	148	SB	7	10	P12	埴輪 I 482	H1 A	-	白1多、雲母産	-	丸縄文	赤焼	-	11	
142 19	148	SB	7	6	P62	埴輪 I 482	H1? A	-	白1多	丸	柱状丸縄文	赤焼	12E1	12E1	
142 20	151	SB	7	15	P603	埴輪 I 204	H3? B	-	白1多	-	丸縄文	黄灰	にぶい赤焼	?	11E1
142 21	141	SB	7	3	P310	埴輪 I 5	H1 G	-	白1多	-	丸縄文	黒焼	?	11E1	
142 22	145	SB	7	7	P60	埴輪 I 203	H1 C	-	白1、黒雲母	粘土剥取	厚底文様	赤焼	17E4	12E1	
142 23	136	SB	7	20	P17	埴輪 I 407	H2? G	-	白1	-	厚底	焼灰	15E4	12E1	
143 24	139	SB	7	1	P619	埴輪 I 1A2	H3 G	-	雲、石、白1	片	厚底	焼灰	14E4	13E1	
144 25	143	SB	7	5	P604	埴輪 I 281	Y2 D	-	雲多、石、白1	-	厚底	黒焼	14E4	11E1	
145 1	182	SB	8	1	P180	埴輪 I 283	H2? C	b	石、雲母	現代?	条線状半施線	明赤焼	11E2	11E2	
146 2	185	SB	8	4	P183	埴輪 I 502	H1 E	b	白1多	産地	産地	赤焼	なし	11E2	
146 4	186	SB	8	5	P184	埴輪 I 762	-	-	大粒白多、石	団結感?	半施線	明赤焼	17E4	11E2	
146 5	184	SB	8	3	P187	埴輪 I 202	H1 C	-	白1、雲母	-	多條線状半施線	明赤焼	10E4	11E2	
146 6	183	SB	8	2	P182	埴輪 I 203	H3 C	b	各種砂粒	なし	条線状半施線	焼灰	14E4	11E2	
147 2	201	SB	9	15	P381	埴輪 I 304	H2 E	b	白1多	産?	半施線	黒焼	14E4	11E1	
147 3	203	SB	9	17	P370	埴輪 I 1C3	H3 C	b	白1、雲母	唐	半施線	黒焼	12E4	11E1	
147 4	190	SB	9	4	P389	埴輪 I 283	H1? G	-	白1多	-	条線状半施線	黒焼	17E4	11E1	
147 6	195	SB	9	9	P390	埴輪 I 383	H2 B	b	白2、雲母	産地	半施線	明赤	12E2	11E1	
148 7	204	SB	9	13	P373	埴輪 I 283	H3 A	-	雲、白2	唐	条線状半施線	赤焼	12E4	12E2	
148 9	205	SB	9	19	P384	埴輪 I 502	H2 C	b	白2多	産地	厚底	焼灰	14E4	12E1	
148 10	206	SB	9	20	P389	埴輪 I 302	H2 E	b	白1-2、雲	産地	厚底	にぶい黄緑	14E4	12E1	
148 13	202	SB	9	16	P372	埴輪 I 203	H3 E	b	白2?か	団結感	産地	にぶい黄緑	14E4	11E2	
148 15	197	SB	9	11	P371	埴輪 I 7A2	-	-	各種砂粒	本産地	産地	明赤焼	17E4	12E2	
150 18	199	SB	9	13	P322	埴輪 I 3A2	H1 A	-	雲、石、白1	-	丸縄文	赤焼	?	11E1	
151 1	243	SB	12	1	P283	埴輪 I 203	H1 D	-	白1	-	厚底	にぶい赤焼	14E4	12E1	
151 2	244	SB	12	2	P288	埴輪 V	H2 D	b	白2他	不明正産	厚底	明赤焼	11E2	10E3	
151 3	207	SB	11	1	P-264	埴輪 I 482?	H1 A	-	白1多	-	丸縄文	黒焼	?	11E1	
151 5	217	SB	12	4	P284	埴輪 I 102	H1 D	-	白1、砂	-	条線状半施線	明赤焼	14E2	12E1	
151 7	246	SB	12	4	P292	埴輪 I 203	H1 A	-	白?	-	丸縄文	にぶい黄緑	?	?	

第3節 縄文時代の遺物

多数存在しは時代なしで、磨きなどが不明なもの

把手・突起部	形状	幅 (mm)	高さ (mm)	厚さ (mm)	製作方法	磨削上状態	用途	形状		材質		用途	加工順序	備考 (彫刻痕か)
								幅 (mm)	高さ (mm)	材質	その他			
なし	A	5.5	2	4	なし	滑磨き、分磨	取巻き、分磨	A1a/B	4/1.5	0.5~	交互削突	磨削わき/充満	磨削一次線法一磨削わき法線	
なし	D	5~	0.5	2	3&4	磨き等	取巻き等	A1a/B	5/1.5	0.5~	なし	磨削法/充満	磨削一番線法一次線	
なし	14	14	1.5	1.1	なし	取巻き	取巻き	A1a/B	2/2.5	0.5	なし	充満	磨削二線法	
なし	A	5	1	2/2	4/5	取巻き	取巻き	C3a	3	0.7	磨削上磨み	充満	磨削一次線法一磨削上磨み	
なし	A	11~	5	1	2/2	取巻き	取巻き	A1a	3/5	1	なし	取巻き	磨削一次線法一充満法一磨削一次線法	
なし	A	10	7	1/4	1/4	取巻き	取巻き	A1a	5/4	1	なし	充満、磨削法	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A	6	0.5	1	1	取巻き	取巻き	A1a	3	0.1	なし	取巻き	磨削一次線法	
なし	A	14	2.5	2/3	3/4	三分線磨	取巻き、6字法	A1a	6	1	なし	磨削三分	磨削一点	
なし	C	10	1.5	1/4	3/4	取巻き	取巻き	A1a	4~5	0.5	なし	磨削法	磨削一番線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A	7	1.5	1/4	1/4	取巻き	取巻き	A1a	3	1	なし	取巻き	磨削一番線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A	7	1.5	1/4	1/4	取巻き	取巻き	A1a	3	1	なし	取巻き	磨削一番線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A	6	3	3/4	1/4	取巻き	取巻き	A1a	3	1	なし	磨削法	磨削一番線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A	4~	3.5	2/4	1/4	取巻き	取巻き	A1a/C3a	4/3	0.5	なし	磨削法、充満	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	E	12	1.5	1/4	1/4	取巻き	取巻き	A1a	2/3	0.5	なし	磨削法、充満	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A+H	7	3.5	3/8	なし	取巻き	取巻き	C3a/B	5.5	1.2	なし	磨削法/充満	磨削一番線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A	5	1~	2/3	1/4	取巻き	取巻き	A1a	8.5	1	なし	充満	磨削一次線法	
なし	A	5	3.5	1/4	1/4	取巻き	取巻き	A1a	5	2	なし	磨削法	磨削一番線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A	5~8	3	1	3/4	削み	削み	C3a	4.5	1.7	なし	磨削法	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A	6~8	2.5	2	1	削み	削み	C3a	3	0.5	なし	磨削法	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A	6~8	2.5	2	1	削み	削み	C3a	3	0.5	なし	磨削法	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A+H	7	1.2	2	3/4	なし	なし	A1a	3	0.5	なし	磨削法	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A	5	4	3/4	なし	なし	なし	A1a	7	1.5	なし	磨削法	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A1a	5/3	1.4	なし	磨削法	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A	5	2	4	なし	取巻き	取巻き	A1a	2	1	なし	磨削法	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A	6~	2	1/2	2/4	なし	なし	A1a	5.5/4	0.8	なし	磨削法	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	B	4~	2	2	1	なし	なし	C3a	4.5	2	なし	磨削法	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A	5	1~	3/4	1/4	なし	なし	A1a	2.5	1	なし	磨削法	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A	5	1~	3/4	1/4	なし	なし	A1a	2.5	1	なし	磨削法	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A	6~7	2~	3	4	なし	なし	A1a	5	2	なし	磨削法	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A	5~7	2~	4	4	なし	なし	A1a	3	1	なし	磨削法	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A	8	3.5	2	4	なし	なし	A1a	1	1	なし	磨削法	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A	4.5/8	2.5	3	1&4	なし	なし	A1a	3	1	なし	磨削法	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A+B	8~	5/2	2/3	1/3	なし	なし	A1a/C3a	5/6.5	1.2	なし	磨削法/充満	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A+B	6/2	2/3	2/3	1/4	なし	なし	A1a	2	0.5	なし	磨削法	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A	10/3	2.5	1	3/4	なし	なし	A1a/B/C3a	4/4	1	なし	充満、磨削法	磨削一次線法	
なし	A	3	1	1/4	なし	なし	なし	A1a/C3a	3/4	1.2	なし	磨削法/充満、分磨	磨削一次線法一分磨法一磨削一次線法	
なし	A+C	12/8	3.5	2	4.1	なし	なし	C3a	5	1	なし	三分文	取巻き、充満	
なし	B	5~	2.5	2	3	なし	なし	A1a/C3a	3	0.5	なし	充満	磨削一次線法一磨削上磨み	
なし	A	8	2~	2	2/4	なし	なし	A1a/C3a	5/5	1.2	なし	分磨、充満、磨削法	磨削一次線法一分磨法一磨削一次線法	
なし	A	6~	3.5	1~	1/4	なし	なし	A1a	4	0.5~	なし	三分文	磨削法、充満	
なし	A+B	7.5/3	2	2	1	なし	なし	C2-C3a	4	0.5	なし	取巻き	磨削一次線法	
なし	A	3	3	2.5	1	なし	なし	A1a	2	1	なし	三分文	磨削法、充満	
なし	A	8	3	1/4	1/4	なし	なし	A1a	4/1.5	1.2	なし	取巻き	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A	5~	2	1/4	なし	なし	なし	A1a	3/2	0.5	なし	取巻き	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A	5~	2	1/4	なし	なし	なし	A1a	4/1.5	1.2	なし	取巻き	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A	5~	2	1/4	なし	なし	なし	A1a	3/2	0.5	なし	取巻き	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	A	5	4	1	1/4	なし	なし	A1a	1.5	0.5	なし	取巻き	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	
なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	A1a	4	5	なし	取巻き	磨削一次線法一磨削法一磨削一次線法	

表14 聖石遺跡出土主要土器の属性(2)

白は不明・つやなしの白色胎子(火山岩・軽石か)、白はつや有り白色胎子(厚成質?)
石=石炭、黒=黒炭

器原番号	発見者 (通し)	住居番号	出土位置 (土層番号)	器名	器種	器文	口部 形状	口部 径	器底 形状	胎土	底厚(底 径か)	基本属性		器質属性		
												器文(文様 施)	色調	属性分類	器質分類	
152	1	208	SB	13	別製 深鉢	77C1	H2	D	-	雲母、石炭	-	底縁状突起	赤褐色	-	11E1	
152	5	212	SB	13	5 P197	別製 深鉢	12B37	H1	A	白1, 雲母	-	丸縁文	にぶい黄褐色	12E6	11E1	
152	6	212	SB	13	4 P190	別製 深鉢	75B	H1	A	白1, 雲母	底縁	丸縁文	にぶい黄褐色	12E6	11E1	
153	1	23	SB	14	1 遺跡?	別製 深鉢	?	-	-	白1	-	底縁状平行波線	灰黄褐色	12E6	11E1	
153	1	212	SB	17	1 遺跡?	別製 深鉢	2C1	H1	△	白1, 白2, 石炭	-	-	円底	灰褐色	?	11E1
153	4	208	SB	13	2 P197	別製 深鉢	75B	H1	A	白1, 雲母	底縁	丸縁文	にぶい黄褐色	12E6	11E1	
154	1	215	SB	15	1 P197	別製 深鉢	1E1	H1	A	白1, 2	-	半底縁	赤褐色	12E4	11E2	
154	2	214	SB	17	2 P197	別製 深鉢	14C3	H1	A	白1多	-	底縁状突起	黒褐色	?	11E1	
154	2	217	SB	18	3 遺跡?	別製 深鉢	14B4	H1	A	白1, 2, 緑雲母	-	半底縁	明赤褐色	10E8	11E1	
154	4	216	SB	18	2 遺跡?	別製 深鉢	7C2	-	-	白1	-	底縁状突起	にぶい黄褐色	17E4	17E2	
155	1	166	SB	19	2 9A8?	別製 深鉢	2C2	H1	B	白1, 2, 雲母	-	底縁状突起?	にぶい黄褐色	14E4	11E1	
155	2	284	SB	19	8 P	別製 深鉢	V	H1	A	白1, 白2, 石炭	底縁	底縁状突起	にぶい黄褐色	10E4	11E1	
155	3	168	SB	19	4 P363-339	別製 深鉢	11C3	H1	A	白2, 雲母	-	幅16mm条線	明赤褐色	10E8	11E1	
155	4	168	SB	19	5 P315?	別製 深鉢	2 C27	H1	A	白1多, 雲母	-	幅13mm条線	にぶい黄褐色	10E4	11E1	
155	5	286	SB	19	10	別製 深鉢	14C3 (V)	H1	B	白2, 雲母, 黒色	-	幅12mm条線	黒褐色	1 E6	11E1	
155	7	285	SB	19	9	別製 深鉢	14C3 (V)	H1	A	白2, 雲母	-	幅11mm条線	褐色	なし	11E1	
155	8	167	SB	19	3 P341/32	別製 深鉢	11C4	H1	B	白1, 雲母	底縁	底縁状平行波線	黒褐色	10E7	11E1	
156	1	22	SB	20	1 遺跡?	別製 深鉢	14-	H1	A	緑白2, 雲母	-	幅9mm条線	にぶい黄褐色	(1-1)E5	11E1	
156	1	220	SB	21	1 P	別製 深鉢	V	H1	D	白2, 石炭	-	底縁	赤褐色	1E4	1E3	
156	10	216	SB	19	7 P307	別製 深鉢	12	H1	A	白1, 雲母	底縁	底縁状突起	にぶい黄褐色	?	11E1	
156	11	165	SB	19	1 P14-913	別製 深鉢	14C3	H2	B	白1, 白2, 雲母	底縁	幅11mm条線	明赤褐色	14E4	(1-1)E3	
157	1	21	SB	22	1 P1	別製 深鉢	14-	H2	B	白2, 砂	-	底縁状突起	赤褐色	14E7	12E7	
157	1	127	SB	23	1	別製 深鉢	14 (V)	H1	B	白1多	-	底縁状突起	赤褐色	?	11E1	
157	1	222	SB	24	2 P303	別製 深鉢	12B2	H1	C	白1多	-	底縁状突起	にぶい黄褐色	15E4	12E2	
157	2	126	SB	23	2 P	別製 深鉢	V	H1	A	底縁	-	丸縁文	灰褐色	15E4	12E1	
157	2	223	SB	24	3 P306	別製 深鉢	12B1	H1	C	白1多	-	平行半底縁	明赤褐色	14E7	12E1	
157	6	225	SB	24	5 P510	別製 深鉢	17C2	H1	C	緑白1, 石炭	-	半底縁	褐色	?	11E1	
157	7	226	SB	24	6 P503	別製 深鉢	13 B37	H1	C	白1多	-	底縁	にぶい黄褐色	14E6	11E1	
158	8	228	SB	24	8 P501	別製 深鉢	2B2	H2	D	白1多, 石炭	-	底縁状突起	明赤褐色	12E4	11E1	
158	11	227	SB	24	7 P505	別製 深鉢	2B2	Y2	B	石多, 雲母	-	底縁状突起	褐色	14E4	11E1	
158	14	229	SB	26	9 P504	別製 深鉢	14B3	H1	C	白1	底縁	底縁状突起	明赤褐色	なし	なし	
159	1	232	SB	25	3 P53	別製 深鉢	V2	H1	D	緑白1, 雲母	-	幅8mm条線	明赤褐色	?	11E1	
159	8	236	SB	25	7 P70	別製 深鉢	2C27	H2	A	白1他	-	L2縁文	にぶい黄褐色	12E2	11E1	
159	7	234	SB	25	5 P70	別製 深鉢	12	H1	A	白1	-	丸縁文	明赤褐色	15E4	11E1	
159	10	190	SB	25	1 P140	別製 釣手	?	-	-	白1多	底縁	底縁	赤褐色	2	2	
160	1	238	SB	26	2 P87	別製 深鉢	2C1	H1	A	白1, 白2	-	半底縁	褐色	10E4	11E2	
160	2	242	SB	26	8 P86	別製 深鉢	12-	H1	F	雲母	-	半底縁	褐色	14E7	11E1	
160	5	240	SB	26	4 W5 127 刀	別製 深鉢	V	H1	A	白2, 雲母, 石炭	-	L2縁文	明赤褐色	?	11E1	
160	6	237	SB	26	1 P85	別製 深鉢	12B2	H1	F	白2, 大, 雲母, 石炭	底縁	丸縁文	にぶい黄褐色	14E6	10E2	
160	8	238	SB	26	3 P89	別製 釣手	2C1	H2	A	白2, 雲母	-	L2縁文	赤褐色	12E2	11E1	
161	2	122	SB	28	5 P72	別製 深鉢	V	H1	A	雲母, 石炭	-	底縁	明赤褐色	47	10E1	
162	3	119	SB	28	2 P46	別製 深鉢	12 A27	H2	D	白1, 白2	-	底縁状突起	赤褐色	14E4	11E1	
162	4	120	SB	28	3 P54	別製 釣手	?	-	-	白1, 白2?	-	L2縁文	明赤褐色	?	?	
162	5	121	SB	28	4 P17	別製 深鉢	14B2	H1	A	白1多	-	L2縁文	赤褐色	?	11E2	
163	1	251	SB	30	1 P87	別製 深鉢	V	H1	B	石多, 白1	-	底縁	明赤褐色	10E4	11E2	
163	1	281	SB	32	10 遺跡?	別製 深鉢	1C2	-	-	雲母, 白1	底縁	底縁	灰褐色	10E4	10E2	
163	3	280	SB	32	8 P104	別製 深鉢	12	H2	D	白1, 雲母	-	底縁状突起	赤褐色	?	11E2	
163	4	256	SB	32	4 P72	別製 深鉢	12-	H1	D	白1多	-	底縁	明赤褐色	?	12E7	
163	5	281	SB	32	8 P102	別製 深鉢	11	H2	D	白1, 2底縁	-	底縁状平行波線	にぶい黄褐色	14E4	11E1	
163	6	258	SB	32	7 P3	別製 深鉢	14B2	H2	C	緑白1, 雲母	-	底縁	明赤褐色	14E7	11E1	

基部三稜・四しは現代まで、磨きなどが不明確なもの

把手・突起部	形状				用途		形状		用途		用例	用例	遺文順序	備考(参照ほか)	
	形状	幅(mm)	高さ(mm)	傾斜	給付方法	用途	形状	幅(mm)	高さ(mm)	用途					
突起	A	6	2	2	4	なし	区画文、渦巻文	A1a	3/2	1.5B	交互刺突	磨削・光輝法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
なし	E	4	1.5	1-2	1/3	なし	区画文	A1a	3/5	0.5B	なし	磨削文、磨削法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
?	D	6	1-2	1	4	なし	磨削文	A1a	4.5/4	1	なし	光輝、磨削法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
X字状把手(平頭)	A	5.5	2.5	3	1/4	なし	磨削文	A1a	4	1.5B	なし	磨削法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
丸底、丸底(平頭)	B	7	3	1	1/5	なし	磨削文	A1a	2	0.5B	なし	磨削文、光輝法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
なし	B1	7	3	1	1/5	なし	磨削文	A1a	2	0.5B	なし	磨削文、光輝法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
なし	B2	7	2.5	1	4	なし	分帯、磨削、渦巻	A1a	5/2.5	1.5B	なし	磨削法/光輝法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
なし	A1B	4	2	1-2	4	なし	区画文、磨削文	A1a	3	1	交互刺突	磨削法、光輝法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
X字状把手(手摺)	E	7	2.5	1/2	27	なし	磨削文	D	1.5B	0.5B	なし	磨削法/光輝法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
なし	E1	7	2.5	1	2	なし	分帯	A1a/B	4/1	0.5B	なし	分帯、磨削文、光輝法	不明		
なし	E	13	2.5	1	2	なし	分帯	A1a?	8	0.5	なし	磨削法(条線)	磨削・条線	磨削・条線	
X字状把手	E	10	1.5	1-2	3/4	なし	磨削文	A1a	5	0.5B	なし	磨削法	磨削・条線	磨削・条線	
なし	C	7	2	2	3	なし	分帯、磨削文	A1a	8	0.5B	なし	磨削法	磨削・条線	磨削・条線	
なし	E1	7	2	2	3	なし	分帯	A1a	8	0.5	なし	口縁部磨削	条線	条線	
なし	D	8	2	1	3	なし	分帯、磨削文	G2a	3.5	0.5	なし	光輝	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
なし	E	7	1.5	1-2	2/3	なし	分帯、磨削文	A1a/C2a	5	1	なし	磨削法	磨削・条線	磨削・条線	
突起	A-1	6/12	1.5/3	1-2	4	1は二分	区画文、磨削文	A1a	3/2	1.5B	交互刺突、沈積	磨削法、光輝法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
丸孔突起	A	5	3.5	2	1/2	なし	磨削文	A1a	4	0.5	なし	磨削法、磨削文	磨削・磨削文	磨削・磨削文	
楕圓状把手	A	7	3.5	1/2	1/4	刻み	区画文、磨削文	A1a	4/3	0.5	なし	磨削法/光輝法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
なし	A	5	2.5	2	1/3	なし	区画文	A1a/C2a	5	1.5	なし	光輝、磨削法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
なし	A	4	4	1	1/4	磨削文	区画文、磨削文	A1a	3	1.5	なし	磨削法、光輝法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
なし	A1	5	3	1	1	なし	区画文	A1a	3	1	なし	磨削法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
なし	A	6.5	1.5	4	2	1/4	区画文	A1a/B1a/C2a	4/1.5	0.5B	なし	磨削法、光輝法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
なし	B	5.5	1.5	1	A	給付文	分帯、磨削文	G2a	4/8	1	なし	光輝	光輝法	光輝法	
なし	A-1	6/15	2	1	1/4	1は二分	区画文	A1a/B	5.5/2	1/2	なし	磨削・二分、光輝法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
大把手2	A	4	6	0.5	2/3	1/4	分帯、磨削文	A1a	3	2	なし	磨削法、光輝法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
大把手2	A-1	6/14	2	1	1	1は二分	把手部刻み磨削文	A1a/B	5/4	1.5B	なし	磨削・二分、光輝法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
なし	A-1	6	2	1	1	なし	-	A1a	2	1.5B	なし	口唇部(尖)	磨削・条線	磨削・条線	
なし	A1a	6	2	1	1	なし	-	A1a/B	3-4	1.5B	なし	分帯、磨削法	磨削・条線	磨削・条線	
山形突起	A	8	2.5	2	1/2	なし	磨削文	G1a	-	-	なし	-	不明		
磨削付把手	A	4	4	1	1	なし	磨削文	B1a	3	1.5	なし	磨削法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
なし	A	5	1-8	1	1/4	刻み	分帯、区画文、磨削文	A1a/C2a	4/3	0.5B	A1aは角弁と三角弁文	磨削法、光輝法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
尖角	A	6	4	3.5	2	1/4	区画文、磨削文	A1a/C2a	4.5/4	0.5B	磨削法(角弁)	磨削法、光輝法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
なし	B	5	3	1	1	なし	磨削文	G1a	-	-	なし	-	磨削文		
なし	A	3	2.5	2	1	磨削文	区画文	B1a	1	0.5B	なし	磨削法、光輝法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
楕圓状把手	A	8	2.5	2	1	なし	磨削文	A1a/B1a	2/3	0.5B	なし	主帯線/把手文	磨削・磨削文	磨削・磨削文	
なし	A	6	2	1	4	なし	磨削文	A1a	4/2	1	なし	磨削法、光輝法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
渦巻文付突起	A-F	4	4	1	2	1/4	分帯、磨削文	A1a	2	1.5	交互刺突	磨削法、光輝法、磨削文	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
?	B	3	3	1	1	なし	磨削文	G2a	5	1.8	なし	分帯、磨削法	磨削文	磨削文	
なし	B	5	2.5	1	1/2	1	分帯、磨削文	A1a	2.5	2	なし	磨削文	磨削文	磨削文	
なし	B	5	2.5	1	1/2	1/4	区画文、磨削文	B1a	2.5	0.5B	なし	磨削法、光輝法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
なし?	A	8	1.5	3	1	なし	磨削文	A1a	2/3	1	交互刺突	分帯、磨削法、光輝法	磨削・分帯法	磨削・分帯法	
突起	E1	7	2	1	1	なし	Iは文帯等	A1a/C2a	4/2	0.5	なし	磨削法、光輝法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
なし	A	5	2.5	2	1/4	なし	分帯、磨削文	A1a	4/1	0.5	なし	磨削法、光輝法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
突起	A-1	11	7	1	1/4	なし	1は二分磨削	A1a/C2a	5.5/2	2/0.5	なし	磨削法、光輝法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	
山形小突起	A	6	4	2	1	なし	口縁部磨削文	A1a	3	1.5B	なし	磨削文、光輝法	磨削・光輝法	磨削・光輝法	

表14 聖石遺跡出土主要土器の属性(3)

白は不明(つやなし)の白色釉子(火山産・焼石器か)、白はつや有り(の白色釉子(成産?)
石・瓦、雲・雲石)

図版番号	器元番号 (通し)	収蔵番号	出土地点の 番号・取 出場所	器種	器名	器形		胎土	底面形状	地文(文様装 飾)	色調	年代	
						口 縁部	底 部					器位分類	年代 分析
163	7	237	SB 32	P105	別表 深鉢	I 482	H F b	白1	磨?	縞彩段状文様	赤褐色-黒焼	1784?	12B1
164	12	255	SB 32	P102	別表 深鉢	I 202	H2 A E	白	磨? 磨	LR縞文	赤褐色-黒焼	1784?	12B1
164	13	253	SB 32	P103	別表 深鉢	I 482	H1 A E	白1, 磨	磨?	LR縞文	赤褐色-黒焼	1784?	12B1
164	16	254	SB 32	P101	別表 釣手	-	-	-	磨	磨	明赤焼-焼灰	2	2
165	1	252	SB 32	P14	別表 深鉢	I 4	H1 A	白1, 白2, 磨	磨	縞200条綫	橙-黒焼	1784?	12B1
165	1	280	SB 35	P17	別表 深鉢	Ⅱ201	H1 A	白1, 雲, 石	磨	単式綫	明赤焼-黒焼	?	12B2?
165	1	291	SB 35	2	別表 深鉢	Ⅱ104	H21 A	縞白1, 磨	磨	単式綫	橙-黒焼	1585	12B1
165	3	283	SB 35	P13	別表 深鉢	I 403	H1 C	白1, 白2, 磨	磨	LR縞文	明赤焼-黒焼	1023	12B1
165	3	285	SB 38	2	別表 深鉢	V1	H1 A	白1, 磨	磨	条綫状半段状	にぶい黄焼-焼灰	?	12B1
166	6	277	SB 38	P48	別表 深鉢	IV Ⅱ1 403	Y1 B	白1, 雲, 石	磨	縞彩段状文様	明赤焼-焼灰	1784?	12B1
166	7	271	SB 36	P10	別表 深鉢	I 403	H1 B	白1, 雲, 石, 磨	磨	縞200条綫	黄褐色-焼灰	1023	12B1
166	9	270	SB 36	P80	別表 深鉢	I 403	H1 A	白1, 白2, 雲, 石	磨	縞150条綫	にぶい黄焼-黒焼	1023	12B1
166	10	268	SB 36	P85	別表 深鉢	I 483	V1 A b	白1, 白2, 磨	磨	条綫状半段状	明赤焼-焼灰	1784?	12B1
168	11	273	SB 36	P85-1	別表 深鉢	I 482	H1 B	白1, 磨	磨	縞140条綫	にぶい黄焼-焼灰	?	12B1
167	13	280	SB 38	P51-128	別表 深鉢	Ⅱ2027	-	白1, 2, 雲, 磨	磨	条綫状半段状	明赤焼-黒焼	?	12B1
167	16	289	SB 38	P85-1	別表 深鉢	I 2	H2 A	白1, 雲, 石	磨	縞200条綫	明赤焼	1584?	12B1
167	17	276	SB 38	P2	別表 大鉢	I 401	H	白1, 白2, 石, 磨	磨	なし	磨焼-にぶい黄	1023?	10B2
168	18	272	SB 38	P78	別表 深鉢	I 4	H1 A	白1, 磨	磨	LR縞文	橙-黒焼	?	12B2
168	19	274	SB 36	P97-105 P97-106	別表 深鉢	I 403	H1 B b	白1多, 磨	磨	LR縞文	橙-黒焼	1784?	12B1
168	20	279	SB 38	P113	別表 深鉢	I 282	H2 F b	白1, 2, 雲, 磨	磨	LR縞文	にぶい黄焼-焼灰	1584?	12B1
168	21	278	SB 36	P83	別表 深鉢	I 282	H1 F b	白1多	磨	LR縞文	にぶい黄焼-焼灰	1584?	12B1
168	22	287	SB 38	P5	別表 深鉢	I 2	H2 D	白1, 白2, 雲, 磨	磨	なし	にぶい黄焼-焼灰	1484?	12B2?
168	23	29	SB 37	1	別表 深鉢	I 403	-	白1, 雲, 磨	磨	縞150条綫	黄褐色-焼灰	1784?	12B1
168	24	43	SB 37	4	別表 深鉢	Ⅱ203	Y1 A b	白1多, 石, 磨	磨	磨	赤焼-黒焼	1478?	12B1
169	3	41	SB 37	2	別表 深鉢	V	H1 A	白1多, 磨	磨	縞彩段状文様	にぶい黄焼	?	12B1
169	4	44	SB 37	3	別表 深鉢	I 403	H1 A E	白1多	磨	LR縞文	赤焼-黒焼	?	12B1
169	5	42	SB 37	5	別表 深鉢	IV Ⅱ1 403	H1 A E	白1多, 石, 雲, 磨	磨	LR縞文	黄焼-黒焼	1784?	12B1
170	1	1	SB 38	1	別表 深鉢	I 4	H1 A	白1, 2, 雲, 磨	磨	単式綫	明赤焼-黒焼	1585	12B1
170	2	124	SB 38	P13	別表 深鉢	Ⅱ104	H1 G b	縞白1	なし	縞彩段状文様	明赤焼-にぶい黄	1785	12B1
170	2	3	SB 38	3	別表 深鉢	I 2	Y1 A	白2, 磨	磨	LR縞文	黒焼	1486	12B1
170	3	123	SB 38	P12	別表 深鉢	?C4	-	白1, 雲	磨	単式綫	明赤焼-焼灰	1784?	?
170	4	15	SB 37	P402	別表 深鉢	Ⅱ203	H1 A b	白1, 2, 雲, 石, 磨	磨	縞150条綫	赤褐色-焼灰	1584?	12B1
170	6	45	SB 37	6	別表 深鉢	V	H1 A b	白1多, 雲, 磨	磨	八半字綫	にぶい黄焼-黒焼	?	12B1
171	5	13	SB 38	P980	別表 深鉢	I 403	H1 A b	白1, 雲, 磨	磨	縞100条綫	明赤焼-焼灰	1585	12B1
171	7	18	SB 38	P431	別表 深鉢	I 283	H2 B	白1多	磨	縞彩段状文様	にぶい黄焼-黒焼	1780	12B1
171	8	12	SB 39	12	別表 深鉢	I 483	Y1 A	白1, 2, 雲, 磨	磨	縞120条綫	明赤焼-黒焼	1488	12B1
171	9	4	SB 39	4	別表 深鉢	V	H1 A b	白1, 2, 雲, 磨	磨	縞彩段状文様	赤焼	1023?	12B1
171	10	19	SB 39	P401	別表 深鉢	Ⅱ203	H2 A b	縞白1, 磨	磨	縞140条綫	明赤焼-焼灰	1285	12B1
171	12	7	SB 39	7	別表 深鉢	I 403	H1 A b	白2多, 雲, 磨	磨	縞100条綫	にぶい黄焼-焼灰	1087	12B1
172	15	6	SB 38	P366	別表 深鉢	I 2	H2 B	白1, 雲, 磨	磨	LR縞文	にぶい黄焼-焼灰	1484?	12B1
172	19	6	SB 39	P124	別表 深鉢	I 2	H2 B	白1, 雲, 磨	磨	縞100条綫	?	?	12B1
172	19	8	SB 39	P480	別表 深鉢	I 2	H2 B	白1, 雲, 磨	磨	縞100条綫	?	?	12B1
172	19	14	SB 39	P382	別表 深鉢	I 483	Y2 B	白1, 2, 雲, 磨	磨	なし	明赤焼	?	12B1
172	19	2	SB 39	P436	別表 深鉢	I 483	Y3 A	白1多, 雲, 磨	磨	縞彩段状文様	明赤焼-黒焼	1784?	12B1
172	20	18	SB 39	P466	別表 深鉢	I 242	Y1 D	白1, 2, 雲, 石, 磨	磨	LR縞文	にぶい黄焼-黒焼	1784?	12B1
173	4	72	SB 40	P145	別表 深鉢	I 403	Y1 A	白1, 2, 雲, 石, 磨	磨	縞130条綫	にぶい黄焼-焼灰	1480	12B1
173	5	71	SB 40	P106	別表 深鉢	Ⅱ203	H2 A	白1, 雲, 磨	磨	縞110条綫	明赤焼-黒焼	1484	12B1
173	6	74	SB 40	P145以下	別表 深鉢	I 403	H1 B b	白1多	磨	条綫状半段状	明赤焼-黒焼	1088	12B1
173	7	87	SB 40	P142 143	別表 深鉢	I 403	H1 B b	白1, 雲	磨	条綫	赤焼-焼灰	1786	12B1
173	8	70	SB 40	P133	別表 深鉢	I 403	H3 B	白1, 雲, 磨	磨	縞彩段状半段状	焼灰-黒焼	1484	12B1

基部区画・丸は削り代として、磨きなどが不明確なもの

把手・突起部	器底形状				器底形状				器底形状	備考(非該当は)			
	形状	幅(mm)	高さ(mm)	傾斜	形状	幅(mm)	高さ(mm)	傾斜					
なし	A	3~9	3~19	1/3	なし	区画文、磨面文	A1a	2~9	1	なし	磨面文、光澤	磨面一次線	
高脚突起	A+C	6~10	3~7	2	1/4	なし	区画文	A1a	5	1.5	なし	磨面文、光澤	磨面一次線、磨面二次線、磨面三次線
約手	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	3.5	1.5	横状把手部にのみ	区画文	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	7	0.8	なし	磨面文	磨面一次線
円孔状突起	A+B	6.5~7.5	2.5	2	1/4	なし	分帯、磨面文	D1a	2.5	1.5	なし	磨面文	磨面一次線、磨面二次線
突起	A+E	7~10	2.8	1	1/4	なし	区画文	A1a	3.5~5	0.5~0.7	なし	磨面文、光澤	磨面一次線、磨面二次線
なし	B	3~5	2.5	1/3	1/8	なし	大波状、蛇行文	C3a	5	1.5	なし	磨面文	磨面一次線
なし	A+E	7~11	2.5	1	2/4	なし	分帯、主磨面	A1a/C3a	3~8	0.5/0.9	なし	磨面文、磨面文	磨面一次線、磨面二次線
なし	A+E	11~17	2.2	1	1/4	なし	区画文	A1a	4~6	1.2	なし	磨面文、光澤	磨面一次線、磨面二次線
なし	A-F	7~11	2.5	1	1/4	なし	区画文	A1a	3.5	1	なし	磨面文、光澤	磨面一次線、磨面二次線
突起	A-F	10	1~3.5	1	2	なし	磨面文	D1a	6~11	0.2	なし	磨面文	磨面一次線、磨面二次線
突起	E	8~12	2	1	2/4	なし	磨面文、光澤	A1a/C3a	6/12	0.5	なし	磨面文、光澤	磨面一次線、磨面二次線
なし	C	8.5~14	0.5	1/2	2	なし	分帯、磨面文	D1a	8	0.5	なし	磨面文	磨面一次線
円孔状把手	D	11~17	1.5	1	2	なし	主磨面	D1a/C3a	6/12	0.5	なし	磨面文、光澤	磨面一次線、磨面二次線
約手	A+F	7~15	1.7	1	3	なし	分帯、磨面文	A1a/D1a	4.5~7.5	0.5	なし	磨面文、磨面文	磨面一次線、磨面二次線
約手	D	12~16	0.1	2	1/4	なし	区画文	A1a	7/12.5	1	なし	磨面文	磨面一次線
なし	A	6~9	4.5	1	1/4	なし	分帯、磨面文	A1a	7/2	0.7	なし	磨面文、磨面文	磨面一次線、磨面二次線
なし	C+E	10~16	0.5	1/2	2	なし	分帯、磨面文	A1a/D1a	6/8	0.5	なし	A蛇行文、磨面文	磨面一次線、磨面二次線
なし	A	7	1.2	1/2	1/3	なし	分帯、磨面文	A1a	4~7	0.2	なし	磨面文、磨面文	磨面一次線、磨面二次線
なし	F	5~12	2~8	1/2	1/3	なし	分帯、磨面文	A1a	6	0.5	なし	磨面文、磨面文	磨面一次線、磨面二次線
円孔状把手	C	12	1.5	1	1/3	なし	口輪部区画	A1a	11	1.5	なし	磨面文	磨面一次線
突起	C	12	1.5	1	2	なし	分帯	A1a	4	1.2	なし	分帯、磨面文	磨面一次線、磨面二次線
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	2.5	0.2	なし	分帯、磨面文	口輪部一次線
なし	A	15	3~5	1	1/2	なし	磨面文、磨面文	A1a	4	0.5	なし	光澤	磨面一次線
大把手1	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	3	1.2	なし	磨面文	磨面一次線
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	8	0.8	なし	磨面文	磨面一次線
なし	A+E	10~17	4~7	1	1/4	なし	口輪部区画	A1a	5.5~8	1.5	なし	磨面文、光澤	磨面一次線、磨面二次線
なし	A	8.5	4	1	1/4	なし	区画文	A1a	2.5	0.8	なし	円形突起	磨面一次線
なし	E	7.5	3.5	1	1/4	なし	口輪部区画	A1a	6	0.5	なし	磨面文、磨面文	磨面一次線、磨面二次線
?	A	6	3	1	1	なし	-	A1a/Fa	4/15	1.5	なし	主磨面、分帯、光澤	磨面一次線、磨面二次線
突起	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	10	7	なし	磨面文、磨面文	磨面一次線、磨面二次線
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	3~4	0.8	なし	磨面文、光澤	磨面一次線、磨面二次線
なし	C+E	8~12	2.5	1	2/3	なし	区画文、磨面文	A1a	6/10	0.5	なし	磨面文、磨面文	磨面一次線、磨面二次線
なし	A+D	7.5~10	3~4	1	1/3	なし	口輪部区画、磨面文	A1a	6/2	0.5	なし	磨面文、光澤	磨面一次線、磨面二次線
なし	C	11~17	2.5	1	2/3	なし	区画文、磨面文	A1a/D1a	8/10	0.5	なし	磨面文	磨面一次線、磨面二次線
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a/Fa	5/2.5	1.2	なし	分帯、主磨面	主磨面一次線、磨面二次線
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	7	1	なし	分帯、主磨面	主磨面一次線、磨面二次線
突起	E	5~12	2	1	3	なし	口輪部区画	A1a	6	0.5	なし	三稜形磨面	磨面一次線、磨面二次線
小突起	A	6~10	2~6	1	2/3	なし	口輪部区画	A1a	3~7	1.5	なし	分帯、磨面文、磨面文	磨面一次線、磨面二次線
突起	B+E	10~11	0.4	1	1/2	なし	分帯、磨面文	なし	-	-	-	-	-
なし	A	10	2	1	1/4	なし	口輪部区画	A1a	7/2	3/1	なし	磨面文、主磨面、光澤	磨面一次線、磨面二次線
なし	E	7~17	2.2	1	1	なし	口輪部区画文の丸	A1a	6~12	4/1	なし	磨面文、主磨面	磨面一次線、磨面二次線
なし	E	14	1.5	1	2	なし	口輪部把手	B1a	3	1.5	なし	円文の中央	磨面一次線、磨面二次線
なし	A	6~8	1.5	1	3	なし	磨面文	A1a	4~6	0.5	なし	磨面文、蛇行文	磨面一次線、磨面二次線
なし	なし	-	-	-	-	-	-	D1a/C3a	12.5/3.5	1/2	なし	分帯、蛇行文、光澤	磨面一次線、磨面二次線
なし	C	10	4.5	1	1/3	なし	口輪部区画	A1a	6~8	1	なし	磨面文、磨面文	磨面一次線(条件不明)
円孔突起	A+E	8~12	1.5	1	3	なし	磨面文	A1a/Fa	6/4/1	0.8	なし	磨面文、蛇行文、光澤	磨面一次線、磨面二次線、磨面三次線

表14 聖石遺跡出土主要土器の属性(4)

白1は不明なつやなしの白色胎子(火山層・軽石層)製,白2はつや有り白色胎子(讃岐産?)
石=石質,黒=黒色

図録番号	復元番号 (土器通)	発掘番号	出土層	出土位置	出土時期	器種	形状			基本の分類			属性			
							形制	口縁	底	胎土	底胎土	胎土	色調	単位分類	機能分類	分析方法
173	9	77	SB	40	11	C10-M02-1層	別製 深鉢 I 4C3	H1	A	-	白1,2	-	条線状厚底鉢	灰褐~黒灰	10E?	11E1
173	10	78	SB	40	9	P128	別製 深鉢 I 4C3	H2	B	B	白1,2	-	條線状底鉢	褐~黒灰	14E3?	17E1
174	1	38	SB	43	15	P210	別製 深鉢 I 4C3	H1	A	B	白1,2,黄褐色	現代~唐	條線状底鉢	褐~黒灰	19E8	12E1
174	2	39	SB	43	10	P121	別製 深鉢 I 4C3	H1	A	E	白2,多,黄	現代~唐	條線状底鉢	白~黒灰	10E4	11E1
174	3	27	SB	43	4	P204	別製 深鉢 V	H1	A	B	白1,2	-	條線状底鉢	白~黒灰	10E5	11E1
175	4	26	SB	43	3	P204	別製 深鉢 V	H1	A	B	白1,2,赤	現代	條線状底鉢	白~黒灰	10E8	11E1
175	5	37	SB	43	14	P202	別製 深鉢 V2	H1	A	-	白1,2,多,黄	-	條線状底鉢	白~黒灰	10E7	11E1
175	6	36	SB	43	13	P202	別製 深鉢 V	H1	A	-	白1,2,多,黄	-	條線状底鉢	白~黒灰	10E6	11E1
175	7	34	SB	43	7	P202	別製 深鉢 V	H1	A	-	白1,2,多,黄	-	條線状底鉢	白~黒灰	10E5	11E1
175	8	34	SB	43	11	P199	別製 深鉢 V	H1	A	-	白1,2,多,黄	-	條線状底鉢	白~黒灰	10E4	11E1
175	9	34	SB	43	11	P199	別製 深鉢 V	H1	A	-	白1,2,多,黄	-	條線状底鉢	白~黒灰	10E5	11E1
175	10	31	SB	43	8	P122	別製 深鉢 深2A1	Y7	D	B	白1,多	唐~明	丸蓋文	明褐~黒灰	17E4	11E1
175	11	30	SB	43	7	P299	別製 深鉢 I 7B3	H2	C	-	白1	-	丸蓋文	白~黒灰	14E4	11E1
175	12	28	SB	43	6	P196	別製 深鉢 ?	-	-	F	白1,黄褐色	-	丸蓋文	褐~白~黒	?	?
175	13	28	SB	43	5	?	別製 深鉢 I 4C3	H2	B	B	白1,2	-	丸蓋文	白~黒灰	14E4	11E1
176	1	26	SB	44	7	?	別製 深鉢 深2C	-	-	B	白1,2	-	丸蓋文	明赤褐~黒灰	17E4	11E1
176	2	47	SB	44	1	P4	別製 深鉢 V	H1	A	-	白1,2,石,黄褐色	-	赤褐~黒灰	?	17E1	
176	3	48	SB	44	2	P2	別製 深鉢 V	H1	A	-	黄,黒,白	-	條線状厚底鉢	褐~黒灰	?	11E1
176	4	50	SB	44	4	P6	別製 深鉢 V	H2	A	-	白1	-	八字状厚底鉢	明赤褐~黒灰	14E4?	11E1
176	5	49	SB	44	5	P5	別製 深鉢 V	H1	A	-	白1,2,多,黄褐色	-	八字状厚底鉢	明赤褐~黒灰	14E4	11E1
176	6	48	SB	44	3	?	別製 深鉢 V	H1	A	-	白1,2,黄褐色	-	八字状厚底鉢	白~黒灰	?	11E1
176	8	51	SB	44	8	P11	別製 深鉢 7B2	-	-	B	黄,石,白	平明瓦	丸蓋文	白~黒灰	19E4	19E1
177	1	55	SB	47	4	?	別製 深鉢 7C2	-	-	E	白1,赤	-	短蓋文	白~黒灰	17E6	17E1
177	5	54	SB	47	3	?	別製 深鉢 I 2B3	H2	E	B	白1,砂,多	唐~唐	丸蓋文	白~黒灰	14E8	11E1
178	1	87	SB	48	9	?	別製 深鉢 7B1	-	-	B	白1,砂,多	唐~唐	丸蓋文	白~黒灰	17E4	17E1
178	2	82	SB	48	4	C3-4?	別製 深鉢 I 4A3	Y2	D	-	白2,砂,多	-	條線状厚底鉢	赤褐~灰赤	?	12E2
178	3	83	SB	48	5	OM-3?	別製 深鉢 I 2C2	H1	C	B	黄,白	唐	半環状鉢	褐~黒灰	17E4	11E1
178	4	85	SB	48	7	OM-3?	別製 深鉢 I 8	H2	C	-	白1	-	半環状鉢	灰褐~白~黒	?	?
178	7	78	SB	48	1	OM-4?	別製 深鉢 深1C4	H1	A	-	黄,石,白	-	半環状鉢	明赤褐	12E4	11E1
178	8	81	SB	48	3	?	別製 深鉢 深2C2	H1	A	-	白1,2,黄褐色	-	I字状厚底鉢	白~黒灰	19E5	11E2
179	1	96	SB	50	1	P128	別製 深鉢 深1C3?	H1	F	-	白1,白2,多	-	丸蓋文	褐~黒灰	13E9	11E1
179	2	126	SB	49	2	IA2	別製 深鉢 7B3	-	-	B	白1,赤,緑	なし	條線状底鉢	黒褐~白~黒	17E3	17E1
179	3	59	SB	50	4	?	別製 深鉢 7B1C2	H2	C	-	白1,砂	-	厚底鉢	灰褐~黒	14E4	11E2
180	1	60	SB	52	1	?	別製 深鉢 I 4B3	H1	A	-	砂	-	條線状底鉢	褐~黒灰	10E5	11E1
180	1	62	SB	52	1	?	別製 深鉢 I 4C3	H1	A	-	白1,砂	赤赤灰	丸蓋文	白~黒灰	13E5	11E1
180	2	64	SB	54	2	P16	別製 深鉢 I 4 B3	H1	A	-	白1,多,黄褐色	-	半環状鉢	黒	-	11E1
180	4	37	SB	50	2	P30	別製 深鉢 I 4B3	H2	B	-	白2,多,黄	-	條線状底鉢	赤褐~黒灰	-	11E1
180	5	58	SB	50	3	?	別製 深鉢 I 3B3	H1	D	-	白2,黄	-	短蓋文	褐~黒	-	11E1
181	1	95	SB	58	3	?	別製 深鉢 I 2C3	-	-	B	白1,多	唐	厚底光鉢	白~黒灰	17E8	11E1
181	2	91	SB	57	3	P1	別製 深鉢 I 2B3	H2	B	-	白1,2,多	-	0段多系丸蓋文	白~黒灰	14E10	11E1
181	3	88	SB	58	1	?	別製 深鉢 I 2	H2	A	-	白1,多,黄褐色	-	丸蓋文	褐~黒	14E8	11E2
181	3	88	SB	57	1	P2	別製 深鉢 I 4	H1	A	-	白1,2,赤	-	丸蓋文	白~黒	10E4	11E2
181	4	82	SB	57	4	P3	別製 深鉢 I 4	H1	A	-	白1,2,赤	-	八字状厚底鉢	黒	?	11E1
182	3	96	SB	58	4	P501-1	別製 深鉢 I 2C2	H1	A	-	白2,多,黄	(唐)~唐	條線状底鉢	褐~黒灰	10E7	11E1
182	4	94	SB	58	2	P502-1	別製 深鉢 V2 I 4C6	H1	A	-	白1,2,赤	現代~唐	條線状底鉢	明赤褐~灰赤	10E4	11E1
182	5	98	SB	58	6	P502	別製 深鉢 I 4	H2	A	-	白2,黄褐色	-	條線状底鉢	明赤褐~黒	14E8	11E1
182	6	97	SB	58	5	P507	別製 深鉢 I 2	H1	A	-	白2,黒,石	-	條線状底鉢	黒	?	11E1
182	7	100	SB	58	8	P501	別製 深鉢 I 2B3	H1	A	B	白1,多	唐	丸蓋文	明赤褐~黒	10E12	11E1
182	8	99	SB	58	7	P507	別製 深鉢 I 2B3	Y3	F	B	白2,多,黄	唐	丸蓋文	明赤褐~黒	17E4	12E1
183	1	101	SB	59	1	?	別製 深鉢 I 2C2	H2	B	-	白2,多,黄	?	半環状鉢?	明褐~白~黒	14E4	11E2
183	1	103	SB	60	2	?	別製 深鉢 I 4C2	H1	D	-	石,黄,白2,多	-	平明瓦	白~黒	17E4	11E2

厚さ任意-なしは単位なしで、厚きなどが不明なもの

把手・突起部	肩形系				用 例	比類系				肩文順序	備 考 (奇形ほか)			
	形状	幅 (mm)	高さ	始付 隆起・上縁 形状		形状	幅 (mm)	高さ	肩文・隆起文、その他			用 例		
なし	なし	-	-	-	-	D1a/A1a/91	9/2.5/3	0.5以下	なし	分帯、懸垂文	不明			
あり	A-E	6-13	1-4	1	なし	区画文、主線筋	A1a	2-1.5	0.5以下	なし	隆起筋	隆起-条線-隆起筋沈線-主線筋	肩文順注意	
なし	E/D	15-18	3.5	1/2	3	なし	区画、懸垂文	A1a	8	0.2以下	なし	隆起筋	隆起-隆起筋沈線-条線	
なし	A	5-11	1-4	1/4	なし	体部区画	A1a	4.8	0.5	なし	隆起筋	隆起-条線-隆起筋沈線		
なし	なし	-	-	-	-	-	A1a	5	1	なし	分帯、懸垂文	沈線-条線		
なし	なし	-	-	-	-	-	A1a	3	1.5以下	なし	分帯、懸垂文	沈線-条線		
なし	なし	-	-	-	-	-	A1a	3-1.5	1.5以下	なし	分帯、懸垂文	沈線-条線-主上沈線		
なし	なし	-	-	-	-	-	A1a	4.5	1.2	なし	分帯	沈線-条線		
なし	なし	-	-	-	-	-	A1a	4	1.1	なし	分帯、懸垂文	沈線-条線		
なし	なし	-	-	-	-	-	A1a	4	0.95	なし	分帯、懸垂文	沈線-条線		
なし	なし	-	-	-	-	-	A1a/W	4.5/2	1.2以下	なし	全線筋	懸垂文-沈線		
なし	なし	-	-	-	-	-	A1a	1.5	1.2以下	なし	全線筋	懸垂文-沈線		
?	A	7	4以下	1	1/4	なし	口縁部区画文	A1a	4/2.5	0.7以下	なし	隆起筋、懸垂文	隆起-懸垂文-沈線-条線-沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	A1a	5	0.5以下	なし	高帯文、懸垂文	沈線-条線		
?	なし	-	-	-	-	-	A1a	2	0.5	なし	懸垂文	沈線-条線		
山形小突起	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	4.5	2以下	なし	高帯文、区画文	沈線-条線-主上沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	4.5	1.7以下	なし	高帯文、区画文	高帯文-沈線-高帯文	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	5	2	なし	分帯、懸垂文ほか	沈線-条線-高帯文	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	2.5-1.5	1.5以下	なし	全線筋	沈線-条線-沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	3.5	1.5	なし	全線筋	沈線-条線-沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	2.5-1	1以下	なし	全線筋	沈線-条線-沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	3-2.5	1以下	なし	全線筋	沈線-条線-沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	3-1.5	1以下	なし	全線筋	沈線-条線-沈線	
?	C/E	6-19	2以下	1/2	4	なし	体部区画	A1a	5	1	なし	隆起筋	隆起-条線-隆起筋沈線(一部逆転)	
-	A-B	4-6	2以下	1/4	1/4	なし	隆起筋	A1a	3	1以下	なし	隆起筋	隆起-条線-隆起筋沈線(一部逆転)	
山形突起	A-E	10-15	4以下	1/3	4	なし	口縁部区画文	A1a	5-10	1.2以下	なし	隆起筋、懸垂文	隆起-条線-懸垂文-沈線-条線-沈線	
隆起突起	A	5-12	2.5	1/2	1/4	なし	分帯、区画文	A1a	2	0.9	なし	高帯文	高帯文-沈線-高帯文	
?	A-E	6-11	2.5	2	1/4	なし	分帯、懸垂文	A1a	4.5	0.5以下	なし	隆起筋、沈線	隆起-沈線-隆起筋沈線	
剥落	A-B	8-11	4.5	1	4	なし	懸垂文	A1b/A1c	4.5	2以下	なし	隆起筋、沈線	隆起-沈線-隆起筋沈線	
なし	A	7-9	4	1	8	あり(別外)	分帯、懸垂文?	C3a	5	0.5	なし	隆起筋、沈線	隆起-沈線	
なし	A	4-9	7以下	1	1	なし	分帯、区画文	B1a	2	1.5	なし	隆起筋	隆起-沈線	
なし	B	7/12	3	1/2	1	なし	口縁部区画文-高帯文	A1a	2.5	0.5以下	なし	体部区画文	高帯文-隆起筋-沈線	
なし	D	10-16	1	1	2以下	なし	高帯文ほか	A1a	8	0.8	なし	隆起筋	高帯文-隆起筋	
小突起	A	7以下	2-5	2/3	4	なし	区画文、高帯文	A1a	2.5-1	1以下	なし	隆起筋、沈線、高帯文	隆起-条線-沈線-高帯文	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	5	2.9	なし	条線-沈線		
小突起	E	11-18	3	1	1	なし	高帯文	A1a	8	1.9	なし	隆起筋	高帯文-沈線-高帯文	
なし	E	11-15	1.5	1	2	なし	高帯文ほか	D/C	12/3	0.5以下	なし	隆起筋、沈線	隆起-高帯文-隆起筋沈線	
小突起	A	6-12	2.5	1/2	1/4	二分沈線	口縁部区画文-高帯文	A1a/C3a	3.1/4	1以下	なし	隆起筋、沈線	隆起-高帯文-隆起筋沈線	
-	A	7-13	3	1/2	3	なし	分帯、懸垂文	なし	-	-	-	-	隆起筋沈線	
不明	C	1-18	1	1	4	なし	区画文	A1a	1.5-0.2	0.2	なし	体部区画文	隆起-沈線(高帯文?)	肩文順序再検討
なし	C	1-14	2-7	1/4	4	なし	口縁部区画文-高帯文	A1a	8	1	なし	隆起筋、高帯文	隆起-高帯文-沈線	
なし	C	7-10	3	1	1	なし	口縁部区画文-高帯文	A1a	4-6	1.5以下	なし	隆起筋、懸垂文	隆起-高帯文-沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a/W	5-7/2.5	2/0.1以下	なし	口縁部隆起筋	高帯文	
なし	E	10-15	2.5	1/2	3	なし	分帯、懸垂文	A1a	8/3	0.5以下	なし	隆起筋、沈線	隆起-隆起筋沈線-高帯文	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	8	0.3以下	なし	分帯、懸垂文	主線筋-条線-沈線	
なし	E	7-11	1	1	4	なし	口縁部分帯	A1a	3.2-1	1	なし	隆起筋	隆起-条線-沈線	
なし	E	11-15	1.5	1	3-2	なし	分帯、懸垂文	A1a/D	4/1.0	0.7以下	なし	隆起筋	隆起-条線-沈線	
なし	E	11-14	3.5	1	2/3	なし	連続沈線、懸垂文	A1a/D	4/8	0.7以下	なし	隆起筋、高帯文	隆起-高帯文-沈線	
なし	A	6-9	3-4	1/2	1/4	なし	分帯、高帯文	A1a	7	1以下	なし	隆起筋、懸垂文	隆起-高帯文-沈線	
大突起	E	11-18	1	1/4	なし	区画文、高帯文	区画文、高帯文	A1a	5	1.5	なし	隆起筋、高帯文	隆起-高帯文-沈線	
小突起	A-E	12/15	0/1	1/2	4	二分	口縁部区画文-高帯文	A1a/C3a	3.5/2.5	1以下	なし	隆起筋、高帯文	隆起-高帯文-沈線	隆起筋沈線も高帯文で隆起筋沈線を伴
?	A	7	1/2	1/4	1/4	なし	分帯、体部区画	A1a/C3a	3.5/3	1.5以下	なし	隆起筋、沈線	隆起-分帯沈線-沈線-隆起筋沈線	

表14 聖石遺跡出土主要土器の属性(5)

白は不明・つやなしの白色胎子(火山岩・軽石質)、白はつや有り白色胎子(深成岩?)
石=石炭、灰=灰

調査番号	優先番号 (巻)	住居番号	出土場所 (壁・土)	土器 種別	形状	器種			基本形状			属性別						
						口縁	口部	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土		
183	1	107	SB	61	2	壺	別製	深鉢	1403	H1	A	b	白1-2, 重灰	赤褐色	Cl&Hの赤褐色	黒褐色-赤褐色	10E6	11E1
183	2	108	SB	61	3	P1	別製	深鉢	1403	H1	A	b	白1-2, 重石	黒	黒10a赤褐色	明褐色-灰褐色	10E3	11E1
184	1	110	SB	62	2	P47	別製	深鉢	203	Y1	A	-	白1多	-	黒20a以下赤褐色	にぶい黄褐色-灰褐色	14E4	11E1
184	1	105	SB	64	2	壺	別製	深鉢	17	-	-	-	白1多, 軽石	-	L&H緑文	にぶい黒	17E10	11E1
184	4	106	SB	61	1	P4	別製	深鉢	1401	H2	D	B	白1多	現代-前期	単次焼	にぶい黄褐色-黒褐色	14E4	12E3
184	4	109	SB	62	1	P34	別製	深鉢	203	Y1	A	b	白1多	-	0.5多量? L&H緑文	にぶい黄褐色-黒褐色	14E4	11E1
184	4	113	SB	63	3	P33	別製	深鉢	1203	H2	D	b	白2多, 重	-	単次焼	赤褐色-黒褐色	14E4	12E1
185	1	294	SB	66	1	NO.1	別製	深鉢	1483	H1	B	-	白2, 重	-	半焼起焼	赤褐色-黒褐色	10E47	11E1
185	2	111	SB	65	1	壺	別製	深鉢	1402	H1	A	-	白1多	-	半焼起焼	明褐色-黒褐色	10E5	11E1
185	3	296	SB	66	3	壺	別製	深鉢	1482	H1	A	-	重石多	-	単次焼	赤褐色	10E5	11E1
186	5	308	SB	67	1	壺	別製	深鉢	1483	H1	D	-	白2, 重, 石	-	半焼起焼	明褐色-赤褐色	10E4	10E2
187	1	9	SB	69	1	CA 109	別製	深鉢	703	-	-	b	白2多	磨	なし	黒褐色	17E1	17E2
187	1	116	SB	71	2	SB71	別製	深鉢	V2	H1	B	-	白1, 重起焼	-	黒10a赤褐色	にぶい黄褐色	?	11E1
187	2	115	SB	71	1	P4	別製	深鉢	17037	-	-	E	白1多	上付焼	黒10a赤褐色	明褐色-黒褐色	17E4	17E1
187	3	297	SB	71	4	SB71	別製	深鉢	12C17	H1	B	-	白1-2多	-	L&H緑文	赤褐色	10E27	11E1
188	5	300	SB	73	2	II2層	別製	深鉢	1483	H1	B	-	白2多, 重	-	半焼起焼, L&H緑文	黒褐色-黒褐色	?	11E2
188	6	117	SB	73	3	P4	別製	深鉢	1484	H2	F	-	重石多	-	単次焼	黒褐色-にぶい黒	12E6	11E1
189	1	307	SB	76	1	SP1	別製	深鉢	V1	H3	C	-	白2, 重	-	単次焼	にぶい黄褐色-黒褐色	12E6	10E2
189	2	295	SB	77	1	P4	別製	深鉢	1482	H1	D	-	白1多	-	半焼起焼	赤褐色	10E5	11E1
189	3	299	SB	77	1	P6	別製	深鉢	11 C17	H1	D	-	白1多	-	半焼起焼	にぶい黄褐色-黒褐色	10E57	11E2
190	1	313	SB	82	4	UM1	別製	深鉢	V1	H1	D	a	重石多	現代	黒10a赤褐色	明褐色-黒褐色	10E8	11E1
190	2	301	SB	79	1	壺	別製	深鉢	127	H2	D	b	白1-2, 重	磨	L&H緑文	黒褐色	17E4	17E1
190	3	306	SB	80	1	P16	別製	深鉢	17037	-	-	C	白1多	磨	L&H赤褐色	にぶい黄褐色	17E1	17E1
190	4	310	SB	80	1	P29	別製	深鉢	17037	-	-	C	白1多	磨	L&H赤褐色	にぶい黄褐色	17E1	17E1
191	1	315	SB	80	1	壺	別製	深鉢	?	-	-	b	大粒白	?	磨	にぶい黄褐色	17E97	?
191	5	312	SB	82	3	UM-3	別製	深鉢	V17	-	-	b	白1多	磨, 胎土	単次焼	にぶい黄褐色-黒褐色	17E4	17E3
191	6	372	SB	82	5	CA11	別製	深鉢	12033	H1	A	-	灰褐色胎土	-	L&H緑文	にぶい黄褐色	17E11	11E1
191	8	311	SB	82	2	P	別製	深鉢	1483	H2	A	-	大粒白1-2多	-	黒10a赤褐色	にぶい赤褐色-黒褐色	?	11E1
192	1	318	SB	88	2	UM1	別製	深鉢	?	-	-	-	白1多	-	黒10a赤褐色	にぶい黄褐色-黒褐色	?	?
192	1	76	SB	80	1	壺	別製	深鉢	6-1	H1	F	-	白1	-	黒10a赤褐色	黒褐色-にぶい黄褐色	10E1	11E1
192	1	298	SB	88	1	壺	別製	深鉢	1703	-	-	E	白1多	灰褐色	ハ字半次焼	赤褐色-黒褐色	17E6	17E1
192	2	317	SB	88	1	UM2	別製	深鉢	17037	-	-	E	白1多	現代-前期	L&H緑文	黒褐色-にぶい黒	17E11	17E1
192	2	298	SB	88	506	C-5	別製	深鉢	1384	H1	A	-	白1	-	半焼起焼	黒	10E4	11E1
193	1	138	SB	9	1	P38	別製	深鉢	1483	H1	A	b	白2	-	-	磨	10E10	11E1
194	1	308	SB	75	4	CA12	別製	深鉢	202	H1	B	b	白多	磨	L&H緑文	黒褐色	10E6	12E2
194	5	305	SB	75	3	P2	別製	深鉢	2	H17	B	-	白1多, 白2	-	L&H緑文	灰褐色-黒褐色	?	12E17
194	6	302	SB	75	1	壺	別製	深鉢	?	-	-	-	白1多, 重	-	L&H赤褐色	にぶい黄褐色-黒褐色	?	?
194	7	304	SB	75	2	SP1	別製	深鉢	702	-	-	-	白1-2, 重	-	磨	にぶい黄褐色-明褐色	?	17E2
195	2	349	SK	2	1	壺	別製	深鉢	1702	-	-	a	白1-2多	磨	磨	黒褐色-黒褐色	?	?
197	3	332	SB	106	1	SK159	別製	深鉢	7017	-	-	b	白1多	磨	胎土黒胎土, 胎土黒胎土, 名, 大粒赤	黒褐色-黒褐色	?	?
198	1	357	SK	12	1	SK12	別製	深鉢	1702	-	-	b	白1多	中央灰褐色	磨	黒褐色-明褐色	?	17E1
198	1	350	SK	3	1	SK203	別製	深鉢	717	-	-	b	大粒白1多	現代-前期	単次焼	にぶい赤褐色-黒褐色	?	?
198	3	355	SK	4	1	壺	別製	深鉢	17037	-	-	a	白1多	磨	磨	黒褐色-黒褐色	17E1	17E1
200	8	351	SK	4	1	壺	別製	深鉢	1702	H1	D	b	白1-2多	現代	半焼起焼	明褐色-黒褐色	10E1	12E1
201	9	356	SK	11	1	SK11	別製	深鉢	?	-	-	b	白1多	磨, 現代	ハ字半焼起焼	磨-にぶい黄褐色	?	17E1
201	12	360	SK	15	1	SK15	別製	深鉢	?	-	-	b	白1	灰褐色	磨	磨-にぶい赤褐色	17E5	?
202	18	364	SK	19	1	SK18	別製	深鉢	V1	H1	A	-	白1-2	-	ハ字半次焼	にぶい黄褐色-灰褐色	10E3	11E1
203	22	369	SK	28	1	SK28	別製	深鉢	1402	H1	B	-	白1-2多	-	黒10a7 赤褐色	黒褐色-黒褐色	17E47	11E1
203	24	367	SK	31	1	壺	別製	深鉢	1483	H1	E	b	白1多	胎土灰褐色	L&H緑文	黒褐色-黒褐色	?	11E1
203	25	333	SK	31	1	壺	別製	深鉢	1702	-	-	a	白1多	-	磨, L&H緑文	明褐色-黒褐色	17E10	17E1

各部位置(なしは部位なしで、番号などが不明確なもの)

把手・突起部	管部系要素				注ぎ系要素				器文順序	備考(番号付)		
	形状	幅(mm)	高さ	取付方法	形状	幅(mm)	高さ	新規・他器文、その他				
なし	(E)D	8-11	3以下	1	なし	A1a/C3a/B1a	1/3	1以下	なし	陶輪造、総行沈積/充焼	溝線→充填沈積→溝線跡・総行沈積	
なし	E	7-11	4以下	1, 2, 4	なし	A1a/D	0.5/0.5	0.5以下	なし	陶輪造	溝線→充填→溝線跡沈積	
(E)F	G	-	-	-	-	A1a	3	0.5以下	なし	区画、磨蝕、染付	沈積→条線	
-	A-F	9-12	0.5以下	1-2	なし	A1a	5	0.5以下	なし	磨蝕文、陶輪造	溝線→横文→2列溝・沈積	
把手(数溝)	A	5.5	3	1/2	1/4	A1a/B	2/1.7	1	なし	区画内再刻突、交互刻突、口縁部底面内	溝線→充填沈積→溝線跡沈積	
なし	G	-	-	-	-	A1a	6	0.7以下	なし	区画、磨蝕、染付	溝線→充填沈積→条線	
なし	A	4-7	2-7	1	1/4	なし	A1a	2.5	0.5以下	なし	陶輪造、充焼	溝線→充填沈積→条線→充填→溝線跡
なし	(E)A	8-12	3	1	2/3	なし	A1a/D	0.7/0.3	なし	陶輪造/充焼	溝線→充填沈積→溝線跡沈積	
なし	B	7.5	4.5	1	1	なし	A1a	3.5	0.5	なし	充焼	充焼沈積→溝線
なし	A	8	6	1-3	1/3	なし	A1a	3-3	0.5	なし	充焼、磨蝕のみ	溝線→充填沈積→溝線跡沈積
X字状把手	E	10-17	3.5	1/2	1/3	なし	A1a/C3a	7.5/3	0.5以下	なし	陶輪造、充焼	溝線→充填沈積→溝線跡沈積
刻溝	造形	-	-	-	-	突起部	A1a	5	2	一部で充焼跡あり	体部刻溝	
-	なし	-	-	-	-	-	A1a	3	0.5以下	なし	充焼以外の部分	条線→沈積
-	A	8-11	2以下	1	1/3	なし	A1a/D	4.5/0.5	0.5以下	なし	総行沈積/磨蝕	溝線→条線→溝線跡沈積・総行沈積
溝線状把手	造形	-	-	-	-	突起部	C3a	0.5	1.2	なし	分帯、把手上縁	把手→沈積(器文との新旧不明)
なし	B	6	3.5	1	なし	突起部	C3a	6	0.5以下	なし	体部上半充焼	横文・半充填充焼→条線
把手	A	6.5-11	1-4	2	1	なし	A1a	3	1	なし	条線→沈積	条線→沈積
X字状把手	A	4	2	1/2	4	記号部刻突、突起部	A1a	1.5/2	1以下	なし	区画内再刻突	陶輪造、充焼
なし	B	5-9	1.5	1	1	なし	C3a	3	0.5	なし	充焼	区画内再刻突
なし	B	5-9	2	1	1	なし	C3a	4.5/0.5	0.7以下	なし	横文状、底面刻突	横文状沈積→底面刻突
なし	B/D	8-10	0.5以下	1/4	1/4	刻み	A1a	3-4	1以下	なし	陶輪造、染付	条線→条線→沈積
木木系把手	A	12以下	0.5	1	4	なし	A1a	7	0.5以下	なし	陶輪造	条線→条線→沈積
なし	B	5-11	2	1	1/3	なし	A1a	1	1.5	なし	磨蝕、充焼	条線→条線→沈積
なし	B	5-11	2	1	1/3	なし	A1a	3	0.4以下	なし	磨蝕文	条線→条線
-	A	8	0.5以下	2/3	4	区画、磨蝕、染付	A1a	3-5	1.5以下	なし	交互刻突、区画内再刻突	溝線→条線沈積→充填沈積→条線
なし	A	4	2	1/2	1/4	なし	A1a	4.5	1	なし	磨蝕、充焼	溝線→横文→条線
なし	(E)D	7-14	2	1	1/2	なし	B1a	1	0.5以下	なし	充焼	溝線→充填沈積
なし	A	4-8	7以下	1/4	1	なし	A1a	7	2以下	なし	陶輪造	溝線→条線→溝線跡沈積
なし	A	8-9	3	1	4	なし	A1a	4/2	0.5	なし	陶輪造/充焼	溝線→溝線跡沈積→充填沈積
なし	A	8	2	1/2	1/4	なし	A1a	5	0.5	なし	磨蝕文	横文→2列溝・沈積
なし	B	6-15	2-4	1/2	1/4	刻み	A1a/C3a	3.5/3	1以下	なし	陶輪造/充焼	溝線→充填沈積→溝線跡沈積・溝線跡刻み
なし	G	-	-	-	-	-	A1a	3.8	0.7以下	なし	区画内L形刻突	分帯、磨蝕文
なし	A	5.5以下	2	1	2	なし	A1a	4	2以下	なし	体部上半充焼	体部分帯、条線
不明	-	-	-	-	-	-	A1a	2.5	0.5	なし	口縁部底面刻突	不明
8字突起	造形	-	-	-	-	8字突起	A1a	4	0.5以下	なし	体部刻溝	沈積→横文
-	なし	-	-	-	-	-	A1a	3	1	なし	条線	条線
-	なし	-	-	-	-	-	A1a	3.5	0.7	なし	区画文、磨蝕文	沈積→横文
なし	A	3	2.5	1	1	なし	A1a	4	1以下	なし	分帯部L形刻突	体部刻溝、分帯
-	なし	-	-	-	-	-	A1a	4	1	なし	陶輪造、充焼	溝線→充填沈積
小突起	G	3.5以下	1/2	1	1/4	刻み	C3a	0.5	1以下	なし	充焼	充焼沈積→条線
-	断面	3以下	3以下	7	8	断面付	C3a	7	0.5以下	なし	磨蝕、充焼	溝線→条線→条線
なし	A	12-18	1/2	2/3	なし	染付、分帯	Df	11	0.2以下	なし	陶輪造	溝線→条線→溝線跡沈積
なし	-	-	-	-	-	-	A1a	4.5	0.7以下	なし	分帯、磨蝕、充焼	分帯→磨蝕沈積→充填沈積
X字状把手	A	7.5-14	4以下	1/2	2/3	なし	A1a	7.5	0.5以下	なし	陶輪造	溝線→条線→溝線跡沈積
なし	A-B	-	-	-	-	-	A1a	8	2以下	なし	分帯、磨蝕文	横文→条線
体部なし	-	-	-	-	-	-	A1a	4	1.5以下	なし	区画、磨蝕文	沈積→横文

注: 断面が植物に覆り上がり、程度が異なる。

表14 聖石遺跡出土主要土器の属性(6)

白1は不明/つやなしの白色粘土(火山灰-凝石質か)、白2はつや有りの白色粘土(河成層?)
石-石灰-凝石

図版番号	復元番号 (図シ)	住所番号	出土層 階層	出土位置 (掘出-取 上番号)	器種	接合 関係	形状			胎土	底面形状 ほか	基本的な文様		調査単位				
							種類	口 縁形	足 形			地文(文様装 飾)	色調	縦位分類	横位分 類	分類 方法		
204	4	341	5G	4	1	5D4	別表	深鉢	I 4C2	H1	F	-	白2多	-	厚底縁	明赤焼~焼灰	?	I 2E1
204	7	345	5G	8	3	P1	別表	深鉢	Ⅱ2B4	H2	A	-	白1-2多、凝石	-	平行波縁	にぶい黄焼~明赤焼	14E4	I 1E1
204	8	344	5G	2	2	P2	別表	深鉢	Ⅱ2B4	H1	C	-	白1-2多	-	平行波縁	赤焼	10E5	I 0E2
206	19	353	5K	7	1	P2	別表	深鉢	I 4 C2	H2	A	-	白1-2多	-	L字縁	黄焼~にぶい焼	?	I 1E1
208	38	320	5K	7B	2	P2	別表	深鉢	I 2C3	H1	A	-	白2、量	-	半縁起縁など条 線状	にぶい焼	10E6	I 1E1
208	53	321	5K	7A	1	SK74 P-1	別表	深鉢	Ⅱ2F	-	-	a	白1多	木炭痕	L字縁	明焼~焼灰	?	I 1E2
208	60	319	5K	7B	1	P2	別表	深鉢	I 7C1	H3	-	b	白1多	磨き	L字縁	にぶい焼~焼灰	?	I 1E1
208	68	322	5K	9A	1	P1	別表	深鉢	I 4B3	H1	A	-	白1多	-	厚底縁	赤焼~灰焼	?	I 2E1
208	75	323	5K	10E	1	P1	別表	深鉢	I 4E2	H1	A	-	白1、量	-	厚底縁	赤焼~焼灰	?	I 1E1
209	93	324	5K	12E	1	SK125	別表	深鉢	I 2E3	H1	B	-	量多、白1-2	-	半縁起縁	にぶい焼~黄焼	10E7	I 1E3
210	133	325	5K	40E	1	SK40E	別表	鉢	ⅡF1	V2	A	e	砂	磨た	L字縁	赤焼~黒焼	14E0	I 1E1
210	137	326	5K	44E	1	SK44E	別表	深鉢	I 7B2	Y1	A	-	白1、赤焼	-	L字縁	にぶい黄焼~焼灰	14E8	I 1E1
211	166	328	5K	60E	1	SK60E	別表	深鉢	Ⅱ2D1	H1	C	-	白1多	-	半縁起縁	にぶい赤焼~にぶい焼	10E3	I 1E2
211	171	330	5K	69E	2	西側	別表	深鉢	Ⅱ2D1	H1	C	-	量多、石、白1	-	厚底縁	黒焼~暗赤焼	10E5	I 1E2
211	172	329	5K	69E	1	西側	別表	深鉢	Ⅱ2D2	H3	B	-	白1-2、凝石	-	厚底縁	赤焼~黒焼	14E4	I 2E1
215	284	338	5K	148E	1	SK148E	別表	深鉢	V1	H3	F	b	白1-2多	磨	厚底縁	焼~にぶい赤焼	14E4	I 1E1
215	300	337	5K	151E	1	SK151E	別表	深鉢	Ⅱ2A1	H1	B	e	白1	網代明焼	磨き	にぶい焼~焼灰	15E5	I 2E0
216	304	338	5K	151E	1	SK151E	別表	深鉢	I 7B3	-	-	e	大粒白1-2多	網代明焼	L字縁	にぶい焼	17E4	I 1E1
216	323	338	5K	154E	1	SK154E	別表	約半 付鉢	ⅡF1	H3	A	e	白1、砂	磨?	L字縁	焼~にぶい焼	12E7	I 1E1
218	387	340	5E	157E	1	157E	別表	深鉢	I 4'-	H1	B	-	量白1、量	-	粗厚底縁	焼灰~黒焼	?	I 1E1

貼付方法 ここでは、1～7に区分した。部分的に1であったり、4であったりする例がある。その場合は、1/4と記した。

- 1 粘土紐を直接貼り付けたのみで、両脇を押さえるなどの手法が認められない例。
- 2 粘土紐の脇を指で押さえつける例、浅い凹線が認められる。
- 3 何らかの工具で粘土紐の脇を浅くナデつけて、隆線装飾を固定した例。
- 4 粘土紐の脇を工具を使った押さえ（沈線）、隆線装飾を固定した例。
- 5 隆線上を小刻みに刻むことで隆線を固定する例。単なる装飾との区分は難しい。
- 6 粘土紐そのものに半載竹管をかぶせ、粘土紐の形状を整形すると同時に、器面に押さえつけた例
- 7 隆線を二分することで、固定させる例。単なる装飾との区分は難しい。

隆線上装飾 隆線を刻んだり、粘土紐を貼付することによって、隆線を加工した例を記した。1本の隆線を2本に見せるために割った例は、二分とした。

用例 主に、装飾の軸となる割付に係わる分帯線（横位器面分割）や懸垂文（縦位器面分割）、さらに主要な個別装飾（区画文、渦巻き文など）について記した。

- d. **沈線系装飾** 器面を彫り込んだり、棒状工具で凹線を引き、あるいは刺突したりして描出した装飾を沈線系装飾とした。

沈線の類別 工具によって次のA～Dに分けた。これも時期や地域によって差異が表れやすい部分である。

- A 棒状工具や半載竹管のセ部分を利用して、単沈線（1）を施した例
- B ヘラ状工具や先端を鋭利に加工した工具、あるいは半載竹管の片端を利用して、鋭利な単沈線を施した例
- C 半載竹管のハラ部分を利用して、平行沈線（2）や半隆起線（3）を描出した例
- D 指などを使って、ほとんど窪みが付かない凹線を描く例

さらに、工具の器面への接地面の差によって1と2・3に分け、さらに器面への深さ・あるいは工具の形状の差によって2と3を分離した。

- 1 単沈線 一条の沈線
- 2 平行沈線 二条の沈線
- 3 半隆起線 二条の沈線間が、半載竹管のハラが接触することによって断面カマゴコ状になるもの

また、施文手法によりaとbに分けた。器面に対する施文具の角度が急となる例は刻みとして分離した。

- a 単純に引いたもの
- b 押し引きや連続押ししたものの。工具の角度によってさらに区分すべき時期もあるが、今回は行っていない。

上記の3項目に従って、沈線による装飾はA1b（半載竹管セ利用・単沈線・押し引き）などと記した。**幅と深さ** 工具の太さを知る要素である幅は、末端や湾曲部を除いた部分で計測した。深さは、聖石遺跡では計測値を示したが、誤差が大きいため長峯遺跡では、特に浅いものと深いものについてのみを記した。

刺突・陰刻文 沈線系装飾の内、上記以外のものを記した。主には刺突文と陰刻文である。

用例 沈線による装飾の使い方を簡単に記した。

- e. **装飾の順序** 装飾を施すにあたって、どのような手順で行われたかを、装飾の切り合い関係から観察した。

- f. その他 赤彩・漆、おこげの有無などを記した。

表15 聖石遺跡 赤彩・漆関係資料(2)

※付着状況の分類は、A=全面に付着、B=筋状(文様でないものも含む)、C=文様がわかる、D=部分的に付着、E=沈着や凹部にのみ付着、F=点在、1=肉眼ではっきりわかる、2=肉眼ではよくわかる程度

調査年度	図録番号	標本番号	位置・出土状況	採取番号	保存・同一部位番号	素材	携行部位	時期	文様	外面彫刻色	外面付着状況	内面彫刻色	内面付着状況	内面彫刻色	内面付着状況	大正生まれ三の位置	コメント	備考
56	SB	7	P21	1	P200/P201	漆	口～底	中期・後葉?	なし	赤	D2	赤	D2	赤	赤			
56	SB	8	P176	1		漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	D2	赤	D1	赤	赤			
10	SB	9				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	D2	赤	D2	赤	赤		内面赤彩	
10	SB	10				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	D2	赤	D2	赤	赤			
10	SB	11				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	D2	赤	D2	赤	赤			
15	SB	12	P262	1		漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	D2	赤	D2	赤	赤			
15	SB	13				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	D2	赤	D2	赤	赤			
55	SB	14	P182	201	P127-129, 180-182, 201	漆	口～底	中期・後葉?	なし	赤	D2	赤	D2	赤	赤			
16	SB	15	P19	9		漆?	口縁	?	沈着あり	赤	D2	赤	F2	赤	赤			
16	SB	16	P22	2		漆	口縁	?	草状筋	赤	F1	赤	F2	赤	赤		内面は口唇部のみ	
16	SB	17	P36	2		漆	口縁	?	草状筋	赤	F1	赤	F2	赤	赤		内面の赤	
20	SB	21	P38	2		漆	口縁	中期・後葉	赤黒	赤	D1	赤	A2	赤	赤		文様通り、草状筋のみ	
21	SB	22				漆	口縁	?	なし	赤	D2	赤	D1	赤	赤			
22	SB	23	P18	21	P15	漆	口縁	?	なし	赤	D2	赤	A1	赤	赤			
22	SB	24		1		漆	口縁	?	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	24				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	25				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	26				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	27				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	28				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	29				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	30				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	31				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	32				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	33				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	34				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	35				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	36				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	37				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	38				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	39				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	40				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	41				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	42				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	43				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	44				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	45				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	46				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	47				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	48				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	49				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	50				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	51				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	52				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	53				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	54				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	55				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	56				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	57				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	58				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	59				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	60				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	61				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	62				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	63				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	64				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	65				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	66				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	67				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	68				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	69				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	70				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	71				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	72				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	73				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	74				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	75				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	76				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	77				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	78				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	79				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	80				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	81				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	82				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	83				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	84				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	85				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	86				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	87				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	88				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	89				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	90				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	91				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	92				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	93				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	94				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	95				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	96				漆	口縁	中期・後葉	なし	赤	F2	赤	F2	赤	赤			
24	SB	97				漆	口縁	中期・後葉										

3 土製品

祭祀に関わる製品として土偶4点のほか、用途不明の土器片製円板30点が出土した。遺跡の規模に比して土製品の数量は少ない。

(1) 土 偶 (図225・表16)

出尻形をはじめとする立像土偶が3点、板状の例が1点で、いずれも中期後葉である。

表16 聖土遺跡出土土製品一覧表

図版番号	復元遺物番号	器種	遺跡・地区		層位	取上番号	残存部位	重さ(g)	胎土	色調	製作痕跡	装飾	分類		時期	備考
			記号	番号									全体	部分		
225	1	159 土偶	SK	159		P1	胴部～脚部	530	白色粘土	にぶい赤褐色		胴部から腹部中心に、鋭利な突起による渦巻き文様か	立像	出っ尻	中期後葉	
225	3	462 土偶	SK	211		P1	右腕か脚部	40	黄褐色、白色粘土	にぶい赤褐色	軸穴	数珠の串流線	立像?		中期後葉	足行趾土指が乳濁とすれば、影状的には脚、胴へ
		476 土偶	I S-X	25-5	II 層		胴部	40	黄褐色、白色粘土	にぶい赤褐色	軸穴	串流線	立像?		中期後葉	
		把手か土偶	I X	2	I・II 層		体部以下?	26	白色粘土	にぶい赤褐色		串流線	把手の可能性大		中期後葉	立たないやつ
225	2	463 土偶	I X	12	107'分		胴～脚	10	白色粘土	黒褐色		なし			板状?	
225	4	469 土器蓋	I X	12	89'分		ほぼ完整	21								

(2) 土器片製円板 (図225・表17)

土器片を小割にし、側縁を研磨して円形などに加工した土製品をまとめた。総数30点で、加工の程度によりA～Eに分類した。

- A 円形あるいは隅丸方形などに整えられ、側縁の全周に磨きがかかったもの
- B 平面形は円形などに整っているが、側縁に磨かれていない部分が残るもの
- C 側縁の全周に磨きが行き届いているが、形が不整形を呈するもの
- D 平面形はほぼ円形や隅丸方形に近く、側面には部分的に磨きがかかったもの
- E 平面形は不整形で、ごく一部に磨きがかかっているもの
- F 土器片を小割にしただけのもので、側面に磨き認められないもの

A段階まで加工した製品は1点に止まり、小割してもの一部を磨く程度で終わっている。形状は、最終的には円形を目指したらしく、隅丸長方形や楕円形は見つかっていない。大きさは、径38.4cm、重さ17.2g平均を測る。時期は、中期後葉が中心で、確実に後期に下る資料は(図版225-10)ほか3点である。土器片製円板が多く作成される中期前葉の資料は皆無であった。前葉～中葉が中心となる長峯遺跡と比較して、大ぶりの例が多くなっている。

4 石器

(1) 概要

採取した石器・石器素材～製作屑の合計は5574点(約1080kg)、うち黒曜石が4331点(35.97kg)を占める。石器製作時に出た屑の採取は、発掘時に肉眼によって確認できたものの内一部のみを取り上げたにすぎず、碎片の大半は統計資料から漏れている。そのため、点数では黒曜石が占める割合が増える可能性が高い。また、礫は石器としての使用痕が明瞭な例(磨石・蔽石・礫器類)だけを持ち帰り、石柱・丸石表

表17 聖石遺跡出土土器片製門板一覧

※加工分類は、A=円形・隅丸方形に整えられ、側面全面が磨かれたもの、B=形は整っているが側面に磨かれていない部分あり、C=形は整っていないが側面全面に磨きあり、D=形状はやや整えられ、側面部分に磨きあり、E=不整形でごく一部に磨きあり、F=土器を小削りにしているが明確な磨き痕なし

図録番号	土器片製門板の図録番号	遺構・地区名		層位	出土番号	平面形状分類	加工状況分類	利用部位	欠損状況	長径(mm)	短径(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	遺構時期		土器片時期と土器類	備考
		記号	番号											大区分 中区分			
														前期	後期		
225	5	1	SB	8	フタ	不整形円形	F	環状体部		54	50	11	37.4	中期	後期	不明・横文	
225	6	4	SB	26		P90 円形	B	環状体部		40	38	12	24.25	中期	後期	不明・横文	
225	7	6	SK	348		不整形円形	F	環状体部		35	30	10	12.68			不明・横文	
225	8	7	SF	1		不整形六角形	B	環状体部		42	40	9	21.35			不明・平行波線	
225	9	17	IX	3	扉	円形	A	環状体部		25	25	9	7.66			不明・横文	
225	10	28	ST	5	BSK1530	不整形	E	注口体部		43	40	5	13.1	後期	後半	後期	BSK1530/BS376から変更
		2	SB	9	フタ上層	不整形五角形	E	環状体部		52	49	8	25.64	中期	後期	中期後遺	
		3	SB	24		不整形円形	E	環状体部		50	40	11	22.68	中期	後期	不明・横文	
		5	SB	50	フタ	不整形円形	F	環状体部		63	56	13	58.32	中期	後期	不明・横文	
		6	SF	9		不整形円形	F	環状体部		37	36	9	15.21			不明・横文	
		9	IS	24	扉	不整形円形	B	環状体部		28	27	8	7.94			中期後遺	
		10	IT	210の150		不整形	F	環状体部		35	34	8	11.78			不明・横文	
		11	IW	20	ケ	不整形円形	F	環状体部		25	24	7	4.42			不明・横文	
		12	IW	20	ケ	不整形円形	F	環状体部		29	28	7	6.50			不明・横文	
		13	IW	20	ケ	不整形	E	環状体部		30	27	9	8.74			不明・横文	
		14	IX		扉-1層	不整形円形	F	環状体部		33	32	7	8.48			中期後遺	
		15	IX	1	扉内層	不整形円形	F	環状体部		33	32	11	14.69			不明・横文	
		16	IX	3		P35 不整形円形	B	環状体部		38	34	8	10.9			中期後遺?	横線強化
		18	IX	3		P1005 不整形円形	B	環状体部		41	40	9	14.76			中期後遺?	
		19	IX	8	ケ	不整形	E	環状体部		44	42	12	29.13			不明・横文	
		20	IX	8	炉? 炉? ケ	不整形円形	B	環状体部		33	31	10	10.75			不明・横文	
		21	IX	9	扉上層	不整形円形	C	環状体部		37	35	12	20.70			中期後遺	
		22	IX	1103G		不整形	D	環状体部		37	32	12	14.54			中期後遺	
		23	IX	1207G		円形	C	環状体部		43	41	5	12.48			中期後遺	
		24	IX	1203G		円形	B	環状体部		41	39	10	18.26			中期後遺	
		25	IX	17	ケ	不整形円形	B	環状体部		32	28	7	8.51			不明・横文	
		26	IX	21	炉? ケ	不整形円形	F	環状体部		32	31	8	10.79			中期後遺	
		27	IX	12	炉? ケ	不整形円形	F	環状体部		27	25	8	6.8			不明・横文	
		29	SK	115		不整形円形	F	環状体部		64	55	9	49.2			後期	BS38から変更 BS1048から変更 BS47上
		30	SB	96	COO-97777	不整形	E	環状体部		31	24	5	7.3			後期	

については形状の整った例のみを参考資料として取り上げた。

(2) 分類方法

まず、剥片を素材とした剥片石器とその素材・製作屑、転石などを利用した礫石器に区分した。剥片石器は、小形剥片石器と大形剥片石器に区分した。磨製石斧に関しては、礫・石核使用の例も認められるが、一応、大形剥片石器に含めてある。その上で、石鏃から装身具までの器種に分類した。分類基準は、以下「各種石器の特徴」に示す内容で行った。大量の石器を観察する中で、分類に対する幾つかの問題点や、改善点も出てきたが、統計処理をおこなうため当初の基準のまま進めた。見直し作業を行えなかったため、小形RFとMFの間、くさび形石器と石核の一部の間など、聖石遺跡の整理当初段階と長峯遺跡の整理最終段階で、多少の「ゆらぎ」が生じた可能性もある。

分類された各種石器の遺構毎の組成は、表18に示す通りである。

石材鑑定は、搬入品が限定しやすいヒスイ・蛇紋岩の鑑定に重点をおき、磨製石斧および装身具類を対象とした場合、黒曜石の原産地推定に主眼をおいた場合、の2つに限定した。第5章を参照していただきたい。それ以外については割愛せざるを得なかった。

(3) 各種石器の特徴

ア 小形剥片石器

黒曜石・チャートなどの剥片を素材とし、鋭利な刃部を作出し、比較的小型な製品を小形剥片石器とし

表19 各種石器一覧表(冒頭石鏃部分)

(一) 表示は欠損品

図版番号	整理番号	群種	番号	大々々地区	中地区	遺標記	遺標番号①	遺標番号②	施設名・位置	層位名	取上げ番号	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	点數	色調	石材	備考
228	1	1石鏃	1			SB	2		—	7	OB08	20	16	3	0.72			黒曜石	
		1石鏃	2			SB	2		—	7	OB09	-19.5	-15	2.5	0.58			黒曜石	
		1石鏃	3			SB	2		—	7	OB10	-21	-13	4	0.77			黒曜石	
228	2	1石鏃	4			SB	2		—	7	—	20	14	3	0.64			黒曜石	
		1石鏃	5			SB	2		西側 南北に	7	S24	-16	-16	3	0.68			黒曜石	
228	3	1石鏃	6			SB	2		溝内	7	—	15	13	2	0.28			黒曜石	

⑤小形刃器 (図版228・229-80~106) 小形剥片の縁辺部に連続的な二次加工(調整・整形)を施し、意図的に刃部もしくは背部を作出したもの。形態・機能的には、二次加工のある剥片(RF)や微細な剥離のある剥片(MF)の中にも、小形刃器との区分が難しい資料が多く存在する。そのため、縁辺部の剥離が2mmを超えるものを便宜的に二次加工と見なし、これが一側縁のほぼ全体に規則的・連続的に認められた例を小形刃器とした。ただし、2mm以下であっても、1側縁の両面から規則的な連続剥離が観察された場合は小形刃器に含めた。逆に、2mmを超える剥離が認められても、不連続なものは二次加工のある剥片(RF)とした。また、2mm以下の剥離が片面にしか認められなかった例は、微細な剥離のある剥片(MF)に区分した。

総数184点(1402.15g)である。石材は180点(1345.04g)が黒曜石、チャートなどが4点(57.11g)である。比較的定形的な形態としては、①縦長剥片や板状の軋石(石核)を利用して細長い形状を示し、長辺に刃部を持つ例(89、90ほか)。②手のひらサイズで扁平な形状を呈し、長辺側に刃部を持つ例(87、98ほか)が認められる。この他、不定形な例(82~85ほか)や、小形の搔器あるいは小形両面調整石器と考えられるもの(102、104ほか)がある。

特殊な例としては鈎状石器(80)が1例。三脚石器?(81)1例が認められる。

⑥くさび形石器(図版230-107~130)剥片あるいは石核を素材とし、向かい合った二辺か四辺に両極剥離による階段状剥離やツブレが顕著に認められるもの。このうち、両辺が面状を呈する例は両極石核の可能性が高いと考え、石核に含めた。一辺のみが面状を呈するものについては、石核とくさび形石器の両方の可能性を持つが、剥離面の詳細な観察を行っていないため、今回はくさび形石器に含めてある。また、両極剥離面がその石器の最終剥離面とならず、両極剥離面以外を刃部として使用したり、調整剥離が施されていた場合は、微細な剥離のある剥片(小形MF)に含めた。

928点(1700.72g)。石材は黒曜石924点(1693.42g)、チャート4点(7.3g)である。

形態は、端部が面状をなすもの、線状をなすもの、点に近いものがあり、それぞれの組合せが認められる。このうち両端が面をなす例は両極石核として石核に含めた。基本的には下端面が線状を呈するものが大半を占める。下端線状部の厚さは分厚いものから剃刀刃に近いものまであり、幅も1cmを超えるものから5mm程度のもまでバラエティがある。また、上下方向の加撃により縦割れした欠損品が認められる。

⑦二次加工のある剥片(RF)(図版230-131~135)二次的な調整剥離が認められる剥片をまとめた。石鏃や石鏃などの未製品や欠損品のうち本来の器種が不明確な例。小形刃器の可能性を持つが、連続的な調整剥離が認められない例。その他が含まれる。

総数は310点(1133.97g)を数える。強い器種を推定すると石鏃34点、石鏃40点、小形刃器120点、その他となる。石材は黒曜石が308点(1121.61g)で、その他は2点(12.36g)のみである。

⑧微細な剥離のある剥片(MF)(図版231-136~155)微細な調整剥離や使用によって生じた2mm以下の微細な剥離を有する資料をまとめた。ただし、石核などに見られる打割前加工?のために生じた微細な剥離、あるいは各種石器や二次加工のある剥片の一部に見られる微細な剥離については、各々の石核や石器の分

類に含めた。

総数1,169点(3129.94g)で、うち1,165点(3058.66g)が黒曜石、4点(71.28g)がその他である。

剥片の形状に規則性は認められない。ただし、長方形に近い縦長剥片では横側縁に剥離の見られる剃刀タイプが比較的多く見られる(137、154ほか)。その他、不整形な剥片については、各側縁の形状をそのまま利用したタイプが多い。剥離の認められる位置は、機能部と見られる鋭利な部分に認められる例、機能部とは反対側の背部にのみ認められる例、その他がある。機能部と見られる面の形状も、直線的、外湾、内湾、えぐりなどが認められる。その場合、1個体に複数の形状を示す機能部がセットとして存在する例が多い(136、148ほか)。法量は、指先でつまめる剃刀刃程度の例が最も多い傾向を示す。

イ 小形剥片石器の素材および屑

⑨原石・石核 (図版232～236-156～171) 原石は、一度も剥離作業が実施されていない裸のうち、剥片剥離作業を目的として搬入されたと考えられる資料である。石核には、扁平な原石(風化剥離面を持つ)を半割した状態のもの。あるいは、さらに剥離作業が進み、最終剥離痕がネガティブ面となった例がある。剥片剥離時に最終的に残された残核と考えられる。本遺跡では、剥離面の風化が進んだ例が多く認められる。風化した時期を特定できないため、風化剥離面のある原石なのか、石核が風化したのか判断が難しい例が多い。そのため、今回は原石と石核を分けずに報告する。この他、石器製作のためには使用できそうもない極小形の原石・石核(屑石)が認められた。こうした原石・石核のあり方は、聖石・長峯遺跡における黒曜石の採取場所や方法を解明する上で興味深い点ある。

総数874点(15.87kg)。石材は黒曜石が864点(14.95kg)(99%)を占め他を圧倒する。その他は10点(924g)(1%)である。

形態は、角礫状を呈する例が圧倒的に多く、露頭での採取や採掘によって得られた資料の可能性が高い。これに対し、角の摩耗した円礫が少数存在する。さらに、使用に耐えない屑石や、風化の進んだ角礫も存在すること考えあわせると、露頭下などで一括採取(選別不十分の状態)も行われていたのであろう。

剥離作業面は、1面のみしか認められなかった例が60例余りあり、その他は複数面を作業面にしていた。一つ一つの剥離面の大きさは、微細な剥離のある剥片(主に不定形の刃器)に対応する例が最も多い。

打割方法を推定できる資料では、一端のみ打点が明瞭に残り、対端が抜ける?手持ちによる剥離方法が認められる。また、台石上に石核を置き上から敲いたために生じる両極剥離(つぶれ)が認められる例がある。

⑩小形剥片・⑪砕片 二次加工や微細な剥離が認められないもので、石器製作に伴って排出された屑片である。便宜的に1g以上を剥片とし、それ以下を砕片とした。剥片は341点(11.66kg)、この内黒曜石は299点(11.22kg)、その他が42点(438g)である。砕片は255点(2.24kg)、この内、黒曜石は238点(2.23kg)、その他が17点(12g)である。黒曜石が全体の90%を占めている。

ウ 大形剥片石器

凝灰岩や粘板岩などの剥片を素材とし、やや鈍い刃部を持ち、比較的大型の製品を大形剥片石器とした。

⑫大形刃器・⑬石匙(図版237・238-172～196) 大形剥片を素材とし、縁辺に規則的に連続する二次加工を施し、刃部や背部を作出した石器。握み部のないいわゆる横刃形石器(181、184、194ほか)、握み部のある石匙(172～176)、厚手の礫器(196)ほかを含めた。ただし、横刃形石器には打製石斧との区分が難しい資料がある。明瞭な石匙は6点(280.28g)、刃器64点(4287.16g)が出土した。

特徴的な大形刃器としては、いわゆる横刃形石器(181～184、194)と、撥形を呈する刃器(179、190、192)が存在する。前者は、手で握れる程度の大きさを示し、背部および指のかかる位置に加工が施される例が認められる。

㊸打製石斧（図版239・240-197~228）大形剥片を素材とし、器面両面に二次加工を施し、片側の短側縁に鈍い刃部を持つ石器。145点（133969.21g）が出土した。磨製石斧を転用したもの（209）、局部的に磨きが施されたもの（202）が存在する。また、厚さの薄い例には大形刃器と区分しづらい例が存在する。

形態は、刃部と基部の幅が近似し、側辺が直線的なもの（短冊形）（206ほか）、基部幅が狭くなり、側辺が直線的なもの（撥形）（203ほか）、基部が極端に細くなるもの（227）、側辺の基部近くにわずかなくびれがあるもの（198ほか）、側辺が内湾するもの（204ほか）、側辺が大きくくびれるもの（分銅形）（202ほか）がある。ただし、左右非対称となる例が大半を占めている。その中には、主に片側の側辺を中心に加工した例と、両側辺を加工しているが非対称となる例がある。

また、刃部の残存していた資料については、ほとんどに摩耗痕が認められた。

㊹二次加工のある剥片（大形RF）大形剥片を素材とし、二次加工による剥離が認められたもののうち、器種が限定できなかった例をまとめた。打製石斧や大形刃器の欠損破片、あるいは未製品が含まれていると見られる。5点（645.35g）。

㊺微細な剥離のある剥片（大形MF）大形剥片を素材とし、二次加工や使用によって生じた微細な剥離が認められたもののうち、器種が限定できなかった例をまとめた。7点（394.86g）。

㊻磨製石斧（図版241~243-229~253）大形剥片・石核・礫を素材として器面全体に研磨加工を施し、1側縁部に研磨による刃部を作出した石器。54点（5749.39g）が出土した。欠損品が比較的多く、打製石斧や蔽石に転用した例4点が認められる（図版239-209、図244-270ほか）。

エ 礫石器

主に大形自然礫の形状や重量を活用し、剥離による刃部を作出しない石器をまとめた。

㊼磨石・凹石・蔽石類（図版243~245-256~275）扁平礫や円礫に使用痕が認められるもの。使用痕には、研磨痕と敲打痕、敲打による局部的な窪みを残す例がある。一箇体に2種以上の使用痕が認められる場合が多いため、凹石・蔽石・磨石を区分せずにまとめた。そのため、食料加工用・石器加工用などあらゆる用途の想定できる資料が混在している。また、簡単な肉眼観察のみで磨石を認定したため、敲打痕や研磨痕が不明瞭な資料は礫として除外した。さらに、手持ちでの連続使用に不都合と思われるほど大きな例は、便宜的に台石とした。

合計690点（345.69kg）が出土した。大半は、円礫・楕円礫に凹状の敲打痕が付く例が占める。

蔽石には、磨製石斧の欠損品などを転用した例が存在する。

㊽石皿・㊾台石（図版245・246-276~283）大形扁平な礫を利用し、中央部に磨石幅ほどの窪みが存在するもの。または、窪まない場合は平面上に研磨痕が認められたものを石皿とした。台石は、大形扁平な礫の平面上に敲打痕や微細な凹部が認められたものとした。石皿は24点（179.5kg）、台石は50点（205.28kg）を数える。

石皿には、使用面（皿部）がほぼ平坦なもの、片面に窪みが認められるもの、両面に窪みが認められる例がある。脚部を作り出した例（281）が1点、用途の異なる深い窪みを有する283などが特異な例である。

㊿多孔石（図版247-284~289）大形礫を使用し、平面上に多数の凹状敲打痕が認められる例。扁平礫の平面上にごく少数の凹状敲打痕が見られる例は台石に含めた。

19点（95.5kg）が出土した。屋外に設置されるような大形の例は存在しない。

㊽礫石（図版247・248-290~294）礫を素材とし、明瞭な研磨痕が認められるもの。磨製石斧の製作・手入れのために使用された可能性のある大形の例（290ほか）と、手持ち使用が基本となる小形の例（292ほか）に区分できる。総数9点（23.84kg）、置き砥石と手持ち砥石がある。

㊽みがき石（図版248-296・297）小形の円礫・扁平礫を使用し、土器製作において器面を磨くのに使用し

た可能性が考えられるもの。加工が施されず、使用痕も不明瞭であるため、「可能性がありそう」な例も含めて集計した。29点 (1748.61 g)

㊦石 錘 (図版243-254・255) 主に扁平な円礫を素材として、対称となる備辺に簡単な打ち欠きが認められたもので、網漁などに使用された錘と考えられる石器である。

湖沼や大河川のない地区にもかかわらず3点 (343.76 g) が出土した。

㊦石棒・㊦丸石・㊦石柱 (図版248・249-298-304) 石棒は、大形の棒状礫を素材として、有頭部を作したもので、16点(65.36kg)が出土した。破断面を観察すると、多くの例が割られた可能性を示している。しかし、有頭部以外では認定が難しいため、可能性があるものも含めて礫とした。299は2段の加工が認められる。

丸石は、大形の礫を利用し、堅穴住居床面に設置されたものである。球状を呈するもののほか、不整形の例もあるため、出土状況がはっきりしないと認定が不可能である。そのため、参考資料として持ち帰った例は3点 (65.8kg) である。

石柱は、大形の角柱状や棒状礫を利用し、堅穴住居床面に設置されたものである。丸石と同様、加工がほとんどなされていないため、単独では認定が不可能である。そのため、参考資料として持ち帰った資料は5点 (34.21kg) である。

㊦ 装身具類 (図版249・305-310)

ヒスイや滑石などの精選された礫を素材として研磨し、穿孔部を持つものなど。総数6点 (192.76 g) ヒスイ製の垂飾4点はすべて土坑から出土したものである。この他、滑石製垂飾が1点、ヒスイの小片(306)が出土した。

5 その他の遺物

火山性土壌の影響で、動・植物遺体やそれを利用した製品はほとんど見つからない。の中で、焼成を受けて白色化した骨製品が1点見つっている (図版225-1)。また、焼失家屋?で炭化材が見つかり、樹種同定した例はすべてクリ材 (第5章2節参照) であった。

第4節 縄文時代以後の遺構

広大な調査面積であるが、縄文時代以後の遺構はほとんどない。台地北西部に東西方向に伸びる細い溝SD01-2 (図版2, 4, 6, 8, 11) とピット群SA01 (図版2)、I・S-22付近のSD03-04 (図版25) と、馬の墓と考えられるSK112 (表9に併載) 程度である。いずれも覆土はしまりのない黒色土である。時期は不明であるが、明らかに縄文時代の遺構とは区別できている。

第5節 縄文時代以後の遺物

寛永通宝2点、鉄製品1点が採取されているが遺構は不明である。また、近代以降に埋葬された可能性の高い馬の歯が土坑内 (SK112) から出土した。

第4章 長峯遺跡

第1節 遺跡と調査の概要

1 遺跡の概要

長峯遺跡は、茅野市北山7664-1ほか一帯に所在する。八ヶ岳の裾野、角名川に沿う東西に長い細尾根状の台地上とその南側の沢に面する斜面に立地し、標高は1,054~1,073mを計る。細尾根状の台地は、瓢箪型を呈し、括れ部を境に西側に展開する聖石遺跡に接している。台地の最大幅は160mで、遺構が確認された範囲は、東西方向に250mと長大である。

本遺跡一帯は、畑地であったが、昭和34年に開田工事が行われ水田となった。当時は、行政上の保護措置として発掘調査が実施されることはなく、工事により失われた遺跡としては最も早い時期に属するとされた。何ヵ所かの住居址が確認されたが、12月の降雪期に入ったため2ヵ所の炉跡を検出するに止まった。1つの炉跡は90cm四方の大形の石囲炉で、四隅の一ヵ所に有頭石棒が炉縁とほぼ同じ高さに埋められており、祭祀色の強い、集落の中でも特殊な住居であろうと推測され注目された。また、採集された土器の中には、阿玉台式の深鉢や馬高式の影響を色濃く受けているとみられている文様構成の土器や「べにがら」で塗彩された大きな有孔銅付土器などがあり、中期最盛期の遺跡で、尖石遺跡に次ぐような集落遺跡と推定され、十分な調査ができなかったことに対して惜しまれる声が大きかった。

2 調査の概要

今回の圃場整備事業に伴い、平成10年茅野市教育委員会によって遺跡の状況を確認するため、試掘調査が実施された。その結果、昭和34年の開田工事では、聖石遺跡と同様水平な田面を造成する際、山側を基盤層まで削って谷側に盛り付ける工法が採用されており、基盤層まで削平された部分では遺構は消滅している状況にあったが、盛土部分では遺構が良好な状態で保護されていることが判明した。そのため、発掘調査範囲は切土工事にかかる32,000㎡となり、平成11・12年度の2ヵ年当センターが調査することとなった。

平成11年度は、遺跡の西半分約21,000㎡について平成11年4月1日から12月28日まで発掘調査を実施し、その全域から縄文時代中期・後期の集落跡を発見した。

平成12年度は、遺跡の東半分約15,000㎡について発掘調査を行った。遺構密度の高いことが予想できたため、平成12年3月10日から調査を開始し平成13年1月12日までかかって対象範囲すべての発掘調査が終了した。2年間で検出した遺構数は第2節に記す。

これらの遺構及び包含層から出土した遺物は、土器・石器・土製品・石製品など多量であった。

3 宮坂英次氏の調査報告とその痕跡

前述した昭和34年の緊急調査について、当時の尖石考古館の宮坂英次館長による報告が「日本考古学年報12（昭和34年度）」（1964年・日本考古学協会編集）に掲載されている。そこには調査の概要とともに、石囲炉址の実測図、赤く塗彩された有孔銅付土器（口絵）、阿玉台式土器や加曾利E式土器、石棒の写真が紹介されている。

今回の調査と資料整理から、宮坂氏調査の痕跡と考えられる部分が2ヵ所認められたため、ここに報告したい。なお個々の遺構や遺物の詳細記録は第2節以後に記載しているため、ここでは前回調査との関連

性的に絞って記す。

SB200の炉跡 (図7上) 「…この1カ所は炉址の三方を扁平石で取囲む南側は掘石にある。そして北西隅に小有頭石棒を樹立する。石棒のこのような遺存状態は、当地域よりの新資料である。炉址は径90cm、深さ60cmの巨大なもので、石棒は高さ19cm軸部の断面は径9cmの円形で、頭部を茸の笠状に研磨成形してあった。(略) …石囲炉址の壁穴住居址は加曾利E式に編年される。(宮坂英次)」（年報13より）

台地南側の標高1,069m付近にある縄文時代中期後葉3期のSB200住居跡では、検出段階から川砂が分布していて、他の場所との差異性に富んでいた。砂を掘り進めると壁面が一回調査したかのような状態で掘りあがり、床面もきれいに検出された。その床面中央に東西1.6×南北1.5mほどの略方形の落ち込みがあり、そこにも一面砂が入っていて、10cmほど掘り下げると内側に0.9×0.9mの方形で深さ0.3mの底に被熱部がある炉の掘り方が見つかった。完掘してみると、まるで丁寧な調査後に石囲炉の炉石だけ掘り取ったような状況になる。

この調査例を現矢石縄文考古館の鷹飼館長へ報告すると、宮坂氏の調査メモに長峯遺跡の調査位置を示す記載がある旨の回答をいただいた。その位置を今回の調査区へ当てはめるとSB200のすぐ西隣あたりになりそうである。また別の遺跡で宮坂氏が調査した住居址に瓦ワラを入れて保護した例もあることのご報告いただいた。茅野市史に再録された宮坂氏調査の炉跡とSB200炉跡を並べると、ほぼ当てはまる。状況証拠ばかりであるが、砂で保護されていたことも考えると、SB200は宮坂氏が前回調査した炉址をもつ住居跡ではないだろうか。

再会を果たした有孔罎付土器 (図7下) 整理業務を行っていた平成14年秋、勉強会をかねて茅野市矢石縄文考古館を訪ねた際、同行した土器接合を担当する補助員から「今接合している土器片が、展示されている長峯遺跡の有孔罎付土器によく似ている」という指摘があった。

早速、土器片と実物大にした展示品の実測図を比較すると、器形や大きさ、文様のモチーフと割付の位置の全てにおいて一致することが確認された。その後、別件でセンターを訪問された茅野市文化財課の守矢昌文、小林深志両氏に実見していただいたところ、展示品と「同一個体」であるという結論が出た。宮坂氏が取り上げた有孔罎付土器は胴下半部と実測面の裏側が欠損していて、現在その部分は復元されている。今回出土した破片は、実測面の裏側に当たると考えてよいだろう。また出土地点のSB225住居跡の覆土には、土器片が出土した層まで到達する攪乱部分が認められ、ここが前回調査時の掘削範囲ではなからうか。

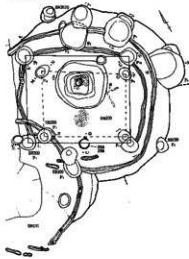
この2例とは別に、前回出土の「阿玉台式土器」と匹敵する「阿玉台式土器」の別個体1点が今回も出土していることにも何らかの縁を感じずにはいられない（第3分冊巻頭図版）。

縄文時代から幾千年、同じ遺跡における二つの緊急調査が予期しない状態で結び付きを持つこととなった。前回の開発行為では遺構が検出される表層が破壊されている。今回の開発行為では台地ごと消失している。42年という時を隔てた出土土器の再会というドラマティックな場面を目の当たりにしたと同時に、遺跡の保護と調査、そして記録保存の重要性を再認識した事例である。以下に今回の調査報告を記す。

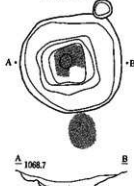
引用・参考文献

- 宮坂英次1964「長野県茅野市長峯遺跡」『日本考古学年報』12（昭和34年度）日本考古学会編纂
宮坂虎次ほか1986「茅野市史」上巻 原始古代 茅野市

SB200

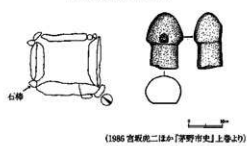


今回調査した炉跡



※炉石が壊れ、影が入れられていた

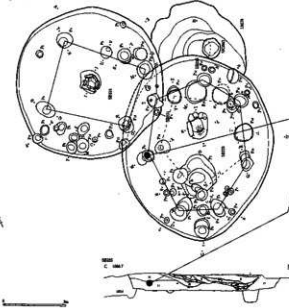
宮坂英次氏が調査した石室跡



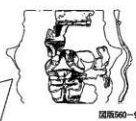
(1986 宮坂英二ほか『浮城市史』上巻より)

0 (1:400) 2m

SB225

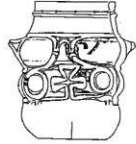


今回の調査で出土した破片



図面560-9

宮坂英次氏が取り上げた
石孔跡付土器



※土器スタリントーン部分が
前編調査時の焼孔部分か?

図7 宮坂英次氏緊急調査時の痕跡と同一個体土器

第2節 縄文時代の遺構

1 概要

今回見つかった遺構の大半は、縄文時代中期から後期に該当する。遺構としては堅穴住居跡239軒(縄文時代中期228軒、縄文時代後期11軒)、掘立柱建物跡12棟、屋外埋設土器10基、遺物集中19箇所、炉跡・焼土跡13箇所、土坑3436基、礫・石器集中4箇所である。

各遺構の掲載方法および記述項目は第3章第2節の聖石遺跡の事実記載に準じる。また以下の掲載表は添付したCDへも所収されている。

2 縄文時代中期の住居跡

表20 長峯遺跡縄文時代中期住居跡

遺跡番号	掲載図表			位置		所属時期				出土土器の種類(数量記入を除く)	検出面	形態・規模					床面	
	新刊図表No.	個別図表No.	凡例No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分			平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m		
SB1新	265	269	324	36-6 67	㊸	Ⅱ-H-14	新伊体土器	中期	中葉	1	中葉1	IV層上面	円	N12° W	3.90	3.90	0.25	
SB1H	265	269	324		㊸	Ⅱ-H-14	旧伊体土器	中期	前葉	4		IV層上面セクションからSB01跡と区分した	円	N23° W ?	?	?	6.10	軟弱
SB2	269	324		36-6 37-1	㊸	Ⅱ-H-10	伊体土器	中期	前葉	4	前葉4~中葉1	IV層上面	楕円	N64° E	6.00	3.20	0.45	黒土
SB3	268	325		37-2	㊸	Ⅱ-C-25	覆土中土器	中期	中葉	1	中葉1・2	IV層上面	円	N84° W	3.50	3.70	0.30	軟弱
SB4	268	325		37-3 45	㊸C	Ⅱ-C-15-20	覆土中土器	中期	中葉	1~2	前葉5~中葉2	IV層上面	長楕円	N23° W	6.20	(5.90)	0.50	
SB5	268	326		37-6 7	㊸	Ⅱ-C-15-20 Ⅱ-D-11-16	伊体土器	中期	中葉	1~2	前葉4~中葉1(2)	IV層上面	長楕円	N	5.85	4.95	0.30	間仕切壁の内外側及びその北西側壁面
SB6	268	326		37-8	㊸	Ⅱ-C-20-25, D-19-21	伊体土器	中期	中葉	1	(前葉4)~中葉1	IV層上面	隅丸方	N25° E	2.85	2.80	0.35	
SB7	263	327		-	㊸	Ⅱ-C-23-24	覆土中土器	中期	中葉	1~(2)	中葉1・2	IV層上面	楕円	N17° E	2.40	1.90	0.30	西側倒平
SB8	266	267	327	38-1	㊸	I-X-16-17-21-22	伊体土器	中期	前葉	4	前葉4	IV層上面	円	N18° E	3.50	3.60	0.25	伊層辺及び壁跡を除く南東側壁面
SB9	263	268	328	38-2	㊸	Ⅱ-C-14-16-19-20	覆土中土器	中期	前葉	3,4	前葉3,4	IV層上面	楕円	N46° W	5.90	4.45	0.30	
SB10	263	328		38-3 45	㊸	Ⅱ-C-18-19-23-24	伊体土器	中期	中葉	1	(前葉4)~中葉2	IV層上面	半楕円形	N3° E	2.95	2.70	0.15	
SB11	263	328		-	㊸	Ⅱ-C-14-18-19	覆土中土器	中期	前葉	3	前葉3~(4)	IV層中	プラン不明	?	?	?	?	不明跡
SB12	273	329		38-6	㊸	I-X-19	-	-	-	-	-	IV層中	隅丸方	N33° E	3.00	2.90	0.19	軟弱
SB13	264	329		-	㊸	Ⅱ-H-9-7	覆土中土器	中期	前葉~中葉	4~1	前葉4~中葉1	IV層上面	円形 3辺 不明	?	?	?	0.19	部分的に遺跡
SB14	259	329		38-7 8 39-1	㊸	Ⅱ-C-10	伊体土器	中期	中葉	2	(前葉4)~中葉2	IV層上面	楕円	N34° E	?	5.45	0.38	壁面が明確

第2節 縄文時代の遺構

坑	ピット		が		埋没		付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	直後関係	備考	調査年度	
	主柱穴	所見	位置	形相	所見	有無・位置・数							埋没位
	P1 8	主柱穴は4基 15基、P16 17 31の副穴	中央	埋没が		無	—	—	床上20m切りから土層片や石層出土、やや多い	自然埋没	SK01層を切る。	H 11(1999)	
	P3 6 11	主柱穴は4基	ほぼ中央	埋没が	南側一部欠損	無	—	—	層子中から少量の土層石層	自然埋没	SK01層に切られる。	H 11(1999)	
	P12 4 5 7 8	P12 13は入 り口ピットが	中央	埋没が		無	—	—	上層に遺物集中(中葉1)	本来の住居埋没中に、もろ1軒存在が。	3層を一層に調査している。床面の境目は新がら。	H 11(1999)	
	F 2 7 12	主柱穴は4基 12以内 5坑副穴	中央	石圍炉	小形	無	—	—	層子中から少量の土層石層	自然埋没	SK233と重畳	H 11(1999)	
	P2 3 4 7 9	主柱穴は5基 7以上、P9野 9副穴	中央	埋没が の残き 取りが。		無	—	—	北東壁内側の平石下から黒曜石の厚さ約4cm一層出土	副仕切状溝及び埋没	LMに切られる。SK139を切る。	H 11(1999)	
	P2 3 4 5 6 10	P8 9は2坑副 穴	中央北寄	埋没が		無	—	—	上、中層から多量に土層石層脱落された。	副仕切状溝及び埋没	SK141に切られる。	H 11(1999)	
	P1 2 2	主柱	中央	埋没が		無	—	—	層子に遺物は入る。遺物は少ない	自然埋没	SK234を切る。	H 11(1999)	
	P1 2 3 4 10 12 15 18 21 23		無し	—		無	—	—	ほとんどない。	自然埋没	なし	H 11(1999)	
	P1 3 10 12 15 18 21 23		中央	埋没が	田がが裏に みり、中層 抜き取り か、被褥部 有り。	無	—	—	層子中から少量の土層石層	自然埋没	田舎があり、柱穴跡もピットも多数あることから、埋没後の可成り古い。	H 11(1999)	
	P1 4 5 8		中央	埋没が	浅い掘り込み	無	—	—	層子中から多量の遺物	自然埋没	SK198に切られる。SK04と接する。	H 11(1999)	
2	7		ほぼ中央	埋没が		無	—	—	床面から土層や石層出土。	自然埋没	SK235 236に切られる。	H 11(1999)	
2	9	ピット未検出	(中央)	埋没が		無	—	—			SK173 254と重畳	遺物と埋没が検出。プランニング不明。	H 11(1999)
	P2 3 4 6		無し	—		無	—	—	なし。	自然埋没		H 11(1999)	
	P1 2 3 8		中央小	埋没が れている。	縄文期の 破損が明 らか不明	無	—	—	層子中から少量の土層石層	自然埋没	なし	H 11(1999)	
	P4 7 10 12 14		中央やや 上寄り	埋没が		有 入 口	1正副柱 1副柱	1副柱 1副柱	層子中から少量の土層石層	副仕切状溝 及び埋没 アノ壁	自然埋没	なし	H 11(1999)

表20-2

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期				検出	形態・規模						
	新付図版No	個別図版No	PL No	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分		覆土・土器の時期層(埋蔵層入を除く)	平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	高さm	床面
SB15	267	330	39-3	①	I-W-21, Ⅱ-C-1	覆土・土器	中期	前葉	3~4	前葉3~4	IV層上面	円	N22° W	4.10	3.70	0.08	伊原辺が堅直
SB16	277 278	330	-	①	Ⅱ-I-19	覆土・土器	中期	前葉	4	前葉3~4	IV層上面。上記面より上で遺物より出て出土	隅丸方	N29° W	3.90	3.60	0.30	伊原辺が堅直
SB17	280 284	330	-	①・②	Ⅱ-B-18-23	覆土・土器	中期	中葉	3	前葉4~中葉3	Ⅱ層中柱穴の配列で	楕円	N16° E	?	?	0.25	堅直で明確
SB18	270 271 278	331	39-4	①	Ⅱ-I-11-16	炉体・土器	中期	中葉	2	中葉1~2	IV層上面	円	N5° E	4.70	1.55	0.80	西半分は壁跡以外堅直
SB19	270 278	331	-	①	Ⅱ-I-5-7-11-12	覆土・土器	中期	前葉	4	前葉4~中葉2	IV層上面	円	?	?	?	?	不明瞭
SB20	270 278	332	39-6	①	Ⅱ-I-7-8-12-13	覆土・土器	中期	前葉	(4)~5	前葉4~5	Ⅱ層中	楕円	N35° E	3.65	3.40	0.40	堅直
SB21	275 276	332	-	①	Ⅱ-D-24	覆土・土器	中期	前葉	4?	前葉4	IV層上面 床・炉が確認	円	N14° W	?	?	0.10	壁跡除く西半分、伊原辺堅直
SB22	274 275 276	333	39-7	①	Ⅱ-D-18-19-23-24	伊覆土	中期	後葉	5	後葉5	IV層上面で伊検出。	?	N40° E	?	?	?	軟弱
SB23	274	-	-	①	Ⅱ-D-15, E-11	-	-	-	-	-	ピット群	不明	不明	不明	不明	不明	不明
SB24	321 322	333	40-1	⑦	IV-Q-25, R-21, W-1	覆土・土器	中期	後葉	3	後葉3	IV層上面	注1方	N32° W	4.20	(4.00)	0.30	伊原辺が堅直
SB25	321 322	-	-	⑦	IV-R-17-21-22	-	-	-	-	-	IV層上面 伊及び柱穴の基部露出	?	?	?	?	-	西面削平されている
SB26	321 322	-	-	⑦	IV-R-18-21	埋燬	中期	後葉	2	後葉2	IV層上面 伊及び柱穴の基部露出	?	?	?	?	-	西面削平されている
SB27	321 322	334	40-2	⑦	IV-Q-20	覆土・土器	中期	後葉	5	後葉5	IV層上面 検出面上部より多くの遺物	楕円	N33° E	3.95	4.20	0.35	北側が堅直
SB28	321 322	335	40-3	⑦	IV-R-16	伊覆土	中期	後葉	2	後葉2	IV層上面 床と同層で確認	円	N40° W	5.60	5.60	0.05	堅直で明確

ピット		が		埋没			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度		
数	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数							積込位	所見
	P1 6 9 12		中央	地床が	新田は基が 重なるか。	無	—	—	自然埋没と 考えるが家 近くまで削平 され不明	なし	柱穴的なピットが多数あり、伊 も基重なるしている。埋没見え ない。	H 11(1999)		
	P1 2 4 7 9		中央	地床が		無	—	—	北西壁部に 腐落	上層から多く の土器が剥 ぎ取れた。	自然埋没	なし	南側の張り出し部も住居の 一部と認識	H 11(1999)
	P2 3 5 8 9 10 12		(中央)	?	削平されて 伊底のみ 残る	無	—	—	闘仕切の溝 の一部 東 壁部に腐落	層土中から 少数の土器 石器	自然埋没	なし		H 11(1999)
	P1 4 7 12		中央	遺構が	有重に切ら れるつばは 目が見える。	無	—	—	中層から多く の土器・石器 脱落された。	自然埋没	SK431と 関係	柱穴的なピットが多数あり、伊 も基重なるしている。埋没見え ない。	H 11(1999)	
	9		中央や中 層	不明瞭	土器が一 部出土	無	—	—	土器集中有 り。		SK485 332と 重複		H 11(1999)	
	P1 4 5 9		中央	地床が か。		無	—	—	床から上 層片				H 11(1999)	
	P1 7 10 12		中央	地床が	浅い埋り込 み	無	—	—	層土中から 少数の土器 石器	埋土がほと んどなく不明	なし	SB24と関連する。	H 11(1999)	
	P9 8 11 12		北西壁か	石垣が	浅い埋り込 み。穴床全 面。	無	—	—	東面に土器 片多。	自然埋没か	LM21 SB211 と関連する。		H 11(1999)	
小 ピット 遺 構	不明		無し			無	—	—	無し	なし	不明	無	H 11(1999)	
	P1 4 12 P5 7,12	左記の新伊 の主柱穴	北西壁寄	石垣が	新伊、旧伊 共に伊石 地かか。	無	—	—	床面被熱	層土中から 少数の土器 石器	自然埋没	なし	中央部が遺跡、工事で埋没を 受けている。	H 11(1999)
	主柱穴4基	地床が	?	伊底のみ 残る		無	—	—	層土中の遺 物なし	不明	なし		H 11(1999)	
	主柱穴4基	地床が	?	伊底のみ 残る		有 入	1	土器と同機 構の埋り方 で前部のみ	層土中の遺 物なし	不明	なし		H 11(1999)	
	P1 3 4 5		北東壁寄	石垣が	光存してい る壁口埋没 面確認。	無	—	—	上層から多 数の土器・石 器脱落された。	自然埋没	SB298と 関係		H 11(1999)	
	P1 2 3 4 5 6		南西壁寄	石垣が	壁一奥の み伊石残る	無	—	—	床下ピットの 溝	層土中から 少数の土器 石器	埋土がほと んどなく不明	SB331に 関係	ピットが同心円には見られる。埋 没見え	H 11(1999)

表20-3

機種番号	掲載区版			位置		所積時期				検出箇	形態・規模					床面	
	新村版No.	旧版版No.	PL No.	地区	グランド	原定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分		埋土・土器の時間層(数量記入を除く)	平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m		壁高m
SB29	321 322	-	-	⑦	IV-Q-20.R-16	炉覆土	中期	後葉	2	後葉2~	IV層上面 炉及び柱穴の底部露出	?	?	?	?	-	床面削平 されている
SB30	319 320 321 322	334	40-4 5	⑦	IV-Q-15-20.R-11-16	覆土・土器	中期	後葉	2	後葉2~	IV層上面	隅丸五角	N45° E	5.80	5.70	0.30	北西一部 を除いて ほぼ全面 覆土
SB31	321 322	-	-	⑦	IV-R-17	覆土・土器	中期	-	-	-	IV層上面 炉及び柱穴 底部露出	?	?	?	?	-	床面削平 されている
SB32	319 320 321	336	40-6 7	⑦	IV-Q-10-14-15	埋土・ 炉覆土	中期	後葉	3	後葉3~4	IV層上面	隅丸五角	N45° E	5.50	5.50	0.35	伊賀山上 北東半分 覆土
SB33	319 320 321 322	335	-	⑦	IV-R-11-16	埋土・ 炉覆土	中期	後葉	4	後葉3~4	IV層上面 隅、炉が露出	?	N51° E	?	?	-	部分的に 埋土が露 出あり
SB34	319 320	337	40-8	⑦	IV-Q-14-15	覆土・土器	中期	後葉	5	後葉4~5	IV層上面	楕円	N68° E	?	4.10	0.40	
SB35	321 322	337	41-1	⑦	IV-R-11-12	埋土	中期	後葉	3	後葉3~4	IV層上面 炉が露出	?	N50° E	?	?	-	床面削平 される
SB36	319 320 321	338	41-2	⑦	IV-R-6-11	覆土・土器	中期	後葉	2	後葉	IV層上面 炉露出	円	N52° E	5.90	5.80	-	床面削平 される
SB37	319	339	41-3	⑦	IV-Q-9-10	覆土・土器	中期	後葉	-	後葉	IV層中 炉露出	?	?	?	?	-	不明
SB38	319	339	41-4	⑦	IV-Q-9	埋土	中期	後葉	4	後葉	IV層中 炉露出	?	?	?	?	-	不明
SB39	319 320 321	340	41-5 6	⑦	IV-Q-4-9-9-10	埋土	中期	後葉	3	後葉2~(4)	IV層上面	隅丸五角	N40° E	5.00	?	0.15	覆土
SB40	319 320	341	41-7	⑦	IV-Q-5-10.R-1-6	ピット1 内	中期	後葉	3	後葉	IV層上面	楕円	N41° E	4.10	3.50	0.28	覆土
SB41	319 320	341	41-8	⑦	IV-Q-10	覆土	中期	後葉	3	後葉	IV層上面	隅丸五角	N38° E	5.00	5.20	0.35	覆土
SB42	319 320 321	342	42-1 2,3	⑦	IV-Q-9-10	埋土・ 炉覆土	中期	後葉	3~4	後葉3~4	IV層上面	五角	N4° E	5.90	6.20	0.30	覆土

ピット		炉		溝		付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度			
番号	主柱穴	所見	位置	形態	所見							有無・位置・数	埋没位	所見
		主柱穴3基	?	石組 伊6	埋上より少量の遺物	無	-	-	層土中の遺物なし	不明	SB27に知られる	H 11(1999)		
	P1 2 3 4	P12に石組込 8土	北東壁寄	石組伊	南西伊石以外抜かれる	無	-	-	割仕切溝 周縁がほぼ一周	層土中から少量の土器・石器	自然埋没	H 11(1999)		
		主柱穴4基	?	?	伊底のみ残る	無	-	-		層土中の遺物なし	不明	なし	H 11(1999)	
	P1 2 5 11		北東壁寄	石組伊	伊石抜かれる	有 入口1	正	溝が落ち込 む	周縁一周	上層から多くの土器・石器が 散見された	自然埋没	SB32を穿る	主柱穴が切り合っており改 築されたようだ	H 11(1999)
	P1 2 3 4 5	主柱穴は4基 3である?	北東壁寄	石組伊	伊石抜かれる	有 入口2	正 正	1基に石置 有		層土中からの遺物なし	不明	SB26, SB1に 知られる	H 11(1999)	
	P1 3 4 5		北東壁寄	石組伊	南東伊石 残る。火床 中央	無	-	-					東西側平	H 11(1999)
	P1 4 5 6		北東壁寄	石組伊		有 入口2	正 正	埋没2を掘 して1を入 れ子状に 埋める		層土中からの 遺物なし	不明	なし		H 11(1999)
	P1 2 3 4 5 6		北東壁寄	石組伊	壁口以外 が石なし	無	-	-						H 11(1999)
	?		?	石組伊	小形	無	-	-			SB42上にあ る			H 11(1999)
	?		?	石組伊		有 伊 溝西1	正	伊に近い位 置にあり			SB45上にあ る			H 11(1999)
	P1 2 3 4 5		北東壁寄	石組伊	北東以外 除去	有 入口1	正				SB92 重複			H 11(1999)
	P1 2 5 6		北東壁寄	石組伊	壁口部残 る	無	-	-		P1より一取土 器	自然埋没	SB47切 SB50重複 SB41除去		H 11(1999)
	P1 2 5 8		北東壁寄	石組伊	西の伊石な し	無	-	-			自然埋没	SB42と重複 SB40上層す る		H 11(1999)
	P1 2 3 4		北東壁寄	石組伊	伊壁溝、土 器集中投 入	有 入口2	正 正		周縁一周	石組がP1に 崩立 層土 に薄く散 見	自然埋没	上部にSB59 あり SB45に 知られる SB92 SB42と 重複		H 11(1999)

表20-4

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期				出土土器の時間層(土層混入を除く)	検出層	形態・規模					床面
	資料図版No.	図別図版No.	PL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分			平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m	
SB43	319 320	343	42-4	㊦	IV-Q-5.R-1	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉	IV層上面	円	?	?	?	-	築造
SB44	319 320	343	42-4 5.6	㊦	IV-Q-5	埴埴	中期	後葉	3	後葉	IV層上面	方	N31° E	3.80	?	-	築造
SB45	319 320	344	-	㊦	IV-Q-9	埴埴	中期	後葉	4	後葉2~4	IV層上面	?	?	?	?	0.20	築造
SB46	319 320	344	-	㊦	IV-Q-9	覆土中土器	中期	後葉	1~2	後葉1~2	IV層上面	?	?	?	?	-	
SB47	319 320 321	343 344	-	㊦	IV-Q-05.R-1	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉	IV層上面	(円)	N86° E	(3.80)	?	0.66	?
SB49	319 320	-	-	㊦	IV-Q-4	覆土中土器	中期	後葉	5	後葉	IV層上面	?	?	?	?	?	一部築造
SB50	319 320 321	338	-	㊦	IV-R-5	戸覆土	中期	後葉	4	後葉	IV層上面	?	?	?	?	-	
SB52	319 320 321	336	-	㊦	IV-Q-14.15	覆土中土器	中期	後葉	2?	中葉~後葉	IV層上面 S B32調査時に伊土検出	?	N72° W	?	?	-	軟弱
SB53	317 318 319 320	-	-	㊦	IV-M-21	-	-	-	-	-	IV層上面 解平される が調査検出	?	?	?	?	-	不明
SB54	285	345	42-7	㊦	III-J-19-20-24-25	覆土中土器	中期	後葉	3~	中葉~後葉	遺構中 遺構中に遺 物が出土す ?、伊土検出	?	?	?	?	-	不明
SB55	285	345	42-8 43-1	㊦	III-J-19-21	伊体土器	中期	中葉	3	中葉(2)~ (4)、後葉	IV層上面 検出層より上 に遺物層中	円	?	(3.20)	?	0.60	築造
SB56	259	-	-	㊦	III-G-9-P.14	覆土中土器	不明			不明	IV層上面	円?	?	?	?	0.30	一部築造
SB60	285	-	-	㊦	III-O-4-5	伊体土器	中期	中葉	1	中葉1	IV層上面 伊土、柱穴を 検出	?	?	?	?	?	削平され ていて不 明
SB61	287	346	43-2 3	㊦	IV-F-1-2	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉2~3	IV層上面	㊦	N22° E	6.25	6.00	0.90	築造、南 西隅やや 軟弱

ピット		伊			塚		付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度				
数	主柱穴	西見	位置	形跡	所見	有蓋・位置・数							埋没位	所見		
	P1	主柱穴は4基以上である)	東壁寄	石組み	伊石ない	無	—	—	周溝2/3周		SB44に切られるSB47と重複	周溝床まで削平	H 11(1999)			
	P1	3/4	北東壁寄	石組み	伊石ない			青入口	周溝2/3周		SB43切る	周溝床まで削平	H 11(1999)			
	?	?	?	—	?	—	—	周溝と周溝切縁	周溝と周溝切縁	周溝切縁上から土層片一箇所	自然埋没か	SB42 46を切る	周溝床まで削平	H 11(1999)		
	?	?	?	石組み	伊石と浅い掘り方	?	—	—			不明	SB45切る	SB45に統一			
	P1	4 5 6 10 11	東壁寄	石組み	伊石埋没遺物になし	無	—	—	周溝半周			SB43と重複		H 11(1999)		
3	?	?	?	?	?	—	—	—	南東に周溝		不明	大半削平		H 11(1999)		
	?	?	東壁寄か	石組み	伊石なし、中央から方形土層出土	無	—	—				SB40 SB36を穿つていなか		H 11(1999)		
	P1	2 3/4	東壁寄	?	伊石のみ残存	無	—	—				周溝中に少量の土層+石層	SB32,34に切られる	H 11(1999)		
	?	?	?	?	—	無	—	—	周溝の一部残存		?	なし		H 11(1999)		
	?	?	?	石組み	北東隅の伊石なし	無	—	—			?	SB55を切5		H 11(1999)		
	P1	2 3/4	主柱穴は5基以上(中央)	周溝が	南西側に石組みがある	無	—	—	周溝全周			周溝面より上層に多く層上中は少ない	SB54に切られる	北西側に削平される	H 11(1999)	
4	?	?	?	?	?	—	—	—					削平されない	H 11(1999)		
	?	?	?	?	?	—	—	—						H 11(1999)		
	P2	8柱穴かどうかわからないP11群2周溝穴	中央	石組み	西側に土層と石が残る	無	—	—	周溝に周溝			周溝中の遺物なし	不明	なし	H 11(1999)	
	P2	8柱穴かどうかわからないP11群2周溝穴	中央	石組み	西側に土層と石が残る	無	—	—	周溝に周溝			上、中層から多くの土層+石層、縦上も分布、床面からは少ない	自然埋没か	?	北西側に削平される	H 11(1999)

表20-5

調査番号	掲載図版		位置		所属時期				機出面	形態・規模					断面			
	新付図版No.	個別図版No.	PL No.	地区	グッド	認定資料	大時期区分	中時期区分		小時期区分	埋土出土土層の時間幅(動土層を除外)	平面形	主軸方向	主軸長m		副軸長m	壁厚m	
SB62	287	345	-														伊勢辺と主柱式上方内側壁	
	287	347	-	⑨南	IV-A-22,F-2	炉体土器	中期	中葉	3	中葉3~5	IV層上面	楕円	N77° W	5.20	5.10	0.30	散状	
SB64	286	287	348	-	⑨	IV-A-21,F-1	覆土中土器	中期	中葉	2	中葉1~2、後葉	IV層上面	楕円	N47° E	5.90	(3.10)	0.60	壁面不明
SB65	260	-	-	⑨道下	田-J1-22	-	-	-	-	-	IV層上面	?	?	?	?	?	不明	
SB66	281	288	349	43-6	⑨	田-J-18-23	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉2~3	IV層上面 一辺短い部分残る	楕円	N22° E	?	?	-	壁面不明
SB67	281	282	349	-	⑨	田-J-13-18	覆土中土器	中期	中葉	2	中葉2~3	IV層上面 床、壁が検出	楕円?	?	?	?	-	伊勢辺がわずかに露出
SB68	281	282	350	43-5	⑨	田-J-17	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉2~3	IV層上面 土層で遺物集中	楕円	N37° W	5.00	4.50	0.30	伊勢の南東側壁面
SB69a	281	282	351		⑨	田-J-12-17												
SB69b	281	282	351	43-6	⑨	田-J-12-17	炉体土器	中期	中葉	2	中葉2~3	IV層上面	楕円	N11° E	(5.80)	5.80	0.35	部分的に壁面
SB69c	281	281	351		⑨	田-J-11-12-16-17												
SB70	281	281	-	-	⑨	田-J-11-16	ビツト内ほか	中期	中葉	1	中葉1~2	IV層中土層に断面が見えた	(円)	?	?	?	-	壁面
SB71	280	284	350	43-7	⑨南	田-E-18-19-23-24	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉3~5	IV層上面	円	N3° W	5.15	(5.40)	0.40	
SB72	265	269	352	-	⑨道下	田-J-19-20	炉体土器	中期	前葉	4	前葉4	IV層上面	楕円	?	3.40	?	0.15	壁面
SB73	271	352	-	⑨道下	田-1-21	炉体土器	中期	中葉	1	前葉5~中葉1	IV層上面	(方)	?	?	?	0.20	壁面	

ピット 数	ピット		が		構築			付属施設	遺物の出土 状況	埋没過程	直後関係	備考	調査年度
	主柱 穴	所見	位置	形跡	所見	有期・ 収束・ 数	埋没位						
	P2 3 4 15以上	所見は16基 (中央)	埋没が	ほぼ全存	無	-	-		堆出面より上層が多いが埋土中は少ない		#		H 11(1999)
	P1 4 8 10	ほぼ中央	埋没が	ほぼ全存	無	-	-	間仕切壁?	中層より下に遺物集中			埋土層ががらに利用	H 11(1999)
	P2 3 6 8 1013	中央	石割が		無	-	-	間仕切の溝と溝壁	中層から土器破片出土 P4内に石皿	自然埋没	SX011に埋められる		H 11(1999)
3		?	石割が?	掘り方のみ、大床残る	無	-	-	?	?	?			H 11(1999)
	P1 4 7 9 11 19 18	中央	石割が		無	-	-	間仕切壁	埋土中から少量の土器石器	自然埋没	SX801置換		H 11(1999)
	P2 4 9 10 12 15 P15 3 20貯 19蔵穴	(中央)	石割が	高側のが石なし	無	-	-		埋土中の遺物なし P200から石皿出土	不明	無		H 11(1999)
	P1 2 3 4 6 P1 7 10貯蔵 6 8穴	ほぼ中央	埋没が	が石はなかったが石割がみられた	無	-	-		中層より少量の土器・石器 P4内石器集中出土	自然埋没	無		H 11(1999)
	P2 4 1214 20	中央	石割が		無	-	-	西側金具	中層に土器・石器多い。投棄された遺構埋没合多	#	SB060cを切る		H 11(1999)
	P4 7 14 17 18 20	#	埋没が	SB060aのかに破壊される	無	-	-		埋土中から少量の土器石器	自然埋没か	SB060cを切る		H 11(1999)
	P1 3 CP1 CP2	?	#	SB060sによって破壊破壊	無	-	-		#	不明	SB060cに埋められる		H 11(1999)
	4基確認 貯蔵穴	P3 中央	掘り方のみ	-	無	-	-		中層に土器多い。投棄された	自然埋没	なし		H 11(1999)
	P2 4 7 8 10 11 P1貯蔵穴	中央	石割が		無	-	-	南東壁下 溝壁	埋土に土器や土器片が入る	自然埋没			H 11(1999)
	P2 3以上	#	埋没が	#	-	-	-		遺物は少ない	自然埋没			H 11(1999)
?	?	?	-		有 1	定	性格不明。砂か?					埋土層ががらに埋没	H 11(1999)

表20-6

建機番号	掲載図版			位置		所属時期				検出層	形態・環境					床面	
	製図 図版 No.	設計 図版 No.	PL No.	地区	グリッド	認定資 料	大時期 区分	中時期 区分	小時期 区分		埋土出土層 の時間幅(測 量誤入を除く)	平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m		高さm
SB74	271	-		④	道下 Ⅲ・Ⅱ-20,Ⅱ-15	-	-	-	-	-	IV層上面	?	?	?	?	0.1	一部堅固
SB75	280 284	352		④	Ⅲ-Ⅱ-2-3	埋土中 土層	中期	中葉	3	中葉3~4	IV層上面	(円)	?	?	?	-	一部堅固
SB76	283	353		④	I・Y-24・25,Ⅲ-E-4・5	埋土中 土層	中期	中葉	1?	前葉4~中 葉3	IV層上面 床面近くまで 削平	隅丸方	N	3.80	3.80	0.10	軟弱
SB77	283	353	43-8	④	Ⅲ-E-3-4	埋土中 土層	中期	中葉	2	中葉1・2	IV層上面 西側の一部 が不明確	円	N24° E	3.90	4.00	0.40	堅固
SB78	280 284	353		④	Ⅲ-E-22・23,Ⅱ-3	ビット 内ほか	中期	中葉	3	中葉1?~3	IV層上面	?	?	?	?	0.20	
SB79	279	353		④	Ⅲ-E-7-12	埋土中 土層	中期	中葉	2	中葉1~2	IV層上面 南東一部で フック痕跡	縦楕円	N56° W	3.10	2.70	3.10	軟弱
SB80	279	354	44-1	④	Ⅲ-E-1-2・6-7	埋土中 土層	中期	前葉	4	前葉4	IV層上面	円	N56° W	3.10	2.90	0.25	軟弱
SB81	279	354		②④	I・Y-17	ビット 内	中期	前葉	4	前葉	IV層上面	?	?	?	?	0.15	
SB82	279	354	44-2	④	I・Y-22・23	伊体土 層	中期	前葉	4	前葉4	IV層上面	方	N57° W	3.60	3.55	0.20	堅固
SB83	279	354		④	I・Y-22・23,Ⅲ-E-2・3	埋土中 土層	中期	前葉	4	前葉4	IV層上面	縦楕円	N15° W	3.50	3.10	0.30	堅固
SB84	279	355		④	Ⅲ-E-2	伊体土 層	中期	前葉	4	前葉4	IV層上面	(楕円)	?	?	?	0.20	堅固
SB85	265	355		④	Ⅲ-Ⅱ-24	埋土中 土層	中期	中葉	1	中葉1~2	IV層上面	楕円	N80° W	3.35	2.85	0.50	北側が堅 固
SB86	275 276 277	-			Ⅲ-Ⅱ-3-4	-	-	-	-	-	IV層上面	?	?	?	?	?	床面下ま で削平
SB87	270 276 277 278	-		④	Ⅲ-Ⅱ-13	埋土中 土層	中期	後 葉?	?	後葉?	IV層上面	?	?	?	?	?	床面下ま で削平

ピット			が			埋没			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度
番	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数	埋没位	所見						
?	?	?	?	?	?	?	?	?						H 11(1999)
		?	?	?	—	?	—	—		床上から一 括土器	自然埋没	SK331に併ら れる		H 11(1999)
	P2 4 5 6		?	?	—	無	—	—		層土中から 少量の土器・ 石器	自然埋没	なし		H 11(1999)
	P1 2 4 7		中央	五面伊	南側に石、 北側に土 器片残る	無	—	—		層土中から 少量の土器・ 石器	自然埋没	なし		H 11(1999)
	P2プラスコ ?ピット		?	?	—	?	—	—		極少	自然埋没	SK314に併ら れる		H 11(1999)
	P1 4 5 7		中央	埋没伊	北側の一 部残る	無	—	—		伊模及び家 差から一括 土器	自然埋没	なし		H 11(1999)
	P1 2 4 主柱穴は4基		?	?	中央ピット が伊かもし れない	無	—	—		少	自然埋没	なし		H 11(1999)
	?		?	地床伊		無	—	—	?	?	自然埋没	なし		H 11(1999)
	P1 4 5 6		北西奥背	埋没伊		無	—	—		層土中層に 埋没物やや多 い	自然埋没	なし		H 11(1999)
	P1 4 6 柱穴細く深い		中央	地床伊		無	—	—		極少	自然埋没	SK357に併ら れる		H 11(1999)
	P1 3 5 6		(中央)	埋没伊		無	—	—		極少	自然埋没か	断片多い		H 11(1999)
	主柱穴が2基 P1かど5か4は不 明		無し			無	—	—		層土中層に 多い	自然埋没	なし	SK302として、調査	H 11(1999)
4	P1 2 3 4 細く深い		?	?	?	?	?	?	?	?	?	SK339と重複	SK366-457-458-459で調査	H 11(1999)
6	P1 2 3 4 5		?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし	SK339-334-335-336-337- 338で調査	H 11(1999)

表20-7

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期				検出面	形態・規模					床面	
	別付図版No.	別記図版No.	FL No.	地区	グリッド	想定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分		覆土出土土器の時間幅(調査品入を除く)	平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m		壁高m
SB88	280	-	-	①	Ⅲ-F-22上2	ビット	中期	中葉～後葉	?	中葉～後葉	IV層上面にビット露出	?	?	?	?	?	床面下まで削平
SB89	287 288	-	-	-	Ⅳ-F-11・12・16・17	ビット	中期	後葉?	?	中葉～後葉混在	IV層上面にビット露出	?	?	?	?	?	床面下まで削平
SB91	269 270	355	-	-	Ⅲ-H-5・10上1・6	旧SQ1取上げ	中期	前葉	3	前葉3	遺構中に、部分露。	?	?	?	?	-	
SB92	320	340	-	①	Ⅳ-Q-4・5・9・10	Ⅱ SB39・42ビットの一部	-	-	-	-	IV層上面	?	?	?	?	0.30	
SB93	320	344	-	①	Ⅳ-Q-8・9	-	-	-	-	-	IV層上面	?	?	?	?	-	一部残る
SB94～100次巻																	
SB101	297	356	44-4 5	⑤	Ⅱ-W-16	覆土中土器	中期	中葉	2	中葉1～2	遺層上面	隅丸方 ～門	N23° E	3.95	3.80	0.15	柱穴裏より内側掘
SB102	297 306	356	-	⑤	Ⅱ-W-13・14	覆土中土器	中期	後葉	2?	後葉2?	遺層上面	隅丸方	N6° E	4.50	?	0.15	部分的に露出
SB103	289	-	-	⑤	Ⅲ-C-10	覆土中土器	中期	後葉	3～	後葉	IV層上面表土下で削平後露出	?	?	?	?	-	削平されていて不明
SB104	276	-	-	⑤	Ⅲ-1・23	-	-	-	-	-	北壁の一部露出	?	?	?	?	0.16	詳細不明
SB109新	289 290	357	-	⑤	Ⅳ-K-2・6・7	伊羅土	中期	後葉	3	後葉3～4	IV層上面表土下で削平後露出	?	N7° E	?	?	-	部分的に露出
SB109旧	289 290	357	-	⑤	Ⅳ-K-2・6・7	-	-	-	-	-	IV層上面10%露出状態で削平後露出	?	N14° W	?	?	-	
SB110	289 290	-	-	⑤	Ⅳ-K-2	覆土中土器	中期	後葉?	?	後葉?	IV層上面表土下で削平後露出	?	?	?	?	-	削平されている
SB111	288	-	-	⑤	Ⅳ-F-17	覆土中土器	中期	中葉	2	中葉2	IV層上面削平される	?	?	?	?	0.30	壁跡以外露出
SB112	288 293	357	-	⑤	Ⅳ-F-13・14・18・19	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2	IV層上面北壁削平される	?	N34° E	?	?	-	部分的に露出

第2節 縄文時代の遺構

ピット		P			埋没			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度
主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数	埋没位	所見						
	(SK321 200) 貯蔵穴	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		SK319-311-312-313-314-315-316-317-318-319-320-321-322-323-327-324-325-326で調査。	H 11(1999)
	(SK321 321) 貯蔵穴	?	?	?	?	?	?	?	?	なし		SK360-370-371-372-373-374-375-376-377-378-379-380-381-382-383-384-385-386で調査。	H 11(1999)
?		中央	溝壁が	浮いている。溝の下が開通している。	?	-	?	細かな土器片が腐土から出土	?	?		BS3001, 3701 (BS3003, 304, 305, 306, 307, 308)	H 12(2000)
?		?		石割伊	?	-						SB39古として、調査。SB39輪のピットにがまきられている状態。	H 11(1999)
?		?	-	-	有1	正						SB45南首で検出。南半部分が大木で、溝壁と溝底の間に、柱穴のピットが基礎のみ。	H 11(1999)
	P8→7、 P13 P4→P3への 7段で壁	中央	石割伊 黒銅床 板くなる	完存。出土 遺物なし	無	-		P11は貯蔵 穴	中央部2層上 の段差に似た 多くの土器 片出土	2層は埋没物 層	なし		H12 (2000)
P12 8段		北東壁寄	石割伊	が石割か れる。遺物 なし	無	-		東壁部に埋 没	埋土中の遺 物少ない	自然埋没	LM56 Bに切 られる。		H12 (2000)
-	詳細不明	?	?	伊底が残る	?	-		溝壁あり		不明	不明		H12 (2000)
	2基のピットは 検出	?	?	-	?	-				不明	不明	埋没不明	H12 (2000)
	P3 5 主柱穴は4基 18である	北東壁寄	石割伊	埋土中に 少量の遺 物	有 口1	入 込		上部は削 平される		不明	SB109段を切 る	溝壁は野跡	H12 (2000)
	P1 8	?	?	石割伊	無	-				不明	SB109削に切 られる	新石2層あり	H12 (2000)
	主柱穴は5基	?	?	伊底が残る	無	-				不明	なし		H12 (2000)
	主柱穴と思 われる2基を 検出	?	?	-	?	-			埋土中から 少量の土器 石割	自然埋没	なし		H12 (2000)
P4 8 10 14 16 24		北東壁寄	?	削平されが 底が残る	有 口1	入 正			埋土中から 少量の土器 石割	自然埋没	LM64は切 る		H12 (2000)

表20-8

発祥番号	掲載図版			位置		所属時期				抽出面	形態・規模					床面									
	割付図版No	割列図版No	Fl. No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分		遺土・土器の時間層(数量記入を併記)	平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m		壁高m								
SB114	306			- ①南	IV-L-5-10-M-1	覆土・土器	中期	中葉	4	中期後葉と存在(SB117と分離不可)	IV層上面	?	?	?	?	—									
	307																								
	312																								
	313																								
	314																								
	315																								
SB115	315			- ①南	IV-M-9-11	覆土・土器	中期	後葉	4	後葉3~4	IV層上面	五角形	N2° W	3.95	?	0.35	壁際以外堅固								
	316																								
	317																								
	318	361	44-6																						
SB116	315			- ①南	IV-M-6	覆土・土器	中期	後葉?		中葉~後葉	IV層上面	?	?	?	?	0.10	堅固、床の貼り替えあり								
	317																								
	318	359	44-7																						
	316	360																							
SB117	307			- ①南	IV-L-5-10-M-1	覆土・土器	中期	後葉		中葉~後葉		?	?	?	?	6.05									
	314																								
	316	358																							
SB118	314			- ①南	IV-M-1-2-6-7	覆土・土器	中期	後葉	2	後葉2~3	IV層下面	階下下部	傾し、遺物の中、炭化物の混入から	隅丸形	N13° E	5.60	(5.90)	0.10	堅固、目詰り壁に貼り替え有						
	315	359																							
	316	361																							
	316	362	44-8																						
SB119	314			- ①南	IV-M-1-2	伊覆土	中期	後葉	3	後葉3	IV層中~下面	階下下部	傾し、遺物の中、炭化物の混入から	五角形	N27° E	(4.10)	4.60	—	堅固で明確						
	315	359																							
	316	362	45-1																						
SB120																									
SB121	312			- ①南	IV-H-21-22-M-1-2	埴塼	中期	後葉	4	後葉3~4	IV層下面	隅丸六角形	N92° E	5.70	3.25	—	明確								
	313																								
	314																								
	315	361																							
	316	362																							
	316	362	45-2																						
SB122	314			- ①南	IV-H-22-M-2	伊覆土	中期	後葉	3?	後葉2~3	IV層下面	(力)	?	?	?	—	かみ鼠以上の不明								
	315	361																							
	316	362																							
SB123	314			- ①南	IV-M-1-2-6-7	覆土・土器	中期	後葉	4	後葉4~5	III層下面	(五角)	N41° E	(3.00)	?	—									
	315	359																							
	316	361																							
	316	363																							
SB124	314			- ①南	IV-M-1-2-6-7	埴塼	中期	後葉	3	後葉3~4	III層下面	(力)	N16° E	?	?	—									
	315	359																							
	316	363	45-3																						
SB125	312			- ①南	IV-H-21-22-M-1	伊覆土	中期	後葉	3	後葉3~4	IV層下面	伊抽出	?	N48° E	?	?	—	壁跡あり不明							
	313																								
	314																								
	315																								
	316	364																							
	316	364																							
SB126	304			- ①南	IV-G-24-L-4	伊体土器	中期	中葉	3	中期後葉と存在(SB193と分離不可)	III層下面	?	?	?	?	0.15									
	305																								
	306																								
	307																								
	308																								
	309																								
	312																								
	313																								
	315																								
	316	365																							
SB127	312			- ①南	IV-H-21	埴塼	中期	後葉	4	後葉3~4	IV層中~下面	北側傾平される	?	?	?	?	—	壁跡で明確							
	313																								
	314																								
	315																								
	316	364	45-4																						

第2節 縄文時代の遺構

ピット		伊		埋塞			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度	
番号	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数							埋没位
		SB117のピットと重なり、主柱穴を特定できない	北東壁寄	石罫伊		無	—	—				H12 (2000)	
P12	主柱穴は4基3であらう		北壁寄	石罫伊	東側の石が散らかれる。遺物わずか	無	—	—	柱穴のみに散石、壁段周縁部	伊の上層一帯から少量の土器、石器		H12 (2000)	
P12	主柱穴は2基3.0であらう		ほぼ中央	石罫伊	小破片出土	?	—	—	西壁下周縁部	床面上層土から少量の土器、石器	SB115,118に切られる	H12 (2000)	
		SB114のピットと重なり、主柱穴を特定できない	北壁寄	石罫伊		無	—	—				H12 (2000)	
P13	左記とP12.4.6.8.10.11.57が同じになる確率11で繋ぎ		#	石罫伊	完存 北東隅に埋伊	#	—	—	西壁下周縁部。貯蔵穴入口に丸石	東側に多くの土器、石器が散らかれる	SB116,141を99、SB119,123,124に切られる	H12 (2000)	
P12	3.4.8		北東壁寄	#	完存	#	—	—	周縁部	中層より土器片多く出土。散らかれた	一部人為的。破片は断片不明	H12 (2000)	
P13	4.8		北東壁寄	石罫伊	北東隅伊石のみ残存	有 入口 1	正	石罫あり	周縁1周	中層から少量の土器、石器が散らかれた	SB119,122,125を切る	伊の有層の終点を当初SB120埋塞伊とみなしたが、SB121の埋塞とみなされた。	H12 (2000)
P12	主柱穴は4基3であらう		#	#	伊石散かれる	無	—	—	#	層土中から少量の土器、石器	SB121を切る SB118とは断片不明	H12 (2000)	
P12	#		中央	#		無	—	—	周縁部			H12 (2000)	
P12	6#		北壁寄	#		有 入口 2	2	2	埋塞不明	接するが埋塞関係不明		H12 (2000)	
P13	主柱穴は4基5であらう		北東壁寄	#	伊石散かれる	有 入口 1	正	SB128の縁状あり		層土中遺物なし	不明	SB121,138に切られる	H12 (2000)
		SB142,193のピットSK14が埋塞し主柱穴も特定できない	#	石罫伊		無	—	—		P11.2.5.6小形土器と割製石片など出土	自然埋没	埋塞伊—SB130	H12 (2000)
P12	主柱穴は4基3であらう		?	?		有 2	新・埋	埋塞は埋塞され、伊のみ上に貼付	周縁部	層土中から少量の土器、石器	自然埋没	SK1266に切られる	H12 (2000)

表20-9

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期			検出面	形跡・規模					床面		
	新刊図版No.	別冊図版No.	PL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分		小時期区分	環土器土器の時間層(陶器量入を除く)	平面形	主軸方向	主軸長m		副軸長m	高さm
SB128	312	364	45-5	①南	IV-I-21,M-1	環土器	中期	後葉	2	後葉2~5	I層中~下面	円	N78° E	5.10	5.10	0.40	#
	313																
	314																
	315																
SB129	310	366	-	①南	IV-I-17-18-22	環土器	中期	後葉	4?	後葉3~4	IV層上面 伊,柱穴露出	?	?	?	?	-	不明跡
SB130	310	368	-	①南	IV-Q-2-3-6	伊環土器	中期	後葉	4?	中葉~後葉	IV層上面 表土下でが露出	(隅丸方)	N38° E	?	-	-	斜平され不明跡
SB131	322	-	-	①南	IV-S-V-W-1	環土器	中期	後葉		中葉~後葉	IV層上面	(円)	?	?	?	0.20	散置
SB132	310	368	-	①南	IV-Q-3-9	環土器	中期	後葉	2?	後葉2~4	IV層上面 伊が露出	(円)	N65° W	?	?	-	部分的に築屋
SB133	310	368	-	①南	IV-Q-2-3	伊環土器	中期	後葉	2	後葉2~3	IV層上面	円	N31° E	5.20	5.60	-	伊の周辺 伴遺
SB134	301 310	369 370	-	①南	IV-L-22,Q-2	環土器	中期	後葉	1	後葉1~2	IV層上面 検出面より上 で遺物まじ まじって出土	(楕円)	?	?	?	-	散置
SB135	301 310	369 370	45-6	①南	IV-L-21,Q-1-2	環土器	中期	後葉	3	後葉3~5	IV層上面	隅丸方 形	N18° E	5.40	5.70	0.25	南西壁面 以外築屋
SB136	301 310	369 370	-	①南	IV-I-21	環土器	中期	後葉		後葉3~4	IV層上面	?	?	?	?	-	築屋で明 跡
SB137	301 310	371 372	-	①南	IV-K-25,L-21,Q-1	環土器	中期	後葉	5	後葉3~5	IV層上面	(方)	?	?	?	-	伊の東側 築屋
SB138	295 301	371 372	-	①南	IV-K-25,L-21,P-5,Q-1	環土器	中期	後葉	2	後葉2	IV層上面	(円)	?	?	?	0.45	築屋で明 跡
SB139	295 301	371 372	45-7	①南	IV-K-25	環土器	中期	後葉	4	後葉3~5	IV層上面	(円)	?	?	?	0.25	#
SB140	295 301	371 372	-	①南	IV-K-25	環土器	中期	後葉	5	後葉1?	#	?	?	?	?	-	不明跡
SB141	314	361	-	①南	IV-M-1-2	ビッド	中期	中葉~後葉		中葉~後葉	I層下面 伊層露出	?	N15° E	?	?	-	散置
	315																
	316																

観	ピット		が		境		付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度
	主柱次	所見	位置	形態	所見	埋没位						
P12 34 37		東壁寄	石組伊	伊石抜かれる	無	-	南西壁部に抜き取りと思われるピット	周溝跡 北西壁下 石目、丸石	上層から段層遺物、床土の上の遺物わずら	ロームプロファイルが多く入る状況	SB125を切り、SK1260に切られる	H12 (2000)
P2 7 12 23 32 33		?	地状伊		無	-		層土中からの遺物わずら	不明			H12 (2000)
P12 56		北西壁寄	石組伊	伊石抜かれる	無	-		層土中からの遺物なし	不明	SB165を切る、SB132とは新旧不明		H12 (2000)
	3基の主柱次は検出できた?	?	-	-	?	-	東壁下 周溝	層土中から少量の土器石器	自然埋没	なし		H12 (2000)
P12 58		西壁寄	石組伊	伊石抜かれる	無	-	南壁下 周溝	層土中から少量の土器石器	自然埋没	SB130との新旧関係不明		H12 (2000)
P12 34 19		北西壁寄	石組伊	西側の石以外は抜かれる	無	-	周溝跡	層土中から少量の土器石器	自然埋没	SB165を切る		H12 (2000)
P8 15 15	主柱次は4基であらう	(中央)	地状伊		無	-		中央よりやや多くの土器出土。段層された	自然埋没	SB135,133に切られる		H12 (2000)
P67 8 112		北壁寄	石組伊	東側の石以外は抜かれる	無	-	周溝跡/成	層土中からやや多くの土器出土	自然埋没	SB134,149,154を切る	自然中央部、大穴が掘きされる	H12 (2000)
P4 6	2基以外の主柱次は耐平される	?	?	-	?	-	周溝跡	層土中から少量の土器石器	自然埋没			H12 (2000)
P6 3	主柱次は4基であらう	北西壁寄	石組伊	伊石抜かれる	無	-		層土中から少量の土器石器	自然埋没	SB139,154を切る		H12 (2000)
P12 38 38	主柱次は3基であらう	?	石組伊	北側の伊石以外抜かれる	無	-	周溝跡	中層から土器出土段層された	自然埋没	SB137に切られる		H12 (2000)
P5 7	主柱次は4基か	北壁寄	石組伊	石存	無	-	周溝跡	上層から多くの土器出土段層された	自然埋没	SB140を切る、SB145cとは新旧不明		H12 (2000)
P5 11	主柱次は4基であらう	北西壁寄	石組伊	南東側の伊石以外抜かれる	無	-		層土中から少量の土器石器	不明	SB139に切られる		H12 (2000)
P12 36 56 7		?	?	-	無	-	貯蔵穴	層土中から少量の土器石器	不明	SB118,119cに切られる		H12 (2000)

表20-11

遺構番号	掲載図版		位置		所属時期				出土土器の時期は(調査進入を除く)	検出面	形態・規模					坪面		
	新付図版No.	PL No.	地区	グリッド	部定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分			平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m			
SB156	304 305 312 313	375	46-4	01北	IV-G-19	覆土中土器	中期	中葉	2	中葉(1)~(3)、上層に中葉5	Ⅱ		N10° W	5.50	5.40	0.55	壁面で明確	
SB157	304 305 312 313	376	46-4	03	IV-G-19-20	覆土中土器	中期	後葉	3	後葉3	Ⅱ	垣層中~下層	五角	N14° E	4.30	4.10	0.35	壁面で明確
SB158	304 305 312 313	376	46-4	08	IV-G-14-15-19-20	覆土中土器	中期	後葉	3?	後葉3	*	Ⅱ	N11° E	4.70	4.80	0.20	壁面で明確	
SB159	313	374	-	01北	IV-G-20	覆土中土器	中期	後葉		不明	Ⅳ層上面が露出	?	N24° E	?	?	-	坪面で削平される	
SB160			欠番															
SB161a	303 311 312 313	377	46-7	01北	IV-H-6-11	ビットほか	中期	後葉	1	後葉1~3	Ⅳ層上面	円	N31° E	4.50	(4.80)	0.15	伊の浜辺が参照	
SB161b	303 311 312 313	377	46-7	01北	IV-H-6-11						Ⅳ層上面	円	(N31° E)	(5.90)	(5.80)	0.10	不明	
SB162a	303 311 312 313	377	-	01北	IV-G-15,H-11	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2~	Ⅳ層上面	?	N34° E	?	?	-	伊の浜側が参照	
SB162b	303 311 312 313	377	-	01北	IV-G-15,H-11						Ⅳ層上面	?	?	?	?	-	不明	
SB162c	303 311 312 313	377	-	01北	IV-G-15,H-11						Ⅳ層上面	?	?	?	?	-	*	
SB163	303 304 305 312 313	379	-	01北	IV-G-9-14	覆土中土器	中期	後葉	2~4	後葉2~4	Ⅳ層上面	円	?	?	?	0.30	壁面で明確	
SB164	303 304 305 312 313	379	-	01北	IV-G-14	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉1~2	Ⅳ層上面	円	?	?	?	0.40	*	
SB165	310	367 368	-	01南	IV-Q-2-3-6	覆土中土器	中期	中葉	2	中葉3	SB130を調査中に検出	?	N37° E	?	?	-	不明	
SB166	312 313 314	376	-	01南	IV-G-14-15-19-20	覆土中土器	中期	中葉	2?	前葉~中葉2	Ⅱ層中~下層	(円)	?	?	?	0.30	壁面で明確	
SB167	304 305 312 313	380 381	46-4	08	IV-G-14-18-19	覆土中土器	中期	後葉	4	後葉1~5	Ⅱ層下層	(円)	?	?	?	0.50	壁面で明確	

第2節 縄文時代の遺構

敷	ピット		伊		用器			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度	
	主柱穴	所見	位置	形跡	所見	有無・収束・数	埋没位							所見
		主柱穴は平 面図に示し たる基	中央	石組伊	欠存	無	—	—	周溝遺る	上・中層から 多くの土器、 石製板蓋さ し切れる	SB192を切り SB187 SK1774に切り られる		H12 (2000)	
		主柱穴は平 面図に示し たる基	北壁寄	石組伊	欠存	無	—	—	貯蔵穴2基 周溝遺る	上層から多く の石製土上 段蓋された。	自然埋没と 人為的埋没 の両方	SB158.166. 178を切る		H12 (2000)
	P1 4 7		中央	石組伊	欠存	無	—	—	周溝遺る	上層から土 器と多くの 伊出土	SB166を切り SB157に切り られる		H12 (2000)	
		主柱穴は平 面図に示し たる基と後2基 の存在が推 定される。	(中央)	石組伊	掘り方の状 況から石組 伊	?	—	—	—	掘下されほと んど遺物なし	SB155に切り られる		H12 (2000)	
													土塊だった	欠番
	P2 4 7.11		北東壁寄	石組伊		無	—	—	周溝遺る	上・中層から 土器がやや 多く出土。段 蓋された。	自然埋没	SB161b.169 を切る		H12 (2000)
	P2 4 14 16 18		?	?	—	無	—	—	周溝遺る		不明	SB161aに切 られる		H12 (2000)
	P14 23 25		北東壁寄	石組伊	欠存	無	—	—	貯蔵穴	層土中より少 量の土器石 器	自然埋没	SB162b, cを 切る。SB161a と新旧不明		H12 (2000)
	P1 6 17 21 24 26		(中央)	塊状伊		無	—	—	周壁下周溝	層土中の遺 物ほとんど なし	不明	SB162aに切 られる。SB 161a, 162cと の新旧不明		H12 (2000)
	P10 182B 323A 102B		?	?	—	無	—	—	東壁下周溝	層土中の遺 物ほとんど なし	不明	SB162aに切 られ、SD 152.161a.161 bとの新旧不 明		H12 (2000)
	P2 3.7	左記以外は 概平され不 明	?	?	—	?	—	—	周溝遺る	層土中より少 量の土器石 器	自然埋没	SB161を切る		H12 (2000)
	P1 3	P2.3.7が主 柱穴の可能 性もある。	?	?	—	?	—	—	周溝遺る	中層より土器 が多く出土 段蓋された。	自然埋没	SB168を切り SB163に切り られる		H12 (2000)
	P1 3 5B		(中央)	石器土 器埋没伊 伊?	破壊され両 側の石と土 器片残存	無	—	—	—	層土中の遺 物ほとんど なし	不明	SB130.133に 切りられる		H12 (2000)
		主柱穴は固 定した6基	?	?	—	?	—	—	貯蔵穴 周 溝遺る	層土中より少 量の土器石 器	埋没後一部 埋められる	SB157.158に 切りられる		H12 (2000)
	P1 3	主柱穴は基 6基である?	東壁寄	石組伊	欠存	?	—	—	周溝遺る	上層から段 蓋された多 くの土器、石 器	埋没後自然 埋没	SB156.168. 192を切る		H12 (2000)

表20-12

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期				出土品	形制・規模					序面	
	新付図版No	図版No	PL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分		環土器土器の時期層(調査層入を除く)	平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m		壁高m
SB168	304 305 312 313	380 381	47-1	①南	IV-G-13・14・18・19	埴壇ほか	中期	後葉	2	後葉1~2	出層中~下面	(円)	?	?	?	0.20	断面で明確
SB169	311 312 313	382 383	47-2	①北	IV-F-6・7	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2~3	IV層上面	(六角)	N44° E	(5.00)	5.60	0.10	
SB170	311	382 383	-	①北	IV-G-5・10・11・6	覆土中土器	中期	後葉	3,4?	後葉3~4	IV層上面	?	?	?	?	0.20	
SB171	303 311	382 383	-	①北	IV-G-5・10・11・6	覆土中土器	中期	後葉	3,4?	後葉3~4	IV層上面	(円)	?	?	?	0.40	
SB172	303 311	382 383	47-3	①北	IV-G-5・10・11・6	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2	IV層上面	円	N47° E	4.30	4.60	0.40	
SB173	302 303	-	-	①北	IV-G-4・9	ピット	中期	後葉?	-	中葉5~後葉1	IV層上面	円の方	?	(3.00)	?	0.11	西側削片、一部陶器
SB174	302 303	-	-	①北	IV-G-4・9	覆土中土器	中期	後葉	1?	中葉5~後葉1	IV層上面	?	?	?	?	0.23	大字跡平、SB173に似せられ
SB175	311	384 385	47-5	①北	IV-C-21・22・H-1・2	埴壇	中期	後葉	5?	後葉4~5	IV層上面	円から五角	N46° E	5.25	3.60	0.35	
SB176	303 311	384 385	47-6	①北	IV-H-1・2	ピットほか	中期	中葉	3~4	中葉3~4	IV層上面	楕円	N26° E	6.50	6.00	0.55	
SB177		欠番															
SB178	304 305 312 313	376	-	①北	IV-B-19・20	覆土中土器	中期	葉~後	-	現在	IV層上面	?	?	?	?	0.05	
SB179		欠番															
SB180	311	384 385	48-1	②北	IV-C-21・22	炉ほか	中期	中葉	2	中葉2	IV層上面	(円)	?	?	?	0.55	
SB181	303 311	386	48-3	①北	IV-B-25・C-21	覆土中土器	中期	中葉	3.4	中葉3~4	IV層上面	円	N38° E	(5.10)	5.00	0.45	
SB182	303 311	386	48-3	①北	IV-B-25・C-21	覆土中土器	中期	後葉	2.3	後葉2~3	IV層上面	円	N43° E	3.30	3.20	0.20	
SB183		欠番															
SB184	311	384 385	-	①北	IV-C-21・22	-	中期	-	-	-	IV層上面	楕円か?	?	?	?	-	

第2節 縄文時代の遺構

ピット	ピット		が		埋没			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	遺構関係	備考	調査年度
	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数	埋没位						
	P2 4	主柱穴は6基8ほどあり	北壁寄	石張り 北側に 小形土 器埋没	南側の伊 石以外取 かれる	有 入 北 1	正	周溝状	中層から没 失された多く の土器、石 器	自然埋没	SB192を埋 SB167に埋 れる	伊北東側土面に伏置	H12 (2000)
	P1 3 6 18 21 22		北東壁寄	石張り		無	—	周溝状	P18よりナリの 素材山上	自然埋没		埋没	H12 (2000)
		SB171のピットと関係し、特定できます	?	?	—	?	—	周溝状		自然埋没	170<171<172		H12 (2000)
		SB170のピットと関係し、特定できます	?	?	—	?	—	周溝状		自然埋没	170<171<172		H12 (2000)
	P3 4 9 14		中央	石張り		無	—	周溝状	層土内に多 量の遺物 び込みあり	自然埋没	170<171<172		H12 (2000)
	??		中央北東 寄	火床の か		無	—	周溝状	層土に塵入 り	自然埋没	SB174位		H12 (2000)
	??		?	?		無	—	周溝状	?	?	SB173に埋 れる		H12 (2000)
	8		北東壁寄	石張り		有 入 口 1	石蓋が南 側に成立し ている。	周溝状		自然埋没か	SB176 184を 埋		H12 (2000)
	8		北東壁寄	石張り		無	—	周溝状	厨什物埋 没確認 貯蔵穴	層土に多量 の土器や石 器、P23.214 から一括土器	自然埋没か		H12 (2000)
	00		?	?	—	無	—			自然埋没か		SB157・158位埋 込付けたし	H12 (2000)
	9	(中央)	埋没伊	黒目と赤あ り、南壁が 新		?	—	周溝状		自然埋没か	層土に土器 小片出土	北無割平	H12 (2000)
	7		北壁寄	石張り	口がは覆り 方のみ	無	—	南東壁下 周溝	層土中の遺 物少ない	自然埋没か	SB182に埋 れる		H12 (2000)
	4		北東壁寄	石張り		無	—	北壁下 溝	層土中の遺 物少ない	層位は直れ ている。	SB181を埋		H12 (2000)
	4		?	?	—	無	—				SB180 175に 埋れる		H12 (2000)

表20-13

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期			出土土器の時代編(簡蔵品入を除く)	出土面	形制・規模					床面	
	新刊図版No	個別図版No	PL No	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分			小時期区分	平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m		壁高m
SB185	299 300	387	48-4	02南	IV-G-21-22	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉2~3	IV層上面	横四	N1° E	5.50	6.40	0.40	
SB186	293 294	388	48-5	02南	IV-F-20・25・G-21	埋壁	中期	後葉	4	後葉3~4	IV層上面	方	N33° E	5.00	4.50	0.30	
SB187	299 300 304 305 306 307	389	-	02南	IV-G-17・18・22・23	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉3	IV層上面	横四	N16° W	6.60	5.00	0.25	
SB188	299 300 304	390	-	02南	IV-G-16・17	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉	IV層上面	(円)	?	?	?	0.35	
SB189	299 300 304	390	-	02南	IV-G-17	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2~3	IV層上面	(円)	?	?	?	0.50	
SB190	299 304 305 306 307	389	48-6	02南	IV-G-22・23	ピット	中期	中葉	3	中葉	IV層上面	(横四)	N38° E	?	?	0.20	
SB191	304 305	-	-	02北	IV-G-13・14・18・19	覆土中土器	中期	後葉		後葉	IV層上面	?	?	?	?	?	
SB192	304 305 312 313	380	-	02北	IV-G-14・19	覆土中土器	中期	中葉		中葉2~3?	IV層上面	?	?	?	?	0.10	
SB193	304 305 306 307 308 309 312	313	365	-	02南	IV-G-24・4	ピット	中期	後葉	1	後葉	IV層上面	?	?	?	?	0.20
SB194	311	-	-	02北	IV-J-2・7	覆土中土器	中期	後葉		後葉	IV層上面でピットの集合で作られた	?	?	?	?	?	
SB195	296 299 302	391	-	02北	IV-G-2・3・7・8	ピット	中期	中葉	5	中葉4~後葉1	IV層上面	円	N9° E	6.20	6.50	0.18	
SB196	299	387	48-7	02南	IV-G-16	埋壁	中期	後葉	3	後葉2~3	IV層上面	(円)	?	?	?	0.10	
SB197	392 393	394	49-1	02南	IV-F-14・15・19・20	覆土中土器	中期	中葉	5	中葉5	IV層上面	(円)	N8° E	7.80	?	0.40	
SB198	295	-	-	02南	IV-K-19	覆土中土器	中期	後葉		後葉	IV層上面 ピットと併 存している	?	?	?	?	削平	

第2節 縄文時代の遺構

ビット		が		種類			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度		
数	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数							埋没状況	所見
	8		北壁寄	石割が		無	—	—	間仕切溝、 陶器類の貯蔵穴	F3から石割 跡身見出土	層土中に埋没 が入る。	H12 (2000)		
	6		北東壁寄	石割が		有 入口	1	深 石葺	周溝は埋没 する	北壁間に伏 埋。	自然埋没	SB220を切ら れる	継ぎが。	H12 (2000)
	7		中央	石割伊		無	—	—	間仕切溝、 貯蔵穴		自然埋没	SB190に切ら れる		H12 (2000)
	9		?	?	—	?	—	—	床面に黒曜 石を積出す。		自然埋没	SB184に切ら れる		H12 (2000)
	?		(中央)	石割伊		?	—	—	覆土層に 残多し。		自然埋没	SB189を切る		H12 (2000)
	8		中央	石割伊		無	—	—	間仕切溝、 陶器類の貯蔵穴	貯蔵穴2か ら小形土器 が出土	自然埋没	SB187を切る		H12 (2000)
	?		?	?	—	?	—	—	周溝、東側に 流る				大半が削平。東側の周 溝とビットのみ。SB168 の床下で検出。SB191 取り上げの遺物はSB 168へ。	H12 (2000)
	9		?	?	—	?	—	—				SB167 168に 切られる		H12 (2000)
		SB142.193 のビットが 存在し主柱 穴を特定でき ない	(中央)	石割が		無	—	—						H12 (2000)
12	6	?	?	?	?	無	—	—	貯蔵穴				SB171周縁にありビットの み。	H12 (2000)
	7		中央	地床伊		無	—	—	貯蔵穴	覆土層下に 土器や石器 が散在 P45 に埋没を半 一括出土。			東向きが。	H12 (2000)
	?		?	?	—	有 3	正 定 直	—	周溝埋る					H12 (2000)
	8		北壁寄	石割伊		有 伊北	1	正	周溝埋る	覆土層に 埋没あり。 床面は埋没 している。炭 化材の上に 埋没したロー ムあり。		SB221に切られる。		H12 (2000)
6	?		北壁寄か	?	伊底のみ	無	—	—	周溝埋る	無	不明			H12 (2000)

表20-14

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期				検出面	形態・規模					床面	
	別荘図版No.	遺跡図版No.	PL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分		馬土出土器の時期層(掘量残入を除く)	平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m		壁高m
SB199	290 295	-	-	②南	IV-K-14・18・19	覆土中土器	中期	後葉		後葉	IV層上面 ピット跡、 瓦片残出	?	?	?	?	?	削平
SB200	290 295	395	49-2	②南	IV-K-13・14・18・19	埋壘	中期	後葉	3	後葉3	IV層上面	隅丸方	N28° E	(5.50)	?	-	
SB201	290 294 295	-	-	②南	IV-K-8・13	覆土中土器	中期	後葉		中葉5～後葉	IV層上面	(円)	?	?	?	?	一様焼入
SB202	294 295	396	-	②南	IV-K-9・10・14・15	ピット	中期	中葉	5	中葉4～後葉	IV層上面	円	N3° E	(8.10)	(8.00)	-	
SB203	293 294	395	49-3	②南	IV-F-19・20	伊体土器	中期	中葉	1	中葉1	IV層上面	円	N28° W	?	?	0.25	
SB204	294	397 398 399	-	②南	IV-J-21	覆土中土器	中期	後葉	1	後葉1～2	IV層上面	(円)	?	?	?	0.30	
SB205	294	396	49-4	②南	IV-F-25,K-5	覆土中土器	中期	後葉	4?	後葉3～4	IV層上面	楕円	N56° E	4.10	2.50		
SB206	294	397 398 399	-	②南	IV-F-24,K-24	覆土中土器	中期	後葉	3	後葉2～3	IV層上面	(方)	?	?	?	-	
SB207	290 294	397 398 399	-	②南	IV-K-4	覆土中土器	中期	後葉	1	中葉5～後葉1	IV層上面	(五角)	?	?	?	-	
SB208	290 294	397 398 399	-	②南	IV-K-4-9	覆土中土器	中期	後葉	3～5	後葉3～5	IV層上面	(円)	?	?	?	-	
SB209	294	397 398 399	-	②南	IV-K-4-9	覆土中土器	中期	後葉	1	中葉5～後葉1	IV層上面	(円)	?	?	?	-	
SB210	294 300	400	-	②南	IV-K-5・10	覆土中土器	中期	中葉	4	中葉3～5	IV層上面	楕円	N3° E	5.40	4.70	0.60	
SB211	294	397 398 399	-	②南	IV-K-4-9	覆土中土器	中期	後葉	4?	中葉3～後葉4	IV層上面	(円)	?	?	?	-	
SB212	290 294 295	397	-	②南	IV-K-8-9	覆土中土器	中期	後葉	4?	後葉	IV層上面	(円)?	?	?	?	0.35	

ピット		伊			埋藏			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度	
番号	主柱穴	所見	位置	形跡	所見	有智・位罫・敷	埋設状況							所見
9			北壁寄	石組伊	北面のみ 伊石残存	無	—	—	周溝遺る	無	不明		H12 (2000)	
			北壁寄	石組伊		有 入口	正		周溝遺る		砂で埋め覆 られている。	宮坂氏調査の可能性あり。	H12 (2000)	
10									周溝遺る		自然埋没	大半が埋まれている。	H12 (2000)	
			北壁寄	石組伊		無	—	—	周溝遺る、 周溝遺る		自然埋没		H12 (2000)	
(1)			北西壁寄	埋溝伊		無	—	—	周溝から小 形土器出土		自然埋没		H12 (2000)	
?		?	?	—	?	—	—	—	周溝遺る 貯蔵穴		自然埋没		H12 (2000)	
?			中央	石組伊		無	—	—	西壁下 溝	周	周土中に大 量入る。	自然埋没	小形の埴内形、おほく大き 性不明	H12 (2000)
?			北壁寄	石組伊		?	—	—	東壁下 溝	周	周土中に少 ない	自然埋没	SB204を切る SB209に切ら れる。	H12 (2000)
?		?	?	—	?	—	—	—	周溝遺る		自然埋没	SB208に切ら れる。	H12 (2000)	
?		?	?	—	?	—	—	—	周溝遺る		自然埋没	西側の遺構が著しく、形状な ど出土困難	H12 (2000)	
?		?	?	—	?	—	—	—	周溝遺る		自然埋没	西側の遺構が著しく、形状な ど出土困難	H12 (2000)	
?			北壁寄	地床 伊?	石組伊の 崩れ跡あり	無	—	—	正面に壁が あり。		自然埋没		H12 (2000)	
?		?	?	—	?	—	—	—	周溝遺る		自然埋没	西側の遺構が著しく、形状な ど出土困難	H12 (2000)	
?		?							周溝東側に 遺る	少ない	自然埋没	大半が埋まれている	H12 (2000)	

表20-15

通称番号	掲載図版		位置		所属時期				検出面	形態・規模				床面			
	別付図版No.	別掲図版No.	PL No.	地区	グリッド	部定資料	大時期区分	中時期区分		小時期区分	覆土中土器の時間幅(重量流入を除く)	平面形	主軸方向		主軸長m	副軸長m	壁高m
SB213	298 299	400	-	②北	IV-G-1	覆土中土器	中期	後葉	3.4?	後葉3~4	IV層上面	隅丸方	N25° E	4.55	5.25	0.30	覆面
SB214	298 302	401	-	②北	IV-B-17-18-22	ビットほか	中期	中葉	4	中葉4~5	IV層上面	円	N14° E	5.90	5.65	0.70	覆面
SB215	302	402	49-56	②北	IV-B-18-19	伊覆土	中期	後葉	4	後葉4~5	IV層上面	円	N11° E	?	4.20	0.30	覆面
SB216	298 302	402	-	②北	IV-D-12-13	ビットほか	中期	中葉	4	中葉3~5	IV層上面	(円)	?	?	?	0.35	覆面
SB217	298 302	402	-	②北	IV-B-13-18	覆土中土器	中期	中葉	4	中葉3~5	IV層上面	隅丸方	N47° E	?	?	0.30	覆面
SB218	298 302	403	-	②北	IV-D-16-17	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉3	IV層上面	楕円	N11° E	5.90	5.10	0.50	
SB219	397 398 399	294	399	-	②南	IV-K-7?	覆土中土器	中期	中葉	5	中葉3~後葉	IV層上面	(E角)	?	?	?	-
SB220	-	388	-	②南	IV-F-25	-	-	-	-	-	IV層上面	?	?	?	?	?	?
SB221	293 299	404	-	②南・北	IV-F-15	伊覆土	中期	後葉	3.4?	後葉3~4	IV層上面	隅丸方	N44° E	(5.60)	4.90	-	
SB222	302 303	405	-	②北	IV-B-19	覆土中土器	中期	後葉	5	後葉5	IV層上面	(円)	?	?	?	0.30	
SB223	288 293	406	49-7	②南	IV-F-8-9-13-14	ビットほか	中期	後葉	1	中葉5~後葉2	IV層上面	楕円	N19° E	6.20	6.60	0.40	
SB224	293 296	404	-	②南・北	IV-P-10-15	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2~3	IV層上面	?	?	?	?	-	
SB225	407 298 408	408	-	②北	IV-B-21-22	ビットほか	中期	中葉	4	中葉3~5	IV層上面	楕円	N25° E	5.90	4.80	0.60	
SB226	295 301	405	-	②南	IV-K-19-20	覆土中土器	中期	後葉	3.4?	後葉3~4	IV層上面	?	?	?	?	-	

ビット		伊			埋没			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度
数	主注目	所見	位置	形態	所見	有部・位置・数	埋没状況						
	4		北東壁寄	石囲が		無	—	—	西境3/4近	自然埋没		地下にローマコンクリートあり	H12 (2000)
	7		北壁寄	石囲が		有が北1	正		部仕切溝 両側近 野瀬穴	自然埋没			H12 (2000)
	4		北壁寄	石囲が		無	—	—	西境近			北壁が傾平されている。	H12 (2000)
	?		東壁寄	地床が		?	—	—		自然埋没か	S317を初め		H12 (2000)
	(4)		?	石囲が		?	—	—	伊周辺の積 土に多く 入る	自然埋没か	S316に 切られ 入る		H12 (2000)
	7		中央	地床が		無	—	—	P11内に石 敷一 部出土 層土上層に 埋など	自然埋没か			H12 (2000)
	?		?	?		?	—	—	西境近	自然埋没か			H12 (2000)
	?	?	?	が底のみ	?	?	?	?	?	?	S3186に 切られ る。		H12 (2000)
	6		北東壁寄	石囲が		無	—	—	西境近	自然埋没か	S2197 2246 近		H12 (2000)
	?		?	?		?	—	—	*	自然埋没か	LM751に 切られ る。		H12 (2000)
	2網あり、礎 柱見えか		北壁寄	地床が		無	—	—	層土上層か ら多量の土 器・石器出土	自然埋没か			H12 (2000)
	?	3本は確認	?	地床が		?	—	—		自然埋没か	S3197と202の 合、ブロンズ 器		H12 (2000)
	7		北東壁寄	石囲が		無	—	—	層土上層か ら中層に土 器や石器多 量に出土	上部に埋没 穴の痕跡あ り	S3231を 初め	宮原氏調査の有孔埋付土器 と適合する部が見える。	H12 (2000)
	?		?	石囲が		?	—	—		自然埋没か			H12 (2000)

表20-16

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期				検出面	形態・規模					床面	
	新付図版No.	個別図版No.	PL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分		覆土出土器の時期幅(数量記入を除く)	平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m		壁高m
SB227	300 304 305	-				覆土中土器	中期	後葉	3.4?	後葉3~4	IV層上面						
SB228	経線抹消										IV層上面						
SB229	292 293 299	409		②北	IV-F-3-1-B	ビットほか	中期	中葉	3	中葉3~4	IV層上面	(円)	N29° E	6.00	(5.50)	0.30	
SB230	299	387		②南	IV-G-15	覆土中土器	中期	後葉	2.3	後葉2~3	IV層上面	(円)	?	?	?	0.15	
SB231	407 408	298		②北	IV-H-16-21	ビットほか	中期	中葉	3	中葉2~4	IV層上面	円	N38° E	4.80	4.70	0.40	
SB232	410 411	292	49-8	②北	IV-A-18-23	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉2~3	IV層上面	隅丸方	N28° E	(4.60)	4.25	0.30	
SB233	410 411	292	49-8	②北	IV-A-18-23	覆土中土器	中期	中葉	4?	中葉3~5	IV層上面	円	N	5.70	(5.50)	3.40	
SB234	298	409		②北	IV-B-11-1E	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉2~3	IV層上面	(円)	?	?	?	0.50	
SB235	290 295	395		②南	IV-K-13-18	-	-	-	-	-	IV層上面	(円)	?	?	?	-	
SB236	295 301	-		②南	IV-K-15-20	覆土中土器	不明	不明	-	不明	IV層上面					削平されている	
SB237	293 299	412		②北	IV-G-6-11	ビットほか	中期	中葉	4	中葉3~4	IV層上面	円	N14° E	6.00	(6.00)	-	
SB238	286	411		②北	IV-A-11-12-16-17	覆土中土器	中期	前葉	4	前葉4	IV層上面	円	N47° W	(3.30)	3.40	0.20	
SB239	286	412		②北	IV-A-6-7	覆土中土器	中期	前葉	4	前葉4	IV層上面	?	?	?	?	-	
SB240	299	302	413		②北	IV-G-6-7	覆土中土器	中期	後葉	1	中葉3~後葉1	IV層上面	円	N17° E	(7.00)	(7.30)	-
SB241	288 292	413		②南	IV-J-8	覆土中土器	中期	中葉	4	中葉4	IV層上面	(円)	NE6° W	?	?	0.30	

第2節 縄文時代の遺構

ピット		お			層位			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度
数	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数	埋没状況						
										自然埋没か		SB185に囲まれる。	H12 (2000)
7			北東壁寄	石圍が		無	—	—	層土中層に 造形土器あり	自然埋没か		溝西側	H12 (2000)
?		?	?	—	?	—	—			不明		SB196の下	H12 (2000)
4			中央	石圍が		無	—	—	層土中層に 灰河土器あり	自然埋没か			H12 (2000)
5			?	石圍が		無	—	—	遺物は少ない	自然埋没	SB233に囲まれる		H12 (2000)
7			北壁寄	地床が		無	—	—	お周辺の床 に光射土器あり	自然埋没 埋没マ	SB232に囲まれる		H12 (2000)
?			(中央)	地床が		?	—	—	お層土中層に 灰河土器あり			北側側平	H12 (2000)
?			?	?	—	?	—	—	明確証否		SD200と重複	大きく風化している。	H12 (2000)
			火床のみ 残る								火床のみ、溝西 にピット		H12 (2000)
8			北壁寄	石圍が		無	—	—	明確証否	P24より土器 一筋出土			H12 (2000)
42個あり			中央	地床が		無	—	—	西壁下 層	層土中に大 きな土器片 出土			H12 (2000)
?			?	地床が		無	—	—				表面不明瞭。	H12 (2000)
6			北壁寄	地床が		無	—	—	家壁下 層	遺物は少ない			H12 (2000)
4			(中央)	地床が		無	—	—				半分削平。	H12 (2000)

表20-17

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期					検出層	形態・規模					床面
	別冊図版No.	別冊図版No.	FL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分	覆土・土器の時間層(深さ記入も除く)		平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m	
SB242	305	-	-	①南	IV-G-24	炉	中期	後葉	4	後葉4	IV層上面	尹のみ					
SB243	288 293	-	-	①南	IV-F-14-19	覆土・土器	-	-	-	-	IV層上面	ピットのみ					
SB244	295 301	371 372	-	①南	IV-K-20	覆土・土器	中期	後葉	1?	後葉	IV層上面	?	?	?	?	0.25	
SB245	301	372	-	①南	IV-K-25.1-21	覆土・土器	中期	後葉	3.4	後葉3~4	IV層上面	(円)	?	?	?	-	
SB246	312 313 314 315 316	-	-	①南	IV-J-21・22						IV層上面	ピットのみ					

3 縄文時代後期住居跡

個別の事実記載は縄文時代中期の住居跡と同一である。

表21 長峯遺跡縄文時代後期住居跡

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期					検出層	形態・規模					床面
	別冊図版No.	別冊図版No.	FL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分	覆土・土器の時間層(深さ記入も除く)		平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m	
SB48	319 320 321	414	-	①	IV-Q-10.R-6	覆土・土器	後期	初葉		中期後葉5~後期初葉	埋層中	?	?	?	?	-	不明
SB51	253 254 255 256	415	50-2 3.4.5	①	Ⅲ-G-17-22	覆土・土器	後期	前葉	2	前葉	現水田下に敷き確認	円か楕円か	N18° E	(4.90)	(4.00)	-	敷石
SB57	253 254	416	50-7	①	Ⅲ-F-20	覆土・土器	後期	前葉	2	後期前葉	現水田下に敷き確認	円?	?	?	?	-	敷石の残骸。高橋が流る
SB58	255 256	416	50-6	①	Ⅲ-G-22-23	覆土・土器	後期?			不明	水田下でピット確認	?	?	?	?	-	削平
SB59	319 320 321	336	-	①	IV-Q-10-15	覆土・土器	中期	後葉	1	中葉(5)~後葉(1)	IV層上面でピット分布	?	N38° E	?	?	-	
SB90	315 316 317 318	417	-	①南	IV-L-10-15.M-11	ピット	後期	?	?	後期	IV層上面でピット分布	新築形か?	?	?	?	-	床下まで削平
SB105	271 276	417	-	①南	Ⅲ-L-16-21	覆土・土器	後期?	?	?	?		?	?	?	?	-	
SB106	306 307 315 316 317 318	418 419	-	①南	IV-L-9-10-14-15	覆土・土器	中期	後葉	4	後葉	埋層中	新築形か?	?	?	?	-	腰が分志
SB107	306 308 315 317	420	50-8	①南	IV-L-9-14	覆土・土器	後期	初葉		中期後葉~後期初葉	埋層中	新築形か?	?	?	?	-	平石が分志
SB108	306 315 317	418	-	①南	IV-L-9-10							?	?	?	?	-	
SB113	314 315 316 317 318	421	-	①南	IV-L-5.M-1-6	炉・土器	後期	初葉		初葉	埋層下面表土下で伊検出	?	?	?	?	-	敷石な層分志

ピット		石			埋蔵		付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	直積関係	備考	調査年度
縦	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数						
			不明	石垣跡							整理作業で登録。S H02, SK1587改め	H12 (2000)
											整理作業で登録。SB112-SB197と重複	H12 (2000)
?	?	?	?	-	無	-	-				整理作業で登録。SB140P1, ビット2・4, SK1685を変更	H12 (2000)
?		北斎堂	壁	埋没跡		無	-				整理作業で登録。SB137ピット11・14をP1として、ビット7・8・12・10・9, SK1684を柱穴とする。	H12 (2000)
											整理作業で登録。SB121周溝の北西隅とSB126P1をそのプランから新規SB246として分離した。	H12 (2000)

ピット		石			埋蔵		付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	直積関係	備考	調査年度
縦	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数						
8			中央?	地盤		無し	-			SH50 3E 41のよにあり		H 11(1999)
		敷石の周囲に落ちた、横断面	中央北より	石垣埋蔵	方形の石垣、内部に印土層	無し	-	石の南北に敷石	不明		敷石下位の被褥跡内、深さ11%分	H 11(1999)
18		周溝下位にP1ピット落ち	(中央)	埋没跡		?	-				小形の敷石付地盤	H 11(1999)
6			?	?		?	-	P1より石垣部露出土	?	SK617に切られる	敷石化層の存在がうろ	H 11(1999)
	P1 2.3 4.6 7.8 9			北東壁寄	地蔵	無し	-					H 11(1999)
15			?	?			-				SH106と重複	H 12(2000)
?			?	石垣		?	-				床面下位に土が広く分布。大下が埋没	H12 (2000)
?			?	石垣	内部に溝の残存のみ	?	-	内部には周溝があったとみられる。		SH107に切られる。	敷石化層	H12 (2000)
19			(中央)	石垣		無し	-				SH106を切り	H12 (2000)
?			?	?		?	-	敷石			SH106 107と重複	H12 (2000)
	P1.1 3.4 5.6 7.8		中央	埋蔵	周溝にP1石と考えられる埋蔵あり	無し	-		不明	SH114, 117(118)を参照	SH-SB114P1ピットから抽出	H12 (2000)

4 掘立柱建物跡

表22 長峯遺跡掘立柱建物跡

遺構番号	掘付西 版No.	掘削 図版 No.	FLNo.	位置	田遺構名	所属時期	掘込資料	検出面	構造・規模					重複関係				
									柱配置	主軸方 向	主軸長cm	副軸長 m	ピット掘削所見					
													平面形		断面形	平面規模	深さ	柱痕
									ST01	SB92	変更							
ST02	256	422		ⅢC23		後期	位置	IV層上面	1間×1間	N25W	3.7	2.3						
P1					SB58 P1.3				円	方形	0.45×0.40	0.33		なし				
P2					SK635				円	半円形	0.4×0.38	0.37		なし				
P3					SK636				円	長方形	0.47×0.54	0.51		SK618と接する				
P4					SB58 P1.5				楕円	方形	0.36×0.30	0.31		なし				
ST03	256	422		ⅢL03		後期	位置	IV層上面	1間×1間	N15W	2.7	2.1						
P1					SK656				円	台形	0.55×0.55	0.31		SK655に切られる				
P2					SK645				円	#	0.6×0.55	0.45		なし				
P3					SK648				円	長方形	0.6×0.61	0.37		なし				
P4					SK652				円	台形	0.45×0.45	0.35		なし				
ST04	275- 276-277	423	51-1	ⅢD- 23.1-3-4		中期初頭 ～後葉	位置での 掘削がな てはまる	IV層上面	2間×1間	N19E	6.3	3.45						
P1					SK361				円	長方形	1.05×0.91	0.86	あり	SK417とSK362に接している				
P2					SK360				円	長方形	0.85×0.78	0.6	あり	なし				
P3					SK359				楕円	台形	0.65×0.55	0.7	あり	なし				
P4					SK358	中期後葉	土器		円	方形	0.65×0.60	0.59	あり	なし				
P5					SK367	中期前葉	土器		円	台形	0.73×0.68	0.7	あり	なし				
P6					SK363				楕円	長方形	0.75×0.65	0.73	あり	なし				
ST05	276	424	51-1	Ⅲ-14- 15-9-10		中期前葉	ピット遺 物、位置	IV層上面	2間×1間	N11E	6	3.1						
P1					SK291				円	台形	0.55×0.5	0.4	なし					
P2					SK286				円	台形	0.59×0.55	0.5	あり	なし				
P3					SK280	中期前葉	土器		円	方形	0.5×0.54	0.4	あり	SK281とSK282と接する				
P4					SK283				円	長方形	0.53×0.52	0.35	なし	なし				
P5					SK284				円	台形	0.59×0.5	0.31	なし	なし				
ST06	277	425	51-1	Ⅲ-14- 15		中期前葉 ～中葉	ピット遺 物、位置	IV層上面	1間×1間	N3E	3.6 2.8	2.9						ST07,ST08と重複し、ST08を切る。
ST6P1					SK278	中期中葉	土器		円	台形	0.8×0.75	0.55	あり	なし				
ST6P2					SK277				円	台形	0.72×0.68	0.4	あり	なし				
ST6P3					SK275		土器		楕円	台形	0.85×0.7	0.3	なし	なし				
ST6P4					SK273	前～中			円	階段状	0.7×0.65	0.55		ST08P1を切る				
ST07	277	425	51-1	Ⅲ-14- 15-19-20		中期前葉 ～中葉?	位置	IV層上面	1間×1間	N2E	3.3 3.65	2.1 1.85						ST06, ST08と重複するが断面は不明
ST7P1					SK274				円	台形	0.95×0.9	0.55		なし				
ST7P2					SK276				楕円	台形	1.0×0.8	0.59		なし				
ST7P3					SK270				円	方形	0.66×0.62	0.55	あり	なし				
ST7P4					SK271	前?			楕円	台形	0.8×0.66	0.47	あり	なし				
ST08	277	425	51-1	Ⅲ-14- 15-19-20		中期前葉 ～中葉?	ピット遺 物、位置	IV層上面	1間×1間	N12E	3.45 3.7	3.0 4.1						ST06, ST07と重複し、ST06に切られる
ST8P1					SK273	前～中			円	台形	1.0×0.95	0.34		ST06P4に切られる				
ST8P2					SK272				円	台形	0.75×0.65	0.35		なし				
ST8P3					SK269				円	台形	0.6×0.55	0.55		なし				
ST8P4					SK269				円	台形	0.75×0.75	0.6	あり	なし				
ST09	289 290	424		ⅣK-2		中期中葉 2-3	ピット遺 物、位置	IV層上面	2間×1間	N85E	4.07	2.45						
P1					SK1042	P2-3			円	楕円形	0.4×0.36	0.31		なし				
P2					SB110 P3				円	半円形	0.3×0.3	0.13		なし				
P3					SB110 P4				円	不整形	半円形	0.3×0.3	0.15		なし			
P4					SK1046	中2			円	長方形	0.46×0.41	0.41		なし				
P5					SK1192				円	不整形	半円形	0.45×0.35	0.15		なし			
P6					SK1043				円	楕円形	0.45×0.41	0.35		なし				

表22-2 (建物のつづき)

遺構番号	割付図版No.	横別図版No.	PLNo.	位置	旧遺構名	所属時期	認定資料	検出面	構造・規模					重複関係		
									柱配置		主軸長		副軸長		深さ	柱数
									方向	間隔	方向	長さ				
									ビット個別所見							
平面形	断面形	平面規模	深さ	柱数												
ST10	313-314.316	426	IVL-06		中期後葉	ビット遺物、位置	IV層上面	2間×1間	N17W	5.85	2.4	なし				
										5.7	2.35					
										楕円	長方形		0.82×0.5	0.6	SK1148に切られる	
										円	台形		0.65×0.55	0.7	SK1146に切られる	
										円	不整形		0.85×0.65	0.53	SB114.117のビットと切りあう	
										円	円形		0.7×0.6	0.4	SB114.117のビットと切りあう	
ST11	313-314.316	427	IVC-33.11-01L-06.01		中期後葉	ビット遺物、位置	IV層上面	2間×1間	N23W	5.15	2.17	なし				
										4.7	2.2					
										円	台形		0.65×0.61	0.6	なし	
										円	長方形		0.7×0.7	0.6	なし	
										円	不整形		0.8×0.7	0.7	SB128ビットを切る	
										円	台形		0.62×0.6	0.7	SK176を切る	
ST12	301-310	428	IVL-22.23		中期後葉	ビット遺物、位置	IV層上面	2間×1間	N78W	6.15	2.1	なし				
										5.9	2.1					
										円	長方形		0.66×0.61	0.73	SB153のビットを切る	
										円	方形		0.74×0.85	0.8	SB153のビットを切る	
										円	長方形		0.65×0.6	1.15	SK3019をきる	
										円	長方形		0.82×0.6	0.82	SK1317を切る	
ST13	301-310	429	IVL-22.23		中期後葉	位置	IV層上面	2間×1間	N84W	4.9	2	なし				
										不明	不明		0.43			
										円	台形		0.52×(0.65)	0.55	SB134のビットを切る	
										円	長方形		0.58×0.55	0.62	なし	
										円	台形		0.68×0.64	0.52	SB133のビットに切られる	
										円	長方形		0.68×0.65	0.6	SB133ビット6を切る	

5 屋外埋設土器

表23 長峯遺跡屋外埋設土器

遺構番号	割付図版No.	横別図版No.	PLNo.	位置	所属時期	検出面	遺構の種類	所見	規模		重複関係
									平面規模	盛り方深さ	
SX01	287	430	51-2	IVA21	中期中葉3期	SB64覆土	屋外埋設土器	SB64覆土に正位で埋設された底部を欠く部分を検出。	0.32×0.3	0.31	SB64を切る
SX03	282	430	51-3	IIIJ12	中期中葉3期	SB69覆土	屋外埋設土器	SB69を覆り下げ中に検出。正位に埋設された遺構を欠く部分を検出。	0.42×0.4	0.42	SB69を切る
UM01	307	430	51-4.5.2 -1	IVL09	中期後葉4~5	III層中	屋外埋設土器	真層下位にて土器を検出。底部までみられる土器を正位に埋設。中期後葉の環状墓所の中央室間と土坑群との境界に位置。	0.62×0.58	0.58	なし
UM02	307	430	52-2	IVL13	中期後葉5	III層中	屋外埋設土器	真層下位にて土器を検出。残っている土器を正位に埋設した状態。中期後葉の環状墓所の土坑群の内側に位置。	0.56×0.48	0.16	SK1494を切る
UM03	306	431	52-3	IVG23	中期後葉4	III層中	屋外埋設土器	真層の分布とともに、底部を欠く小形環状が正位で出土。下位も環状が環状。土坑内上層の土器埋設の可能性あり。	0.23×0.2	0.14	
UM04	306	431	52-4.5	IVG24	中期後葉4	III層中	屋外埋設土器	真層の分布とともに、土器の口縁部を検出。調査のため、正位で環状土器を埋設した遺構と確認。	0.46×0.4	0.32	番号を付けていないSKに切られる。
UM05	307	430	52-6	IVL03-08	中期後葉4~5	III層中	屋外埋設土器	真層下位にて土器を検出。底部を欠く小形環状が正位に埋設。中期後葉の環状墓所の中央室間と土坑群との境界に位置。	0.5×0.42	0.30	なし
UM06	303	430		IVG10	中期	III層中	屋外埋設土器	真層下位で土器を検出。正位に埋設した土器と確認。	0.18×0.18	0.20	UM06下位のIV層上面でSK2243検出。
UM07	303	431		IVG10	中期	III層中	屋外埋設土器	真層下位で土器を検出。正位に埋設した土器と確認。	0.24×0.2	0.18	なし
UM08	303	431		IVG09	中期後葉1期	III層中	屋外埋設土器	真層下位で土器を検出。正位に埋設した土器と確認。	0.32×0.3	0.28	下位にSK2186検出したが、関係は不明確。

6 遺物集中

表24 長峯遺跡遺物集中

遺構番号	附刊図版No.	個別図版No.	PLNo.	位置	所属時期	検出面	所見	平面規模	重複関係	備考
SQ02	269	432	52-7	ⅢH05	中期中葉1~2期	Ⅱ層下位	Ⅱ層下位で遺構検出中に土器集中として確認。3個体分の土器出土。掘り方など不明。	0.6×0.4	無し	
SQ03	269	432	-	ⅢH09	中期中葉	Ⅱ層下位	Ⅱ層下位で遺構検出中に土器集中と確認。掘り方など不明。	0.5×0.4	無し	
SQ04	269	432	-	ⅢH04	中期中葉	Ⅱ層下位	Ⅱ層下位で遺構検出中に土器集中として確認。掘り方など不明。	0.6×0.4	無し	
SQ05	268	-	-	ⅢD21	中期中葉	Ⅱ層下位	Ⅱ層下位で遺構検出中に土器集中として確認。掘り方など不明。		無し	
SQ06	270	-	-	ⅢI06	中期中葉	Ⅱ層下位	Ⅱ層下位で遺構検出中に土器集中として確認。掘り方など不明。		無し	
SQ07	263	432	52-8	ⅢC18	中期中葉4期	Ⅱ層下位	Ⅱ層下位で遺構検出中に土器が正位で出土。掘り方など不明。	0.22×0.23	無し	
SQ08	270	432	53-1	ⅢI08	中期中葉1期	Ⅱ層下位	Ⅱ層下位で遺構検出中に1個体分の土器が倒位で出土。掘り方不明。	0.45×0.38	無し	
SQ09	270	432	-	ⅢI03-08	中期中葉4期	Ⅱ層下位	Ⅱ層下位で遺構検出中に1個体分の土器が倒位で出土。掘り方不明。	0.24×0.24	無し	
SQ10	275	432	53-2	ⅢD23	中期中葉1期	Ⅱ層下位	Ⅱ層下位で遺構検出中に1個体分の土器が倒位で出土。掘り方不明。	0.42×0.28	無し	
SQ11	270	432	-	ⅢI07	中期中葉	Ⅱ層下位	Ⅱ層下位で遺構検出中に土器集中として確認。1個体分の土器片が出土。	0.82×0.6	無し	
SQ12	275	432	-	ⅢD23	中期中葉1期	Ⅱ層下位	Ⅱ層下位で遺構検出中に土器集中として確認。2個体分の土器片が出土。	0.24×0.25	無し	
SQ13	275	432	-	ⅢD23	中期中葉1~2期	Ⅱ層下位	Ⅱ層下位で遺構検出中に1個体分の土器が正位の状態出土したが、掘り方など不明。	0.3×0.22	無し	
SQ14	275	-	-	ⅢD18	中期中葉	Ⅱ層下位	Ⅱ層下位で遺構検出中に1個体分の土器が正位の状態出土したが、掘り方など不明。		無し	
SQ15~SQ17欠番										
SQ18	267	-	-	ⅣA22	中期中葉	Ⅱ層下位	Ⅱ層下位で遺構検出中に1個体分の土器が正位の状態出土したが、掘り方など不明。		無し	
SQ19~SQ20番										
SQ21	288	-	-	ⅣF18	中期中葉	Ⅱ層下位	土器片と礫の分布。掘り方不明。	1.5/1.1	無し	
SQ22	288	432	-	ⅢF17-18	中期中葉4期	Ⅱ層下位	Ⅱ層下位で遺構検出中に小礫と土器片が集中して出土。掘り方不明。	0.96×0.54	無し	
SQ23~SQ32欠番										
SQ33	311	-	-	ⅣH05	中期中葉	Ⅱ層下位	Ⅱ層下位の一括性の高い土器集中	1.1×0.75	無し	
SQ34	311	-	-	ⅣH01	中期中葉	Ⅱ層下位	Ⅱ層下位の一括性の高い土器集中	0.5×0.35	無し	
SQ35	298	-	-	ⅣF05	中期中葉	Ⅱ層下位	Ⅱ層下位の一括性の高い土器集中	0.5×0.3	無し	

7 炉跡、焼土跡

表25 長峯遺跡炉跡、焼土跡

遺構番号	附刊図版No.	個別図版No.	PLNo.	位置		所属時期	検出面	所見	規模		備考
				地区	グリッド				平面規模	掘り方など	
SF01	268	-	-	③	Ⅲ-C-21-22	中葉	Ⅱ層中	平面的に焼土範囲分布	0.8×0.6	0.1	
SF02	270	-	-	④	Ⅲ-I-8	中期中葉~中葉	Ⅱ層中	平面的に焼土範囲分布	0.84×0.48		
SF03	-	-	-	-	-	-	-	位置不明			
SF04	254	-	-	⑤	Ⅲ-G-16	後期か	Ⅱ層中	焼土範囲の分布	0.8×0.7	0.2	
SF05	254	-	-	⑤	Ⅲ-G-16	後期か	Ⅱ層中	土器小片(G16F-36)と焼土分布	1.2×0.5	0.1	
SF06	254	-	-	⑤	Ⅲ-F-20	後期か	Ⅱ層中	焼土範囲の分布	1.2×1.0	0.12	
SF07	264	-	-	⑤	Ⅲ-I-11	?	Ⅱ層中	焼土範囲の分布	0.4×0.3	0.2	
SF08	254	-	-	⑤	Ⅲ-G-16	中期中葉~後期	Ⅱ層中	焼土範囲の分布	0.65×0.6	0.2	
SF09	-	-	-	-	-	-	-	位置不明			
SF10 欠番											
SF11	288	-	-	④南	Ⅳ-F-22	中期中葉1期	Ⅱ層中	焼土と土器の分布	0.9×0.6	0.1	
SF12	315	-	-	④南	Ⅳ-L-10	?	Ⅱ層中	2ヶ所穴あり。	1.88×0.5		
SF13	299	-	-	④北	Ⅳ-G-6	中期中葉2~3	Ⅳ層上層	焼土と土器の分布	2.5×1.5	0.2	
Ⅳ-G-17	-	-	-	-	-	-	-	-			
SF14a	299	-	-	④南	Ⅳ-G-17	?	Ⅱ層中	焼土範囲の分布(551199層土上)	0.9×0.24		
Ⅳ-G-17	-	-	-	-	-	-	-	-			
SF14b	299	-	-	④南	Ⅳ-G-17	?	Ⅱ層中	焼土範囲の分布(551199層土上)	0.36×0.37		
焼土なし	311	-	-	④北	Ⅳ-I-9	?	Ⅱ層中	55161,169層土上の焼土範囲	0.72×0.48		

8 土坑

表26 長峯遺跡土坑

遺構番号	発見時期	P.N.	出處		所在時期		形状・規模				埋没関係	土層番号	遺物出土状況	備考		
			地区	ブツド	階層	種類	平面形状	断面形状	高さ形状	土角方向					長さ	幅
SK27	433	③	Ⅲ-11-15				隅丸方	B2	平底	-	84	78	28	なし	レンズ状	たらい状の土坑。
SK13	433	③	Ⅲ-12	中層4	出土土層	円	B2	平底	-	96	98	28	なし	レンズ状	遺跡出土 たらい状の土坑。	
SK23	433	53-4	③	Ⅲ-10-22	中層4	出土土層	円	B2	平底	-	96	92	24	なし	レンズ状	一級土層
SK27	433	③	Ⅲ-10-21	中層4	出土土層	円	B2	平底	-	96	88	32	なし	レンズ状	遺跡出土 たらい状の土坑。	
SK38	433	③	Ⅲ-10-21-1			円	B1	不定形	-	100	96	24	なし		遺跡出土	
SK51	433	53-5	③	Ⅲ-10-17	中層4(中)	出土土層	円	B2	平底	-	100	92	36	なし	レンズ状	遺跡出土 たらい状の土坑。
SK85	433	③	Ⅲ-11-14-19	中層1	出土土層	横円	B2	平底	-	118	84	38	SK70を切る。	不明	土層出土	
SK70	433	③	Ⅲ-11-14-19			横円	横穴状	平底	-	100	92	84	SK85に切られる。	水平		横穴状の土坑。
SK37	433	③	Ⅲ-11-4-5			円	B1	平底	-	84	84	20	SK88に切られる。	レンズ状		
SK88	433	③	Ⅲ-11-4-5	中層4	出土土層	横円	B2	平底	-	100	80	20	SK37を、SK87に切られる。	層埋		
SK89	433	③	Ⅲ-11-4	中層4	出土土層	横円	E2	平底	-	84	84	28	SK88を切る。	層埋		
SK103	433	③	Ⅲ-10-16	中層4	出土土層	円	B2	平底	-	118	112	48	なし	レンズ状		
SK106	433	③	Ⅲ-10-18	中層4-中	出土土層	横円	B2	平底	N32E	124	96	32	SK307に切られる	層埋	土層、遺跡 土層出土	
SK113	433	③	Ⅲ-11-4			円	B2	平底	-	96	96	20	なし	層埋	中層出土	
SK114		53-8	③	Ⅲ-10-25	中層4-中	出土土層										
SK136	433	③	Ⅲ-10-18	中層	出土土層	横円	B2	不定形	-	124	116	32				
SK127	433	③	Ⅲ-10-15	中層	出土土層	円	B2	平底	-	144	124	24	なし	層埋	埋土	
SK151	433	③	Ⅲ-11-3-8	中層4	出土土層	横円	D1	平底	-	84	76	24	なし	層埋		
SK164	433	③	Ⅲ-10-19-20	中層4-中中	出土土層	横円	B2	平底	-	128	128	44	なし	レンズ状		
SK174	433	③	Ⅲ-10-19	中層4	出土土層	横円	B2	平底	-	118	100	24	SK99と重畳	レンズ状	埋土あり	
SK175	433	③	Ⅲ-10-19-20	中層4	出土土層	円	A2	平底	-	102	92	76	なし	層埋		
SK177	433	③	Ⅲ-10-15			円	B2	平底	-	118	96	48	SK178を切る	層埋		
SK178	433	③	Ⅲ-10-15			円?	B1	やや傾斜	-	108	48	28	SK177に切られる	層埋		
SK180	433	53-7 B 54-1	③	Ⅲ-10-10	中層	出土土層	横円	F2	小ピツアリ	N45E	184	124	124	SK247,149と重畳	レンズ状	溝と穴
SK184	433	③	Ⅲ-10-7			横円	E2	不定形	N69W	148	108	32	なし	やや傾斜		
SK200	433	54-2	③	Ⅲ-10-21	中層4	出土土層	円	D2	平底	-	100	96	28	なし	層埋	埋土あり
SK201	434	54-3 A 5	③	Ⅲ-11-1		長楕円	B2	遺跡不備	N70E	284	130	60	なし	レンズ状	なし	遺跡未だ行も込み
SK213	434	①	Ⅲ-10-25	中層4	出土土層	円	D2	平底	-	200	178	88	なし		埋め直し	
SK214	434	①	Ⅲ-10-25-19	中層4	出土土層	円	D2	平底	-	180	164	64	なし		埋め直し	
SK215	434	54-7	③	Ⅲ-10-18	中層4-中層1	出土土層	円	B2	平底	-	244	220	88	なし	レンズ状	
SK222	434	③	Ⅲ-10-12			円	B2	平底	-	168	168	32	SK223を切る	レンズ状		
SK221	434	③	Ⅲ-10-21			円	A3	不定形	-	104	100	52	なし	平直埋		
SK226	434	③	Ⅲ-10-18-19	中層4-中層1	出土土層	円	B2	平底	-	112	104	36	SK10を切る	レンズ状		
SK237	434	③	Ⅲ-10-11			横円?	?	?	-	84	40	44	SK238に切られる	不連続		
SK238	434	③	Ⅲ-10-11			円	B2	平底	-	148	124	44	SK237,239を切る	レンズ状		
SK239	434	③	Ⅲ-10-6			円	B2	平底	-	92	72	48	SK238に切られる	レンズ状		
SK241		54-8	①	Ⅲ-10-13												
SK242	434	①	Ⅲ-10-14			円	B2	平底	-	112	104	32	なし	レンズ状		
SK284	434	③	Ⅲ-10-10	中層4-中層1	出土土層	円	B2	平底	-	100	96	28	なし	層埋	埋土	
SK287	434	③	Ⅲ-10-8	中層4-中層1	出土土層	円	B2	平底	-	112	108	28	SK288に切られる	層埋		
SK288	434	③	Ⅲ-10-8	中層1	出土土層	円	A2	平底	-	48	48	32	SK287を切る	レンズ状	埋土と遺跡 土層	
SK247	434	③	Ⅲ-10-8	中層	出土土層	円	A2	平底	-	128	124	68	なし	レンズ状	中層に埋	
SK251	434	③	Ⅲ-10-8	中層1-2	出土土層	横円	B2	平底	-	104	96	32	なし	層埋	埋土	
SK262	434	50-1	③	Ⅲ-10-8	中層4	出土土層	円	B2	平底	-	84	72	12	なし	層埋	遺跡出土 土層
SK265	434	③	Ⅲ-10-3	中層4-中層1	出土土層	横円	B1	不定形	-	100	78	28	SK388を切る	層埋	遺跡出土	
SK269	435	③	Ⅲ-10-3			円	C1	丸底	-	40	32	70	なし	層埋		
SK417	435	③	Ⅲ-10-22-23	中層4-中層1	出土土層	円	B1	平底	-	104	100	24	SK241と重畳	レンズ状	一級土層	
SK423	435	55-2	③	Ⅲ-10-7	中層3-4	出土土層	横円	B1	平底	N69E	124	100	24	SK424に切られる	層埋	
SK430	435	③	Ⅲ-10-23-24	中層3-4	出土土層	円	B2	平底	-	120	112	18	SK431を切る	層埋		
SK491	435	③	Ⅲ-10-23-24	中層4	出土土層	円	B1	平底	-	88	72	8	SK430に切られる	層埋		
SK478	435	③	Ⅲ-6-13	中層4-5	出土土層	円	A2	平底	-	92	84	78	なし	自然埋没		
SK516	435	⑦	Ⅲ-6-11	中層	出土土層	横円	F2	平底	-	124	100	64	小ピツと重畳	自然埋没	溝と穴あり	
SK517	435	55-3	⑦	Ⅲ-6-11	中層	出土土層	円	B2	平底	-	160	152	36	なし	レンズ状	
SK541	435	⑦	Ⅲ-10-6			横円	B1	平底	N75E	140	96	18	なし	レンズ状		
SK542	435	⑦	Ⅲ-10-5	中層4	出土土層	円	D1	平底	-	78	68	52		層埋	一級土層と 遺跡	

表26-3

調査番号	経緯度	緯度	経度	所蔵時期	形状・規模				敷設関係	土層地質	遺跡の年代	備考					
					平面形	断面形	高さ	長さ									
SK1004		57-2	①南	FF-M-6	中後	出土土器											
SK1147	438	57-3	①南	FF-H-21	中後～	出土土器	円	F1	平壇	142	125	110	なし	レンズ状			
SK1148	438	57-3	①南	FF-L-4-5	後期	出土土器	円	B2	中壇	195	190	57	ビットと重層	中壇と重層		小ビットあり	
SK1161	438		①南下	FF-F-13					不整楕円	E2	不定形		100	48	38	小ビットが重層か	平壇
SK1200	448	448	①南	FF-L-13			楕円	B2	平壇	100	78	40	なし	埋め直し			
SK1201	438	438	①南	FF-Q-25			円	A2	平壇	62	56	68	なし	不連続		■	
SK1290	438		①南	FF-H-21	後期	出土土器	円	D1	平壇	138	135	108	住居を切る	不連続			
SK1291	448	448	①南	FF-L-13	中後	出土土器	楕円	B2	平壇	122	95	28	土境と寄りあり	埋め直し			
SK1321	438		①南	FF-L-23			円	D2	平壇	85	80	68	SK1322と接する	不連続		■	
SK1323	438	438	①南	FF-L-23	中後	出土土器	円	?	?	73	68	30	SK1321に接する	扉層			
SK1324	438	438	①南	FF-L-27			円	D2	平壇	115	110	55	SK1323と接する	埋め直し			
SK1410	448	448	①南	FF-L-12			長方	B2	平壇	103	70	52	なし	埋め直し			
SK1420	448	448	①南	FF-L-12	中後	出土土器	楕円	B2	平壇	87	80	45	SK1421に接する	埋め直し			
SK1481	448	448	57-4	①南	FF-L-13	中後	出土土器	楕円	B2	平壇	106	100	35	SK1482と接する	埋め直し		ヒス1
SK1482	448	448	57-4-5	①南	FF-L-13		楕円	B2	平壇	85	70	45	SK1481を切る	埋め直し			
SK1492	438	57-6	①南	FF-L-7-8	中後	出土土器	円	A2	丸	50	50	88	なし	レンズ状		埋め直し層あり	
SK1493		57-2	①南	FF-L-13													
SK1506	448	448	①南	FF-L-4			長方	B2	平壇	H27W	142	80	72	なし	?		
SK1510	448	448	①南	FF-L-4	中	出土土器	長方	B2	平壇	122	82	30	SK1507に接する	埋め直し			
SK1511	448	448	①南	FF-L-4	中後	出土土器	楕円	B2	平壇	H90E	118	80	86	SK1530を切る	埋め直し		
SK1524	448	448	①南	FF-L-9-4	中後	出土土器	やや長方	B2	平壇	H90E	129	82	31	土境に接する	埋め直し		
SK1625	448	448	①南	FF-L-4	中後	出土土器	長方	B2	平壇	H27W	123	89	50	LM65と重層	埋め直し		
SK1626	448	448	①南	FF-L-4			長楕円	B2	平壇	H89W	122	78	48	LM65と重層	埋め直し		
SK1630	448	448	①南	FF-L-4			楕円	?	?	70	40	23	SK1611に接する	?			
SK1633	438		①南	FF-Q-24-25			方	B2	平壇	60	52	14	SK1534を切る	摩層			
SK1634	438	438	①南	FF-Q-25			円	A2	平壇	76	80	83	SK1533,1535に接する	レンズ状			
SK1635	438	438	①南	FF-Q-25			円	A2	平壇	76	80	83	SK1534を切る	埋め直し			
SK1648	438	438	①南	FF-Q-25	中後	出土土器	円	F2	平壇	116	110	85	住居を切る	レンズ状			
SK1610	448	448	①南	FF-L-10			楕円	B2		N01W	110	70	40	SK1611に接する	埋め直し		
SK1611	448	448	①南	FF-L-10	中後?	出土土器	楕円	B2	平壇	120	88	32	SK1611に接する	埋め直し			
SK1612	448	448	①南	FF-L-10	中? 中後?	出土土器	長方	B2	平壇	120	100	24	SK1611に接する	?			
SK1613	448	448	①南	FF-L-10			楕円	A1		55	48	24	SK1610に接する	扉層			
SK1614	438	438	①南	FF-L-13	中後	出土土器	不整楕円	B2	平壇	H43W	128	84	46	なし	埋め直し		
SK1615	438	438	①南	FF-L-8	中後	出土土器	長楕円	B2	平壇	H20W	110	82	33	なし	埋め直し		
SK1616	438	438	①南	FF-L-8	中後	出土土器	長方	B2	平壇	H20W	90	60	60	なし	埋め直し		敷設関係あり
SK1625	448	448	①南	FF-L-8-9			長方	B2	平壇	H80W	95	55	60	なし	埋め直し		
SK1626	438	438	①南	FF-L-13			長方	B2	平壇	H23W	108	74	54	なし	埋め直し		
SK1621	448	448	①南	FF-L-8-9			楕円	B3	H80W	93	30	40	SK1622に接する	埋め直し			
SK1632	448	448	①南	FF-L-8			楕円	A1		30	28	24	SK1631を切る	扉層			
SK1633	448	448	①南	FF-L-3			円	A2		80	80	65	なし	人為的			
SK1664	448	448	①南	FF-L-12			楕円	B2	平壇	122	84	42	SK1675と接する	埋め直し			
SK1666	448	448	①南	FF-L-8-9			長楕円	B2	平壇	H09E	140	90	45	小ビットと接する	小ビットと接する		
SK1669	448	448	①南	FF-L-15			不整楕円	B2	平壇	98	79	26	SK1670に接する	埋め直し			
SK1670	448	448	①南	FF-L-15			長楕円	B2	平壇	125	82	40	SK1669を切る	埋め直し			
SK1671	448	448	①南	FF-L-12			楕円	B2	平壇	112	80	40	小ビットに接する	埋め直し			
SK1675	448	448	①南	FF-L-12	中中2~4	出土土器	楕円長方	B2	平壇	140	113	43	SK1664に接する	埋め直し			
SK1676	448	448	①南	FF-L-12			楕円	B2	平壇	105	83	49	LM72と重層	埋め直し			
SK1717	448	448	①南	FF-L-15			長楕円	B2	平壇	130	70	34	SK1718に接する	埋め直し			
SK1718	448	448	①南	FF-L-13	中後	出土土器	長楕円	B2	平壇	135	85	40	SK1717,1719と接する	埋め直し			
SK1719	448	448	①南	FF-L-13-14			方	A1		65	60	69	SK1720を切る	?			
SK1728	448	448	①南	FF-L-3	中後	出土土器	方	A2	平壇	83	80	75	SK1610に接する	埋め直し			
SK1734		57-7	①南	FF-Q-23	中後	出土土器	楕円	A2	平壇	73	72	69	SK1734に接する	埋め直し			
SK1748	440	57-8	①南	FF-Q-20	中後	出土土器	円	B2	平壇	160	152	48	住居を切る	?		中壇	
SK1751	438	438	①南	FF-Q-20			楕円	A2	平壇	73	66	55	なし	埋め直し			
SK1753	438	438	①南	FF-Q-19	中後	出土土器	円	A2	平壇	73	72	69	SK1754に接する	埋め直し			

表26-4

遺跡番号	発見年	F.N.	位置	所属時期		形状・規模						遺構調査	土壌調査	遺物出土点	備考		
				前期	後期	平面形	断面形	底面形状	土輪方向	長さ	幅					高さ	
SK1754	439		①南	IV-Q-10			長方	B1	平垣		112	82	24	SK1753を切る	扉		
SK1782	440		①南	IV-L-12-13-17-18			横円	D2	平垣		90	81	76	SK1420を切る	?		
SK1789	440		①南	IV-L-17			横円	B3	不定形		120	73	43	土柱と寄りあう	埋め戻し		
SK1790	440		①南	IV-L-17			長方	B2	平垣		100	76	25	SK1791,1792に切られる	?		
SK1791	440		①南	IV-L-17	中後	出土土層	横円	B2	平垣		119	82	19	SK1790を切る	?	土層一部出土	
SK1792	440		①南	IV-L-17			長方?	B2	平垣		82	30	25	SK1790を切る	?		
SK1793	440		①南	IV-L-13	中後	出土土層	横円	B2			113	83	70	なし	埋め戻し		
SK1796	440		①南	IV-L-17			不整形横円	B2	平垣		106	65	40	なし	?		
SK1807	440		①南	IV-L-4	中～中後	出土土層	横長長方	B2	平垣	N80E	124	90	40	SK1519を切る	埋め戻し		
SK1808	444		①南	IV-L-3			長方	B2	平垣	N76W	100	76	55	小ピットに切られる	埋め戻し		
SK1810	444		①南	IV-L-3-4			長横円	B2	平垣	N69W	148	80	53	SK1728を切る	埋め戻し		
SK1811	444		①南	IV-L-3			不整形長方	B2	平垣		220	126	51	小ピットに切られる	埋め戻し		
SK1817	440		①南	IV-L-9			横円	B2	平垣	N48E	105	82	20	小ピットに切られる	埋め戻し		
SK1841	444		①南	IV-L-3	中4-5	出土土層	長方	B2	平垣	N64W	120	69	38	SK1842を切る	埋め戻し		
SK1842	444		①南	IV-L-3			不整形長方	B2	平垣	N32W	105	70	28	SK1841に切られる	埋め戻し		
SK1845	444		①南	IV-L-3			長方	B2	平垣		85	75	36	小ピットに切られる	埋め戻し		
SK1851	444		①南	IV-L-3			円	A1			40	38	30	SK1852を切る	平垣		
SK1852	444		①南	IV-L-3			横円	B2	平垣	N79W	95	67	16	SK1851に切られる	埋め戻し		
SK1853	444		①南	IV-Q-23	中後	出土土層	横円	B2	平垣		103	72	43	SK1884に切られる	埋め戻し		
SK1861	444		①南	IV-G-23			横円	B2	平垣		100	82	10	SK1860を切る	扉		
SK1883	444		①南	IV-G-23-1-3-4	中中4-5	出土土層	方	B2	平垣		142	140	35	SK2018,2020に切られる	?	土層出土	形状不明
SK1930	440		①南	IV-Q-24			横円	A2			70	68	40	SK1831を切る	レンズ状		
SK1931	440		①南	IV-Q-34			円	A1			47	42	47	SK1932に切られる	不連続		
SK1998	440		①南	IV-Q-19-23	中後	出土土層	円	B2	平垣		98	95	27	SK1996に切られる	レンズ状	土層片	
SK1999	440		①南	IV-Q-19-23			円?	A1			42	32	38	SK1998を切る	埋め戻し		
SK2005	440		①南	IV-Q-22	中中3-4	出土土層	横長方	B2	平垣		118	82	34	小ピットに切られる	埋め戻し		
SK2006	444		①南	IV-Q-22			横円	B2	平垣	N67W	124	85	20	SK2007に切られる	埋め戻し		
SK2007	444		①南	IV-Q-22			円	A2	平垣		43	42	32	SK2006を切る	扉		
SK2019	444		①南	IV-L-3			円	A1			35	26	30	SK1863を切る	?		
SK2020	444		①南	IV-L-3			円	A1			40	35	42	SK1863を切る	扉		
SK2021	444		①南	IV-L-3			横長方	B2	平垣		93	85	22	SK1863に切られる	不連続		
SK2025	450		①南	IV-L-6	5B-12		長方	B2	平垣		122	84	15	SK2015を切る	埋め戻し		ヒスイ1
SK2141	450		①南	IV-L-1			横円	B2	平垣		80	62	20	SK2143を切る	扉		
SK2142	450		①南	IV-L-1			輪縁内	B2	平垣		123	100	28	SK2141に切られる。SK2143を切る。	扉		
SK2143	450		①南	IV-L-1			輪縁内	B2	平垣	(120)	94	25	SK2142に切られる	扉			
SK2162	440		①北	IV-Q-9			円	B2	平垣		50	48	20	SK2163を切る			
SK2183	440		①北	IV-Q-9-10			横円	A2	平垣		121	70	74	SK2182に切られる	水平		
SK2215	440		①北	IV-Q-10	中中2-3	出土土層	横円	B2	平垣		134	116	23	小ピットに切られる	扉	土層一部出土	
SK2218	440		①北	IV-Q-10	中中3	出土土層	円	B2	平垣		95	90	25	小ピットに切られる	扉	土	
SK2352	440		①北	IV-Q-5	中中2-4	出土土層	円	D2	平垣		115	115	62	小ピットに切られる	不連続		
SK2364	450		①南	IV-L-6	中後	出土土層	円	A2	平垣		105	95	62	SK2365を切る	埋め戻し		
SK2365	450		①南	IV-L-6			横円	B2	平垣		130	96	30	SK2364に切られる。	?		
SK2366	450		①南	IV-L-6	中後	出土土層	横円	B2	平垣		140	88	34	SK2367を切る	埋め戻し		
SK2367	450		①南	IV-L-6			横円	B2	平垣		58	50	38	SK2366に切られる。SK2368を切る。	扉		
SK2368	450		①南	IV-L-6	中後	出土土層	輪縁内	B2	平垣		130	110	65	SK2367に切られる。	埋め戻し		
SK2369	450		①南	IV-L-6			横円	B2	平垣		80	88	23	SK2370を切る	扉		
SK2370	450		①南	IV-L-6	5B-3-4		横円	B2	平垣		108	85	24	SK2369に切られる。	扉		
SK2381	440		①北	IV-Q-6			横円	D2	平垣		118	60	42	小ピットに切られる	中や乱れ	大層入る	
SK2382	441		①南	IV-Q-18-19			横円	B2	平垣		80	43	18	SK2383に切られる	レンズ状		
SK2383	441		①南	IV-Q-18	中後	出土土層	円	B2	平垣		74	63	10	SK2382,2384を切る	レンズ状	土層	
SK2384	441		①南	IV-Q-18			長方	A2	平垣		73	64	42	SK2383に切られる	レンズ状		
SK2411	441		①南	IV-K-14	中後	出土土層	方	B2	平垣		68	66	28	なし	不連続	大層入る	
SK2464	441		①南	IV-K-14			円	A2	平垣		98	93	68	SK2465と重複	レンズ状		

表26-5

測線番号	測点 座標	P.R.	号数	所属時期	形状・規模				面積 ㎡	積体積 m ³	用途	備考	土壌汚染 状況	建物出土 状況	備考	
					用途	形状	基礎	平面形								断面形状
SK2524	490 451		◎南	Ⅱ-4	中後	出土土器	長方	B1	平座	109	79	12	SK2525を切る。	基礎		
SK2525	490 451		◎南	Ⅱ-4			円	A2	平座	90	80	62	SK2524に切られる。	埋め戻し		
SK2528	441		◎南	Ⅱ-K-10	中後	出土土器	長方形	B2	平座	N78W	100	52	24	基礎		
SK2532	440		◎南	Ⅱ-G-22L-2	中4-5	出土土器	横円	B2	平座		132	106	30	小ピットに切られる。	やや乱れる	
SK2578		59-5	◎南	Ⅱ-G-21						NR0W	112	66	28			
SK2597	441		◎南	Ⅱ-L-1	中後	出土土器	横円	B2	平座		100	99	32	なし	埋め戻し	遺跡A1
SK2615	450 451		◎北	Ⅱ-L-8	中後?	出土土器	長横円	B2	平座		142	83	50	SK2625,2616に切られる。	埋め戻し	
SK2616	450 451		◎南	Ⅱ-L-6			長方	B2	平座		108	70	25	SK2615を切る。	埋め戻し	
SK2617	450 451		◎南	Ⅱ-L-6			長方	B2	平座		100	76	28	SK2661を切る。SK2616に切られる。	埋め戻し	
SK2618	450 451		◎南	Ⅱ-L-6			横円	B2	平座		132	72	25	SK2661,2617に切られる。	埋め戻し	ヒスイ?
SK2619	450 451		◎南	Ⅱ-L-6			横円	B2	平座		82	80	30	SK2620に切られる。	?	
SK2620	450 451		◎南	Ⅱ-L-6			横円	B2	平座		100	93	62	SK2620に切られる。SK2618を切る。	埋め戻し	
SK2630	441		◎南	Ⅱ-F-25	中後?	出土土器	円	A2	平座		98	65	35	SK2630に切られる	基礎	土器片
SK2651	444 445		◎南	Ⅱ-G-23			長横円	B2	平座	N26E	128	68	10	なし	基礎	
SK2654	441		◎南	Ⅱ-G-19	中後	出土土器	円	A1			63	60	60	SK2655と重複	不連続	
SK2655	441		◎南	Ⅱ-G-19	中後	出土土器	円	A1			73	72	38	SK2654と重複	レンズ状	
SK2661	450 451			Ⅱ-L-4	中後	出土土器	横円	B2	平座		90	81	30	SK2617に切られる。SK2618を切る。	埋め戻し	
SK2662	450 451			Ⅱ-L-8	中後	出土土器	長方	B2	平座		172	72	35	SK2620を切る。SK2388と重複	埋め戻し	
SK2666	441			Ⅱ-K-10	中後	出土土器	扇三角?	?	?		103	86	70	SK2667に切られる	不連続	
SK2667	441			Ⅱ-K-10	中後	出土土器	横円	A1	不定形		128	95	66	SK2666を切る	不連続	
SK2668	441			Ⅱ-K-13	中後	出土土器	横円	A1	平座		73	62	60	なし	不連続	遺跡B1
SK2669	441			Ⅱ-K-10?			円	A1			43	35	45	小ピットと重複	基礎	
SK2673	441			Ⅱ-K-14			円	B2	平座		116	113	69	なし	不連続	
SK2674	441			Ⅱ-K-9-14	中後	出土土器	円	B1			78	78	15	SK2675を切る	レンズ状	
SK2675	441			Ⅱ-K-9-14			円	A2	平座		93	86	48	SK2674に切られる	レンズ状	
SK2703	441		◎南	Ⅱ-G-16			横円	B1		N45W	93	51	36	SK2704に切られる	レンズ状	
SK2704	441		◎南	Ⅱ-G-16			長方	B1		N42W	78	53	10	SK2703を切る	基礎	
SK2705	441		◎南	Ⅱ-G-16			円	A1			43	35	30	SK2706を切る。SK2745に切られる。	2層	
SK2706	441		◎南	Ⅱ-G-16			円	B2	平座		58	59	14	SK2705,2745に切られる	レンズ状	
SK2718	441		◎南	Ⅱ-G-19			不整形横円	B2	平座		85	20	20	SK2719に切られる	不連続	
SK2719	441		◎南	Ⅱ-G-16			円	A2			48	45	38	SK2720に切られる。SK2718を切る。	レンズ状	
SK2720	441		◎南	Ⅱ-G-16			横円	?			68	58	35	SK2719を切る	不連続	
SK2726	442		◎南	Ⅱ-K-5	中3-4	出土土器	横円	B2	平座		100	74	50	柱礎を切る	埋め戻し	
SK2866	441		◎南	Ⅱ-K-14			円	B2	平座		78	76	20	なし	レンズ状	
SK2867	441		◎南	Ⅱ-K-14-10			横円	A2	平座		85	49	42	なし	不連続	
SK2873	442		◎南	Ⅱ-K-10			横円	B2			72	58	52	SK2874に切られる	不連続	
SK2874	442		◎南	Ⅱ-K-10	中～中後	出土土器	円	A2	平座		100	90	84	SK2873を切る	埋め戻し	
SK2877	450 451		◎南	Ⅱ-L-1			不整形横円	B1	不定形		80	55	22	SK2878を切る。	?	
SK2878	450 451		◎南	Ⅱ-L-1			横円	A2	平座		90	85	76	SK2877,2879に切られる。	埋め戻し	
SK2879	450 451		◎南	Ⅱ-L-4			横円	A1			40	30	35	SK2878を切る。	?	
SK2901	442		◎南	Ⅱ-K-9			横円	A2	平座		75	65	73	SK2902に切られる。柱礎を切る。	?	
SK2902	442		◎南	Ⅱ-K-9	中3-4	出土土器	扇横円	A1			98	72	65	柱礎を切る	?	土器一層出土
SK2921	442		◎南	Ⅱ-K-9-10	中後～	出土土器	円	A2	平座		50	45	63	SK2922に切られる	不連続	
SK2922	442		◎南	Ⅱ-K-10			横円	B2	平座		40	35	14	SK2921を切る	基礎	
SK2994	442		◎南	Ⅱ-E-20	中後4	出土土器	円	?			95	52	3	なし	?	土器一層出土
SK3032	442		◎北	Ⅱ-G-4			横円	B2	平座		118	104	20	なし	レンズ状	
SK3044		59-8	◎北	Ⅱ-G-3												
SK3113	442		◎北	Ⅱ-B-18			不整形横円	B2	平座		103	88	20	なし	やや乱れる	遺跡
SK3123	442		◎北	Ⅱ-A-1-4			方	B2	平座		60	74	20	なし	基礎	遺跡
SK3287	442	59-7	◎北	Ⅱ-G-2	中3-4	出土土器	円	A2	平座		45	42	60	なし	基礎	土器や石器出土
SK3281	442		◎北	Ⅱ-F-3	中2	出土土器	横円	B3	不定形		150	138	23	なし	基礎	断面に小ピット2基
SK3405	440			Ⅱ-G-20			円	B2	平座		108	88	30	小ピットに切られる	やや乱れる	

9 礫・石器集中

表27 長峯遺跡礫・石器集中

遺構番号	割付図面No.	個別図面No.	PLNo.	位置		所属時期	検出面	所見	規模		備考
				地区	グリッド				平面規模	掘り方深さ	
SH01	308	—	—	①	N/L07.12	中期後葉か	Ⅲ層中	礫の分布、鳥中、土層も表り	2.5/2.0	0.2	
SH02	SR242Bへ変更	—	—	②	位置不明			礫と黒曜石の原石の分布	0.7/0.7	0.1	
SH03	—	—	—	③	N/O01.F05	中期中葉～後葉	Ⅲ層中	小片礫の分布、土層出土状も	1.5/1.2	0.1	
SH04	298	—	—	④	N/A20.25 B18.21	中期中葉～後葉	Ⅲ層中	黒曜石の互換やアブツの分布	6.0/6.0	0.1	
SH05	298	—	—	⑤							

10 その他

上述した個別遺構のほかに、調査時に認められた遺構（あるいは構造物）について記す。第1節で紹介した通り、長峯遺跡の台地の表層部は昭和34年の大掛かりな開田工事による掘削を受けている。傾斜する台地に広い面積の水田を確保するために、等高線に沿う長大な区画を設定し、その筆ごとに山側を切土して、谷側へ盛土する。その結果、遺構検出面や遺構の残存範囲は、筆ごとに破壊（切土）と保護（盛土）が繰り返される。長峯遺跡全体図（付図2）を見ると、密集する遺構が一段水田面を下がると、途端に空白地域になることがわかる。この開発行為がなかったならば、どれだけ保存状態の良い遺跡であったか想像できない。

実際に盛り土されている範囲には、当時の生活面と考えられる面を見つかることができる。その最たる部分は①区南地区の西側である（図版250）。同じ地区の東側は、ローム層下位の火砕流堆積物まで露出させられていて見る影もないが、西側の旧農道下には黒褐色の遺物包含層（Ⅲ層）が良好に存在していた。特に筆境（②区との境界）付近では多くの遺物とともに、扁平な安山岩が見つかった。

礫の大きさは持ち抱えられるサイズ（20～50kg）が大半をしめるが、なかには104kgもある巨大な安山岩も見つかった。出来る限りこれらの礫を残して遺構検出を続けると、中期後葉の住居跡群の内側に環状に配置する土坑群と、中央の遺構がすくない空間（広場？）との境界に50～60cm程もある扁平礫が平らに置かれるように点在していて、それらを概観してみると、環状を呈していることがわかる（図版306）。さらにその礫群は北側へ直線状に続き、屋外埋設土器（UM03）などと融合していく。残念ながら、北側も東側も切土部分になるため、当時の分布範囲を検証できないが、明らかに当時の生活面に近い高さで並べている状況と認められた。

礫の下の土層は、ロームブロックと黒褐色土ブロックが混在していて、ある程度の整地作業を終えて並べているようである。また環状に分布する礫群の下位（Ⅳ層上面）には、楕円形や長方形をした墓坑の環状分布の最内縁部、あるいは大形深鉢の埋設土器（UM05、UM01）が分布している。

残念ながら礫群の正確な時期ははっきりしていない。しかし礫群周辺の包含層では中期後葉の土器片が圧倒的に多く、東上にある後期初頭の敷石住居跡（SB106、107）より前の段階の構造物であると理解している。

また、故河内晋平氏に現地指導を受けたところ、礫群に利用されている安山岩はいずれも角のとれた川原礫であること、またその起源は数万年前に八ヶ岳から押し出された糸置溶岩や一の坂溶岩にあり、いずれも崩落して渋川や角名川を流れ下りてきた産物であることがわかった。当然長峯の台地には川原礫は存在しないため、最も近くとも角名川の岸辺までいかなければ獲得できない。

あわせて後期初頭の敷石住居跡の石材には、板状節理の発達した安山岩も使われている。これらは節理面が明瞭であり、露頭や、露頭により近い地域から採取した可能性が高いこと、現在の露頭では遺跡から東に3kmほど上がった、横谷溪谷辺りが最も近いという説明も受けた。

第3節 縄文時代の遺物

1 概要

縄文時代に比定される全遺物量は膨大な量(表28)にのぼる。その内訳は、出土土器が5,686,579g、土製品114点(3,560g)である。また、石を素材とした遺物は、搬入礫・敷石などを除いた石器・石器素材・屑の総数が12,887点(2,578,189g)に達した。遺構毎の土器・石器総量は表31に示した。その他、炭化材・炭化種実、赤色顔料(土壌とともに)などを採取した。各遺物の時期は、縄文時代早期から後期中葉にわたる。このうち、集落が台地上に展開する中期前葉～後期初頭の遺物が圧倒的に多くなっている。

土器は、堅穴住居跡からの出土が中心で、斜面地でのいわゆる土器捨て場の形成は確認されていない。これは、台地縁辺が後の時代に、自然の営力によって削剥されていたことが一因と考えられる。また、後期の堅穴住居は、主に削剥された傾斜地に占地していた可能性が高い(一部のみで確認)。そのため、後期前葉から中葉の遺物は、台地上の包含層や土坑からの少量に止まっている。早期・前期の資料についても遺構からの出土はなく、包含層からの出土である。

土製品のうち土偶は、聖石遺跡と同様、長期存続した大規模集落としては少量(14点)に止まった。その他、中期後葉の土鈴、耳飾、中期前葉を中心とする土器片製円板などが出土している。

石器に関しては、黒曜石原産地群から至近距離にあるため、小形石器の石材は90%以上が黒曜石である。また、SB4やSK65に見られるように、原石・石核をストック、埋納した状況が認められる。

調査地点が、高燥な台地上で、しかも火山性土壌であったため、動植物遺体の残存はわずかであった。炉や埋室内土壌の水洗選別を行ったにもかかわらず、動物遺体では、種不明の焼成を受けた骨片が2点採取できただけである。また、植物遺体については炭化物そのものが少なく(炉内で皆無)、焼失家歴?から少量の炭化材(同定されたものはクリ)が採取できたにすぎない。

表28 長峯遺跡出土遺物の概要

	時代	種別	点数	重さ(g)	備考	
土器	縄文時代	深鉢、浅鉢、有孔 罎付、釣手ほか	103,821	3,078,107		
土製品		土偶	14	1,760		
		土鈴	1	40		
		耳飾	3	20.5		
		土器片製円板	96	1,739		
石器			石鏃、打斧、磨 斧、磨石ほか	12,887	2,578,189	石柱・丸石・礫 計測せず
動物遺体			不明	2	2.06	
植物遺体			クリ炭化材・種実	150	23,931.69	
その他			赤色顔料	3	1,757.11	土付着状態
須臾器		古代?	小破片器形不明	2	—	
陶磁器	近世以降	罎ほか	72	493.14		
金属製品	近世以降	寛永通宝、煙管 ほか	15	524.938		
動物遺体	近世以降	不明	1	14.65		
合計	—	—	116,867	5,686,579		

2 土器

(1) 概要

総数は103,621点(3,078kg)を数えた。昭和30年代に開田工事がなされており、削平された住居や包含層が多かった。そのため、縄文時代中期・後期の大規模遺跡としては比較的少ない土器量である。長峯遺跡に関しては、全土器資料について一覧表を作成した。

表31には、各遺構で主体となる土器の時期と遺物量を示した。また、各遺構出土土器に対する掲載土器量の比率(重量比)も示した。図版に掲載した土器に関してはCD表29に示した。

CD表29 掲載土器・土製品一覧(冒頭部分)

図版番号	PL番号	CD掲載写真番号	14C-放射性炭素分析番号	形状・遺物番号	埋没台帳遺物番号	遺構番号	地点・層位名(ピット名実用有 備考参照)	主要発掘法記号(ピット名実用有 備考参照)	接合片(ピット名実用有 備考参照)	同一個体・本接合片(ピット名実用有 備考参照)	遺物名称	形状測定の(-)表示は欠損ありの意味				備考
												長さcm	口径cm	底径cm	脚高cm	
452	1	07		300990	灰土	0	S2119a c2層				早期土器					
452	2	07		300993	灰土	0	S2229c2層				早期土器					
452	3	07		300991	灰土	0	5段e1-イブテ				早期土器					
452	4	07		300998	灰土	0	S2119c2層				早期土器					
452	5	07		300995	灰土	0	S2119c2層				早期土器					
452	6	07		300914	包含層	0	S2229f2層				早期土器					
452	7	07		300997	灰土	0	S2119c2層				早期土器					
452	10	07		300004	包含層	0	S2119c2層(埋)				早期土器					
452	11			300012	包含層	0	埋				早期土器					

CD表30は、出土位置・部位・簡単な分類毎に点数・重量を計測し、中期前葉と中期中葉に関しては細別時期を記した概要表である。ただし、細別時期に関しては整理期間との関係上、瞬時に判断を下したもので不正確な面がある。参考程度に考えていただきたい。また、中期後葉や後期については細別時期を判断する時間がなかった。

この表によって、まず、遺構毎の土器量の多少を知ることができる。

器種分類については、破片が大半であったため、明らかに浅鉢、有孔鈿付土器、釣手土器と解るもの以外は、深鉢になっている。また、中期後葉など器種・器形が変化に富んでくる時期について、そのほとんどが深鉢のみの記述となっている。そのため、器種組成の検討には耐えられない面がある。破片から器種を判断することに関しては、今後の課題としたい。

分類はごく大雑把なものであるが、中期前葉(五領ヶ台式段階)の縄文系と沈線文系土器の比率を知ることが可能である。また、中期中葉では、「角押文」(勝板式=捺沢式)と「浅い平行沈線」(平出3Aか東海系)、「斜行沈線」(後沖式)といった異系統土器の抽出や比率を見ることが大雑把には可能である。その一端については、第6章を参照していただきたい。また、中期後葉については、縄文、条線、沈線といった地文の区別や、地文の有無の量比を知ることが可能である。

また、長峯遺跡に関しては、竅穴住居跡内の遺物出土状況図を提示することができていない。そのため、この表によって、個別の遺構内にどの程度の時期差を持つ土器が含まれているのか、あるいは炉内やピット内出土土器と覆土中との時期差があるのかなど、初歩的な再検討が可能となっている。例えば、中期中

CD表30 長峯遺跡全出土土器一覧(SB冒頭部分)

※ 土器への注記は備考にある旧番号になっているので注意

遺構記号	遺構番号	出土位置	取上げ番号	点数	重量(g)	形状	器種	分類	時期	鑑定強し番号	備考
50	1	1号	1	19	3400	口縁一段	深鉢	角押文	中1	23	
50	1	1号	2	16	350	浅	深鉢	浅い平行沈線	中弱		層主・ズル等同一層位と見られるものも含む
50	1	1号	1	14	390	浅	深鉢	単沈線・縄文	中4	25	

表31 長峯遺跡遺構時期と出土遺物量(1)

※石器総量には、石柱・丸石、敷石・礎は含まれていない。

遺構記号	遺構番号	遺構所属時期			遺土出土土層の時期 (標準層入を除く)	土器・土質品総量		縄織土器		土器構築割合(%)		石器・石器素材総量		備考
		鑑定資料	大時期区分	中時期区分		小時期区分	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)	点数	
SB	1	旧平塚土層	前期	前期	4	中層1	458	12,591	91	6,078	40%	333	16,824.30	
SB	2	旧平塚土層	前期	前期	1	中層1	702	30,306	350	22,063	71%	314	16,246.56	
SB	3	旧平塚土層	前期	前期	1~2	前期3-1	34	1,211	8	413	24%	43	1,611.18	
SB	4	旧平塚土層	前期	前期	1~2	前期3-2	1,819	65,479	512	27,891	28%	81	3,225.33	
SB	5	旧平塚土層	前期	前期	2	前期3-1~中層1(2)	973	27,189	124	7,892	29%	367	33,171.72	
SB	6	旧平塚土層	前期	前期	4	前期4-1~中層1	125	3,446	34	969	29%	196	3,206.78	
SB	7	旧平塚土層	前期	前期	4	前期4-1~中層1	147	3,700	82	1,454	49%	43	7,699.35	
SB	8	旧平塚土層	前期	前期	1~(2)	中層1-2	19	814	5	134	22%	42	862.90	
SB	9	旧平塚土層	前期	前期	4	前期4-2	2,043	48,152	391	15,734	19%	49	20,586.96	
SB	10	旧平塚土層	前期	前期	3,4	前期3-4	423	13,770	150	7,383	33%	159	8,140.06	
SB	11	旧平塚土層	前期	前期	3	前期3-1~4	402	11,120	122	5,317	48%	169	1,390.21	
SB	12	旧平塚土層	前期	前期	4	前期4-1	0	0	0	0	0%	12	28.89	
SB	13	旧平塚土層	前期	前期	2	前期2-1	38	1,244	7	853	52%	19	150.60	
SB	14	旧平塚土層	前期	前期	2	前期2-1~中層2	288	15,121	117	11,170	71%	213	20,856.76	
SB	15	旧平塚土層	前期	前期	3~4	前期3-4	25	847	8	208	38%	67	738.03	
SB	16	旧平塚土層	前期	前期	4	前期3-4	1,115	27,773	203	9,462	34%	223	10,718.53	
SB	17	旧平塚土層	前期	前期	4	前期4-1~中層3	65	1,800	8	279	17%	28	7,653.55	
SB	18	旧平塚土層	前期	前期	3	前期3-1~2	709	31,246	431	24,124	73%	105	23,910.56	
SB	19	旧平塚土層	前期	前期	4	前期4-1~2	386	14,053	192	7,411	53%	85	5,112.88	
SB	20	旧平塚土層	前期	前期	1(4)~8	前期4-3	172	4,867	30	3,101	64%	35	1,297.93	
SB	21	旧平塚土層	前期	前期	47	前期4-4	17	148	1	10	6%	23	163.09	
SB	22	旧平塚土層	前期	後葉	5	後葉5	802	15,144	124	7,410	49%	173	2,589.86	
SB	23	旧平塚土層	前期	後葉	3	後葉3	0	0	0	0	0%	6	0.00	
SB	24	旧平塚土層	前期	後葉	2	後葉2	96	2,920	20	1,134	49%	63	8,045.13	
SB	25	旧平塚土層	前期	後葉	2	後葉2	0	0	0	0	0%	0	0.00	
SB	26	旧平塚土層	前期	後葉	2	後葉2	60	472	21	350	74%	0	0.92	
SB	27	旧平塚土層	前期	後葉	5	後葉5	527	15,420	88	5,220	34%	184	6,581.17	
SB	28	旧平塚土層	前期	後葉	2	後葉2	159	3,511	86	4,271	69%	39	4,746.42	
SB	29	旧平塚土層	前期	後葉	2	後葉2	49	1,396	15	714	36%	10	2,256.74	
SB	30	旧平塚土層	前期	後葉	2	後葉2	102	8,922	30	3,386	38%	106	15,204.88	
SB	31	旧平塚土層	前期	後葉	1	後葉1	1	18	0	0	0%	0	0.00	
SB	32	旧平塚土層	前期	後葉	3~4	後葉3-4	833	27,143	201	17,490	64%	171	6,198.20	
SB	32,34	旧平塚土層	前期	後葉	3	後葉3	0	0	0	0	0%	14	22.03	分離不可
SB	33	旧平塚土層	前期	後葉	4	後葉3-4	208	36,941	165	3,558	10%	12	2,278.17	
SB	34	旧平塚土層	前期	後葉	3	後葉3	125	3,420	20	893	26%	43	6,862.81	
SB	35	旧平塚土層	前期	後葉	3~4	後葉3-4	43	3,154	69	3,000	69%	15	443.38	
SB	36	旧平塚土層	前期	後葉	2	後葉2	62	1,985	11	340	31%	20	723.36	
SB	37	旧平塚土層	前期	後葉	2	後葉2	270	7,894	27	1,740	22%	186	1,204.59	
SB	37,41,42	旧平塚土層	前期	後葉	3	後葉3	51	1,156	10	1,156	22%	37	3,141.75	
SB	37,42	旧平塚土層	前期	後葉	3	後葉3	32	1,195	62	2,246	66%	25	1,317.89	分離不可
SB	38	旧平塚土層	前期	後葉	3	後葉3	82	2,246	21	1,200	54%	29	1,317.89	分離不可
SB	39	旧平塚土層	前期	後葉	3~(4)	後葉3-4	613	17,419	130	6,620	39%	171	2,821.17	
SB	40	旧平塚土層	前期	後葉	3	後葉3	94	3,224	30	1,610	50%	43	899.39	
SB	41	旧平塚土層	前期	後葉	3	後葉3	821	11,289	81	2,080	18%	242	6,534.89	
SB	41,42	旧平塚土層	前期	後葉	3	後葉3	0	0	0	0	0%	10	7.18	分離不可
SB	42	旧平塚土層	前期	後葉	3~4	後葉3-4	423	16,815	195	13,320	72%	129	10,004.53	SB43~44, SB47
SB	43	旧平塚土層	前期	後葉	2	後葉2	129	2,987	29	5,000	69%	38	71.31	SB43~44, SB47 から分離
SB	43,44	旧平塚土層	前期	後葉	1	後葉1	118	3,946	0	0	0%	40	2,519.80	分離不可
SB	44	旧平塚土層	前期	後葉	2	後葉2	152	3,845	133	3,440	69%	7	3,952.46	
SB	45	旧平塚土層	前期	後葉	4	後葉3-4	192	7,840	73	4,550	59%	92	6,104.14	
SB	45,46	旧平塚土層	前期	後葉	1~2	後葉1-2	19	1,157	0	0	0%	5	939.78	分離不可
SB	46	旧平塚土層	前期	後葉	1~2	後葉1-2	19	1,157	0	0	0%	5	939.78	
SB	47	旧平塚土層	前期	後葉	2	後葉2	248	8,603	91	3,730	43%	42	341.11	
SB	48	旧平塚土層	後期	初期	中期後葉5~後期初	223	5,658	10	723	13%	66	16,14.78		
SB	49	旧平塚土層	後期	初期	後葉5	4	210	0	0	0%	14	1,133.80		
SB	50	旧平塚土層	後期	初期	後葉5	108	3,243	51	1,800	55%	10	17.62		
SB	51	旧平塚土層	後期	初期	後葉5	676	9,628	193	6,350	69%	184	60,896.34		
SB	52	旧平塚土層	後期	初期	中層1	21	856	0	0	0%	8	25.36		
SB	53	旧平塚土層	後期	初期	後葉5	0	0	0	0	0%	0	0.00		
SB	54	旧平塚土層	後期	初期	中層1	527	14,020	0	0	0%	71	5,858.48	SB43と重複 SB5412号のみ に準ず	
SB	54,55	旧平塚土層	後期	初期	中層1	19	305	0	0	0%	0	0.00	分離不可	
SB	55	旧平塚土層	後期	初期	中層2(1)~(4)	327	16,812	87	11,085	0%	78	5,299.23		
SB	56	旧平塚土層	後期	初期	後葉5	15	11	0	0	0%	0	0.00		
SB	57	旧平塚土層	後期	初期	後葉5	344	4,880	70	1,851	38%	30	14,751.82		
SB	58	旧平塚土層	後期	初期	不明	8	183	5	132	81%	2	8,700.00		
SB	59	旧平塚土層	後期	初期	後葉5	11	240	4	91	36%	6	651.53		
SB	60	旧平塚土層	後期	初期	中層1	12	129	8	101	79%	1	8.78		
SB	61	旧平塚土層	後期	初期	中層2	1,220	48,336	281	18,536	43%	481	29,590.28		
SB	62	旧平塚土層	後期	初期	中層2	398	11,923	62	3,651	39%	78	3,248.41		
SB	63	旧平塚土層	後期	初期	中層3	393	24,919	205	16,475	67%	54	3,657.00		
SB	64	旧平塚土層	後期	初期	中層1~2	807	38,001	439	26,808	70%	367	24,303.08		
SB	65	旧平塚土層	後期	初期	不明	0	0	0	0	0%	1	124.41		
SB	66	旧平塚土層	後期	初期	中層2-3	157	5,295	58	2,915	36%	87	11,066.23		
SB	67	旧平塚土層	後期	初期	中層2-3	11	136	2	136	70%	4	3,547.72		
SB	68	旧平塚土層	後期	初期	中層2-3	444	13,181	125	6,984	36%	78	3,955.66		
SB	69	旧平塚土層	後期	初期	中層2-3	732	31,507	238	14,782	76%	274	14,782.79		
SB	70	旧平塚土層	後期	初期	中層1-2	638	17,535	159	7,186	41%	177	40,213.32		
SB	71	旧平塚土層	後期	初期	中層1-2	411	13,881	74	6,619	48%	107	17,897.88		
SB	72	旧平塚土層	後期	初期	前期4	287	7,645	71	2,170	31%	50	1,812.61		
SB	73	旧平塚土層	後期	初期	前期3	90	1,843	28	1,198	69%	11	390.47		
SB	74	旧平塚土層	後期	初期	前期3~中層1	0	0	0	0	0%	0	0.00		
SB	75	旧平塚土層	後期	初期	中層3	163	3,816	39	1,923	66%	17	1,418.10		
SB	76	旧平塚土層	後期	初期	前期4~中層3	89	2,403	17	864	39%	18	508.21		
SB	77	旧平塚土層	後期	初期	中層1-2	201	5,494	42	1,842	29%	44	3,193.78		
SB	78	旧平塚土層	後期	初期	前期1-2	810	31,173	71	3,177	12%	12	1,862.52		
SB	79	旧平塚土層	後期	初期	前期1~2	509	7,143	395	6,787	55%	8	1,111.22		
SB	80	旧平塚土層	後期	初期	前期4	113	3,453	47	2,370	69%	20	1,358.87		
SB	81	旧平塚土層	後期	初期	前期4	8	89	0	0	0%	6	34.89		
SB	82	旧平塚土層	後期	初期	前期4	258	9,646	53	5,442	56%	96	6,701.47		
SB														

表31 長峯遺跡遺構時期と出土遺物量(2)

※石器総量は、石片・丸石・礫石・礫は含まれていない。

遺構記号	遺構番号	遺構所屬時期			履土出土土器の時期 (数量記入を除く)	土器/土器片数量		縄紋土器		土器種類 割合(%)	石器・石器素材総量		備考	
		認定資料	大時期区分	中時期区分		小時期区分	点数	量(g)	点数		量(g)	点数		量(g)
SB	84	灰土層	中期	前期	4	前期4	18	2,307	7	1,073	86%	7	121.42	
SB	85	灰土中土層	中期	中期	1	中期1-2	191	8,493	0	4,698	73%	20	2,244.37	
SB	86	灰土中土層	中期	中期	1	中期1-2	0	0	0	0	0%	0	0.00	
SB	87	灰土中土層	中期	後葉?	2	後葉?	2	18	2	18	100%	2	85.90	
SB	88	灰土中土層	中期	中期-後葉	7	中期-後葉	16	567	6	320	59%	34	138.87	
SB	89	灰土中土層	中期	後葉?	7	中期-後葉現在	11	151	4	81	40%	8	102.88	
SB	90	灰土中土層	中期	後葉?	7	後葉?	0	0	0	0	0%	0	0.00	
SB	91	BS51期上層 (BS50期-BS52期) の一段	中期	前期	7	前期3	424	11,096	40	2,180	19%	33	1,486.99	
SB	92	灰土中土層	中期	中期	1	中期1-2	17	336	2	17	11%	2	17.11	
SB	93	灰土中土層	中期	中期	1	中期1-2	0	0	0	0	0%	1	430.00	
SB	94	灰土中土層	中期	中期	1	中期1-2	0	0	0	0	0%	0	0.00	
SB	95	灰土中土層	中期	中期	1	中期1-2	0	0	0	0	0%	0	0.00	
SB	96	灰土中土層	中期	中期	1	中期1-2	0	0	0	0	0%	0	0.00	
SB	97	灰土中土層	中期	中期	1	中期1-2	0	0	0	0	0%	0	0.00	
SB	98	灰土中土層	中期	中期	1	中期1-2	0	0	0	0	0%	0	0.00	
SB	99	灰土中土層	中期	中期	1	中期1-2	0	0	0	0	0%	0	0.00	
SB	100	灰土中土層	中期	中期	1	中期1-2	0	0	0	0	0%	0	0.00	
SB	101	灰土中土層	中期	中期	2	中期1-2	351	9,844	193	8,750	70%	74	3,810.78	
SB	102	灰土中土層	中期	後葉?	27	後葉27	109	2,910	53	2,130	73%	29	4,152.18	
SB	103	灰土中土層	中期	後葉?	3~	後葉	37	1,418	24	1,140	80%	0	0.00	
SB	104	灰土中土層	中期	後葉?	1	後葉	0	0	0	0	0%	0	0.00	
SB	105	灰土中土層	後葉期?	後葉?	7	後葉?	91	2,259	38	1,970	87%	3	4,815.81	
SB	106	灰土中土層	後葉期?	後葉?	7	後葉?	18	8,473	18	1,095	18%	0	0.00	
SB	106/108	灰土中土層	中期	中期	2	中期後葉-1次前期	18	306	0	0	0%	2	31.98	分層不可
SB	106/108	灰土中土層	中期	中期	2	中期後葉-1次前期	0	0	0	0	0%	1	3.08	分層不可
SB	107	灰土中土層	後葉期	初期	1	中期後葉-1次前期	72	1,204	9	280	24%	28	2,748.02	
SB	108	灰土中土層	中期	中期	1	中期後葉-1次前期	0	0	0	0	0%	3	300.37	
SB	109	灰土中土層	中期	後葉?	3	後葉?	92	1,481	8	1,138	77%	9	878.13	
SB	110	灰土中土層	中期	後葉?	3	後葉?	0	0	0	0	0%	0	0.00	
SB	111	灰土中土層	中期	中期	2	中期2	21	501	4	283	99%	18	1,708.74	
SB	112	灰土中土層	中期	後葉?	2	後葉?	114	5,428	87	5,190	98%	41	4,746.13	
SB	112	灰土中土層	後葉期	初期	1	初期	75	1,843	18	400	24%	13	974.05	
SB	114	履土中土層	中期	中期	4	中期後葉と混在 (SB117-12分層不可)	618	21,973	228	12,248	58%	117	23,768.48	
SB	114/117	履土中土層	中期	中期	1	中期後葉と混在 (SB117-12分層不可)	0	0	0	0	0%	57	14,910.40	分層不可
SB	118	灰土中土層	中期	後葉?	4	後葉?-4	117	5,657	32	2,800	44%	78	12,880.19	
SB	116	灰土中土層	中期	後葉?	4	後葉?-4	191	4,421	73	2,700	61%	28	2,510.12	
SB	117	灰土中土層	中期	中期-後葉	7	中期-後葉	59	2,010	12	870	39%	8	1,469.24	
SB	118	灰土中土層	中期	後葉?	2	後葉?-3	772	25,289	343	16,280	64%	90	29,648.84	
SB	118/118	灰土中土層	中期	後葉?	1	後葉?	3	878	0	0	0%	0	0.00	分層不可
SB	118/118	灰土中土層	中期	後葉?	1	後葉?	1	26	0	0	0%	0	0.00	分層不可
SB	118/124	灰土中土層	中期	後葉?	3	後葉?	5	400	0	0	0%	0	0.00	分層不可
SB	119	灰土中土層	中期	後葉?	3	後葉3	156	3,994	29	1,210	33%	73	8,029.33	
SB	120	灰土中土層	中期	後葉?	37	後葉?	5	52	2	21	40%	4	11.80	
SB	120/121	灰土中土層	中期	後葉?	0	後葉?	0	0	0	0	0%	4	13.68	分層不可
SB	120-122	灰土中土層	中期	後葉?	0	後葉?	0	0	0	0	0%	3	15.39	分層不可
SB	121	履土中土層	中期	後葉?	4	後葉?-4	296	7,608	82	1,850	24%	58	3,021.15	
SB	122	履土中土層	中期	後葉?	37	後葉?-3	98	1,830	6	501	27%	3	78.78	
SB	123	履土中土層	中期	後葉?	4	後葉?-4	295	8,073	5	810	10%	84	10,801.28	
SB	123/124	履土中土層	中期	後葉?	4	後葉?-4	174	3,105	0	0	0%	17	1,117.17	
SB	124	履土中土層	中期	後葉?	3	後葉?-4	389	14,416	199	10,880	75%	98	7,349.25	
SB	125	履土中土層	中期	後葉?	3	後葉?-4	40	1,484	8	154	11%	26	280.02	
SB	126	灰土中土層	中期	中期	3	中期後葉と混在 (SB183と分層不可)	119	4,348	35	2,658	74%	114	15,478.47	
SB	127	履土中土層	中期	後葉?	4	後葉?-4	108	5,783	28	4,838	78%	34	2,498.75	
SB	128	履土中土層	中期	後葉?	2	後葉?-4	552	19,770	137	4,710	30%	187	7,732.92	
SB	128	履土中土層	中期	後葉?	47	後葉?-4	91	1,782	18	208	14%	24	2,061.88	
SB	130	履土中土層	中期	後葉?	47	中期-後葉	77	1,890	20	877	38%	43	712.88	
SB	130/132	履土中土層	中期	後葉?	1	後葉?	42	527	0	0	0%	0	0.00	分層不可
SB	130/133	履土中土層	中期	後葉?	1	後葉?	18	1,013	0	0	0%	3	9.26	分層不可
SB	131	履土中土層	中期	後葉?	1	中期-後葉	35	840	5	203	24%	3	0.00	
SB	132	履土中土層	中期	後葉?	27	後葉?-4	392	7,148	24	1,280	18%	32	1,548.28	
SB	133	履土中土層	中期	後葉?	2	後葉?-3	327	8,524	89	4,087	43%	86	1,045.17	
SB	134	履土中土層	中期	後葉?	1	後葉?-2	397	9,021	182	5,590	62%	27	1,237.09	
SB	134/135	履土中土層	中期	後葉?	1	後葉?	36	992	0	0	0%	11	24.72	分層不可
SB	134/149	履土中土層	中期	後葉?	1	後葉?	0	0	0	0	0%	0	0.00	分層不可
SB	135	履土中土層	中期	後葉?	3	後葉?-3	358	10,724	37	3,170	31%	200	48,236.83	
SB	135/135	履土中土層	中期	後葉?	1	後葉?	6	83	0	0	0%	0	0.00	分層不可
SB	135/149	履土中土層	中期	後葉?	1	後葉?	1	24	0	0	0%	0	0.00	分層不可
SB	136	履土中土層	中期	後葉?	1	後葉?-4	95	2,349	8	830	35%	32	984.87	
SB	137	履土中土層	中期	後葉?	5	後葉?-5	137	3,140	21	520	17%	48	1,164.64	
SB	137/141	履土中土層	中期	後葉?	1	後葉?	91	1,151	0	0	0%	0	0.00	分層不可
SB	138	履土中土層	中期	後葉?	2	後葉?-2	498	16,622	114	5,650	34%	49	8,708.85	
SB	139	履土中土層	中期	後葉?	4	後葉?-5	787	19,223	234	7,457	38%	196	5,553.90	
SB	139/140	履土中土層	中期	後葉?	1	後葉?	7	88	0	0	0%	0	0.00	分層不可
SB	140	履土中土層	中期	後葉?	8	後葉?	215	6,785	128	3,888	58%	12	689.54	
SB	141	履土中土層	中期	後葉?	1	後葉?	4	24	0	0	0%	0	0.00	
SB	142	履土中土層	中期	後葉?	1	後葉?-1次前期	12	280	2	854	38%	2	5.37	SB128から複製
SB	142	履土中土層	中期	後葉?	1	中期後葉-1次期	508	15,285	78	3,790	25%	154	44,808.20	
SB	143/144	履土中土層	中期	後葉?	1	後葉?	41	1,047	0	0	0%	11	138.28	分層不可
SB	144	履土中土層	中期	後葉?	2	後葉?-1次期	473	21,614	157	14,430	67%	36	6,116.64	
SB	145	履土中土層	中期	後葉?	27	後葉?-1次期	878	8,821	87	4,080	45%	18	46.88	
SB	146	履土中土層	中期	後葉?	4	後葉?-1次期	128	2,838	0	820	38%	2	283.70	
SB	147	履土中土層	中期	後葉?	4	後葉?-4	23	605	0	84	38%	5	187.85	
SB	148	履土中土層	中期	後葉?	3	中期後葉-1次期	139	3,932	12	460	12%	17	1,248.88	
SB	149	履土中土層	中期	後葉?	3,4	後葉?-4	74	3,554	71	3,600	98%	2	616.93	
SB	150	履土中土層	中期	後葉?	1	後葉?	1	87	0	0	0%	0	0.00	
SB	151	履土中土層	中期	後葉?	2	後葉?-3	114	4,688	40	3,830	73%	38	880.88	
SB	152	履土中土層	中期	後葉?	27	後葉?-4	117	5,737	119	5,450	95%	28	789.88	
SB	153	履土中土層	中期	後葉?	4	後葉?-3	147	3,754	13	662	19%	71	2,725.34	
SB	154	履土中土層	中期	後葉?	3,4	後葉?-4	6	88	5	84	97%	4	5.40	

表31 長峯遺跡遺構時期と出土遺物量(3)

※石器総量は、石柱・丸石・魚石・漆は含まれていない。

遺構 記号	遺構番号	遺構所属時期			器土出土土器の時 期別(数量/器土を除く)	土器・土製品総量		陶器土器		土器総量 割合(%)	石器・石器製品総量		備 考																																																																																							
		固定資料	大時期区分	中時期区分		小時期 区分	点数	量(g)	点数		量(g)	点数		量(g)																																																																																						
															中東1~3、上層1	中東1	中東2	中東3	中東4	中東5	中東6	中東7	中東8	中東9	中東10	中東11	中東12	中東13	中東14	中東15	中東16	中東17	中東18	中東19	中東20	中東21	中東22	中東23	中東24	中東25	中東26	中東27	中東28	中東29	中東30	中東31	中東32	中東33	中東34	中東35	中東36	中東37	中東38	中東39	中東40	中東41	中東42	中東43	中東44	中東45	中東46	中東47	中東48	中東49	中東50	中東51	中東52	中東53	中東54	中東55	中東56	中東57	中東58	中東59	中東60	中東61	中東62	中東63	中東64	中東65	中東66	中東67	中東68	中東69	中東70	中東71	中東72	中東73	中東74	中東75	中東76	中東77	中東78	中東79	中東80	中東81	中東82	中東83	中東84	中東85
SB	156	縄土中土器	中期	中東	2	938	33,228	357	19,063	57%	288	39,320.03																																																																																								
SB	157	縄土中土器	中期	中東	3	484	12,077	57	2,070	17%	168	29,883.23																																																																																								
SB	157.158	縄土中土器	中期	後東	2	0	0	0	0	0%	3	3.90	分層不可																																																																																							
SB	158	縄土中土器	中期	後東	37	620	17,811	40	1,240	7%	96	48,803.83																																																																																								
SB	159	縄土中土器	中期	後東	1	1	16	1	16	0%	3	7.05																																																																																								
SB	160	縄土中土器	中期	後東	3	6	244	0	0	0%	5	751.88	SKIに実																																																																																							
SB	161	縄土中土器	中期	後東	1	577	16,529	50	3,681	22%	121	20,746.14																																																																																								
SB	161.162	縄土中土器	中期	後東	41	41	1,107	0	0	0%	16	56.97	分層不可																																																																																							
SB	162	縄土中土器	中期	後東	2	467	15,000	139	5,885	37%	118	34,128.88																																																																																								
SB	163	縄土中土器	中期	後東	2~4	107	3,443	1	290	0%	21	14,483.84																																																																																								
SB	163.164	縄土中土器	中期	後東	1	73	1,642	0	0	0%	0	0	分層不可																																																																																							
SB	163.168	縄土中土器	中期	後東	1	48	1,170	0	0	0%	0	0	分層不可																																																																																							
SB	164	縄土中土器	中期	後東	2	627	27,721	123	8,895	32%	101	25,238.78																																																																																								
SB	164.165	縄土中土器	中期	後東	3	4	46	0	0	0%	0	0	分層不可																																																																																							
SB	165	縄土中土器	中期	後東	3	11	293	5	158	69%	0	0	0																																																																																							
SB	165.166	縄土中土器	中期	後東	27	20	589	14	390	23%	10	244.57																																																																																								
SB	167	縄土中土器	中期	後東	4	843	24,283	82	3,870	18%	218	27,584.25																																																																																								
SB	167.169	縄土中土器	中期	後東	3	95	2,173	0	0	0%	11	15.28	分層不可																																																																																							
SB	168	縄土中土器	中期	後東	2	844	27,272	190	15,098	55%	70	26,849.42																																																																																								
SB	168.169	縄土中土器	中期	後東	3	18	315	0	0	0%	10	10.21	分層不可																																																																																							
SB	169	縄土中土器	中期	後東	2	182	5,504	39	720	20%	205	2,818.11																																																																																								
SB	169.170	縄土中土器	中期	後東	2	7	191	0	0	0%	29	26.12	分層不可																																																																																							
SB	170	縄土中土器	中期	後東	3.47	12	376	0	0	0%	11	41.19																																																																																								
SB	171	縄土中土器	中期	後東	3.67	82	2,077	11	408	20%	26	987.90																																																																																								
SB	172	縄土中土器	中期	後東	2	478	21,578	121	11,770	55%	87	12,402.74																																																																																								
SB	172.173	縄土中土器	中期	後東	7	45	1,054	10	327	26%	28	808.83																																																																																								
SB	174	縄土中土器	中期	後東	11	15	374	4	218	4%	0	0	0																																																																																							
SB	175	縄土中土器	中期	後東	57	285	10,178	49	4,220	41%	37	3,767.36																																																																																								
SB	176	縄土中土器	中期	後東	3~4	1,837	71,383	724	47,787	67%	209	28,886.11																																																																																								
SB	177	縄土中土器	中期	後東	1	0	0	0	0	0%	0	0	0																																																																																							
SB	178	縄土中土器	中期	後東	1	14	197	0	0	0%	12	4,904.15																																																																																								
SB	179	縄土中土器	中期	後東	1	0	0	0	0	0%	0	0	0																																																																																							
SB	180	縄土中土器	中期	後東	2	293	10,771	132	6,277	71%	87	7,545.57																																																																																								
SB	181	縄土中土器	中期	後東	3.4	70	2,275	31	1,680	60%	36	4,188.28																																																																																								
SB	181.182	縄土中土器	中期	後東	48	48	957	0	0	0%	8	802.39	分層不可																																																																																							
SB	181.182.18	縄土中土器	中期	後東	1	16	822	0	0	0%	2	780.65	分層不可																																																																																							
SB	181.183	縄土中土器	中期	後東	3	23	752	0	0	0%	17	235.11																																																																																								
SB	182	縄土中土器	中期	後東	2.3	143	3,380	0	0	0%	39	2,890.84	分層不可																																																																																							
SB	183	縄土中土器	中期	後東	1	0	0	0	0	0%	0	0	0																																																																																							
SB	184	縄土中土器	中期	後東	1	0	0	0	0	0%	0	0	0																																																																																							
SB	185	縄土中土器	中期	後東	3	566	18,286	0	0	0%	294	14,989.77																																																																																								
SB	185.187	縄土中土器	中期	後東	3	0	0	49	3,081	19%	0	0	0																																																																																							
SB	186	縄土中土器	中期	後東	4	599	19,247	88	5,800	45%	120	5,111.80																																																																																								
SB	187	縄土中土器	中期	後東	3	112	2,878	28	1,245	43%	23	2,480.80																																																																																								
SB	187.188	縄土中土器	中期	後東	1	14	322	0	0	0%	4	114.15	分層不可																																																																																							
SB	187.190	縄土中土器	中期	後東	3	27	4,463	0	0	0%	6	147.88	分層不可																																																																																							
SB	188	縄土中土器	中期	後東	3	234	7,004	40	2,268	33%	126	12,828.34																																																																																								
SB	188.189	縄土中土器	中期	後東	2	22	493	0	0	0%	0	0	0																																																																																							
SB	188	縄土中土器	中期	後東	2	485	12,384	51	2,820	20%	148	43,436.72																																																																																								
SB	190	縄土中土器	中期	後東	3	124	2,634	15	871	23%	73	16,535.14																																																																																								
SB	191	縄土中土器	中期	後東	1	189	5,885	0	0	0%	8	112.83	SB18層の遺存																																																																																							
SB	192	縄土中土器	中期	後東	3.72	114	225	4	21	9%	2	841.04																																																																																								
SB	193	縄土中土器	中期	後東	1	11	1,899	65	2,240	45%	0	0	0																																																																																							
SB	194	縄土中土器	中期	後東	1	1	32	1	32	100%	2	82.88	SB126に属す																																																																																							
SB	195	縄土中土器	中期	後東	5	562	14,880	94	5,006	34%	151	15,077.80																																																																																								
SB	196	縄土中土器	中期	後東	3	248	11,008	126	9,212	86%	84	45,983.25																																																																																								
SB	197	縄土中土器	中期	後東	5	1,020	29,575	119	8,839	30%	219	29,784.80																																																																																								
SB	197.201	縄土中土器	中期	後東	1	11	192	0	0	0%	0	0	0																																																																																							
SB	198	縄土中土器	中期	後東	8	8	78	0	0	0%	5	3.16	分層不可																																																																																							
SB	198.199	縄土中土器	中期	後東	28	28	607	0	0	0%	0	0	0																																																																																							
SB	199	縄土中土器	中期	後東	19	19	193	0	0	0%	11	3,386.22	分層不可																																																																																							
SB	200	縄土中土器	中期	後東	3	45	5,996	25	5,495	92%	13	259.79																																																																																								
SB	201	縄土中土器	中期	後東	3	181	6,883	9	273	38%	3	4.79																																																																																								
SB	202	縄土中土器	中期	後東	5	161	4,346	25	1,245	36%	58	988.58																																																																																								
SB	203	縄土中土器	中期	後東	1	45	1,881	44	1,855	99%	9	194.94																																																																																								
SB	204	縄土中土器	中期	後東	1	192	3,501	14	1,430	26%	21	1,944.68																																																																																								
SB	205	縄土中土器	中期	後東	47	40	1,021	9	320	31%	10	1,220.52																																																																																								
SB	206	縄土中土器	中期	後東	1	48	1,372	18	810	44%	17	189.90																																																																																								
SB	207	縄土中土器	中期	後東	1	128	2,848	6	178	12%	12	124.58																																																																																								
SB	207.208	縄土中土器	中期	後東	4	4	106	0	0	0%	0	0	0																																																																																							
SB	208	縄土中土器	中期	後東	3~5	128	3,521	0	0	0%	38	11,778.25	分層不可																																																																																							
SB	208.211	縄土中土器	中期	後東	11	11	226	0	0	0%	0	0	0																																																																																							
SB	209	縄土中土器	中期	後東	1	127	4,581	24	2,248	85%	28	2,471.78	分層不可																																																																																							
SB	209.210	縄土中土器	中期	後東	62	62	1,095	0	0	0%	0	0	0																																																																																							
SB	210	縄土中土器	中期	後東	3	144	2,485	16	484	20%	47	3,480.58	分層不可																																																																																							
SB	211	縄土中土器	中期	後東	49	84	2,453	30	1,443	59%	28	28,636.82																																																																																								
SB	212	縄土中土器	中期	後東	47	32	822	0	0	0%	11	128.82																																																																																								
SB	213	縄土中土器	中期	後東	3.47	1,115	25,137	5	660	3%	119	5,862.92																																																																																								
SB	214	縄土中土器	中期	後東	4	347	17,210	141	6,783	39%	130	5,616.07																																																																																								
SB	215	縄土中土器	中期	後東	4	302	8,018	84	3,995	49%	33	3,550.77																																																																																								
SB	216	縄土中土器	中期	後東	4	110	2,882	12	679	19%	43	1,795.64	SB217の遺存																																																																																							
SB	217	縄土中土器	中期	後東	0	0	0	0	0	0%	11	15,184.33	分層不可																																																																																							
SB	217.218	縄土中土器	中期	後東	5	92	403	9	376	27%	5	189.15																																																																																								
SB	218	縄土中土器	中期	後東	3	127	18,181	197	4,885	26%	163	8,931.84																																																																																								
SB	219	縄土中土器	中期	後東	3	48	533	11	326	0%	0	0	0																																																																																							
SB	220	縄土中土器	中期	後東	1	0	0	0	0	0%	0	0	0																																																																																							
SB	221	縄土中土器	中期	後東	3.47																																																																																															

表31 長峯遺跡遺構時期と出土遺物量(4)

遺構 記号	遺構番号	遺構所属時期				羅土出土土器の時期 (数量記入を除く)	土器/土器品総量		陶製土器		土器種類 割合(%)		土器・石器素材総量		備考
		認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期 区分		点数	量(g)	点数	量(g)	土器	石器	点数	量(g)	
SB	226	羅土中土器	中期	後葉	3,47	13	291	13	291	0%	2	3,95			
SB	227	羅土中土器	中期	後葉	3,47	13	218	7	110	50%	2	1,391.76			
SB	228	羅土中土器	中期	後葉	—	—	—	—	—	—	0	0.00			
SB	229	縄土中土器	中期	中葉	2	814	24,596	109	8,190	37%	104	9,802.78			
SB	230	羅土中土器	中期	後葉	2,3	16	432	3	158	31%	3	960.00			
SB	231	縄土中土器	中期	中葉	3	643	20,629	227	11,312	35%	124	15,041.20			
SB	232	羅土中土器	中期	中葉	2	245	10,183	126	8,474	82%	102	3,114.00			
SB	233	羅土中土器	中期	中葉	49	420	19,925	72	4,128	25%	112	2,190.43	分属不明		
SB	234	羅土中土器	中期	中葉	3	613	15,425	72	4,128	25%	112	2,190.43			
SB	235	羅土中土器	中期	中葉	2	318	26,146	297	17,644	73%	112	8,701.12			
SB	236	羅土中土器	中期	中葉	—	0	0	0	0	0%	0	0.00			
SB	238	羅土中土器	不明	不明	—	3	21	—	—	0%	0	0.00			
SB	239	羅土中土器	中期	後葉	4	199	5,013	60	1,879	47%	44	3,897.00			
SB	240	羅土中土器	中期	後葉	4	224	5,282	127	4,971	44%	18	882.21			
SB	240	羅土中土器	中期	後葉	4	98	1,876	26	1,304	68%	67	6,158.73			
SB	240	羅土中土器	中期	後葉	1	182	4,187	33	2,077	50%	44	3,253.78			
SB	241	羅土中土器	中期	中葉	4	46	2,198	17	843	45%	8	233.88			
SB	242	羅土中土器	中期	後葉	4	18	682	—	—	0%	7	2,119.27			
SB	243	羅土中土器	中期	後葉	4	5	92	—	—	0%	0	0.00			
SB	244	羅土中土器	中期	後葉	17	—	—	—	—	0%	3	8.24	土器はSB140から 分属不可		
SB	245	羅土中土器	中期	後葉	3,4	3	109	—	—	0%	4	3.82	土器SB137から 分属不可		
SB	合計					63,875	1,979,428	18,414	874,640	44%	16,882	1,748,130.78			
ST	合計	縄土中土器	中期～後葉		中期～後葉	89	2,315	12	485	20%	11	5			
SK	合計	羅土中土器	中期～後葉		中期～後葉	5,765	151,247	2,255	89,675	38%	1,712	3,744,087			
SX	合計	木片の土器	中期		中期	100	9,040	68	6,040	100%	2	35.29			
UM	合計	木片の土器	中期		中期	370	31,242	285	30,115	95%	57	1,847.82			
SY	合計	羅土中土器	中期		中期	123	1,891	61	818	39%	23	251.98			
SQ	合計	数布の土器	中期		中期	1,187	35,484	770	32,503	92%	138	13,165.65			
SH	合計	数布の土器	中期		中期	189	2,308	51	582	23%	218	1,531.82			
LM	合計		中期		中期	632	18,263	41	2,190	13%	242	41,260.52			
遺構外	合計					31,467	897,805	301	9,878	1%	5,848	428,587.02			
						103,757	3,096,831	20,718	1,049,508	34%	23,200	2,193,041.06			

※石器量は、石柱・丸石、磨石・鏝は含まれていない。

業2期(勝坂Ⅱ式=新道～藤内Ⅰ式段階)のSB156では、取り上げ番号の若いもの(比較的上層)や上層と記した中に中期後葉や後期の土器が入っていることがわかる。これは、同堅穴住居跡の最上層凹地に大型礫(一部列石か)を伴う黒色土層が入っており、そちらに帰属する資料と考えることが可能となろう。また、1層中に中葉3～5期の資料が比較的多く認められ、下層との時期差をうかがうことができよう。

復元された個体の主要なものについては、聖石同様属性表(表32)を作成した。その観察項目や記号に関しては聖石遺跡の項を参照していただきたい。

(2) 時期

土器量が最も多いのは集落が盛行する中期後葉である。これについて集落の発展期にあたる中期中葉、集落の成立期にあたる中期前葉(初頭)、台地斜面部に集落が存在したと思われる後期前半の順に、出土量が減少してゆく。この他、遺構はとらえられなかったが早・前期の資料、中期前葉のうちごく初期の資料が存在している。

早期(図版452)山形・楕円形押型土器が極少量採取された。また、鶺鴒島台式並行期と見られる条痕文土器、および早期末の条痕文土器と縄文土器が少量採取された。

前期(図版452)前期末の晴ヶ峯式期の細片が1点出土した。

中期前葉(図版452～)1期(五領ヶ台Ⅰ式並行期)の資料は、包含層から極少量出土したにすぎない。土器量が急増するのは、集落が成立する3期(五領ヶ台Ⅱb式並行期)あたりからである。

縄文系を主体に沈線文系土器が加わる。これに、東信地域の斜行沈線を多用する類型、北信地域の深沢遺跡2類土器、伊那谷地域を中心とする平出3A土器の先行型式、東海系土器などが見られる。

中期中葉(図版452～)1期～5期(勝坂Ⅰ・猪沢式～勝坂Ⅴ・井戸尻Ⅲ式)までの全時期の資料が出土し

ている。勝坂式土器が主体を占め、これに東信地域の後沖式土器や焼町土器と、伊那谷地域を中心とする平出3A土器や樽形文土器が次いでいる(第6章参照)。また、北信地域の越後系土器、東海系土器、北陸系土器が少量認められる。さらに遠隔地の土器が1~数点ずつ見つまっている。

中期後葉(図版474~)1期~5期(曾利I~V式)までの全時期の資料が出土している。曾利式土器に唐草文系土器が加わる。さらに、東信地域の郷土式など、周辺地域の土器が認められる。

後期(図版570~)初頭の称名寺式並行期、および前葉の堀之内式期の土器が出土している。また、わずかではあるが、加曾利B式段階の土器が認められる。

土器の胎質性について 聖石遺跡に準じて、完形に近い復元個体を対象として属性観察を行った。その内容については表32に示した。

(3) 特記される遺物

ア 阿玉台式土器 長峯遺跡では、今回出土したほぼ完形のSB4図版459-67、昭和34年宮坂英式氏の調査時に出土し、研究史上でも著名な阿玉台式土器(巻頭図版7)が存在している。いずれも中葉1期(阿玉台式Ib)である。今回の調査では、出土遺物のほぼ全点を検証したが、前述の2個体以外、数cm以下の破片を含めても、阿玉台式土器の破片は7点しか確認できなかった。この2個体は、遠隔地の優品として丁寧にあつかわれていた可能性がある。使用された粘土は、利根川下流域ではないものの、在地の粘土とは異なっており、搬入元の探索、搬入された意義などについて注目される資料である。詳しくは、第5章、第6章を参照していただきたい。

イ 赤彩・漆関連遺物 赤彩および黒彩が認められた土器片は412点を数える(表32)。時期別では中期中葉が最も多くなっている。器種別では有孔罅付土器の内外面に塗布された例が最も多く、大小・器形のバラエティにかかわらず赤彩が施されている。SB225図版560-9は、宮坂英式氏の調査時に出土した資料と同一個体と考えられる。この他、浅鉢形土器の一部にも赤彩が認められ、深鉢形土器への赤彩はごく希である。中期後葉に入ると、彩色された土器が減少する。また、漆容器と考えられるSB14図版468-25(中葉)、SB119図516-2(後葉)などが出土した。

赤彩の定着材として漆を使用しているか否かについて、観察を行った永嶋正春氏(国立歴史民俗博物館)は懐疑的であった。いずれの土器についても赤彩の定着が悪く、漆特有の光沢が認められないからである。そのため、有孔罅付土器への赤彩は、恒常的ではない可能性(塗り直しを前提)も指摘された。詳細は第6章を参照していただきたい。

ウ ミニチュア土器 椀状の例(SB77図版505-28)のほか、破片資料が数点認められる。また、漆容器として使用されたSB14図版468-25やSB66図版488-82、SB186図版544-1など、および、それらとほぼ同じ大きさの小形筒形土器SB66図版495-8、SB190図版547-5、SB195図版548-33(S=1/3)ほかがある。SB78図版505-7は土鈴の可能性もすてきれない。

エ 顔面把手・突起 顔面把手・突起のうち、明確に顔面装飾と認定できる例は8点である。深鉢形土器の口縁部外面に貼付された初期のタイプ(SB2図版454-20ほか)から、口唇部から上部とせり出し器内面を向くタイプ(SB64図版493-30、SB181図版543-7ほか)、有孔罅付土器の体部に人体文の一部を構成している例(SB234図版568-43ほか)がある。また、明確に人体表現と認定できる例には、有孔罅付土器と見られる(SB214図版554-29)、深鉢形土器ではSX3図版573-2がある。

オ 土器転用に伴う加工 有孔罅付土器の顔面部分周辺に打ち割り痕跡があり、何らかの目的で顔面部分を割り取った可能性がある例にSB234図版543-43があり、同住居からは、人体文の掌部分のみの破片(同44)も出土している。壘壘・炉裡土器では、一般的に体部下半部や口縁部、把手部分を打ち欠いている。堅

形手・器類名	器類分類				器類属性				器類用途	器類年代	備考	
	器類分類	器類名	器類高	器類幅	器類形状	器類用途	器類年代	器類属性				
なし	なし	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
H	7	2	1	1	なし	分等、器類	A1a	2	浅め	沈積層連続	4本重層層で器類区画、関係あり	
A	7	2	1	1	貼付	器類のみ	A1a	2	浅め	なし	器類のみ	
A	7	5	1	1	C3器類	器類のみ	C3a	2	浅め	なし	器類のみ	
F	8	2	1	1/2	貼付	分等、器類、器類貼付	A1a	4.5	なし	なし	器類、器類	
A, D	10	2	1	2	貼付	器類	A1a	2/3.5	B1浅め	交互刻突	分等、器類	
A	12	5.5	1	2	貼付	器類貼付文のみ	C3a	5	浅め	なし	分等、器類	
A	4	1.8	1	1/4	なし	分等、器類	A1a/B1a	2/0.5	浅め	三叉文	器類、器類、器類三角器類	
A	7	2	1	1/4	貼付	器類	A1b	3	なし	器類、器類	器類、器類	
A	8	4.5	1	1/4	なし	分等、器類	B1a	3	なし	器類、器類	器類、器類	
A	7	2.5	1	1/4	貼付	器類、器類	A1b	4.5	なし	器類、器類	器類、器類	
A	7	8.5	2-8	1	2/4	貼付	分等、器類貼付文	C3a	3.5	浅め	なし	分等、器類、器類
A	10	2	1	2	器類器類	分等	C3a	8.5	浅め	口縁部刻突に近い	器類	
F	7	1	1	2/4	貼付	分等、器類、器類	B1b	2	浅め	なし	器類、器類	
F	14	8	1	1	なし	器類	A1a	4.5	浅め	器類、器類	器類	
A	8	4	1	4	なし	分等、器類	A1a	4.5	浅め	器類、器類	器類、器類	
F	6	1.5	1	1/2	なし	器類	A1a	—	—	—	—	
A	7	1	1	1/4	貼付	器類	A1a	4	浅め	器類、器類	器類、器類	
D	8	5	1	1	なし	器類貼付文のみ	C3a	4	浅め	なし	器類	
A	7	2	1	2/4	器類、貼付	分等、器類、器類	A1a	3.5	浅め	器類、器類	器類、器類	
A	7	3	1	4	貼付	分等、器類	A1a/B	2	—	交互刻突、器類内刻突	器類、器類	
H	8	2	1	8	器類	分等、器類	C3a	8	なし	器類	器類	
A	7以下	2.5	1	1/4	貼付	器類	A1b	5/3	なし	器類	器類	
A	7/8	2/3	1	1/4	なし	器類	A1a/B1a	5/3	浅め	三角器類	器類	
D	11	4	1	1	なし	器類貼付文のみ	C3-3a	8	器類	交互刻突	器類、器類	
H	10	2	1	8	交互刻突	分等	C3a	8.5	中浅め	器類器類三角器類	器類、器類、器類	
A	7	1	1	1/4	貼付	器類	A1a	2.5	浅め	器類、器類	器類、器類	
A	10	5.5	1	1/4	貼付	分等、器類、器類	B1b	8.5	なし	器類、器類	器類、器類	
A	4/1.5	1.5	1	4	貼付	分等、器類、器類	A1b/B1b	3.5/2/4	浅め	器類、器類	器類、器類	
A	7	5	1	1/4	貼付	器類、器類	A1a	3.5	浅め	器類	器類、器類	
A	8.5/2	2	1	1/2	器類、貼付	分等、器類	A1a	2.5	—	交互刻突	器類、器類	
A	8.5/1	1	1	1	器類	器類	A1a	5	—	器類、器類	器類、器類	
A	8.5/1	2.5	1	1	器類	器類	C3a	7.5	浅め	器類、器類	器類、器類	
H	8	2	1	4	器類	器類	A1a/B1a	7.5	浅め	器類、器類	器類、器類	
A	7	2.5	1	1/2	貼付	分等、器類、器類	A1a/B1b	7.5/3	浅め	器類、器類	器類、器類	
A	7	2.5	1	1/2	貼付	器類、器類	A1a/B1b	7.5/3	浅め	器類、器類	器類、器類	
A	7.5	3	1	2/4	なし	分等、器類	A1b/B1b	7/4.5	なし	器類、器類	器類、器類	
A	7.5	2.5	1	1	貼付	分等、器類、器類	B1b/C3a	3.5	浅め	なし	器類、器類	
A	7.5	2.5	1	1	貼付	分等、器類、器類	B1b/C3a	3.5	浅め	なし	器類、器類	
A	6.5	1	1	4	貼付	分等、器類	C3a	4	浅め	器類内刻突	器類、器類	
G-A	5/9	2/4	1	4	貼付	分等、器類	C3a	3.5	浅め	なし	器類、器類	
A	9	5	1	4	器類	器類貼付文	A1a	—	—	—	—	
A, H	8	2	1	1/4/8	器類	器類、器類	A1a	2.5	—	交互刻突	器類、器類	
A	8	2	1	1/4	なし	器類	C3a	4.5	—	—	—	
A	7	2.5	1	2	なし	分等、器類	A1a/B1a	4/0.5	器類	三角器類、交互刻突	器類、器類	
なし	—	—	—	—	—	—	A1a	4.5	浅め	なし	分等、器類	
なし	—	—	—	—	—	—	A1a	7	中浅め	なし	分等、器類	
なし	—	—	—	—	—	—	A1a	7.5	浅め	なし	分等、器類	
なし	—	—	—	—	—	—	A1a	5.5	浅め	なし	分等、器類、器類	
なし	—	—	—	—	—	—	A1a/B1a	8/2	浅め	なし	A1分等、器類、器類	
G	20	3.5	1	2/4	器類	器類	A1a	7.5	器類	器類	器類	
なし	A	9	8.5	1	1/4	なし	器類	A1a	3	浅め	器類、器類	器類、器類
なし	—	—	—	—	—	—	なし	—	—	—	—	
なし	—	—	—	—	—	—	A1a	4	—	—	—	

把手・刺突部	縄文遺物				縄文遺物の用途	遺物-形		遺物の用途		遺物の用途	縄文遺物の用途	備考	
	形状	長さ	幅	厚さ		形状	長さ	用途	用途				
8字小丸状	A	6.5	8	1/2	1/4	なし	分等、透飾文	A1a/B1a	3.3	なし	A地輪、着下文、B充満、割裂文	地輪-縄文-透飾文	下層部打ち欠き、層別
渦巻状	A	5	1	2	4	なし	区画文	A1a/B1a/C2a	2.5	区画文、着下文、充満	地輪-充満立線-透飾文		
大文字状	E	5以上	0.5	1	3	なし	区画文	A1a/C3a	6/2.5	区画、分等、C3充満	地輪-充満立線-透飾文		
片状	A	8	6	2	1/4	なし	区画文	A1a/B1a	7/3	深め、充満	地輪、充満	口縁打ち欠き	
なし	C	11	1.5	1	3	なし	分等、透飾文	a1a	5	深め	地輪、透行立線	地輪-透飾文	
なし	A-F	8	3	1/2	4	なし	分等、着下透飾	A1a	4.5	やや深い	地輪	地輪-透飾文	
なし	C	11	2.5	1	3	なし	着下透飾文	A1a	6.5-8	深め	地輪、分等	地輪-透飾文	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	A1a	3.5	やや中深め	透飾文透飾	透飾文透飾-透飾文透飾	
大文字状	E	13	1.5	2	3	なし	着下透飾文	A1a	7	深め	地輪	地輪-透飾文	
なし	A	12	2	1	1/4	なし	分等	A1a	3.5	なし	地輪、充満	地輪-透飾文	
なし	E	11	1	1	3	なし	着下透飾文	A1a	7	深め	地輪-透飾文		
なし	A-C	10	3	1	3	なし	分等、透飾文	A1a	6.5	深め	地輪、透行立線	地輪-透飾文	
なし	A	7.5	3	1/2	1/4	なし	各種着下文	A1a	2.5	深め	地輪、充満	地輪-透飾文	
なし	A	8	6.5	1	1	なし	分等、透飾文	なし	—	—	—	透飾文	
なし	A-E	8	4	1	1	なし	区画、透飾文	A1a/C3a	6/3	なし	A地輪、C3充満	地輪-透飾文	
なし	A-F	8	4	1	1	なし	分等、透飾文	A1a	1.5	やや中深め	透飾文	透飾文透飾	
なし	F	5	1.5	1/2	2/4	なし	透飾文、透飾文	A1a	2.5	交互透飾	透飾文、充満	透飾文透飾	
透飾文	A-F	7	3	1/2	4	なし	分等、区画、透飾文	A1a	3.5	なし	地輪、充満	地輪-透飾文	
透飾文	A-F	7	4	1	1/4	なし	分等、透飾文	B1a	3.5	交互透飾	地輪、充満	地輪-透飾文	
なし	A-F	6	1.5	1/2	2/4	なし	分等、透飾文	A1a/C3a	3.5	充満	透飾文	透飾文透飾	
なし	E	14	1	1	2/3	なし	分等、透飾文	A1a	6	深め	地輪、透行立線	地輪-透飾文	
なし	E	10	1.5	1	2/3	なし	分等、区画、透飾文	A1a/B1a	4/2	充満	A地輪、B充満	地輪-透飾文	
大文字状	E	20	1	1/2	3	なし	透飾文	A1a/B1a	8/2	深め	A地輪、B充満	地輪-透飾文	
なし	A-E	13/18	1/5	1	2/4	なし	分等、透飾文	A1a/C3a	6/2.5	交互透飾	A地輪、C3充満	地輪-透飾文	赤影
透飾文	F	6	8	1-2	2/4	なし	透飾文	A1a/B1a	5/2	区画内やや深め	A地輪、C3充満	地輪-透飾文	
なし	C	10	2	1	4	なし	透飾文	A1a/B1a	6/7	区画内やや深め	地輪、透行立線	地輪-透飾文	
なし	E	11	2	1	4	なし	分等、透飾文	A1a/C3a	7	深め	地輪	地輪-透飾文	
なし	A	6	4	1	4	なし	分等、透飾文	A1a	4.5	深め	地輪、充満	地輪-透飾文	
透飾文	A-F	8	1.5	1	1/4	なし	透飾文、ハコ割	A1a/B1a/C3a	4.5/6.5	交互透飾	地輪、充満	地輪-透飾文	
透飾文	A-F	8	4	1	4	なし	分等、透飾文	A1a-B	4	やや深い	交互透飾	地輪-透飾文	
透飾文	A	10	4	1	2	なし	透飾文、ソコノ底文	A1a/B1a	10/12	交互透飾	透飾文	透飾文	
透飾文	A-D	10	2-4	1	4	なし	透飾文	A1b	7	深め	地輪	地輪-透飾文	
透飾文	A	8	4	1	4	なし	透飾文、ソコノ底文	C3a/C3b	7/1.5	深め	地輪、分等	地輪-透飾文	
透飾文	A-D	6.5/10	5/2.1	1	4	なし	分等、透飾文	A1a/C3a	7/1.5	深め	透飾文	透飾文透飾	C3透飾文A1で二度引き
なし	D/F	7.5-13	2	1	1/4	なし	透飾文	A1a/C3a	3/3.9	透飾文	透飾文透飾	透飾文透飾	
なし	A	8	2.5	1	1/4	なし	透飾文	B1a	3.5	深め	透飾文	透飾文透飾	
なし	A	8	2.5	1	2/4	なし	透飾文、透行文	A1b/B1a	11/3	交互透飾	透飾文透飾	透飾文透飾	
なし	A	12	5	1	4	なし	透飾文	C3a/B1a	8/1.5	C3やや深め	透飾文	透飾文透飾	
なし	D	12	1.5	1	1/4	なし	交互透飾	C3a	4.5	やや深い	透飾文	透飾文透飾	
透飾文	H	7	4	1	6	なし	透飾文	C3a/B1a	7/1	C3深め	C3透飾文	透飾文透飾	
透飾文	A	5	1.5	1	4	なし	透飾文	A1b	3	交互透飾	透飾文透飾	透飾文透飾	
透飾文	A	5	2	1	4	なし	透飾文	A1b/B1a	7/2.5	交互透飾	透飾文透飾	透飾文透飾	
透飾文	A	7	3	1	4	なし	透飾文	A1b/B1a/C3a	5/3/6	C3深め	透飾文透飾	透飾文透飾	
透飾文	A	7	2	1	4	なし	透飾文	C3a	4	やや深い	透飾文透飾	透飾文透飾	
透飾文	A	6	2	1	2	なし	透飾文	A1a	3	深め	透飾文透飾	透飾文透飾	
透飾文	F	12	5	1	4	なし	透飾文	C3a	3	深め	透飾文透飾	透飾文透飾	
なし	D/F	8	3	1	1	なし	透飾文	C3a/C3b	5	C3深め	C3透飾文	透飾文透飾	
なし	F	9	6	1	2/4	なし	透飾文	A1b/C3b	5/8	深め	I帯角、C3帯ハコ割	透飾文透飾	

表32 長峯遺跡出土土器属性表(3)

編號 器種	出土 層位	通稱 記号	通稱 記号	主要出土 位置	器種 記号	胎土の性質				胎土	底面 底径	胎文・光澤 裝飾	色調	測定分析		
						砂質 砂質	砂質 砂質	砂質 砂質	砂質 砂質					測定分析	精製分析	分析方法
485	55	21	S18	64	別表 別表	厚181	H1	A	b	白2多	磨き	なし	朝赤陶	4	1	肥土
485	5	284	S18	68	P1	別表	厚2	H1	A	c	白1多	磨い 磨き	焼灰→白灰質 赤み少	10E8	11E1	平焼磁
485	11	85	S18	68	P12下	別表	厚303	H1	B	-	磨き多、白2	なし	朝赤陶	10E8	11E1	平焼磁
487	3	67	S18	68	別表	厚127	H1	G	-	磨き多、白2	なし	朝赤陶	朝赤陶	?	11E?	磁
488	18	52	S18	69	P62	別表	厚134	H2	-	白1多	なし	なし	朝赤陶	?	11E1	磁
489	32	66	S18	69	P14	別表	厚345	H1	c	白1多、白1	磨き	朝赤陶	朝赤陶	?	11E1, 2	朝赤陶
489	33	54	S18	69	P24	別表	厚31	H1	A	b	白1多、磨き多	磨き	朝赤陶	14E0	11E1	磁
489	44	90	S18	69	P40	別表	厚3	H2	c	白1多、磨き多	なし	朝赤陶	14E0	11E1	磁	
499	55	21	S18	69	P40	別表	厚3	H2	c	白1多、磨き多	なし	朝赤陶	14E0	11E1	磁	
500	63	53	S18	69	P61	別表	厚1203	H2	b	白1多、白2	なし	赤陶	17E9	12E1	磁、沈	
502	42	88	S18	70	P1	別表	厚103?	H2	A	-	磨き多、磨き	なし	朝赤陶	14?	12E2?	磁
503	23	39	S18	71	別表	厚1423	H1	A	-	白1多	なし	朝赤陶	14E0	11E1	磁	
503	1	239	S18	72	伊予I	別表	厚127	C3?	-	-	なし	石灰、磨き	赤陶	17E20G	12E2	磁
504	1	405	S18	73	伊予I	別表	厚703	H1	A	-	石灰多、白1	なし	に白灰質→焼灰	?	12E?	磁
504	7	404	S18	73	別表	厚127	H2	B	-	白1多	なし	朝赤陶	?	?	朝赤陶	
508	8	20	S18	79	P1	別表	厚81	-	b	白1、石灰、磨き	なし	赤陶	14E4	17E4	磁	
508	27	31	S18	80	P7	別表	厚203	H2	B	-	磨き多	なし	朝赤陶	14E4	11E1	磁、沈
507	1	270	S18	82	伊予I	別表	厚203	H2	B	-	白1多、磨き	なし	朝赤陶	12E4	12E2	磁、沈
507	11	406	S18	82	伊予I	別表	厚183	H1	B	-	白1、磨き多	なし	高橋→朝赤陶	?	11E1	磁
508	1	271	S18	84	伊予I	別表	厚1203	H2	-	磨き多	なし	朝赤陶	14E4	11E1	磁、沈	
509	10	280	S18	85	P81	別表	厚1203	H1?	B	-	磨き多、白1	なし	朝赤陶	?	14E1	磁
509	12	280	S18	85	P87	別表	厚3102	-	b	白色砂質	?	なし	朝赤陶	?	12E1	沈
510	1	190	S18	101	別表	厚127	H2	B	-	白1、磨き多	なし	朝赤陶	14E?	12E?	磁、沈	
510	8	104	S18	102	伊予I	別表	厚103	H2	A	b	白1多	なし	朝赤陶	?	13E2	磁
510	16	183	S18	101	伊予I	別表	厚203	H1	F	b	石灰、磨き多	なし	赤陶	?	11E1	磁
511	1	207	S18	102	P12	別表	厚303?	H1?	A	-	白1多	なし	朝赤陶	?	11E1	磁
511	1	324	S18	103	伊予P12	別表	厚1483	H2	B	-	白1、磨き多	なし	朝赤陶	?	11E1	磁
512	1	328	S18	112	P1	別表	厚14703	H1	C	-	白1多	なし	朝赤陶	17E4	11E1	磁
512	4	408	S18	114	別表	厚127	H2	A	-	白1、石灰、磨き	なし	朝赤陶	?	12E?	磁	
512	7	573	S18	114	P2	別表	厚4203	H2	B	-	白1多	なし	朝赤陶	?	12E3	磁
513	3	234	S18	115	P1	別表	厚3203	H2	A	-	白1	なし	朝赤陶	12E6	12E1	磁、沈
514	1	358	S18	118	P1	別表	厚101	H1	B	-	白1多	なし	に白灰質	?	12	磁
514	2	108	S18	118	伊予I	別表	厚1302	H1	A	b	白1多	なし	朝赤陶	10E4	11E2	磁、沈
514	3	324	S18	118	P29	別表	厚2792	-	b	白1多、黄色砂質	なし	朝赤陶	10E20E	11E1	磁、沈	
515	5	360	S18	118	P31	別表	厚703?	-	-	砂質多、磨き	なし	朝赤陶	17E4	17E1	肥土	
516	5	350	S18	118	P3	別表	厚820?	-	b	白1多	なし	朝赤陶	?	11E2	磁	
516	7	311	S18	118	P32	別表	厚101	H1	B	b	白1多	なし	朝赤陶	10E20	11E1	磁、肥土
516	1	395	S18	119	P7	別表	厚2	H1	A	-	白1多	なし	朝赤陶	?	?	なし
516	2	395	S18	119	伊予I	別表	厚14703	-	-	磨き多	なし	朝赤陶	?	11E1, 2	朝赤陶	
516	1	398	S18	123	P12	別表	厚372	H1	A	-	石灰、白1	なし	朝赤陶	10E7	11E1?	磁
516	1	399	S18	124	伊予I	別表	厚181	H1	C	-	白1、磨き	なし	朝赤陶	17E7	11E1	磁
517	2	312	S18	124	伊予I	別表	厚1480?	H2	A	-	白1多	なし	朝赤陶	17E7	11E1	磁、沈
517	4	300	S18	124	伊予I	別表	厚72	H1	A	-	白1多	なし	朝赤陶	10E?	?	磁
517	7	313	S18	124	P11	別表	厚1	H1	B	-	磨き多	なし	朝赤陶	14E4	11E1	磁
518	4	192	S18	127	伊予I	別表	厚1483	H1	A	-	白1、磨き多	なし	朝赤陶	17E4	11E1	磁、沈
518	1	327	S18	128	P11	別表	厚702?	-	b	白1、磨き多	なし	朝赤陶	17E6	11E1	磁、沈	
518	2	327	S18	128	P4	別表	厚703	-	-	白1、磨き	なし	朝赤陶	?	12E1	磁	
519	1	337	S18	128	伊予I	別表	厚101	H1	B	-	白1、磨き多	なし	朝赤陶	?	11E1	朝赤陶
519	4	338	S18	128	伊予I	別表	厚1302?	H1	A	-	白1、磨き多	なし	朝赤陶	?	11E1?	磁
519	6	336	S18	128	別表	厚1783?	-	a	白1	なし	朝赤陶	17E4?	?	沈		

表32 長峯遺跡出土土器属性表(5)

器種 分類 番号	編年 土器 番号	出 土 層 位	遺跡 番号	出土 位置	総合 属性	器種別属性					土 質	底面 形状	地文・文様 特徴	色調	器種別			
						器種	器種 番号	口縁 形状	口部 形状	器種 形状					属性 分類	属性 番号	属性 方法	
537	10	18	513	178	513P17	別表	深鉢	E4C3	H2	B	b	白1多	—	なし	明赤焼	?	1233	履跡
538	15	40	513	178	P3	別表	深鉢	E4C3	Y2	B	d	白2多	—	なし	黄焼～灰焼	1424	1332	履跡
539	21	136	513	178	P9	別表	深鉢	52A3	H2	B	d	白1多	—	施多量紅 褐色	赤焼	?	1231	履跡
539	24	47	513	178	別表	深鉢	52C1	H2	B	b	白1,黄焼	磨き	黄焼	黄焼～灰焼	1432	1232	灰跡, 履跡	
539	32	48	513	178	P4	別表	深鉢	E2C3	Y2	B	d	白1多	不透明 磨き	なし	黄焼～灰焼	1420	1231	灰跡, 灰状 口縁
540	38	429	513	178	P16	別表	深鉢	E4C3	Y1	A	—	白1多, 黄焼	—	施紅褐色 磨き	黄焼	1427	0	灰状口縁
540	39	77	513	178	P31	別表	深鉢	E4C3	H2	A	d	白2多, 黄焼	—	施紅褐色 磨き	黄焼	1420	1231	灰跡, 履跡
540	43	81	513	178	P1	別表	深鉢	52C3	H2	B	b	白1多	磨き	黄焼	黄焼～灰焼	1422	1231	履跡
541	48	76	513	178	P7	別表	深鉢	52C3	H1	F	b	白1多	磨き	なし	に灰焼	?	1	灰跡
541	56	30	513	178	P18	別表	深鉢	E6C3	H2	D	b	石灰・黄焼多	—	なし	黄焼～灰焼	17547	1131	履跡
541	56	79	513	178	別表	深鉢	72B3	—	—	—	—	石灰・黄焼多	磨き	なし	に灰焼	?	17547	履跡
542	34	89	513	178	P12-P15	別表	有蓋深鉢	V3	H1	B	—	白1多	—	なし	に灰焼	?	1137	履跡
542	37	146	513	178	別表	有蓋深鉢	52B3	H1	A	—	—	—	—	なし	黄焼～灰焼	1426	1137	履跡
543	10	441	513	181	P8	別表	深鉢	52B2?	Y1?	A	—	白1磨き多	—	なし	に灰焼	17547	1131	履跡
545	2	3	513	186	少塚?	別表	深鉢	E4B2	H1	B	—	白1-2, 黄焼多	—	施紅褐色 磨き	黄焼～灰焼	1024	1131	磨き灰跡
545	3	401	513	186	少塚?	別表	深鉢	E4B3	Y1	—	—	—	—	なし	黄焼～灰焼	1429	1131	履跡, 灰跡
546	12	127	513	186	P1	別表	深鉢	E2C2	Y1	B	—	白1多, 黄焼	磨き	なし	に灰焼	1429	1231	履跡
547	1	353	513	126	P18	別表	深鉢	E4B3	H2	E	—	白, 灰色焼	—	GrA焼	赤焼～灰焼	1424	1231	履跡
547	5	38	513	190	513P-1	別表	深鉢	52C2	H1	A	b	白1, 黄焼	磨き	なし	黄焼	1022	1131	履跡, 灰跡
547	2	394	513	190	513P-1	別表	有蓋深鉢	52C3	H2	A	b	白1, 黄焼	磨き	なし	黄焼	17	—	磨き灰跡
548	30	453	513	195	別表	深鉢	E4B3	H2	B	—	白1	—	なし	履跡	?	?	履跡, 把手	
548	1	558	513	198	52B3	別表	深鉢	E4B3	H1	B	—	黄焼多	—	GrA焼	黄焼～灰焼	1337	1131	履跡
548	2	447	513	198	52B3	別表	深鉢	7C2?	—	—	—	白1多	—	GrA焼	赤焼	1754	1232	履跡
549	3	556	513	198	52B3	別表	深鉢	V1	H1	C	—	白1多	—	GrA焼	灰黄焼～灰焼	1427	1231	履跡
550	4	455	513	200	52B3	別表	—	—	—	—	—	黄焼, 白1焼	—	GrA	黄焼～灰焼	1754	17517	把手, 履跡
551	1	83	513	203	52B3	別表	深鉢	E1C3	H2	A	—	黄焼多, 白1焼	—	黄焼	赤焼	1420	1131	磨き灰跡, 把手
551	2	82	513	203	P1	別表	深鉢	E1C3	H1	A	b	白1, 黄焼, 石灰 磨き	磨き	なし	焼	なし	なし	—
551	1	128	513	204	P10	別表	深鉢	E2B3	H1	B	—	白1, 灰色焼多	—	GrA焼	赤焼～に灰焼	1022	1231	履跡
552	1	589	513	206	P1	別表	深鉢	V1	H2	C	—	白1多	—	GrA焼	に灰焼～黄焼	?	1231	履跡
552	2	172	513	209	52B3P1	別表	深鉢	E2B3	H2	B	b	白1, 灰色焼多 磨き	磨き	GrA焼	赤焼～灰焼	1427	1231	把手, 履跡
553	19	229	513	211	別表	深鉢	72B3	—	—	—	—	石灰・黄焼多	磨き	なし	に灰焼	?	17547	履跡
553	1	528	513	214	513P16	別表	深鉢	E2A3	H2	B	d	石灰・黄焼, 白 1焼	—	なし	に灰焼	1423	1231	把手, 履跡
553	4	104	513	214	P4	別表	深鉢	E3C3	H2	B	—	白2, 黄焼多 磨き	磨き	なし	に灰焼	1110	なし	—
553	6	105	513	214	P21	別表	深鉢	E2B3	H2	B	—	白1多	—	なし	明赤焼	?	1231	履跡
554	30	117	513	214	P19	別表	深鉢	E1B3	Y1	A	b	白1, 黄焼 磨き	—	なし	に灰焼	1424	1231	履跡
554	39	108	513	214	黄焼	別表	深鉢	E3C3	Y2	B	b	石灰, 白2	磨き	なし	に灰焼	1755	1231	履跡
554	1	147	513	214	52B3	別表	深鉢	E2C3	H1	A	—	白1焼	—	なし	に灰焼	1755	1131	履跡
554	3	581	513	215	P10	別表	深鉢	E1C3	H1	A	—	白1焼	—	なし	赤焼	なし	1131	灰跡
554	4	582	513	215	P10	別表	深鉢	E1C3	H1	A	—	白1焼	—	なし	赤焼	なし	1131	灰跡
554	11	139	513	216	P26	別表	深鉢	7C3	—	—	—	石灰・黄焼	磨き	なし	黄焼	1754	1232	履跡
554	11	139	513	216	P26	別表	深鉢	7C3	—	—	—	石灰・黄焼	磨き	なし	黄焼	1754	1232	履跡
557	5	225	513	223	P1	別表	深鉢	E4B3	Y2	E	d	白1多, 黄焼多 磨き	磨き	GrA焼	に灰焼	1422	1231	把手, 履跡
557	18	393	513	223	P24	別表	深鉢	52B3	H1	A	b	石灰	—	なし	黄焼	?	17547	履跡
558	25	130	513	223	P23	別表	深鉢	7B3?	—	—	—	白1多	—	なし	に灰焼	1754	1752	灰跡, 灰 状付文, 灰 状付文
558	26	141	513	223	P23	別表	深鉢	7B3?	—	—	—	白1多	—	なし	に灰焼	1754	1752	灰跡, 灰 状付文
558	27	481	513	223	P12	別表	深鉢	E4B1	H2	A	—	黄焼, 白1焼	—	なし	黄焼	12724	1131	履跡
558	28	227	513	223	52B3	別表	深鉢	7B3?	—	—	—	白1多	磨き	GrA焼	黄焼～灰焼	1754	1752	履跡
558	29	458	513	223	P101	別表	深鉢	7B3?	—	—	—	黄焼, 白1焼	磨き	なし	黄焼～灰焼	1752	1751	履跡
558	30	469	513	223	P100	別表	深鉢	52C3	—	—	—	白1多, 黄焼多	磨き	なし	明赤焼	17547	1131	履跡, 灰跡
558	32	460	513	223	52B3	別表	深鉢	52B2	H2	A	f	石灰・黄焼, 白 1焼	—	なし	明赤焼	1124	1131	履跡, 灰跡
558	33	118	513	223	P22	別表	深鉢	52C3	H1	A	f	白1多	子子	なし	黄焼	1755	1131	履跡
558	34	108	513	223	P26	別表	深鉢	E4B3	H1	A	—	白1多	—	なし	黄焼	1022(47)	1131	履跡
558	35	146	513	223	別表	深鉢	72B3	—	—	—	—	石灰	磨き	なし	黄焼	1755	1131	履跡
559	1	583	513	224	P3	別表	深鉢	V1	H1	A	e	白1-2多, 石灰 ・黄焼多	磨き	なし	赤焼	なし	なし	—

表32 長峯遺跡出土土器圖表(6)

調査番号	発掘区画番号	層位	遺跡番号	出土位置	土器名	形制				土質	底径	底厚	底文	色別	年代				
						器形	口縁	口部	底縁						出土層位	出土位置	出土位置		
559	2	478	5D	224	P6	別表	深鉢	1302	Y2	B	—	—	石瓦、雲母	—	矢野原遺跡	にぶい赤焼	147E3	11E1	浅鉢、深鉢
559	2	507	5B	224	P4	別表	深鉢	1302	Y2	B	—	—	石瓦、雲母	—	矢野原遺跡	にぶい赤焼	147E3	11E1	浅鉢、深鉢
559	2	509	5B	224	P4	別表	深鉢	1302	Y2	B	—	—	石瓦、雲母	—	矢野原遺跡	にぶい赤焼	147E3	11E1	浅鉢、深鉢
559	5	430	5B	224	P4	別表	深鉢	1302	Y2	B	—	—	石瓦、雲母	—	矢野原遺跡	にぶい赤焼	147E3	11E1	浅鉢、深鉢
559	5	430	5B	224	P4	別表	深鉢	1302	Y2	B	—	—	石瓦、雲母	—	矢野原遺跡	にぶい赤焼	147E3	11E1	浅鉢、深鉢
559	5	430	5B	224	P4	別表	深鉢	1302	Y2	B	—	—	石瓦、雲母	—	矢野原遺跡	にぶい赤焼	147E3	11E1	浅鉢、深鉢
560	2	119	5B	225	14.109 14.110 14.111	別表	深鉢	1303	H2	B	—	—	白1多	—	なし	明赤焼一黒焼	14E0E7	12E1	深鉢
560	8	93	5B	225	P31	別表	深鉢	1303	H2	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	12E1	深鉢、浅鉢
561	2	598	5B	228	P4	別表	深鉢	1303	H2	A	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	12E1	浅鉢
561	2	598	5B	228	P4	別表	深鉢	1303	H2	A	—	—	白1	—	なし	明赤焼	14E0E7	12E1	浅鉢
561	3	112	5B	229	P1	別表	深鉢	1303	H2	A	B	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼一黒焼	14E0E7	11E1	浅鉢
561	4	448	5B	229	P2	別表	深鉢	1303	H2	O	B	—	白1多	—	なし	明赤焼一黒焼	14E0E7	0	浅鉢
561	7	111	5B	229	P2	別表	深鉢	1303	H2	A	B	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	0	把手
562	3	86	5B	231	P22	別表	深鉢	1303	H2	B	B	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	12E1	浅鉢、深鉢
562	7	507	5B	231	P19	別表	深鉢	1303	H2	B	—	—	白1多	—	なし	明赤焼一黒焼	14E0E4	12E2	浅鉢、深鉢
562	11	190	5B	231	P24	別表	深鉢	1303	H2	B	B	—	白1多	—	なし	明赤焼一黒焼	14E0E7	12E1	浅鉢、深鉢
562	11	190	5B	231	P24	別表	深鉢	1303	H2	B	B	—	白1多	—	なし	明赤焼一黒焼	14E0E7	12E1	浅鉢、深鉢
563	26	131	5B	231	P1	別表	深鉢	1303	H2	B	B	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	12E1	浅鉢
563	26	131	5B	231	P1	別表	深鉢	1303	H2	B	B	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	12E1	浅鉢
563	1	723	5B	232	P1	別表	深鉢	1303	H2	O	—	—	白1多	—	なし	明赤焼	14E0E7	12E1	浅鉢
563	4	113	5B	232	P1	別表	深鉢	1303	H2	O	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	12E1	浅鉢
563	8	768	5B	232	P8	別表	深鉢	1303	H2	O	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	12E1	浅鉢
564	11	181	5B	232	P1	別表	深鉢	1303	H2	O	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	12E1	浅鉢、浅鉢
564	12	192	5B	232	P4	別表	深鉢	1303	H2	A	B	—	白1多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E1	浅鉢、浅鉢
564	13	193	5B	232	P2	別表	深鉢	1303	H2	O	—	—	石瓦、雲母	—	なし	明赤焼一黒赤焼	14E0E7	12E1	浅鉢、浅鉢
565	15	604	5B	233	P1	別表	深鉢	1303	H2	A	—	—	灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	?	浅鉢
565	15	604	5B	233	P1	別表	深鉢	1303	H2	A	—	—	灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	?	浅鉢
565	8	193	5B	234	P12	別表	深鉢	1303	H2	A	B	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	12E2	浅鉢、浅鉢
565	19	114	5B	234	P8	別表	深鉢	1403	H1	A	B	—	白1厚分	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E1	浅鉢、浅鉢
567	20	120	5B	234	P13	別表	深鉢	1403	H1	A	B	—	白1厚分	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E1	浅鉢、浅鉢
567	31	772	5B	234	P10	別表	深鉢	?	—	—	—	—	石瓦、雲母	—	なし	不明	不明	浅鉢	
567	32	526	5B	234	P14	別表	深鉢	1403	H1	B	B	—	石瓦、雲母	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E1	浅鉢、浅鉢
567	33	506	5B	234	P11	別表	深鉢	?	—	—	—	—	石瓦、雲母	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E1	浅鉢
568	11	84	5B	237	14.249 14.250	別表	深鉢	1503	H2	A	B	—	大粒白色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	12E1	浅鉢
568	1	484	5B	238	P2	別表	深鉢	1503	H2	A	B	—	白2多、雲母相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E1	浅鉢
569	1	34	5B	238	P1	別表	深鉢	1503	H2	A	B	—	白2多、雲母相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E1	浅鉢
569	1	483	5B	238	14.249 14.250	別表	深鉢	1503	H2	A	B	—	白2多、雲母相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E1	浅鉢
570	1	223	5B	51	5P2	別表	深鉢	1503	H2	B	B	—	白1-2相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	12E1	浅鉢
570	1	588	5B	240	P2	別表	深鉢	1502	—	—	—	—	白2多、雲母相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	12E1	浅鉢
570	3	607	5B	241	?	別表	深鉢	1502	H1	A	—	—	白1多	—	なし	明赤焼	14E0E7	12E1	浅鉢
570	3	608	5B	241	?	別表	深鉢	1502	H1	A	—	—	白1多	—	なし	明赤焼	14E0E7	12E1	浅鉢
571	3	261	5B	51	P28	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	262	5B	51	P29	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	263	5B	51	P30	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	264	5B	51	P31	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	265	5B	51	P32	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	266	5B	51	P33	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	267	5B	51	P34	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	268	5B	51	P35	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	269	5B	51	P36	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	270	5B	51	P37	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	271	5B	51	P38	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	272	5B	51	P39	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	273	5B	51	P40	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	274	5B	51	P41	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	275	5B	51	P42	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	276	5B	51	P43	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	277	5B	51	P44	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	278	5B	51	P45	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	279	5B	51	P46	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	280	5B	51	P47	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	281	5B	51	P48	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	282	5B	51	P49	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	283	5B	51	P50	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	284	5B	51	P51	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	285	5B	51	P52	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	286	5B	51	P53	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	287	5B	51	P54	別表	深鉢	1502	H1	B	—	—	白1、灰色相多	—	なし	明赤焼	14E0E7	11E2	浅鉢、浅鉢
571	3	288	5B	51	P55	別表	深鉢	1502	H1										

表32 長峯遺跡出土土器属性表(7)

調査番号	出土層	遺物番号	遺物種別	遺物形状	出土位置	保存状態	形制的特徴					土質	産地	本文・文様	色別	形質分析		
							器種	器形	口縁部	口部	底					輪位分類	線位分類	分類方法
577	1	578	50	8		別表	深鉢	I2C?	H2?	B	-	黄赤、石黄多	-	A1a文様	褐灰	?	I2E?	線形文様、 内帯
577	1	518	50	9		別表	深鉢	I2C?	H2?	B	-	白1、黄赤多	-	縦線文 横線文	赤黄緑～黒灰	?	I2E?	線形文様、 内帯
578	1	510	50	8	5008 4A層?	別表	深鉢	I1C2	H2	B	b	白1多、黄赤多	磨赤	なし	紅灰～黄緑～黒灰	1434	I1E1	線形文様、 内帯
578	1	883	50	11		別表	深鉢	I1G3?	H2	B	-	白1、黄赤多	-	縦線文十 横線文	黒灰	?	I2E2	線形
578	1	684	50	12		別表	深鉢	E1?	H2	A	-	白2多、黄赤多	-	縦線文	褐灰～黒灰	?	I2E2?	線形文様、 内帯
579	1	592	50	13	5019	別表	深鉢	202?	H2?	A	b	黄赤多	磨赤	縦線文 横線文	赤黄緑～黒灰	1435	I2E4	線形文様、 内帯
579	1	607	50	14	5014	別表	深鉢	E1E2	H2	B	-	白1、黄赤多	-	なし	紅灰～黒灰	1274	I2E2	線形、 内帯
579	1	686	50	22	P13	別表	深鉢	I4A3	H2	B	d	白1多、黄赤多	磨赤	縦線文 横線文	明褐色～褐灰	1474	I2E2	線形
580	2	689	50	38	5028	別表	深鉢	E1C3	H1	A	-	白1、黄赤多	-	なし	紅灰～黄緑～黒灰	?	I1E1	線形
580	1	680	5F	11	P3	別表	深鉢	E1C3	H2	A	b	白1～2、黄赤多	磨赤	縦線文 横線文	紅灰～黄緑	?	I1E1	線形
580	2	691	5F	11		別表	深鉢	I3C3	-	-	-	白1	磨赤	なし	紅灰～黄緑	?	I1E1	線形文様
583	125	813	5K	288		別表	深鉢	?C3	-	-	b	白1、黄赤多	磨赤	なし	赤灰	1473	I1E2	線形
584	144	814	5K	302		別表	深鉢	I2C3	H2?	B	-	白1、黄赤多	-	縦線文 横線文	赤黄緑	?	I2E1	線形
585	175	816	5K	417		別表	深鉢	I2B3	Y1	A	-	石灰～黄赤多	-	なし	紅灰～黄緑～黒灰	?	I1E3	文様
586	184	817	5K	433	5K423	別表	深鉢	I1A3	H2	B	b	白1、黄赤	磨赤	縦線文	暗赤～黒灰	1474	I2E2	線形、 内帯
586	208	861	5K	521	5K521	別表	深鉢	I3C3	H1	A	-	白1、灰色多	-	なし	褐灰～黒灰	?	I1E1	線形
586	215	830	5K	542	5K542	別表	深鉢	I4C3	Y1	B	c	白1多	-	横線文	明赤～黒灰	1480	I2E1	文様
588	258	8	5K	880	近5X2	別表	深鉢	E2E3	Y4	-	-	白1?少	-	縦線文 横線文	黒灰	13E3	I1E1	線形
589	281	831	5K	791	8?	別表	深鉢	E1C3	H1	A	b	白1多、黄赤多	磨赤	なし	赤黄～褐灰	E3	E2	三角押文
589	281	837	5K	1052	10?	別表	深鉢	E1C3	H1	A	-	黄赤～黄赤多	-	なし	赤黄～褐灰	?	?	三角押文
590	347	639	5K	1147	P1	別表	深鉢	I4C3	Y1	B	-	白2、黄赤多	-	なし	紅灰～黒灰	147?	?	波状口縁
591	348	638	5K	1147	5K1147 5K1149	別表	深鉢	V1	H1	A	-	白1、黄赤	-	八字文様	赤～褐灰	?	I1E1	文様
591	373	683	5K	1251		別表	深鉢	E1C3	H1?	A	-	白1黄赤	-	なし	黒灰～褐灰	?	I2E1	線形
592	388	842	5K	1323		別表	深鉢	I4B3?	H1	B	-	白1	-	なし	紅灰～黒灰	?	I0E1	線形
592	386	843	5K	1323		別表	深鉢	V1	H1	A	b	灰色～黄赤多	磨赤	なし	紅灰～黒灰	?	I1E1	文様
592	402	844	5K	1482		別表	深鉢	I4B3	H1	C	b	白1?少	-	なし	紅灰～黒灰	1474	1472	線形
593	483	845	5K	1502	P1	別表	深鉢	I2B3	H1	B	-	白1多	磨赤	縦線文	赤黄～黒灰	18E4	I1E1	線形
593	483	846	5K	1502	P2	別表	深鉢	E2E3	H1	A	b	白1、黄赤多	磨赤	なし	紅灰～黒灰	?	I1E1	文様
597	557	532	5K	2213	P1	別表	深鉢	I2A3	H2	B	d	白1多	磨赤	なし	赤黄～黒灰	14E5	1472	線形
598	575	627	5K	2283		別表	深鉢	V3	H2	D	-	白1、白2	-	B1a文様	明褐色～赤黄	?	I2E1	線形
599	605	873	5K	2538	5K2538	別表	深鉢	B2C1	H2	D	-	白1、黄赤多	-	B1a文様	紅灰～黒灰	12E4	I2E1	線形、 内帯
600	618	870	5K	2607	5K2607	別表	深鉢	78C?	-	-	b	白1、黄赤多	磨赤	なし	赤黄	1474	1473	線形
601	683	872	5K	2641	P1	別表	深鉢	V1	H1	A	-	白1、黄赤多	磨赤	なし	赤黄～黒灰	?	I1E1	線形
602	678	856	5K	2692	5K2692	別表	深鉢	?C1?	-	-	b	白1多、白2	磨赤	なし	紅灰～黄緑～黒灰	?	?	線形
603	693	832	5K	2994		別表	深鉢	I2C3	H1	B	-	白1多、黄赤	-	縦線文 横線文	赤黄～黒灰	1474?	I1E1	線形
604	728	676	5K	3255		別表	深鉢	I2C3	H1	B	-	白1多	-	なし	赤	?	I2E1	文様
604	734	334	5K	3257	P2	別表	深鉢	I3C3	Y1	A	d	白1多	-	縦線文	暗赤～褐灰	1480	I1E1	線形
605	1	708	LM	75		別表	深鉢	I4B3?	H1	A	-	白1、黄赤多	-	縦線文	赤	?	I1E1	文様
605	1	702	LM	75		別表	深鉢	V1	H1	A	-	白1、黄赤多	-	なし	赤黄～黒灰	1474	I1E1	文様
606	1	701	LM	75	P3	別表	深鉢	I2?	H2	B	-	白1、石灰	-	縦線文	紅灰～黒灰	1474?	I2E?	線形
606	5	835	正-J	20	6773b-20	別表	深鉢	E1C3	H1	B	d	白1多	-	縦線文	赤黄～黒灰	?	3?	波線の文様
606	5	897	正-Q	22	7?	別表	深鉢	E2E5	Y1	D	b	白1	横代文	縦文(横 帯?)	黒灰	?	I2E2	文様、 線形

表33 長峯遺跡出土赤彩・漆間連資料一覧(2)

図版番号	赤彩・漆間連番号	優先番号(青)	遺構・地区	層位・出土地点	取上番号	接合・関係品番号	器種	残存部位	時期	文様	本編記事先号のご参照				備考	
											外面彩色状況	外面付着状況	内面彩色状況	内面付着状況		コメント
	41	58	57	P15	?		?	底	中層	無文	赤・黒	A2	A2	漆	厨部への残	
	42	58	57	P45	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層-中層	無文	赤・黒	A2	赤 F1	漆	いい色の赤	
	43	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 D1	漆	厚み薄い、磨み強い	
	44	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	口縁	中層	無文	赤・黒	D1	不明	漆	顔で黄色?	内面割断
	45	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 D1	漆		2面片
	46	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 D1	漆		
	47	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 D1	漆		
	48	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 D1	漆	滑らかな付着	
	49	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 F1	漆		2面片
	50	2152	64	P14	?	有孔陶片	有孔陶片	口縁-縁部	中層	半線彫刻	赤・黒	F1	赤 D1	漆	漆塗り分け	漆光沢のみ
	51	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 D1	漆		
	52	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 D1	漆		
	53	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 E2	漆		
	54	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	A2	赤 A2	漆		
	55	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 D1	漆		
	56	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 D1	漆		
	57	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 D1	漆		
	58	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 D1	漆		
	59	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 D1	漆		
	60	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 D1	漆		
	61	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 D1	漆		
	62	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 D1	漆		
	63	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 D1	漆		
	64	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 D1	漆		
	65	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 D1	漆		
	66	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 D1	漆		
	67	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 D1	漆		
	68	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 D1	漆		
	69	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 D1	漆		
	70	58	64	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 D1	漆		
	71	317	77	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 D1	漆		
	72	58	77	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 D1	漆		
	73	58	77	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 D1	漆		
	74	58	77	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	D1	赤 D1	漆		
	75	318	58	101	P23	?	?	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 B1	漆		
	76	58	114	P71	?	有孔陶片	有孔陶片	口縁-縁部	中層	幾何のみ	赤・黒	D1	赤 D1	漆		
	77	2158	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層-中層	幾何+半線彫	赤・黒	なし	赤 D1	漆		
	78	58	114	P76	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	F2	赤 F2	漆		
	79	58	114	P87	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	F2	赤 F2	漆		
	80	58	114	P72	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	81	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層-中層	幾何文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	82	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	83	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	84	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	85	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	86	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	87	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	88	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	89	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	90	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	91	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	92	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	93	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	94	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	95	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	96	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	97	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	98	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	99	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	100	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	101	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	102	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	103	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	104	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	105	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	106	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	107	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	108	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	109	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	110	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	111	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	112	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	113	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	114	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	115	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	116	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	117	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	118	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	119	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	120	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	121	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	122	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	123	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	124	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	125	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	126	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	127	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	128	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	129	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	130	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	131	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	132	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	133	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	134	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	135	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	136	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	137	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	138	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		
	139	58	114	?	?	有孔陶片	有孔陶片	底	中層	無文	赤・黒	なし	赤 F2	漆		

表33 長峯遺跡出土赤彩・漆関連資料一覧(3)

図版番号	新編 図録 番号	遺名 (青)	記号	遺跡・地区 番号	層位・出土 土地	取上 番号	接合・同 一体性 番号	器種	残存部 位	時期	文様	外面 彩色 状況	外面 付着 状況	内面 彩色 状況	内面 付着 状況	水城正喜先生の「赤彩」	
																コメント	備考
	110	59	124	14	東原5区			漆器	口縁	中層?	無文	赤	F7	赤	F2	赤	赤?
	111	59	124	14	東原5区			漆器	体	不明	無文	赤	G1	赤	B2	赤	赤?
	112	59	124	14	東原5区			漆器	体	不明	無文	赤	G1	赤	F1	赤	赤?
	113	59	145	145	木西原	P61	P61	漆器	体	不明	赤・黒・黄	赤	G1	赤	G1	赤	赤? 黒? 黄?
	114	59	144	144	木西原			漆器	口縁	不明	無文	赤	D1	赤	G1	赤	赤? 黒? 黄?
	115	59	144	144	木西原			漆器	体	不明	無文	赤・黒	A2	赤	G1	赤	赤?
	116	59	144	144	木西原			漆器	体	不明	無文	赤	A2	赤	B2	赤	赤?
	117	59	145	145	木西原	P9		漆器	体	不明	無文	赤	F2	赤	F2	赤	赤?
	118	59	145	145	木西原			漆器	体	不明	無文	赤	A2	赤	G1	赤	赤?
	119	59	150	150	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	D2	赤	D1	赤	赤?
	120	59	150	150	東原5区	P42		漆器	口縁	不明	無文	赤	F1	赤	G1	赤	赤? 黒? 黄?
	121	59	150	150	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	F2	赤	G1	赤	赤?
	122	59	150	150	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	F2	赤	F2	赤	赤?
	123	59	152	152	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	F2	赤	F2	赤	赤?
	124	59	152	152	東原5区	P3		漆器	口縁	不明	無文	赤	F2	赤	F2	赤	赤?
	125	59	152	152	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	F2	赤	F2	赤	赤?
	126	59	152	152	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	D2	赤	F1	赤	赤?
	127	59	152	152	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	D2	赤	G1	赤	赤?
	128	59	152	152	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	F2	赤	G1	赤	赤?
	129	59	152	152	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	A2	赤	赤?
	130	59	152	152	東原5区	P43		漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	A2	赤	赤? 黒? 黄?
	131	59	152	152	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	F2	赤	F2	赤	赤?
	132	59	152	152	東原5区	P1		漆器	口縁	不明	無文	赤	D2	赤	F2	赤	赤? 黒? 黄?
	133	59	151	151	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	F2	赤	赤?
	134	59	151	151	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	F2	赤	赤?
	135	59	151	151	東原5区	4		漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	F2	赤	赤?
	136	59	151	151	東原5区	3区		漆器	口縁	不明	無文	赤	A2	赤	F2	赤	赤?
	137	59	151	151	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	A2	赤	G1	赤	赤?
	138	59	152	152	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	A2	赤	A2	赤	赤? 黒? 黄?
	139	59	152	152	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	D2	赤	赤?
	140	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	F2	赤	A2	赤	赤?
	141	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	A2	赤	赤?
	142	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	A2	赤	赤?
	143	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	A2	赤	赤?
	144	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	A2	赤	赤?
	145	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	A2	赤	赤?
	146	59	154	154	東原5区	P1	P2	漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	F2	赤	赤?
	147	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	F2	赤	赤?
	148	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	F2	赤	赤?
	149	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	F2	赤	赤?
	150	59	154	154	東原5区	P1		漆器	口縁	不明	無文	赤	F1	赤	G1	赤	赤? 黒? 黄?
	151	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	D2	赤	赤?
	152	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	F2	赤	F2	赤	赤?
	153	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	D2	赤	A2	赤	赤?
	154	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	D2	赤	A2	赤	赤?
	155	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	D2	赤	A2	赤	赤?
	156	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	D2	赤	A2	赤	赤?
	157	59	154	154	東原5区	P13		漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	F2	赤	赤?
	158	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	F2	赤	赤?
	159	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	F2	赤	赤?
	160	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	F2	赤	赤?
	161	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	F2	赤	赤?
	162	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	F2	赤	赤?
	163	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	F2	赤	赤?
	164	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	F2	赤	赤?
	165	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	F2	赤	赤?
	166	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	F2	赤	赤?
	167	59	154	154	東原5区	P6		漆器	口縁	不明	無文	赤	D1	赤	A2	赤	赤? 黒? 黄?
	168	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	A2	赤	赤	赤?	
	169	59	154	154	東原5区	P13		漆器	口縁	不明	無文	赤	G1	赤	F2	赤	赤?
	170	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	A1	赤	A1	赤	赤?
	171	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	A1	赤	A1	赤	赤?
	172	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	A1	赤	A1	赤	赤?
	173	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	A1	赤	A1	赤	赤?
	174	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	A1	赤	A1	赤	赤?
	175	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	A1	赤	A1	赤	赤?
	176	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	A1	赤	A1	赤	赤?
	177	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	A1	赤	A1	赤	赤?
	178	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	A1	赤	A1	赤	赤?
	179	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	A1	赤	A1	赤	赤?
	180	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	A1	赤	A1	赤	赤?
	181	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	A1	赤	A1	赤	赤?
	182	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	A1	赤	A1	赤	赤?
	183	59	154	154	東原5区			漆器	口縁	不明	無文	赤	A1	赤	A1	赤	赤?
	184	59	154	154	東原5区	P3	フ	漆器	口縁	不明	無文	赤	D1	赤	赤	赤?	

表33 長峯遺跡出土赤彩・漆関連資料一覧(6)

頭数番号	赤彩・漆番号(青)	遺跡・地区	記号	番号	層位・出土地点	取上番号	検出・周一体番号	器種	残存部位	時期	文様	外面塗色	外面付着状況	内面塗色	内面付着状況	水端正帯光帯の表示		
																水端正帯	光帯	
	346	09G	22		宮前700			不明	体	中層?	幾文	赤	F1	G1	G1	赤		
	347	09H	8		宮前(上層)			透漆?	口縁	中層?	幾文	赤	O2	赤	F2	赤		外帯は白帯様のもの
	348	09K	4		1-13層			透漆?	口縁	中層-後葉	幾文	なし	赤	D1	赤			
	349	09L	4		砂層(上層)			透漆?	口縁	中層-後葉	幾文様	赤	E1	赤	E2	赤		
	350	09L	4		砂層(上層)			透漆?	口縁	中層-後葉	幾文様	赤	O1	G1	G1	赤		
	351	09L	8		赤土層			不明	体	中層	幾文様	なし	赤	F2	赤			赤帯がびびりたよりの色、2片
	352	09L	8		宮前(上層)			不明	体	中層?	幾文	なし	なし	D1	赤			透帯か?
	353	09L	5		宮前(上層)			赤土層	体	中層-中葉	幾文上刻み	赤	E1	G1	G1	赤		
	354	09L	5		宮前(上層)			不明	底	中層?	幾文	なし	なし	F1	赤			
	355	09L																
	356	09L																
	357	09L																
	358	09L	12		砂層(上層)			透漆?	体	中層-後葉	幾文様+幾文	赤	E1	G1	G1	赤		赤土と赤か?
	359	09M	1		上層			透漆?	体	中層-後葉	幾文(より赤)	なし	なし	赤	F2	赤		
	360	09M	1		砂層?2F2			不明	口縁	中層	幾文	なし	なし	赤	F2	赤		
	361	09M	1		砂層?2F2			不明	体	中層	幾文	なし	なし	赤	F2	赤		
	362	09M	1		砂層?2F2			不明	体	中層	幾文	なし	なし	赤	F2	赤		
	363	09M	1		砂層?2F2			不明	体	中層	幾文	なし	なし	赤	F2	赤		
	364	09M	1		砂層?2F2			不明	底	中層?	幾文	なし	なし	赤	F2	赤		
	365	09M	2		砂層?2F2			不明	体	中層?	幾文	なし	なし	赤	F2	赤		
	366	09M	2		砂層?2F2			不明	体	中層?	幾文	なし	なし	赤	F2	赤		
	367	09M	2		上層			不明	口縁	中層?	幾文	赤	O1	赤	D2	赤		
	368	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	369	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	370	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	371	09M	2		上層			不明	口縁	中層?	幾文	赤	O1	G1	G1	赤		白帯様のもの
	372	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	373	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	374	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	375	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	376	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	377	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	378	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	379	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	380	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	381	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	382	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	383	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	384	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	385	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	386	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	387	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	388	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	389	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	390	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	391	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	392	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	393	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	394	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	395	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	396	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	397	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	398	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	399	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	400	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	401	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	402	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	403	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	404	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	405	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	406	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	407	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	408	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	409	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	410	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	411	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	412	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	413	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	414	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		
	415	09M	2		上層			不明	体	中層?	幾文	赤	O2	赤	D2	赤		

穴住居跡から出土した例には、SB124図版517-4に壺形土器の体部上半を割り取り、割れ口を研磨した例がある。屋外埋設土器UM 1図版574-1には、体部下半に穿孔が認められる。また、土製品に含まれた図版609-24例は、土器体部から割り取ったものを研磨し、加工しようとした例である。

3 土製品

長峯遺跡から出土した土製品は、装身具である耳飾3点、祭祀関係遺物とされる土偶14点(内図版609-7は把手の可能性あり)、土鈴1点、用途不明の土器片製円板94点である。また、研磨された土器片1点が土坑(SK601)から出土した(表34)。

ア 耳飾(図版608) 中期中業～後業の住居跡から出土しており、いずれも鼓形、無文で赤彩が施されている。

イ 土偶(図版608-609) 土器総量103点の遺跡においては少数に止まっている。中業は出尻形の立体土偶を中心に9点、後業は立体形が4点、時期不明が1点である。図版609-7は口径10.5cmの容器を抱えた例である。類例がなく注意を要する1点である。腰部以下が欠損しているため大形深鉢の把手の可能性も残っている。

ウ 土鈴(図版609) 後業3期の住居跡床面より出土した。不整球形で文様などは施されていない。内部に小礫質の中子が残存している。また、SB78-7は、ミニチュア土器としたが土鈴の可能性もある。

エ 土器片製円板(図版609-表35) 聖石遺跡と異なって中期中業の資料が皆無である。中期中業(五領ヶ台Ⅱ式)～中業(勝坂Ⅱ式)までがほとんどを占め、特に前業にピークが認められる。中業に属す遺構出土であっても前業の土器片を利用した混入例が認められる。形態は、円形と隅丸長方形が完成品と考えら

表34 長峯遺跡出土土製品一覽

図版番号	実寸寸法	器種	遺構・地名 記号 番号	層位	出土 層位	保存部位	重量 (g)	胎土	色調	製作痕跡	装飾	分類		備考	
												全体	部分		時期
608	1	548	土製耳飾	S5	71	1層	突起	10.80	白色粘土	形残(下腹部に土の突起)	無文	瓦粒	鼓形	中業	表製419
608	2	549	土製耳飾	S5	181		突起	5.80	不明	底部にユラキ	無文	瓦粒	鼓形	中業	表製411
608	3	550	土製耳飾	IV	Q19	遺構下層	片側縁部欠損	4.10	白色粘土	赤褐色	無文	瓦粒	鼓形	中業	表製412
609	1	240	土鈴	S5	157	床上	突起	40.00	白色粘土	褐色(やや赤みあり)	手づね	なし	不整球形	中期中業	中子入り
609	1	546	土偶	S5	229	胸ノソコ	乳房～胸部分	83.50	白色粘土多量 黄褐色	線赤泥～黒泥	沈積	立像?	胴に穿孔あり	中期中業?	
609	2	241	土偶	S8	61	フ	乳房下から胸足	408.64	白色・灰色粘 (赤黄・石黄のみ)	褐色～黒褐色	柄をつく中心 線跡	三角等文、三文文	立像	出尻	中期中業2
609	3	541	土偶	S5	112	フ	乳房～右足の一部分まで、胸足の付根のみ	89.10	白色粘。赤黄、黄褐色	赤褐色～黒褐色	線赤泥	立像	臀部・脚付	中期中業	
609	4	542	土偶	S8	121	p15	乳房～胸部	85.00	黄色粘土多量、黄褐色	黒泥	沈積、筋線付、腰筋のみ	立像		中期中業	
609	5	543	土偶	S8	181	2次層	乳房のみ	86.30	白色粘。黄褐色、赤褐色	褐色～にぶい黄褐色	ラフな肌	立像	臀部短付、脚筋四肢短付	中期中業	
609	6	777	土偶	LM	78	ベ	乳房～胸部	80.80	白色粘土	にぶい黄褐色	三角等文、線赤文	立像	出尻	中期中業2	
609	7	242	土偶(把手?)	S8	214	上層	乳房付根、臀部、腰筋の一部	640.90	白色粘土多量、赤褐色	褐色～暗赤褐色	線赤泥含粘土	立像の土器製手	臀部突き指入	中期中業	器内赤彩
		778	土偶	S5	72		乳房	24.80	白色粘土	灰黄緑～黒褐色	粘土芯あり	押し刺ぎ文	立像?	出尻?	中期中業 1.7
		542	把手?	S5	186	城出層	体部的一部分	110.80	白色粘土多量、黄褐色	黒褐色	粘土貼付	沈積、窪?を挟み乳牛形(表裏あり)	土器把手(土偶?)	中期中業	
		778	土偶	S5	157		乳房～胸部	9.30	白色粘土	褐色	無文	立像	長頸状	中業	
		544	土偶	S8	178	p107	片側縁部の一部	82.50	白色粘土・黄褐色多量、赤褐色	灰黄緑～黒褐色	沈積	立像		中期中業	
		545	土偶	S5	178	p108	片側縁部的一部分	83.80	白色粘土多量、黄褐色	黒褐色	沈積	立像		中期中業	
		775	土偶	IV	124	Ⅲ～IV層	乳房部～一部分	15.80	白色粘	赤褐色	線赤泥	立像	臀部短付	中期中業	
		776	土偶	IV	Q15	Ⅲ～IV層	乳房と左腕部裏面のみ	28.90	白色粘・黄褐色	赤褐色	線赤泥	立像	臀部短付	中期中業	
		547	土偶	12区北	Ⅲ～IV層		乳房・乳房を隔てた体部	98.10	白色粘土・黄褐色	褐色(やや赤みあり)	粘土芯あり	骨管状のみの	立像	出尻	中期中業
										上下に心線跡	沈積	立像?		中期中業	

れるが、全体の14%にすぎない。大半は五角形～六角形に粗割し、一部を磨くに止まった事例である。大きさは、円形～隅丸方形を呈するタイプで平均4cm、隅丸長方形～楕円形を呈するタイプで平均長軸4.5、短軸3.5cmである。平均的な大きさでは、聖石遺跡（中期後葉）より小ぶりである。

表35 長峯遺跡出土土器片製円板一覽(1)

図版番号	土器片 図版 番号	遺構・地区 記号	番号	層位	取上 番号 ほか	平面形状分類	加工 状況 分類	利用部位	欠損 状況	計測値			遺構時期		土器片時期	備 考	
										長軸 長(mm)	短軸 長(mm)	厚さ (mm)	重さ(g)	大区 分			中区 分
809	1	SB	1	フ№1		不整形円形	E	深鉢体部		34	32	9	10.95	中期	前葉・中葉 2軒遺跡	中期前葉	
809	2	SB	2	H-9№7.7 層		円形	A	深鉢体部		29	27	13	12.29	中期	中葉	不明	
809	3	10	SB	4	フ上層	隅丸五角形 円形	C	厚鉢口縁 A 厚鉢体部		32	29	10	8.16	中期	中葉	中葉	
809	4	11	SB	4	フ上層	不整形円形	B	厚鉢体部		38	36	11	15.87	中期	中葉	中葉	
809	5	12	SB	4	フ上層	不整形円形	B	厚鉢体部		48	45	9	17.14	中期	中葉	不明	
809	6	14	SB	4	トレ	不整形五角形	D	深鉢体部		39	34	11	15.40	中期	中葉	不明	
809	7	15	SB	5		隅丸六角形	D	深鉢体部		59	49	16	47.20	中期	前葉・中葉 2軒遺跡	不明	
809	8	18	SB	5	フ	隅丸五角形	D	深鉢体部		41	35	11	18.25	中期	前葉・中葉 2軒遺跡	不明	
809	9	29	SB	6	フ	不整形円形	D	厚鉢口縁		38	37	11	18.70	中期	中葉	中期前葉	
809	10	29	SB	6	フ上層	不整形円形	D	厚鉢口縁		73	65	14	53.52	中期	中葉	中期前葉	
809	11	38	SB	14	フ№3	隅丸方形	B	深鉢体部	一部	31	30.5	9.5	11.32	中期	中葉	中期前葉	
809	12	43	SB	18	フ北東側	隅丸方形	A	深鉢体部		35	33	10	13.95	中期	前葉	中期前葉	
809	13	45	SB	18		不整形円形	F	深鉢体部		45	43	14	29.04	中期	中葉	中葉	
809	14	49	SB	62		不整形円形	E	厚鉢体部		55	47	13	33.92	中期	前葉	中期前葉	
809	15	54	SB	72	フ	楕円形	A	厚鉢体部		30	28	11.5	10.39	中期	前葉	中期前葉	
809	16	55	SB	73	5区前葉	円形	A	厚鉢体部		23	22	11	6.74	中期	前葉	中期前葉	
809	17	58	SB	82	フ	不整形円形	D	厚鉢口縁		46	46	13	33.46	中期	前葉	中期前葉	
809	18	71	SB	128	北西1層	不整形円形	E	深鉢体部		51	42	10	22.43	中期	中葉	不明	
809	19	72	SB	182		不整形円形	F	深鉢体部		70	68	11	86.88	中期	不明	不明	
809	20	62	SB	185	北ノハネ フ№4 (SB225 倉)	隅丸長方形	A	厚鉢体部		52	29	11	20.26	中期	中葉	不明	
809	21	67	SB	231		隅丸長方形	A	深鉢体部		45	25	13	16.39	中期	中葉	中期前葉	
809	22	76	SK	340		不整形円形	A	深鉢体部		29	29	9	9.08	中期	前葉	中期前葉	
809	23	79	SK	897		不整形円形	C	深鉢体部		32	30	10	12.25	中期	前葉?	中期前葉?	
809	24	96	SK	801	p314 8.51	不整形	C	深鉢体部		122	101	7	112.50	後期		後期?	穿孔部分毛 研削加工
	95	12区		11-1	3	不整形円形	D	厚鉢体部		44	38	10	22.00			不明	
	96	3A区		ケ		隅丸五角形	E	深鉢体部		46	41	10	20.17			不明	
	91	3C				隅丸五角形	D	厚鉢体部		28	27	9	8.29			不明	
	84	Ⅱ-18				不整形円形	D	厚鉢体部		28	28	10	7.83			不明	
	65	Ⅱ-F		117		隅丸五角形	E	厚鉢体部		28	27	9	8.73			不明	
	88	Ⅱ-C		21	47	不整形円形	E	厚鉢体部		31	31	8	10.97			不明	
	87	Ⅱ-1		3		隅丸六角形	E	厚鉢体部		52	50	13	40.67			不明	
	88	Ⅱ-1		7	8層	不整形円形	D	深鉢体部		37	35	8	15.02			中期前葉	
	89	5区				隅丸五角形	E	深鉢体部		36	35	10	16.09			中期前葉	
	92	8区				隅丸六角形	E	厚鉢体部		41	40	11	22.68			不明	
	93	8区				隅丸六角形	F	深鉢体部		53	51	10	35.57			不明	
	94	8区				隅丸五角形	F	深鉢体部		34	33	9	12.25			不明	
	74	1M		78		円形	A	深鉢体部	半損	33	24	8	7.40			不明	
	2	SB	1	ベ		不整形円形	D	深鉢口縁		31	31	13	9.12	中期	前葉・中葉 2軒遺跡	中期前葉	
	3	SB	1	トレ		隅丸五角形	D	深鉢体部		31	29	10	8.45	中期	前葉・中葉 2軒遺跡	中期前葉	
	4	SB	2			隅丸五角形	D	深鉢体部		49	41	11	14.22	中期	中葉	中期前葉	
	5	SB	2	フ№1		隅丸五角形	D	深鉢体部		34	33	9	10.77	中期	中葉	不明	
	6	SB	2	フ№3		不整形	D	深鉢口縁	一部	46	39	9	13.18	中期	中葉	中期前葉→ 中葉?	
	7	SB	2	H-9№18 1層		隅丸長方形	C	深鉢体部		53	46	15	32.7	中期	中葉	中期前葉	
	9	SB	4	フ上層		不整形円形	A	厚鉢体部	一部	33	30	15	18.77	中期	中葉	不明	
	13	SB	4	C70.72		不整形円形	A?	深鉢体部	半損	31	29	14	10.81	中期	中葉	不明	
	18	SB	5			不整形円形	F	深鉢体部		38	28	12	9.54	中期	前葉・中葉 2軒遺跡	中期前葉	
	17	SB	5	フ		楕円形	F	深鉢体部		32	26	11	6.89	中期	前葉・中葉 2軒遺跡	中期前葉	
	19	SB	5	フ		隅丸五角形	D	深鉢体部		39	32	13	17.90	中期	前葉・中葉 2軒遺跡	不明	
	20	SB	5	フ№3		隅丸五角形	D	深鉢体部	一部	39	33	9	11.67	中期	中葉	不明	
	21	SB	5	フ№3 外		隅丸五角形	D	深鉢体部		36	27	11	9.86	中期	前葉・中葉 2軒遺跡	中期前葉	
	22	SB	5	ベ		隅丸長方形?	D	深鉢体部	半損	41	24	12	12.61	中期	前葉・中葉 2軒遺跡	不明	
	23	SB	5	ベ		隅丸五角形	F	深鉢体部		48	46	13	21.16	中期	前葉・中葉 2軒遺跡	中期前葉	
	24	SB	5	フ№3		円形	D	深鉢体部		26	25	10.5	8.78	中期	前葉・中葉 2軒遺跡	中期前葉	

表35 長峯遺跡出土土器片製円板一覧(2)

図版番号	土器片内掘番号	遺積・地区		層位	取上番号ほか	平断面分類	加工状況分類	利用部位	欠損状況	計測値				遺積時期		土器片時期	備考
		記号	番号							長軸長(mm)	短軸長(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	大区	中区		
	25	SB	5	トレ		不整形円形	A	深鉢体部		29	28	8.5	8.04	中期	前期・中葉 名群集積	中期中葉	
	26	SB	5	トレ		隅丸方形	D	深鉢体部		38	38	12	19.87	中期	前期・中葉 2群重積	不明	
	27	SB	5	べ		隅丸五角形	D	深鉢体部		29	27	8	7.81	中期	前期・中葉 2群重積	中期前葉	
	30	SB	6	フナ3		隅丸五角形	D	深鉢体部		39	38	9	14.57	中期	中葉	不明	
	31	SB	9	フナ4		隅丸方形	D	深鉢体部		28	27	8.5	7.70	中期	前期	不明	
	32	SB	9	フナ4		不整形円形	D	深鉢体部		37	31.5	9	11.72	中期	前期	不明	
	33	SB	9	G19-13		隅丸長方形	D	深鉢体部		54	42	12	32.89	中期	前期	不明	
	34	SB	10	フナ4		不整形円形	D	深鉢体部		48	41	10	22.86	中期	中葉	不明	
	35	SB	10	フナ4		不整形	E	深鉢体部		41	37	8	11.52	中期	中葉	中期前葉	
	37	SB	14	フナ4		不整形五角形	E	深鉢体部		46	36	10.5	17.16	中期	中葉	不明	
	38	SB	14	トレ		隅丸長方形	D	深鉢体部		49	42	11	23.44	中期	中葉	不明	
	39	SB	16		P4	隅丸長方形	D	深鉢体部		35	24	9	9.09	中期	前期	不明	
	40	SB	16			隅丸長方形	D	深鉢体部		41	35	8.5	14.82	中期	前期	中期前葉	
	41	SB	16	フナ3		隅丸五角形	D	深鉢体部	一部	44	-42	8.5	17.08	中期	前期	不明	
	42	SB	16	フナ3		隅丸長方形	D	深鉢体部		48	33	8	14.99	中期	前期	不明	
	44	SB	16	フナ3		隅丸長方形	E	深鉢体部		46	37	10.5	20.98	中期	前期	不明	
	46	SB	18		P7	不整形円形	E	深鉢体部		37	22	9	7.28	中期	中葉	中期中葉	
	47	SB	18	べ		不整形円形	E	深鉢体部		38	35	16	21.34	中期	中葉	不明	
	48	SB	61	フナ3		隅丸方形	A	深鉢体部	一部	33	-29	12	9.71	中期	中葉	中期中葉	内面ではない、把手部を破壊?
	50	SB	62	フナ3 上層舎		楕円形	E	深鉢把手		45	21	17	14.91	中期	前期	不明	
	51	SB	62	フナ3 上層舎		不整形	E	深鉢体部		43	24	12	11.32	中期	前期	不明	
	52	SB	64	フナ1 上層舎		不整形	E	深鉢体部		32	30	11	9.69	中期	中葉	中期中葉	
	53	SB	71	フナ4		不整形	E	深鉢体部		38	37	10	15.41	中期	中葉	不明	
	56	SB	75	べ		不整形円形	F	深鉢体部		23	27	9	7.88	中期	中葉	中期前葉	
	57	SB	77	フナ4		不整形円形	D	深鉢体部		29	27	8	5.61	中期	前期	中期前葉	
	58	SB	82	フ		円形	B	深鉢体部		28	27	11	9.64	中期	前期	不明	
	60	SB	82	フ		円形	D	浅鉢口縁		45	43	14	24.29	中期	前期	中期前葉	
	61	SB	82	フ		隅丸五角形	D	深鉢体部	一部	48	-39	12	25.03	中期	前期	不明	
	63	SB	213		P5	隅丸六角形	F	深鉢体部		51	43	11	23.90	中期	-	不明	
	64	SB	225	フ1 (SB231 倉)		隅丸長方形	E	深鉢体部	一部	60	43	14	44.18	中期	中葉	不明	
	65	SB	225	フ1 (SB231 倉)		不整形円形	D	深鉢体部		53	50	10	27.28	中期	中葉	不明	
	66	SB	225	フ1 (SB231 倉)		不整形円形	D	深鉢体部		39	33	13	18.74	中期	中葉	不明	
	68	SB	231	フ1 (SB225 倉)		楕円?形	A?	深鉢体部	半壊	26	-24	10	7.78	中期	中葉	不明	
	69	SB	233	裏面トレ		円形	B	深鉢体部		27	26	10	8.99	中期	中葉	不明	
	70	SB	238			隅丸方形	D	深鉢体部		30	27	10	9.28	中期	前期	中期前葉	
	73	SB	207	テ		不整形円形	F	深鉢体部		32	28	7	8.41	中期	不明	不明	
	81	SF	2			不整形円形	D	深鉢体部		41	40	12	22.77	中期	不明	不明	
	75	GK	141-142	上層舎		不整形	C	深鉢体部	半壊	35	-28	8	10.37	中期	前期	不明	
	77	SK	422or 431			隅丸六角形	E	深鉢体部		46	41	11	25.71	中期	前期	中期前葉?	
	78	SK	452			不整形円形	E	深鉢体部		37	31	11	16.08	中期	不明	不明	
	80	SK	308A			不整形方形	D	深鉢体部		36	34	13	20.77	中期	前期?	不明	
	82	SQ	3		P2	不整形円形	D	深鉢体部	半壊	53	-30	13	22.21	中期	前期	不明	
	83	SQ	11			円形	D	深鉢体部	半壊	31	-15	7	3.57	中期	前期	中期前葉	

4 石器

(1) 概要

長峯遺跡からは、搬入礫や一部の丸石・石柱・碎片を除く石器、および石器素材・屑が26,958点出土した。重量は、搬入礫や重量を計測しなかった剥片・屑片を除き2,782,449gである。

石器分類は聖石遺跡に準じた。ただし、聖石遺跡には見られなかった小形剥片を利用した石匙の項目を追加した。また、磨石・凹石・敲石類に含めたが、扁平礫の側縁に鋭い機能面を作出した礫器が多く認められた。分類された各種石器の遺構毎の組成は表37の通りである。また、各器種別の出土位置や図版番号、重量に関しては、CD表36に示した。

(2) 各種石器の特徴

ア 小形剥片石器

①石 鏃 (図版610・611-1~65) 344点 (300.39g) を数える。そのうち黒曜石339点 (294.53g)、その他5点 (5.86g) である。基部は凹基の例が大半を占め、わずかに有茎 (65ほか) が認められる。縄文時代中期・後期のほか早・前期の土器が出土している点から、その時期の石鏃も含まれていると見られるが、型式分類による分層は行っていない。

②石 槍 (図版611-66~68) 10点 (127.12g) を数える。そのうち黒曜石8点 (95.93g)、その他2点 (31.19g) である。67は基部調整などが不十分で石鏃未製品の可能性もある。

③石鏃未製品 (図版611-69~73) 62点 (137.36g) で、そのうち黒曜石61点 (128.3g)、その他1点 (19.06g) である。素材中央付近の厚みを取り除けなかったために放棄した例、調整中に破損した例が多く認められる。73は石鏃としての形態を調整する前の小形両面調整石器の可能性もある。

④石 鏃 (図版611・612-74~93) 140点 (329.65g) を数え、黒曜石138点 (287.38g)、その他は2点 (42.27g) である。つまみ部の作出があるもの、棒状に加工されたもの、機能部のみを作出したのがある。

⑤小形刃器 (図版613-614-102~121) 105点 (965.56g) を数え、そのうち黒曜石84点 (914.46g)、その他21点 (51.1g) である。小形石匙は別項目とした。特徴的な刃器では、聖石遺跡と同様の細長い片刃タイプ (110・111ほか) の例がある。また、身部が幅広となるタイプ (105・107・109ほか) がある。搔器と見られる102などはごく少数しか認められなかった。

⑥小形石匙 (図版612-94~101) 黒曜石やチャートなどの緻密な石材を利用し、刃部幅が5cm以下の例を小形とした。ただし測定値は漸移的に変化しており、小形と大形の区分は必ずしも明瞭ではない。97は黒曜石裂のため小形とした。14点 (258.61g) が出土し、そのうち黒曜石4点 (166.06g)、その他10点 (92.55g) である。中期中葉の土坑に伴う例がある。

⑦くさび形石器 (図版614-122~136) 2100点 (4675.02g) を数え、すべて黒曜石である。聖石遺跡に比べ124のような定形例の割合が少ない。不定形の多くは楔としての機能を持つものではなく、両極石核や屑片の可能性もある。

表36 長峯遺跡出土石器種類一覧

(一)表示は計測方向欠損品

図版	器種の番号	器種	器種別番号	大々大地区	中地区	遺構記号	遺構番号①	遺構番号②	施設名・位置	層位名	取上げ番号	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石材	備考
610	1	石鏃	1			SB	4				S5	21	18	2.5	0.62	黒曜石	
610	2	石鏃	2			SB	4				S8	13	15	2	0.73	黒曜石	
610	3	石鏃	3			SB	4				S16	23	18	4.5	1.02	黒曜石	
		石鏃	4			SB	4				S19	23	12	3	0.7	黒曜石	
		石鏃	5			SB	4				S24	20	12	4.5	0.91	黒曜石	
		石鏃	6			SB	4				S28	26	16	4	1.17	黒曜石	
		石鏃	7			SB	4					34	13	8	3.54	黒曜石	
610	4	石鏃	8			SB	4					21	17	1.5	0.54	黒曜石	
		石鏃	9			SB	4					21	15	2	0.65	黒曜石	
		石鏃	10			SB	4				Pe	22	12	2.6	0.46	黒曜石	
		石鏃	11			SB	4		7カ4			24	13	2.5	0.56	黒曜石	
610	5	石鏃	12			SB	4		7No5			21	18	5	1.18	黒曜石	
610	6	石鏃	13			SB	4		7No5			31	13	4.5	1.14	黒曜石	

